青木遺跡
（中近世編）

国道４３１号道路改築事業（東林木バイパス）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書１

2004年3月

島根県教育委員会

青木遺跡（中近世編）

国道431号道路改築事業（東林木バイパス）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書１

２００４年３月

島根県教育委員会

序

本書は、島根県教育委員会が島根県土木部から委託を受けて、平成13年度と平成14年度の２か年で実施した国道431号道路東林木バイパス建設予定地内に所在する青木遺跡（Ⅰ区、Ⅱ区）の発掘調査の成果を記録したものです。

青木遺跡は出雲市東林木町に位置し、北山山系南麓に展開する扇状地に立地しています。近くには出雲地方で最古級の前方後円墳である大寺古墳、『出雲国風土記』に烽として記載されている旅伏山、戦国時代の尼子・毛利の合戦において重要な位置を占めた鳶ヶ巣城などがあり、出雲平野の歴史を物語る遺跡や景観が多く残されています。

この調査では、弥生時代から中世にかけての様々な遺構、遺物を検出しており、今回は古代末から中世にかけての資料をまとめました。なかでも中世の掘立柱建物など多くの遺構や、陶磁器類をはじめとする多種多様の遺物を検出しており、当時の出雲西部の歴史を解明し、広域的な流通などを考えていくうえでも貴重な資料となりました。さらに本書が地域の歴史と文化に対する理解と関心を高めるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査と報告書の作成にあたり御協力いただきました地元の皆様や、出雲市ならびに島根県土木部をはじめとする関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成16年３月

島根県教育委員会

教育長　**広　沢　卓　嗣**

例　　言

1．本書は、島根県教育委員会が平成13年度、平成14年度に実施した国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査・青木遺跡（中近世編）の報告書である。なお、弥生時代から古代の発掘調査の報告については平成16年度以降報告予定である。

2．発掘調査地は下記のとおりである。

青木遺跡　　島根県出雲市東林木町４００－１ほか

3．調査組織は下記のとおりである。

調査主体　　島根県教育委員会

平成13年度　現地調査

［事務局］　宍道正年(島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長)、松本岩雄(調査第１課長)、内田　融（総務課長)、広江耕史（調査第１係長）

［調査員］　伊藤　智（調査第１係主事)、東森　晋（調査第１係主事）

［調査補助員］　石橋弥生（同臨時職員)、岩橋康子（同)、梶谷泰子（同)、松山智弘（同)、守山博義（同）

平成14年度　現地調査

［事務局］　宍道正年（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長)、卜部吉博（副所長)、内田　融（総務課長)、今岡一三（調査第１係長）

［調査員］　伊藤　智（調査第１係文化財保護主事）

［調査補助員］　石橋弥生（同臨時職員)、岩橋康子（同)、柴崎晶子（同）

平成15年度　報告書作成

［事務局］　宍道正年（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長)、卜部吉博（副所長)、永島静司（総務課長)、西尾克己（調査第１課長)、今岡一三（調査第１係長）柳浦俊一（調査第２係長）

［調査員］　伊藤　智（調査第１係文化財保護主事)、東森　晋（調査第２係主事）

［調査補助員］　石橋弥生（同臨時職員)、岩橋康子（同）

4．本報告書にかかる現地調査、及び報告書の作成にあたり、下記の方々から御指導・御助言・御協力をいただいた。

（敬称略、五十音順）

井上貴央（鳥取大学医学部教授)、小野正敏（国立歴史民俗博物館助教授)、景山真二（大社町教育委員会)、北野信彦（くらしき作陽大学助教授)、朽津信明（東京文化財研究所主任研究員)、佐藤　信（東京大学教授)、白石　純（岡山理科大学自然科学研究所主任技術員)、榊原博英（浜田市教育委員会)、中村唯史（三瓶フィールドミュージアム財団)、山本信夫（山本考古研究所所長)、吉岡康暢（国立歴史民俗博物館名誉教授)、出雲市文化企画部文化財室

5．挿図で使用した方位は、測量法による第３座標系Ｘ軸方向を指し、平面直角座標系ＸＹ座標は日本測地系による。また、レベル高は海抜高を示す。

6．本書で使用した図のうち、第２図は国土地理院発行のものを使用した。

7．本書に掲載した木製品の保存処理、樹種同定は株式会社京都科学に委託した。

8．本書に掲載した遺物の実測および図版の作成は柳浦、伊藤、東森、石橋、岩橋、梶谷、守山ほかが行った。

9．本書に掲載した遺物の写真撮影は調査担当者が行った。

10．本書の執筆は伊藤、東森、岩橋が行い、第5章は白石　純氏（岡山理科大学自然科学研究所）、株式会社京都科学・伊藤隆夫氏（京都大学木質科学研究所）、朽津信明氏（東京文化財研究所）・北野信彦（くらしき作陽大学）にそれぞれ依頼した。

11．本書掲載の遺跡出土資料及び実測図、写真などの資料は島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町33）で保管している。

凡　　例

1．遺物実測図のうち、須恵器は断面黒塗りにし、陶器は断面網掛け（第3章第1節のみ）にしている。金属器と石器は断面に斜線を入れ、それ以外は白抜きにした。また、木製品のうち、木目を認識できたものは断面内に表現している。

2．本文中、図版中、写真図版中の遺物番号は一致する。

本文目次

第１章　調査に至る経緯（伊藤）　……　1

第２章　遺跡の位置と環境（岩橋）　……　1

第３章　Ｉ区の調査

第１節　ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ区（東森）

（１）調査の経過　……　11

（２）弥生時代の遺物　……　13

（３）古墳時代の遺物　……　19

（４）奈良時代～平安時代前半の遺構と遺物　……　25

（５）平安時代後半～鎌倉時代の遺構と遺物　……　43

（６）室町時代以降の遺構と遺物　……　85

（７）その他の遺構と遺物　……　106

第２節　ＩＤ区の調査（伊藤）

（１）調査の経過　……　149

（２）第２遺構面の遺構と遺物　……　151

（３）第１遺構面の遺構と遺物　……　178

（４）柱穴出土の遺物　……　189

（５）包含層の遺物　……　190

（６）小　　結　……　208

第４章　Ⅱ区の調査（伊藤）

第１節

（１）調査の経過　……　209

（２）第２遺構面の遺構と遺物　……　211

（３）第１遺構面の遺構と遺物　……　246

（４）柱穴出土の遺物　……　259

（５）包含層の遺物　……　264

（６）小　　結　……　312

第５章　理化学分析

（１）青木遺跡出土中世須恵器の胎土分析　……　白石　純　317

（２）青木遺跡出土木製品の樹種　……　株式会社　京都科学・伊東隆夫　327

（３）青木遺跡出土の鉄製品に観察された「錆」について　…　朽津信明・北野信彦　335

第６章　ま　と　め（伊藤）　……　343

挿図目次

第１図　青木遺跡と周辺の遺跡　（Ｓ＝1/25,000）…… 4
第２図　青木遺跡の位置 …… 6
第３図　青木遺跡調査区位置図（Ｓ＝1/5,000）…… 7
第４図　青木遺跡Ｉ区・Ⅱ区全体図（Ｓ＝1/300）…… 9・10
第５図　ＩＡ～ＩＣ区南壁土層断面（S＝1/300）…… 12
第６図　Ｉ区　弥生時代の遺物出土状況（Ｓ＝1/600）…… 13
第７図　Ｉ区　弥生土器①（Ｓ＝1/4）…… 14
第８図　Ｉ区　弥生土器②（Ｓ＝1/4）…… 15
第９図　Ｉ区　弥生土器③・石器（Ｓ＝1/4）…… 16
第10図　Ｉ区　古墳時代の土師器出土状況（Ｓ＝1/600）…… 19
第11図　Ｉ区　土師器①（Ｓ＝1/4）…… 20
第12図　Ｉ区　須恵器①（Ｓ＝1/4）…… 21
第13図　Ｉ区　須恵器②（Ｓ＝1/4）…… 22
第14図　Ｉ区　古墳時代の須恵器出土状況（Ｓ＝1/600）…… 23
第15図　Ｉ区　奈良・平安時代前半の遺構（Ｓ＝1/600）…… 25
第16図　Ｉ区　集石２（Ｓ＝1/60、遺物はＳ＝1/4）…… 27
第17図　Ｉ区　土器溜２（Ｓ＝1/30）…… 29
第18図　Ｉ区　土器溜２出土遺物①（Ｓ＝1/4）…… 30
第19図　Ｉ区　土器溜２出土遺物②（Ｓ＝1/4）…… 31
第20図　Ｉ区　河道出土遺物（Ｓ＝1/4）…… 33
第21図　Ｉ区　奈良・平安時代前半の遺物出土状況（Ｓ＝1/600）…… 38
第22図　Ｉ区　須恵器③（Ｓ＝1/4）…… 39
第23図　Ｉ区　須恵器④・灰釉陶器（Ｓ＝1/4）…… 40
第24図　Ｉ区　土師器②（Ｓ＝1/4）…… 41
第25図　Ｉ区　土師器③・土製品・石器（Ｓ＝1/4）…… 42
第26図　Ｉ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺構（Ｓ＝1/600）…… 43
第27図　Ｉ区　建物20・21、柱列15（Ｓ＝1/60）…… 45
第28図　Ｉ区　建物５（Ｓ＝1/60）…… 47
第29図　Ｉ区　建物６、柱列11（Ｓ＝1/60）…… 49
第30図　Ｉ区　建物10（Ｓ＝1/60）…… 50
第31図　Ｉ区　建物22、柱列13・14（Ｓ＝1/60）…… 52
第32図　Ｉ区　建物９周辺の遺構（Ｓ＝1/120）…… 54
第33図　Ｉ区　建物９、柱列８～10（Ｓ＝1/60）…… 55
第34図　Ｉ区　柱列５～７（Ｓ＝1/60）、建物９、柱列５出土遺物（Ｓ＝1/4）…… 56
第35図　Ｉ区　土坑６出土遺物（Ｓ＝1/4）…… 57
第36図　Ｉ区　土坑６（Ｓ＝1/30）…… 58
第37図　Ｉ区　土坑９（Ｓ＝1/30）…… 59
第38図　Ｉ区　土坑10・11（Ｓ＝1/30）…… 61
第39図　Ｉ区　土坑12（Ｓ＝1/30）…… 62
第40図　Ｉ区　溝９（Ｓ＝1/80）…… 63
第41図　Ｉ区　溝９出土遺物（Ｓ＝1/4）…… 64
第42図　Ｉ区　溝５（Ｓ＝1/60）…… 65
第43図　Ｉ区　溝７（Ｓ＝1/80）…… 66
第44図　Ｉ区　溝７集石（Ｓ＝1/30）、出土遺物（Ｓ＝1/4）…… 67
第45図　Ｉ区　土器溜１の位置（Ｓ＝1/150）…… 69
第46図　Ｉ区　土器溜１（Ｓ＝1/30）…… 70
第47図　Ｉ区　土器溜１出土遺物（Ｓ＝1/4）…… 71

第48図　Ⅰ区　土器溜３（Ｓ＝1/30）…… 72
第49図　ⅠＡ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺物（Ｓ＝1/4）…… 78
第50図　ⅠＢ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺物出土状況（Ｓ＝1/300）…… 79
第51図　ⅠＢ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺物①（Ｓ＝1/4）…… 80
第52図　ⅠＢ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺物②（Ｓ＝1/4）…… 81
第53図　ⅠＣ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺物①（Ｓ＝1/4）…… 82
第54図　ⅠＣ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺物②（Ｓ＝1/4）…… 83
第55図　ⅠＣ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺物出土状況（Ｓ＝1/300）…… 84
第56図　Ⅰ区　室町時代以降の遺構（Ｓ＝1/600）…… 85
第57図　Ⅰ区　建物１・19、柱列３（Ｓ＝1/60）…… 87
第58図　Ⅰ区　建物２（Ｓ＝1/60）…… 89
第59図　Ⅰ区　建物３（Ｓ＝1/60）…… 90
第60図　Ⅰ区　柱列12（Ｓ＝1/60）…… 91
第61図　Ⅰ区　土坑1（Ｓ＝1/30）…… 92
第62図　Ⅰ区　土坑13・14（Ｓ＝1/30）…… 93
第63図　Ⅰ区　土坑７・８（Ｓ＝1/60）…… 94
第64図　Ⅰ区　溝７（Ｓ＝1/60）…… 96
第65図　Ⅰ区　溝１・集石1（Ｓ＝1/120）…… 97
第66図　Ⅰ区　溝１・集石1土層断面（Ｓ＝1/120）…… 98
第67図　Ⅰ区　伊佐波神社跡①（Ｓ＝1/80）…… 100
第68図　Ⅰ区　伊佐波神社跡②（Ｓ＝1/80）…… 101
第69図　ⅠＢ区　室町時代以降の遺物①（Ｓ＝1/4、586～589は1/1）…… 103
第70図　ⅠＢ区　室町時代以降の遺物②（Ｓ＝1/6）…… 104
第71図　Ⅰ区　室町時代以降の遺物出土状況（Ｓ＝1/600）…… 105
第72図　Ⅰ区　時期不明の遺構（Ｓ＝1/600）…… 106
第73図　Ⅰ区　建物４（Ｓ＝1/60）…… 108
第74図　Ⅰ区　建物４柱根（Ｓ＝1/30）…… 109
第75図　Ⅰ区　建物７（Ｓ＝1/60）…… 110
第76図　Ⅰ区　建物７柱根（Ｓ＝1/30）…… 111
第77図　Ⅰ区　建物８（Ｓ＝1/60）…… 112
第78図　Ⅰ区　建物11（Ｓ＝1/60）…… 113
第79図　Ⅰ区　建物12（Ｓ＝1/60）…… 114
第80図　Ⅰ区　建物13～15（Ｓ＝1/60）…… 116
第81図　Ⅰ区　建物16（Ｓ＝1/60）…… 118
第82図　Ⅰ区　柱列１（Ｓ＝1/60）…… 118
第83図　Ⅰ区　柱列２、溝10（Ｓ＝1/60）…… 118
第84図　Ⅰ区　柱穴配置図（Ｓ＝1/600）…… 120
第85図　Ⅰ区　柱穴配置図①・②（Ｓ＝1/80）…… 121
第86図　Ⅰ区　柱穴配置図③（Ｓ＝1/80）…… 122
第87図　Ⅰ区　柱穴配置図④（Ｓ＝1/80）…… 123
第88図　Ⅰ区　柱穴配置図⑤（Ｓ＝1/80）…… 124
第89図　Ⅰ区　柱穴配置図⑥・⑦（Ｓ＝1/80）…… 125
第90図　Ⅰ区　柱穴配置図⑧（Ｓ＝1/80）…… 126
第91図　Ⅰ区　柱穴配置図⑨（Ｓ＝1/80）…… 127
第92図　Ⅰ区　柱穴配置図⑩（Ｓ＝1/80）…… 128
第93図　Ⅰ区　柱穴配置図⑪（Ｓ＝1/80）…… 129
第94図　Ⅰ区　その他の柱穴①（Ｓ＝1/30）…… 130
第95図　Ⅰ区　その他の柱穴②（Ｓ＝1/30）…… 131
第96図　Ⅰ区　その他の柱穴③（Ｓ＝1/30）、出土遺物（Ｓ＝1/4、柱根は1/6）…… 132
第97図　Ⅰ区　土坑15・16（Ｓ＝1/30）…… 141
第98図　Ⅰ区　集石３（Ｓ＝1/60）…… 141
第99図　Ⅰ区　石器（Ｓ＝1/2）…… 142

第100図　Ⅰ区　木製品①（S＝1/4）…… 143
第101図　Ⅰ区　木製品②（S＝1/4、632は1/3）…… 144
第102図　Ⅰ区　金属器（S＝1/2、647・648は1/1）…… 145
第103図　ⅠD区遺構配置図（S＝1/400）…… 149
第104図　ⅠD区土層図（S＝1/60）…… 151
第105図　ⅠD区柱列16・建物23（S＝1/60）…… 151
第106図　ⅠD区柱列17（S＝1/60）…… 152
第107図　ⅠD区建物24（S＝1/60）…… 154
第108図　ⅠD区柱列18（S＝1/60）…… 155
第109図　ⅠD区柱列19（S＝1/60）…… 156
第110図　ⅠD区柱列20・建物25（S＝1/60）…… 157
第111図　ⅠD区柱列21（S＝1/60）…… 159
第112図　ⅠD区建物26（S＝1/60）…… 160
第113図　ⅠD区建物27（S＝1/60）…… 161
第114図　ⅠD区建物28（S＝1/60）…… 163
第115図　ⅠD区土坑17（S＝1/30）…… 164
第116図　ⅠD区土坑17出土遺物（S＝1/3、660はS＝1/2、661・662はS＝1/4）…… 165
第117図　ⅠD区土坑18（S＝1/30）…… 166
第118図　ⅠD区土坑18出土遺物①（S＝1/3、680～684はS＝1/4）…… 167
第119図　ⅠD区土坑18出土遺物②（S＝1/4）…… 168
第120図　ⅠD区土坑19（S＝1/3）…… 169
第121図　ⅠD区土坑19出土遺物（S＝1/3）…… 170
第122図　ⅠD区土坑20（S＝1/30）…… 170
第123図　ⅠD区土坑20出土遺物①（692・693はS＝1/3、694・695はS＝1/4）…… 171
第124図　ⅠD区土坑20出土遺物②（S＝1/6）…… 172
第125図　ⅠD区土坑20出土遺物③（729～33はS＝1/3、706～712・716・717・720はS＝1/6、
その他はS＝1/4）…… 173
第126図　ⅠD区土坑21（S＝1/30）…… 175
第127図　ⅠD区土坑21出土遺物（S＝1/3）…… 175
第128図　ⅠD区土坑22（S＝1/30）…… 175
第129図　ⅠD区土坑23（S＝1/30）…… 175
第130図　ⅠD区土坑24（S＝1/30）…… 176
第131図　ⅠD区土坑24出土遺物（S＝1/3）…… 176
第132図　ⅠD区土坑25（S＝1/30）…… 176
第133図　ⅠD区土坑25出土遺物（S＝1/3）…… 176
第134図　ⅠD区自然河道1（S＝1/60）…… 177
第135図　ⅠD区自然河道1出土遺物（S＝1/3）…… 177
第136図　ⅠD区掘立柱建物29（S＝1/60）…… 178
第137図　ⅠD区集石1①（S＝1/40）…… 179
第138図　ⅠD区集石1②（S＝1/20）…… 180
第139図　ⅠD区集石1出土遺物（S＝1/3）…… 181
第140図　ⅠD区井戸1（S＝1/30）…… 183
第141図　ⅠD区井戸1出土遺物（S＝1/3）…… 183
第142図　ⅠD区土坑26①（S＝1/40）…… 184
第143図　ⅠD区土坑26②（S＝1/40）…… 185
第144図　ⅠD区土坑26出土遺物（S＝1/3）…… 185
第145図　ⅠD区集石2（S＝1/30）…… 186
第146図　ⅠD区溝状遺構11（S＝1/60）…… 187
第147図　ⅠD区柱穴出土遺物（S＝1/3、802・803はS＝1/4）…… 188
第148図　ⅠD区第6層以下出土遺物（S＝1/3）…… 191
第149図　ⅠD区土師質土器（S＝1/3）…… 192
第150図　ⅠD区中世須恵器①（S＝1/3）…… 193

第151図　ＩＤ区中世須恵器②（Ｓ＝1/3）…… 194
第152図　ＩＤ区白磁・青磁（Ｓ＝1/3）…… 195
第153図　ＩＤ区中世陶器（Ｓ＝1/3、912～914はＳ＝1/6）…… 196
第154図　ＩＤ区中世陶磁器（Ｓ＝1/3）…… 196
第155図　ＩＤ区金属器（Ｓ＝1/2）…… 198
第156図　ＩＤ区古銭（Ｓ＝1/1）…… 199
第157図　ＩＤ区木製品（Ｓ＝1/4）…… 200
第158図　ＩＤ区石製品（Ｓ＝1/3）…… 201
第159図　Ⅱ区遺構配置図（Ｓ＝1/500）…… 209
第160図　Ⅱ区土層図（Ｓ＝1/60）…… 210
第161図　Ⅱ区建物１（Ｓ＝1/60）…… 211
第162図　Ⅱ区建物２（Ｓ＝1/60）…… 213
第163図　Ⅱ区建物３（Ｓ＝1/60）…… 214
第164図　Ⅱ区建物４（Ｓ＝1/60）…… 215
第165図　Ⅱ区建物５（Ｓ＝1/60）…… 216
第166図　Ⅱ区建物６（Ｓ＝1/60）…… 217
第167図　Ⅱ区建物７（Ｓ＝1/60）…… 218
第168図　Ⅱ区建物８（Ｓ＝1/60）…… 219
第169図　Ⅱ区建物９（Ｓ＝1/60）…… 220
第170図　Ⅱ区建物10（Ｓ＝1/60）…… 221
第171図　Ⅱ区建物11（Ｓ＝1/60）…… 222
第172図　Ⅱ区建物12（Ｓ＝1/60）…… 223
第173図　Ⅱ区建物13（Ｓ＝1/60）…… 224
第174図　Ⅱ区建物14（Ｓ＝1/60）…… 225
第175図　Ⅱ区建物15（Ｓ＝1/60）…… 226
第176図　Ⅱ区建物16（Ｓ＝1/60）…… 227
第177図　Ⅱ区建物17（Ｓ＝1/60）…… 228
第178図　Ⅱ区建物18（Ｓ＝1/60）…… 229
第179図　Ⅱ区建物19（Ｓ＝1/60）…… 230
第180図　Ⅱ区建物20（Ｓ＝1/60）…… 231
第181図　Ⅱ区建物21（Ｓ＝1/60）…… 232
第182図　Ⅱ区建物22（Ｓ＝1/60）…… 233
第183図　Ⅱ区建物23（Ｓ＝1/60）…… 234
第184図　Ⅱ区土坑１（Ｓ＝1/30）…… 235
第185図　Ⅱ区土坑１出土遺物（Ｓ＝1/3、992・993はＳ＝1/4）…… 236
第186図　Ⅱ区土坑２（Ｓ＝1/30）…… 237
第187図　Ⅱ区土坑２出土遺物（Ｓ＝1/3、997はＳ＝1/4）…… 237
第188図　Ⅱ区土坑３（Ｓ＝1/30）…… 239
第189図　Ⅱ区土坑３出土遺物（998はＳ＝1/3、999はＳ＝1/4）…… 239
第190図　Ⅱ区土坑４（Ｓ＝1/30）…… 240
第191図　Ⅱ区土坑４出土遺物（Ｓ＝1/3、1010はＳ＝1/2、1011～1015はＳ＝1/4）…… 241
第192図　Ⅱ区土坑５（Ｓ＝1/30）…… 252
第193図　Ⅱ区土坑５出土遺物（Ｓ＝1/3）…… 243
第194図　Ⅱ区土坑６（Ｓ＝1/30）…… 244
第195図　Ⅱ区土坑６出土遺物（Ｓ＝1/3）…… 244
第196図　Ⅱ区不明遺構１（Ｓ＝1/10）…… 245
第197図　Ⅱ区不明遺構１出土遺物（1037はＳ＝1/4、1038はＳ＝1/3）…… 246
第198図　Ⅱ区不明遺構２（Ｓ＝1/10）…… 247
第199図　Ⅱ区不明遺構２出土遺物（Ｓ＝1/4）…… 247
第200図　Ⅱ区不明遺構３（Ｓ＝1/30）…… 248
第201図　Ⅱ区不明遺構３出土遺物（Ｓ＝1/3、1042はＳ＝1/1）…… 248
第202図　Ⅱ区不明遺構４出土遺物（Ｓ＝1/3）…… 248

第203図　Ⅱ区自然河道１（Ｓ＝1/60）…… 249
第204図　Ⅱ区自然河道１出土遺物（Ｓ＝1/3）…… 250
第205図　Ⅱ区土坑７（Ｓ＝1/60）…… 251
第206図　Ⅱ区土坑７出土遺物①
（Ｓ＝1/3、1088はＳ＝1/2、1089～1092はＳ＝1/4、1093～1095はＳ＝1/1）…… 252
第207図　Ⅱ区土坑７出土遺物②（1096はＳ＝1/8、1097はＳ＝1/2）…… 253
第208図　Ⅱ区土坑７出土遺物③（Ｓ＝1/8）…… 254
第209図　Ⅱ区土坑７出土遺物④（Ｓ＝1/8）…… 255
第210図　Ⅱ区土坑７出土遺物⑤（Ｓ＝1/8）…… 256
第211図　Ⅱ区溝状遺構１、２・石列1（Ｓ＝1/60）…… 257
第212図　Ⅱ区石列２（Ｓ＝1/30）…… 258
第213図　Ⅱ区溝状遺構１出土遺物（Ｓ＝1/3、1104はＳ＝1/1）…… 259
第214図　Ⅱ区溝状遺構２出土遺物（Ｓ＝1/3）…… 259
第215図　Ⅱ区石列１出土遺物（Ｓ＝1/3）…… 259
第216図　Ⅱ区柱穴出土遺物①（Ｓ＝1/3）…… 260
第217図　Ⅱ区柱穴出土遺物②
（Ｓ＝1/3、1161～1164はＳ＝1/2、1165～1167はＳ＝1/4、1168～1171はＳ＝1/1）… 261
第218図　Ⅱ区弥生土器①（Ｓ＝1/3）…… 265
第219図　Ⅱ区弥生土器②（Ｓ＝1/3）…… 266
第220図　Ⅱ区土師器①（Ｓ＝1/3）…… 267
第221図　Ⅱ区土師器②（Ｓ＝1/3）…… 268
第222図　Ⅱ区須恵器①（Ｓ＝1/3）…… 269
第223図　Ⅱ区須恵器②（Ｓ＝1/3）…… 270
第224図　Ⅱ区須恵器③（Ｓ＝1/3）…… 271
第225図　Ⅱ区須恵器④（Ｓ＝1/3）…… 272
第226図　Ⅱ区須恵器⑤（Ｓ＝1/3）…… 273
第227図　Ⅱ区製塩土器（Ｓ＝1/3）…… 274
第228図　Ⅱ区土師質土器①（Ｓ＝1/3）…… 275
第229図　Ⅱ区土師質土器②（Ｓ＝1/3）…… 276
第230図　Ⅱ区土師質土器③（Ｓ＝1/3）…… 277
第231図　Ⅱ区土師質土器④（Ｓ＝1/3）…… 278
第232図　Ⅱ区中世須恵器①（Ｓ＝1/3）…… 279
第233図　Ⅱ区中世須恵器②（Ｓ＝1/3）…… 280
第234図　Ⅱ区中世須恵器③（Ｓ＝1/3）…… 281
第235図　Ⅱ区白磁（Ｓ＝1/3）…… 282
第236図　Ⅱ区青磁（Ｓ＝1/3）…… 283
第237図　Ⅱ区中世陶器①（1492～1496はＳ＝1/6、1497～1502はＳ＝1/3）…… 284
第238図　Ⅱ区中世陶器②（Ｓ＝1/3）…… 285
第239図　Ⅱ区中世陶器③（Ｓ＝1/3）…… 286
第240図　Ⅱ区中世陶磁器（Ｓ＝1/3）…… 287
第241図　Ⅱ区金属器①（Ｓ＝1/2）…… 288
第242図　Ⅱ区金属器②（Ｓ＝1/2）…… 289
第243図　Ⅱ区金属器③（Ｓ＝1/2）…… 290
第244図　Ⅱ区金属器④（Ｓ＝1/2）…… 291
第245図　Ⅱ区古銭①（Ｓ＝1/1）…… 292
第246図　Ⅱ区古銭②（Ｓ＝1/1）…… 293
第247図　Ⅱ区木簡・墨書土器（Ｓ＝1/3）…… 294
第248図　Ⅱ区木製品①（Ｓ＝1/4）…… 295
第249図　Ⅱ区木製品②（Ｓ＝1/4）…… 296
第250図　Ⅱ区石製品（1692～1696はＳ＝1/1、1697～1703はＳ＝1/3）…… 297
第251図　ＩＤ区全体図（Ｓ＝1/200）…… 313・314
第252図　Ⅱ区全体図（Ｓ＝1/200）…… 315・316

図版目次

1　青木遺跡Ⅰ区・Ⅱ区全景（上空真上から）
2　青木遺跡周辺（上空南東から）
3　青木遺跡Ⅰ・Ⅱ区（上空南から）
4　上　青木遺跡Ⅰ・Ⅱ区（上空北東から）
　　下　青木遺跡Ⅰ・Ⅱ区（上空北西から）
5　Ⅱ区　自然河道１完掘状況（南から）
6　Ⅰ区　建物１～３（北から）
7　上　Ⅰ区　建物７調査風景（南東から）
　　下　Ⅰ区　伊佐波神社跡石敷（北から）
8　上　Ⅰ区　土坑１土層断面（北西から）
　　下　Ⅰ区　土坑１赤色物質検出状況
9　ⅠＡ区（上空真上から）
10　ⅠＢ区（上空真上から）
11　ⅠＣ区西（上空真上から）
12　ⅠＣ区東（上空真上から）
13　上　ⅠＡ区　南壁土層断面（北から）
　　下　同上　西壁土層断面（東から）
14　上　ⅠＢ区　調査前（西から）
　　下　同上　第１遺構面（南東から）
15　上　ⅠＢ区　第２遺構面（南西から）
　　下　同上　第３遺構面（南西から）
16　上　ⅠＢ区　南壁土層断面（北西から）
　　下　同上　東壁土層断面（南西から）
17　上　ⅠＣ区　調査前（南から）
　　下　ⅠＣ区　東側第１遺構面調査風景（南西から）
18　上　ⅠＣ区　東側第１遺構面（南西から）
　　下　同上　第2遺構面（南西から）
19　上　ⅠＣ区　東側南壁土層断面（北東から）
　　下　同上　東壁土層断面（南西から）
20　上　ⅠＣ区　西側全景（東から）
　　下　同上　南壁土層断面（西から）
21　上　ⅠＣ区　西側南壁土層断面拡大（北西から）
　　下　同上　河道部分　（西から）
22　上　Ⅰ区　集石２（北西から）
　　下　同上　（南から）
23　上　Ⅰ区　集石2北側遺物出土状況（北から）
　　下　同上　南側遺物出土状況（北から）
24　上　Ⅰ区　土器溜２遺物出土状況（南から）
　　下　同上　（西から）
25　上　Ⅰ区　河道１（南から）
　　下　同上　（北西から）
26　上　Ⅰ区　河道1北側土層断面（南から）
　　中　同上　南側土層断面（南から）
　　下　同上　調査風景（南から）
27　上　Ⅰ区　河道２（南東から）
　　下　同上　（北西から）
28　上　Ⅰ区　河道２北壁土層断面（南東から）
　　中　同上　中央土層断面（南西から）
　　下　同上　南側土層断面（南西から）
29　上　Ⅰ区　建物６（東から）
　　下左　同上　（西から）
　　下右　同上　Ｐ674土師器出土状況（西から）
30　上　Ⅰ区　建物９　Ｐ782とＰ790の自然木（南から）
　　下左　Ⅰ区　建物22　Ｐ304土師器出土状況
　　下右　Ⅰ区　土坑５　検出時（西から）
31　上　Ⅰ区　土坑６（北から）
　　下　同上　ドングリ出土状況（西から）
32　上　Ⅰ区　土坑９遺物出土状況（北から）
　　中　同上　拡大（北から）
　　下　Ⅰ区　土坑10遺物出土状況（北東から）
33　上　Ⅰ区　土坑11（北から）
　　下　同上　土層断面（南から）
34　上　Ⅰ区　土坑12（北東から）
　　下　同上　（南西から）
35　上　Ⅰ区　溝７検出状況（南から）
　　中　Ⅰ区　溝７集石１（西から）
　　下　Ⅰ区　溝７集石２（西から）
36　上　Ⅰ区　土器溜１（H10グリッド）土師器出土状況（南東から）
　　下　同上　拡大（南東から）
37　上　Ⅰ区　土器溜１（Ⅰ10グリッド）土師器出土状況（東から）
　　下　Ⅰ区　Ｈ９グリッド411出土状況（西から）
38　上　Ⅰ区　溝９・土器溜３（南から）
　　下　同上　（北東から）
39　上　Ⅰ区　建物１～３（北から）
　　下　同上　調査風景（北から）
40　上　Ⅰ区　建物１～３（北東から）
　　下　Ⅰ区　建物２Ｐ50・土坑13（南東から）
41　上　Ⅰ区　建物３　Ｐ55（南から）
　　中　Ⅰ区　建物３　Ｐ80（南から）
　　下　Ⅰ区　柱列12　Ｐ22（南から）
42　上　Ⅰ区　土坑１土層断面（北西から）
　　下　同上　西側下層の石（北東から）
43　上　Ⅰ区　土坑１西側下層の石（北西から）
　　下　同上　西側集石の根石
44　上　Ⅰ区　土坑１　537・水輪（591）出土状況（北西から）
　　下　同上　536出土状況

45　上左　Ⅰ区　土坑２検出状況（南から）
　　上右　Ⅰ区　土坑３（北西から）
　　下　Ⅰ区　土坑３土層断面（北から）
46　上　Ⅰ区　土坑13土層断面（南東から）
　　中　Ⅰ区　土坑14土層断面（南から）
　　下　Ⅰ区　土坑７・８検出状況（南東から）
47　上　Ⅰ区　溝２西壁土層断面（北東から）
　　下　Ⅰ区　溝２　550出土状況（南西から）
48　上　Ⅰ区　溝２土層断面Ｆ－Ｆ´ライン
　　（北東から）
　　中　同上　土層断面Ｅ－Ｅ´ライン（北東から）
　　下　同上　土層断面Ｃ－Ｃ´ライン（北東から）
49　上　Ⅰ区　溝１（南から）
　　下　同上　Ｂ－Ｂ´ライン土層断面（南から）
50　上左　Ⅰ区　溝１北側検出状況（南から）
　　上右　Ⅰ区　溝１北側（南から）
　　下　Ⅰ区　溝１調査風景（南から）
51　上　Ⅰ区　土坑１・溝１・集石１（南から）
　　下　Ⅰ区　集石１（北東から）
52　上　Ⅰ区　集石１（北西から）
　　下　Ⅰ区　集石１・溝１土層断面（北西から）
53　上　Ⅰ区　石組（北東から）
　　下左　　同上　（東から）
　　下右　　火箸645出土状況
54　上　Ⅰ区　伊佐波神社跡石列検出状況
　　（南西から）
　　下　同上　石敷検出状況（南西から）
55　上　Ⅰ区　伊佐波神社跡石敷（北から）
　　下　　同上　石敷下層の遺構（南西から）
56　上　Ⅰ区　伊佐波神社跡東西ベルト東側土層断
　　面（南から）
　　中　　同上　西側土層断面（南から）
　　下　Ⅰ区　伊佐波神社跡調査風景（北から）
57　上　Ⅰ区　伊佐波神社跡石敷下層の遺構
　　（北から）
　　下　　同上　（北西から）
58　上　Ⅰ区　建物７（南東から）
　　下　　同上　（南西から）
59　上左　Ⅰ区　建物７　Ｐ720（南から）
　　上右　Ⅰ区　建物７　Ｐ730（西から）
　　下　Ⅰ区　建物７　Ｐ727
60　上左　Ⅰ区　建物７　Ｐ732（西から）
　　上右　Ⅰ区　建物７　Ｐ737
　　下　Ⅰ区　建物７　Ｐ733（南から）
61　上　Ⅰ区　建物８（南から）
　　下　　同上　調査風景（南東から）
62　上左　Ⅰ区　Ｐ300土師器出土状況
　　上右　Ⅰ区　Ｐ511土師器出土状況
　　下　Ⅰ区　Ｐ594
63　上　Ⅰ区　Ｐ621
　　下　Ⅰ区　Ｐ621柱根下の土師器（東から）
64　上　Ⅰ区　土坑16（東から）
　　下左　Ⅰ区　溝３検出状況（南東から）
　　下右　Ⅰ区　溝３（北東から）
65　上　Ⅰ区　溝４検出状況（北から）
　　下　Ⅰ区　集石３（南から）
66　　Ⅰ区出土　弥生土器
67　　Ⅰ区出土　弥生土器
68　　Ⅰ区出土　弥生土器・石器
69　　Ⅰ区出土　土師器
70　　Ⅰ区出土　土師器・須恵器
71　　Ⅰ区出土　須恵器
72　　Ⅰ区出土　須恵器
73　　Ⅰ区　集石２出土遺物
74　上　Ⅰ区　土器溜２出土遺物
　　下　Ⅰ区　土器溜２出土遺物
75　　Ⅰ区　土器溜２出土遺物
76　上　Ⅰ区　土器溜２出土遺物
　　下　Ⅰ区　土器溜２出土遺物
77　　Ⅰ区　河道１出土遺物
78　上　Ⅰ区　河道２出土遺物
　　下　Ⅰ区出土　須恵器
79　　Ⅰ区出土　須恵器
80　　Ⅰ区出土　須恵器
81　上　Ⅰ区出土　須恵器
　　下　　同上
82　　Ⅰ区出土　土師器
83　　Ⅰ区出土　土師器・石製品
84　　Ⅰ区出土　土師器
85　　Ⅰ区出土　土師器・土製品・石製品
86　　Ⅰ区　建物５・６・10・20・22、柱列５・14
　　出土遺物
87　上　Ⅰ区　土坑９・11・12出土遺物
　　下　　同上
88　上　Ⅰ区　土坑６・10・12　出土遺物
　　下　Ⅰ区　溝７・９　出土遺物
89　上　Ⅰ区　溝５・７　出土遺物
　　下　　同上
90　上　Ⅰ区　溝９　出土遺物
　　下　Ⅰ区　土器溜１　出土遺物
91　上　Ⅰ区　土器溜１　出土遺物
　　下　　同上
92　　Ⅰ区　土器溜１　出土遺物
93　上　Ⅰ区　土器溜３　出土遺物
　　下　　同上
94　　ＩＡ・Ｂ区　土器溜３　出土遺物
95　　ＩＢ区　出土　土師器・須恵器・陶器
96　　ＩＢ区　出土　土師器・須恵器・陶器
97　上　ＩＢ区　出土　土師器・須恵器・陶器
　　下　ＩＢ区　出土　貿易陶磁

98　上　ＩＣ区　出土　陶器陶器擂鉢
　　下　ＩＣ区　出土　土師器
99　　ＩＣ区　出土　土師器・須恵器
100　　ＩＣ区　出土　土師器・須恵器
101　上　ＩＣ区　出土　貿易陶磁
　　下　　同上
102　　ＩＣ区出土土師器・Ｉ区建物２、柱列12、土坑14出土遺物
103　上　Ｉ区　土坑１　出土遺物
　　下　Ｉ区　土坑14　出土遺物
104　上　Ｉ区　土坑７・８　出土遺物
　　下　Ｉ区　溝２、集石１　出土遺物
105　　Ｉ区　溝１　出土遺物
106　上　Ｉ区　伊佐波神社跡出土遺物
　　下　　同上
107　上　Ｉ区　伊佐波神社跡出土遺物
　　下　Ｉ区出土　土師器・陶磁器
108　　Ｉ区出土　陶器・古銭・石製品
109　　表採石製品、Ｉ区　柱穴内出土遺物
110　　Ｉ区Ｐ511出土土師器、集石３出土遺物、Ｉ区出土石器・木製品
111　上　Ｉ区出土　木製品
　　下　　同上
112　　Ｉ区出土　木製品
113　　Ｉ区出土　金属製品
114　　Ｉ区　柱根
115　　Ｉ区　柱根
116　　Ｉ区　柱根
117　　Ｉ区　柱根
118　上　Ｉ区　土坑13出土木製品
　　下左　Ｉ区　遺構外出土種実
　　下右　Ｉ区　溝９出土種実
119　　Ｉ区　土坑６出土種実
120　上左　Ｉ区　遺構出土種実
　　上右　Ｉ区　溝７出土種実
　　下　Ｉ区出土　獣骨
121　上　ＩＤ区全景（上空から）
　　下　Ｉ区調査前風景（東から）
122　上　ＩＤ区　第２遺構面検出状況（調査区東側：南西から）
　　下　ＩＤ区　第２遺構面検出状況（調査区中央：南から）
123　上　ＩＤ区　土坑17石組み（東から）
　　中　ＩＤ区　土坑17土層（南から）
　　下　ＩＤ区　土坑17完掘（北から）
124　上　ＩＤ区　土坑18土層（東から）
　　下　ＩＤ区　土坑18遺物出土状況（南西から）
125　上　ＩＤ区　土坑18出土下駄（東から）
　　下　ＩＤ区　土坑18完掘（南から）
126　上　ＩＤ区　土坑19土層（西から）
　　下　ＩＤ区　土坑19完掘（南から）
127　上　ＩＤ区　土坑20遺物出土状況（東から）
　　中　ＩＤ区　土坑20土層（東から）
　　下　ＩＤ区　土坑20完掘状況（東から）
128　上　ＩＤ区　土坑21検出状況（南から）
　　中　ＩＤ区　土坑21土層（東から）
　　下　ＩＤ区　土坑21完掘（南から）
129　上　ＩＤ区　土坑22土層（北から）
　　中　ＩＤ区　土坑22完掘（北から）
　　下　ＩＤ区　土坑23
130　上　ＩＤ区　土坑24完掘（南から）
　　下　ＩＤ区　土坑25土層（西から）
131　上　ＩＤ区　土坑25完掘（南から）
　　下　ＩＤ区　自然河道１土層（南東から）
132　上　ＩＤ区　第１遺構面検出状況（西から）
　　下　ＩＤ区　掘立柱建物29（東から）
133　上　ＩＤ区　集石１検出（北から）
　　下　ＩＤ区　集石１検出（南から）
134　上　ＩＤ区　集石１土層（南から）
　　下　ＩＤ区　集石１遺物出土状況
135　上　ＩＤ区　井戸１（南から）
　　中　ＩＤ区　井戸１土層（南から）
　　下　ＩＤ区　土坑26検出状況（南から）
136　上　ＩＤ区　土坑26土層（東から）
　　中　ＩＤ区　土坑26第１回石組み検出状況（南から）
　　下　ＩＤ区　土坑26第２回石組み検出状況（南から）
137　上　ＩＤ区　土坑26完掘（南から）
　　下　ＩＤ区　集石２（東から）
138　上　ＩＤ区　溝状遺構（東から）
　　下　ＩＤ区　全景（上空北から）
139　上　ＩＤ区　土坑17出土遺物
　　下　ＩＤ区　土坑18出土遺物（１）
140　　ＩＤ区　土坑18出土遺物（２）
141　上　ＩＤ区　土坑18出土遺物（３）
　　下　ＩＤ区　土坑18出土遺物（４）
142　上　ＩＤ区　土坑19・土坑20出土遺物（１）
　　下　ＩＤ区　土坑20出土遺物（２）
143　上　ＩＤ区　土坑20出土遺物（３）
　　下　ＩＤ区　土坑20出土遺物（４）
144　　ＩＤ区　土坑20出土遺物（５）
145　　ＩＤ区　土坑21・土坑24・自然河道１出土遺物
146　　ＩＤ区　集石１出土遺物（１）
147　　ＩＤ区　井戸１・土坑26出土遺物
148　上　ＩＤ区　柱穴出土遺物（１）
　　下　ＩＤ区　柱穴出土遺物（２）
149　上　ＩＤ区　柱穴出土遺物（３）
　　下　ＩＤ区　柱穴出土遺物（４）

150　　ＩＤ区　柱穴出土遺物（５）
151　上　ＩＤ区　第６層以下出土遺物（１）
　　中　ＩＤ区　第６層以下出土遺物（２）
　　下　ＩＤ区　第６層以下出土遺物（３）
152　　ＩＤ区出土　土師質土器（１）
153　　ＩＤ区出土　土師質土器（２）
154　　ＩＤ区出土　中世須恵器（１）
155　　ＩＤ区出土　中世須恵器（２）
156　上　ＩＤ区出土　中世須恵器（３）
　　中　ＩＤ区出土　金属器
　　下　ＩＤ区　集石１出土遺物（２）
157　上　ＩＤ区出土　古銭
　　下　ＩＤ区出土　石製品
158　上　ＩＤ区出土　木製品（１）
　　中　ＩＤ区出土　木製品（２）
　　下　ＩＤ区出土　木製品（３）
159　　Ⅱ区全景（上空から）
160　上　Ⅱ区　第２遺構面検出状況（西から）
　　下　Ⅱ区　第２遺構面検出状況（南から）
161　上　Ⅱ区　柱根出土状況（Ｐ223）
　　中　Ⅱ区　柱根出土状況（Ｐ237）
　　下　Ⅱ区　柱根出土状況（Ｒ033）
162　上　Ⅱ区　土坑１土層（東から）
　　下　Ⅱ区　土坑２土層（西から）
163　上　Ⅱ区　土坑２石組み検出状況（南から）
　　下　Ⅱ区　土坑２完掘（南から）
164　上　Ⅱ区　土坑３土層（西側：南から）
　　中　Ⅱ区　土坑３土層（東側：北から）
　　下　Ⅱ区　土坑３完掘
165　上　Ⅱ区　土坑４土層（東側：北から）
　　中　Ⅱ区　土坑４土層（西側：南から）
　　下　Ⅱ区　土坑４完掘
166　上　Ⅱ区　土坑５土層（南東から）
　　下　Ⅱ区　土坑６完掘（西から）
167　上　Ⅱ区　不明遺構１土層（南から）
　　下　Ⅱ区　不明遺構２土層（西から）
168　上　Ⅱ区　不明遺構３土層（東から）
　　中　Ⅱ区　不明遺構３遺物出土状況（東から）
　　下　Ⅱ区　不明遺構３完掘（東から）
169　上　Ⅱ区　自然河道１（南から）
　　下　Ⅱ区　自然河道１土層（南から）
170　上　Ⅱ区　土坑７検出状況（南西から）
　　中　Ⅱ区　土坑７土層（南西から）
　　下　Ⅱ区　土坑７石組み検出状況（南から）
171　上　Ⅱ区　土坑７板材検出状況（南から）
　　中　Ⅱ区　土坑７板材検出状況（南から）
　　下　Ⅱ区　土坑７完掘（南から）
172　上　Ⅱ区　溝状遺構１検出状況（南から）
　　中　Ⅱ区　溝状遺構１完掘（南から）
　　下　Ⅱ区　石列１・土坑７検出状況（北から）
173　上　Ⅱ区　石列１検出状況（北から）
　　中　Ⅱ区　石列１遺物出土状況（西から）
　　下　Ⅱ区　溝状遺構２土層（北から）
174　上　Ⅱ区　石列２検出状況（西から）
　　中　Ⅱ区　加工段土層（南から）
　　下　ⅡＢ区　（南東から）
175　　青木遺跡（上空東から）
176　　Ⅱ区　土坑１出土遺物
177　上　Ⅱ区　土坑２出土遺物
　　中　Ⅱ区　土坑３出土遺物
　　下　Ⅱ区　土坑４出土遺物（１）
178　　Ⅱ区　土坑４（２）・土坑５（１）出土遺物
179　上　Ⅱ区　土坑５出土遺物（２）
　　下　Ⅱ区　土坑５出土遺物（３）
180　上　Ⅱ区　土坑６出土遺物
　　中　Ⅱ区　不明遺構３出土遺物
　　下　Ⅱ区　自然河道１出土遺物（１）
181　上　Ⅱ区　自然河道１出土遺物（２）
　　下　Ⅱ区　自然河道１出土遺物（３）
182　上　Ⅱ区　不明遺構１出土遺物
　　下　Ⅱ区　不明遺構２出土遺物
183　　Ⅱ区　土坑７出土遺物（１）
184　　Ⅱ区　土坑７出土遺物（２）
185　　Ⅱ区　溝状遺構１・溝状遺構２・石列１出土遺物
186　　Ⅱ区　柱穴出土遺物（１）
187　上　Ⅱ区　柱穴出土遺物（２）
　　下　Ⅱ区　柱穴出土遺物（３）
188　　Ⅱ区　柱穴出土遺物（４）
189　　Ⅱ区　柱穴出土遺物（５）
190　上　Ⅱ区出土　弥生土器（１）
　　下　Ⅱ区出土　弥生土器（２）
191　　Ⅱ区出土　弥生土器（３）
192　　Ⅱ区出土　弥生土器（４）・土師器（１）
193　　Ⅱ区出土　土師器（２）
194　　Ⅱ区出土　須恵器（１）
195　　Ⅱ区出土　須恵器（２）
196　　Ⅱ区出土　須恵器（３）
197　　Ⅱ区出土　須恵器（４）
198　　Ⅱ区出土　須恵器（５）
199　　Ⅱ区出土　須恵器（６）
200　　Ⅱ区出土　製塩土器
201　　Ⅱ区出土　土師質土器（１）
202　　Ⅱ区出土　土師質土器（２）
203　　Ⅱ区出土　土師質土器（３）
204　　Ⅱ区出土　土師質土器（４）
205　　Ⅱ区出土　土師質土器（５）
206　　Ⅱ区出土　土師質土器（６）
207　　Ⅱ区出土　中世須恵器（１）
208　　Ⅱ区出土　中世須恵器（２）

209　　Ⅱ区出土　中世須恵器（3）
210　　Ⅱ区出土　中世須恵器（4）
211　　Ⅱ区出土　金属器（1）
212　上　Ⅱ区出土　金属器（2）
　　下　Ⅱ区出土　古銭（1）
213　上　Ⅱ区出土　古銭（2）
　　下　Ⅱ区出土　木簡
214　上　Ⅱ区出土　墨書土器
　　下　Ⅱ区出土　木製品（1）
215　　Ⅱ区出土　木製品（2）
216　　Ⅱ区出土　木製品（3）
217　上　Ⅱ区出土　木製品（4）
　　下　Ⅱ区出土　石製品（1）
218　　Ⅱ区出土　石製品（2）
219　　ＩＤ区出土　青磁
220　上　ＩＤ区出土　白磁（1）
　　下　ＩＤ区出土　白磁（2）
221　上　ＩＤ区出土　中世陶器（1）
　　下　ＩＤ区出土　中世陶器（2）
222　　ＩＤ区出土　白磁（3）・青白磁
223　上　ＩＤ区出土　中世陶器（3）
　　下　ＩＤ区出土　中世陶磁器
224　　Ⅱ区出土　白磁（1）
225　上　Ⅱ区出土　白磁（2）
　　下　Ⅱ区出土　青磁（1）
226　　Ⅱ区出土　青磁（2）
227　　Ⅱ区出土　中世陶器（1）
228　　Ⅱ区出土　中世陶器（2）
229　　Ⅱ区出土　中世陶器（3）
230　　Ⅱ区出土　中世陶器（4）
231　　Ⅱ区出土　中世陶磁器（1）
232　　Ⅱ区出土　中世陶磁器（2）
233　　中世須恵器（分析）（1）
234　　中世須恵器（分析）（2）
235　　中世須恵器（分析）（3）
236　　中世須恵器（分析）（4）

第１章　調査に至る経緯

一般国道431号は、出雲市を起点として、平田市から松江市・境港市を経て米子市に至る総延長95.8kmの道路である。この道路は、出雲平野部の宍道湖、中海をはさみ南側の国道９号線と共に北側を結ぶ大動脈である。一般国道431号東林木バイパスは将来出雲地域から松江市を経て境港市を連絡する地域高規格道路「境港出雲道路」の一部を構成するとともに、現道の線形不良及び交通混雑の解消を目的とし、出雲市矢尾町から出雲市東林木町に至る延長4.2kmの４車線計画で、平成10年12月地域高規格道路の整備計画に組み込まれた道路である。

島根県教育委員会は、平成11年度に出雲土木建築事務所から遺跡有無の照会と分布調査の依頼を受けて、事業予定地内の分布調査を行い、青木遺跡、馬渡り遺跡、山持遺跡、里方本郷遺跡、下澤遺跡の計５か所の遺跡を確認した。続く平成12年度には青木遺跡と馬渡り遺跡において確認調査を行った。これに基づき平成13年度から発掘調査を開始することとなった。

青木遺跡は平成12年度の確認調査で中世の遺物包含層と遺構を確認したため、平成13年度から本格的な発掘調査を開始し、中近世初めにかけての集落跡であることが確認された。平成14年度は引き続き中近世の遺構・遺物の調査を実施していたところ、中世遺構面の下層に、弥生時代から古代にかけての遺物包含層が存在していることが判明した。調査の結果、古代（８世紀後半から９世紀初め）の遺構面と弥生時代の遺構面を検出した。古代の遺構面では礎石建物、掘立柱建物、大量の墨書土器等を、弥生時代の遺構面では四隅突出型墳丘墓と土壙墓を検出し、またこの土壙墓からは近畿式銅鐸の飾り耳が出土した。銅鐸片が墓壙内から検出されたのは全国で初めての例である。

なお、今回の報告書は平成13年度から平成14年度に行った中近世初めまでの遺構面の調査を中心とし、弥生時代から古代の調査内容については平成16年度以降報告する予定である。

第２章　遺跡の位置と環境

出雲平野は、かつて平野を西流していた斐伊川と神戸川により形成された沖積平野である。青木遺跡は出雲平野北東部の北山山麓の扇状地上に位置している。現在では東流している斐伊川が、最も北山に接近する地点であり、遺跡は川沿いに東西に広がっている。遺跡の北側には山裾がせまり、山中から斐伊川に向かって湯屋谷川が流れている。この川の流れにのって運ばれた土砂により扇状地が生成されている。

出雲平野の縄文時代の遺跡は、早期の菱根遺跡、前期の上長浜遺跡、後・晩期では出雲大社境内遺跡、三田谷Ⅰ遺跡、矢野遺跡などが知られているが、青木遺跡近辺では現在までのところ確認されていない。

出雲平野に集落が増加するのは弥生時代中期頃からである。山持遺跡（10）では、弥生時代後期の土器が大量に出土しており、遺構は竪穴住居、掘立柱建物、土坑、土器溜まりが確認されている。後期後半に集落が急速に広がり、短期間に廃絶したことが窺える。また、荻杼Ⅱ遺跡（40）では後期から終末期にかけての土器が採集されている。青木遺跡の南西2.0kmに位置する中野美保遺跡（42）では、中期中葉～後期の溝や井戸などの生活空間とともに、墓域が確認されている。一辺

が14m程の四隅突出型墳丘墓１基が検出されたが、後世の削平を受けており、墳丘の高さは立石底面から20cmに満たない状態であった。出土土器の様相から後期後半の築造と考えられる。墳丘裾に隣接して数基の集石遺構も確認されている。また、四隅突出型墳丘墓下層からは中期中葉の土器を伴う方形貼石墓１基も検出されている。

古墳時代前期の集落は弥生時代から続くものが多いが、低地部に営まれた集落の多くは前期から中期にかけて衰退している。荻杼Ⅱ遺跡（40）では遺構は確認されていないものの、古墳時代中期の土器が採集されており、集落跡の可能性が有る。後期には低地にも再び集落が営まれ、北山山麓には古墳や横穴墓が築かれる。

北山から南に伸びる尾根上に位置する大寺１号墳（２）は、墳長52mの二段築成で葺石を持つ前方後円墳である。全長４mあまりの竪穴式石室を主体部とするほか、前方部の形状から前期末の築造と考えられる。石室から鉄製鍬先や鉄斧が出土しているほか、近年の墳丘の調査で、土師器や碧玉製勾玉が確認されている。１号墳東側の２号墳は、墳形は不明であるが小規模な横穴式石室を有し、後期末の築造と考えられている。このほか東林木町内には未調査ながらも数多くの古墳・横穴が知られている。大寺古墳西方の門前谷の低丘陵上には、膳棚山古墳群（５）・平林寺山古墳群（４）が位置している。近年、両古墳群で13基が確認されているが、開墾などにより消滅した古墳も少なくはないようである。主に小型の方墳・円墳で構成される古墳群であり、一部で横穴式石室や箱式石棺が露出している。これら古墳群の南には傘屋背後横穴墓群（７、消滅）、古前西北崖上横穴墓（８）、古前背後横穴墓群（６）などがみられる。

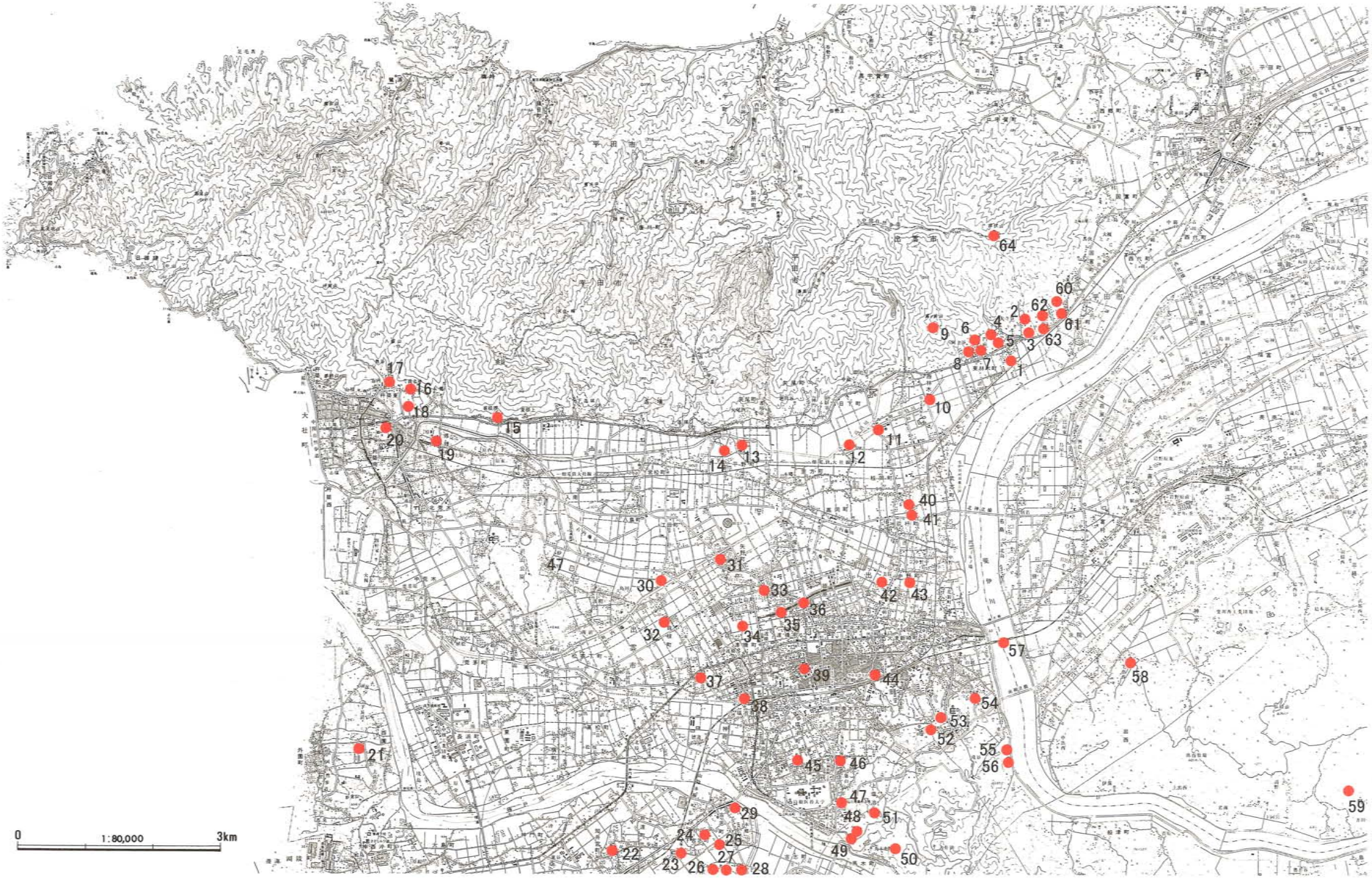
奈良時代頃には、斐伊川によって形成された自然堤防上に集落が数多く営まれる。天平５（733）年に編纂された「出雲国風土記」によれば、出雲平野は出雲郡と神門郡に分割され、青木遺跡の地は出雲郡伊努郷に編成された。また風土記には、遺跡北東の旅伏山に烽がつくられたことも記されている。平安時代末期には九条家の荘園として「林木荘」が成立していたことが、同家の文献にみえる。遺跡北側の萬福寺には、平安時代前期に造立された薬師如来像、日光・月光菩薩像、聖観音立像、四天王像など９体の仏像が祀られている。これらはかつて存在した大寺に安置されていたと考えられている。青木遺跡ではこれらの仏像が製作された頃とほぼ同時期の遺物も多数出土しており興味深い。近隣では、現在までのところ大きな集落は確認されていないが、その存在を想定させるような遺物の出土が数箇所で見受けられる。里方八石原遺跡（13）では遺構は確認されなかったものの、奈良時代の須恵器・土師器がみられ、水晶と滓片が入った土師器坏が出土している。これと一連の遺跡と考えられる高浜Ⅱ遺跡（14）では、奈良～平安時代初期の遺物が多量に出土しており、赤彩が施された土師器や、漆が付着した須恵器、ミニチュア土器などもみられる。青木遺跡北側の大寺三蔵遺跡（３）では、谷の中央付近で奈良時代から中世にかけての土師質土器や須恵器がまとまって出土している。中野美保遺跡では、井戸を中心に配された掘立柱建物群が確認されている。

林木荘は鎌倉期には神門郡に、戦国末期には出東郡に属したとされている。九条家との関わりは14世紀初頭までは文献に登場するが、それ以降の荘園の実権は在地勢力に移り、戦国期には荘内は杵築大社、鰐淵寺、日御碕神社等の所領に分かれていたようである。近隣の遺跡ではこの時期の居住空間はあまり確認されていない。中野美保遺跡では中世の水田遺構が調査されており、畦畔・水口・足跡・置石などが確認されている。二条並列して構築された畦畔もあり、畦畔の結節点からは

置石が出土している。荻杼古墓（41）では、瓷器系陶器の大型甕・龍泉窯産の青磁碗・青磁皿・骨片・蓋石・礫が出土している。蓋石が載せられた甕が方形土坑内に据えられ、粘土や礫で埋め戻されていた。甕と共に五輪塔や宝筐印塔の残欠が出土しており、地上に石塔が建てられていたと考えられる。甕の内部には青磁碗・皿・骨片が納められていた。

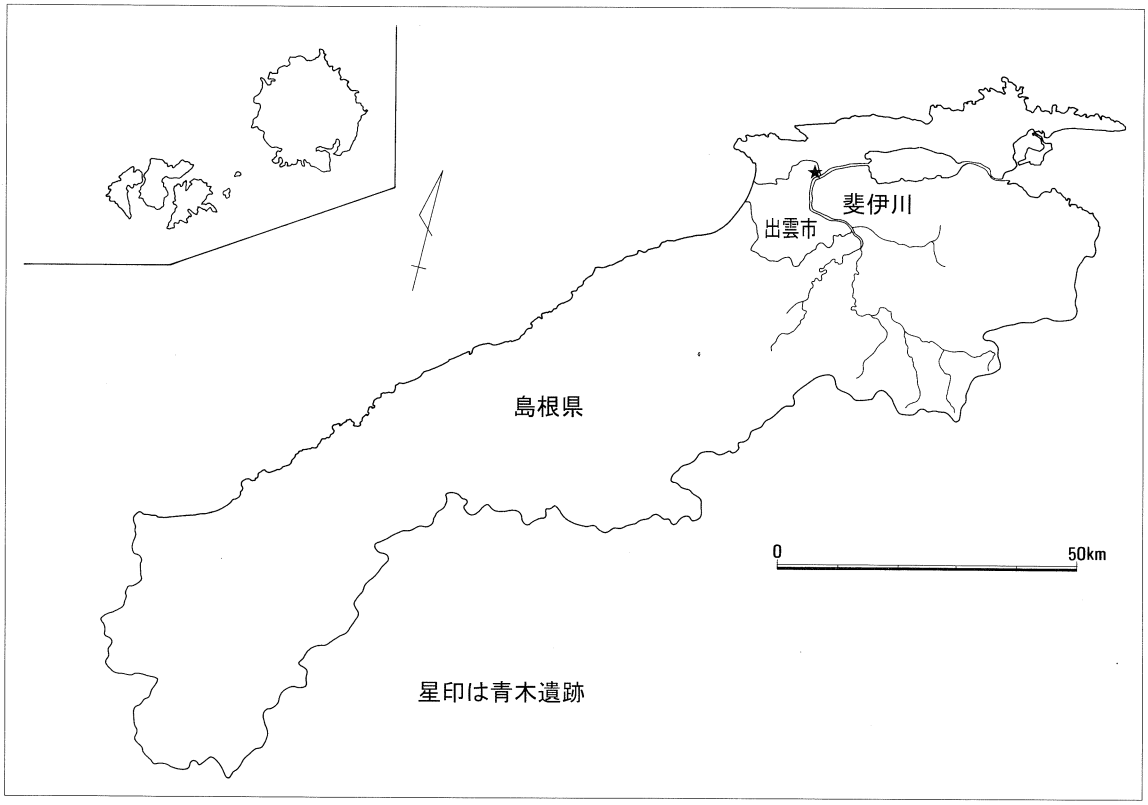
戦国時代になると守護代として富田城に入った尼子氏が、守護京極氏を追い出して勢力を拡大し、最盛期の16世紀初めには11カ国にまで支配が及んだ。しかし安芸に進出した際、毛利方に大敗し、富田城を巡って出雲において攻防戦が繰り広げられた。鳶が巣城（９）は毛利元就が尼子征伐のために出雲国に侵入して最初に設けた軍事拠点である。放射状連郭式の山城で、山頂曲輪群は永禄５（1562）年ごろの築城と推定されている。鳶が巣城の東方には、元就の三男小早川隆景の養父、小早川正平の霊を慰めるために建立された興源寺が位置する。この地は小早川正平が自刃した場所とされており、付近には墓塔と伝えられる宝筐印塔（62）が祀られている。

近藤　正「出雲・荻杼発見の骨蔵器」考古学雑誌　第54巻　第３号　1969年
『出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告書』島根県教育委員会1980年
『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第１集』出雲市教育委員会　1988年
『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第２集』出雲市教育委員会　1989年
『角川日本地名辞典　島根県』角川書店　1991年
『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第３集』出雲市教育委員会　1992年
『島根県の地名』平凡社　1995年
『山持川川岸遺跡』出雲市教育委員会　1996年
『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第８集』出雲市教育委員会　1998年
『高浜Ⅱ遺跡』出雲市教育委員会　1999年
『出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書 第10集』出雲市教育委員会　2000年
『高岡遺跡』出雲市教育委員会　2000年
『出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書 第11集』出雲市教育委員会　2001年
『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター年報　Ｘ』島根県教育庁埋蔵文化財調査センター　2002年
『増補改訂　島根県遺跡地図Ⅰ（出雲・隠岐編）』島根県教育委員会　2003年
『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター年報　11』島根県教育庁埋蔵文化財調査センター　2003年
大寺古墳群現地説明会資料　島根県教育委員会　2003年

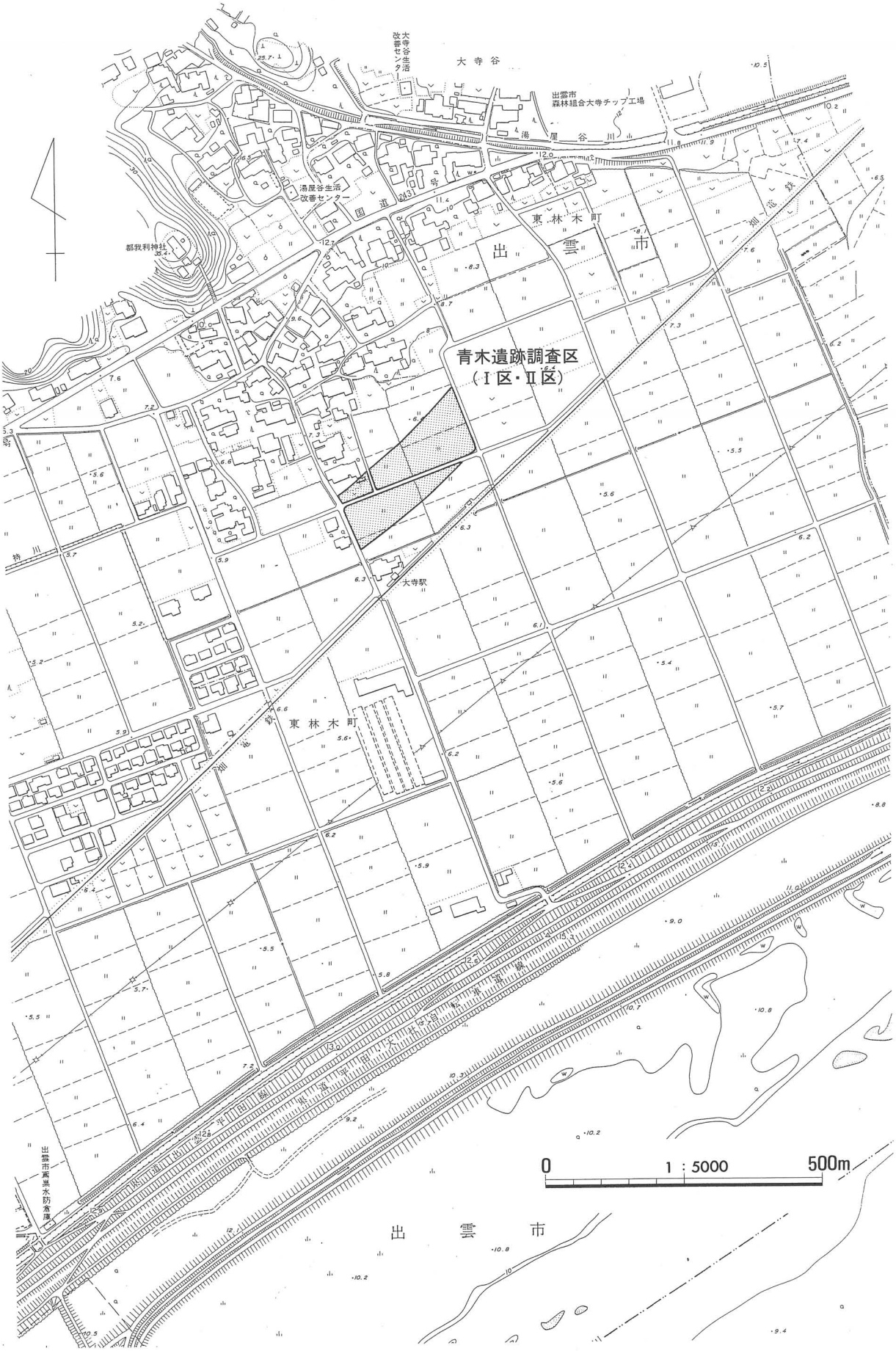


第１図　青木遺跡と周辺の遺跡（Ｓ＝1/25,000）

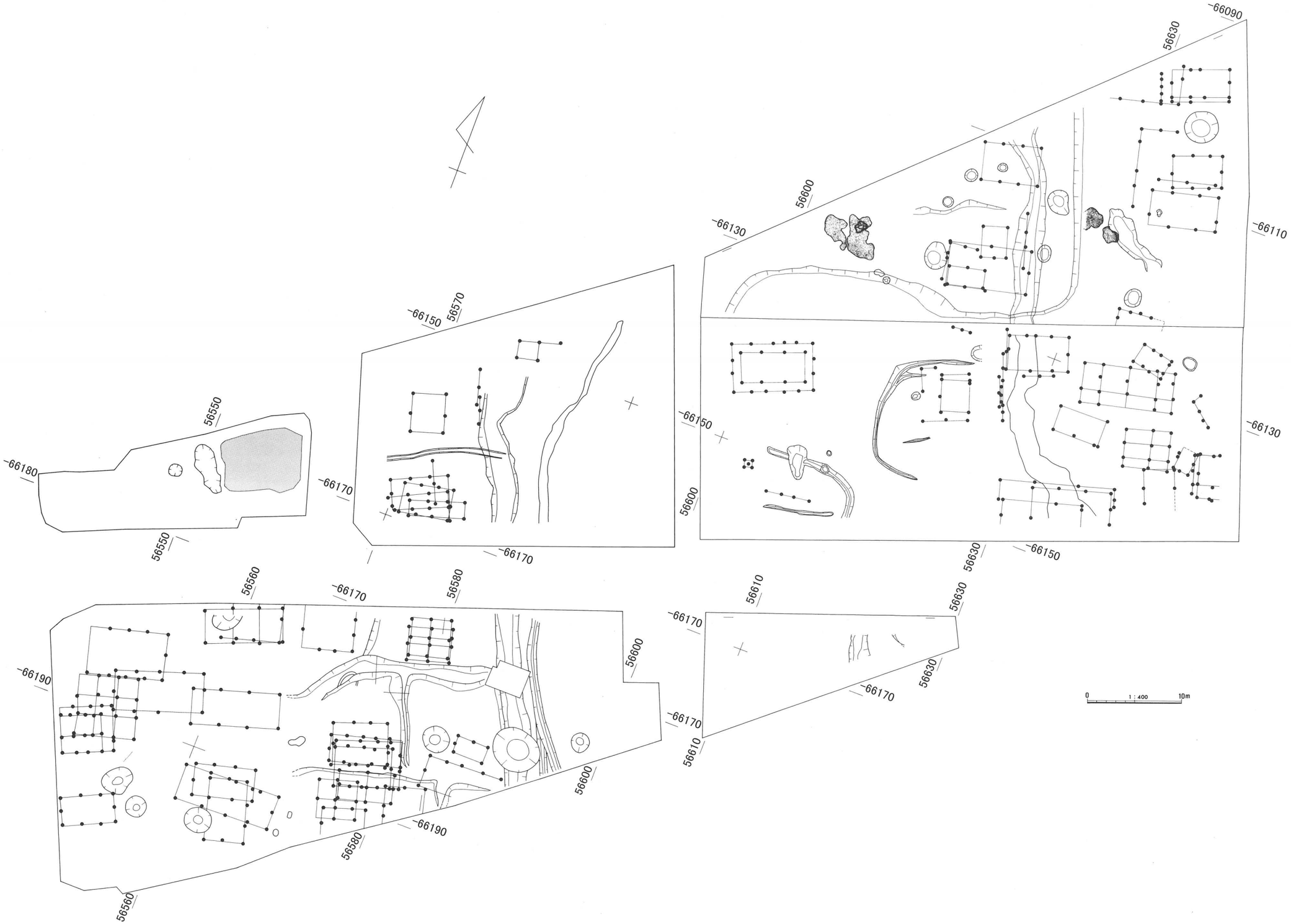
1	青木遺跡	2	大寺１号古墳	3	大寺三蔵遺跡
4	平林寺山古墳群	5	膳棚山古墳群	6	古前背後横穴墓群
7	傘屋背後横穴墓群	8	古前西北崖上横穴	9	鳶が巣城
10	山持遺跡	11	山持川川岸遺跡	12	別所里方遺跡
13	里方八石原遺跡	14	高浜Ⅱ遺跡	15	菱根遺跡
16	真名井銅戈出土地	17	出雲大社境内遺跡	18	五反配遺跡
19	原山遺跡	20	鹿蔵山遺跡	21	上長浜貝塚
22	知井宮多聞院遺跡	23	宝塚古墳	24	下古志遺跡
25	大梶古墳	26	妙蓮寺古墳	27	浄土寺山城跡
28	放れ山古墳	29	古志本郷遺跡	30	井原遺跡
31	矢野遺跡	32	白枝荒神遺跡	33	小山遺跡
34	渡橋沖遺跡	35	蔵小路西遺跡	36	姫原西遺跡
37	壱丁田遺跡	38	天神遺跡	39	海上遺跡
40	荻杼Ⅱ遺跡	41	荻杼古墓	42	中野美保遺跡
43	中野清水遺跡	44	今市大念寺古墳	45	神門寺境内遺跡
46	上塩谷築山古墳	47	地蔵山古墳	48	半分城跡
49	三田谷Ⅰ遺跡	50	光明寺３号墓	51	上塩谷横穴墓群
52	菅沢古墓	53	長者原廃寺	54	西谷墳墓群
55	権現山城跡	56	長廻遺跡・権現山古墳・権現山横穴墓群	57	斐伊川鉄橋遺跡
58	後谷遺跡	59	天寺平廃寺	60	美談神社１号墳
61	美談神社２号墳	62	興源寺	63	荒木古墳群
64	旅伏山				



第２図　青木遺跡の位置



第３図　青木遺跡調査区位置図（Ｓ＝1/5,000）



第４図　青木遺跡Ⅰ区・Ⅱ区全体図（Ｓ＝1/300）

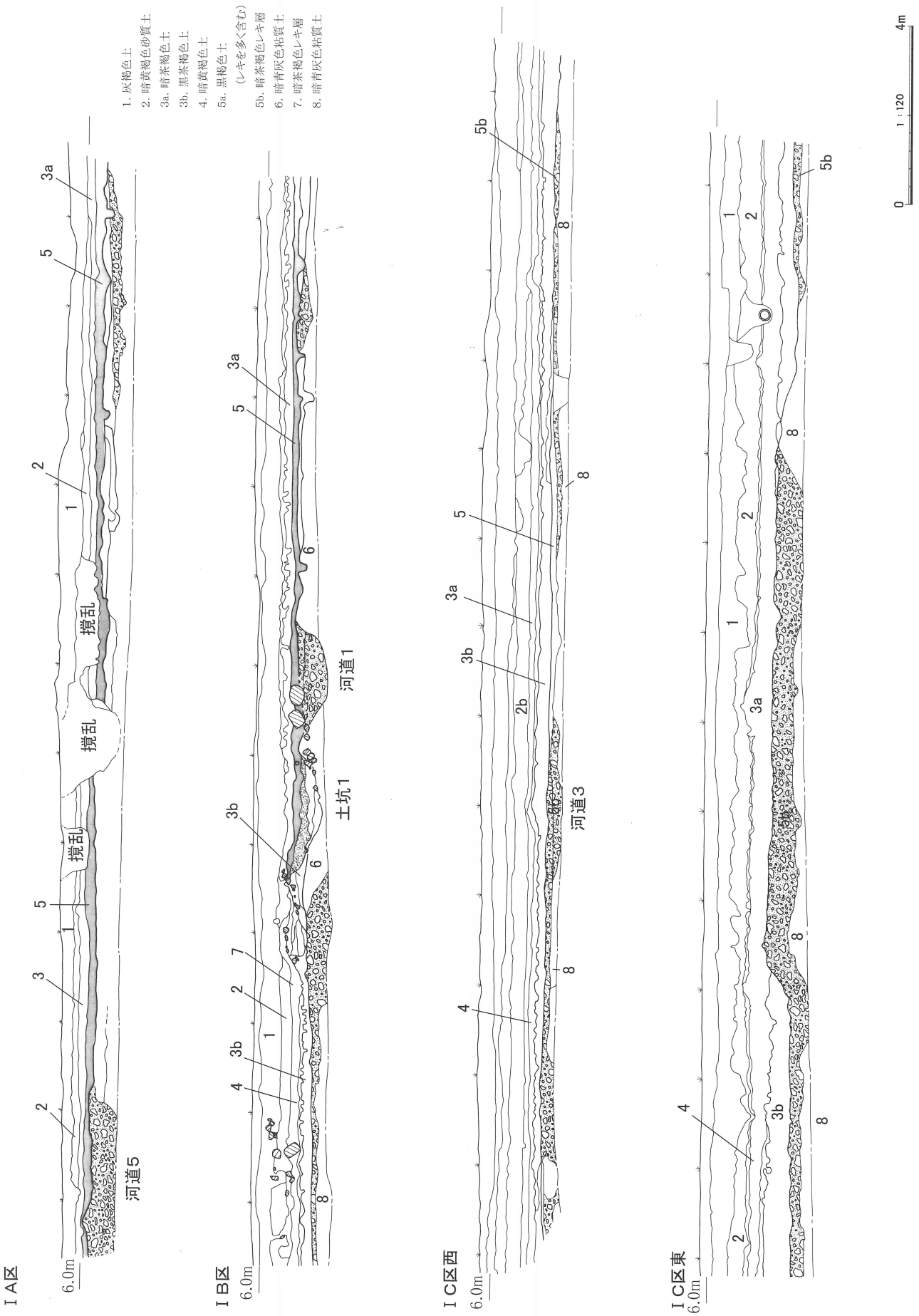
第３章　Ｉ区の調査

第１節　ＩＡ～ＩＣ区の調査

（１）調査の経過と概要

ＩＡ～ＩＣ区の発掘調査は平成13年に行った。調査はＩＢ区から始め、７月11日から重機を使用して近世以降の耕作土である１・２層を掘削した。その後８月６日から室町時代～近世初頭の遺物包含層である３ａ層を人力で掘削し、５ａ層を検出した。５ａ層は拳大前後の礫を大量に含み柱穴の検出が困難だったので、地形測量後に５㎝程度削ってから精査を行った。その結果、多数の柱穴が検出され柱根も出土した。５ａ層を掘削すると石を含まない６層が堆積しており、上面で柱穴と自然流路が検出された。ＩＢ区の東側には別の礫層（７層）が堆積し、その下には石を含まない８層が堆積していたが、ここでは柱穴は検出されなかった。９月27日にはラジコンヘリにより１回目の空撮を行った。ＩＢ区下層の調査と平行しながら10月30日からＩＣ区東の調査を行った。遺跡の旧地形が東側に傾斜しているのでＩＢ区に比べて遺構面の標高が低く、最も低い南東側では現地表から約２ｍ下で遺構面の礫層（５ｂ層）が検出された。５ｂ層上面ではでは多数の柱根が検出され、柱根も多く残存していた。12月８日にはＩＢ区とⅡＡ区の現地説明会を開催し、多数の参加を得た。その後12月４日に２回目の空撮を行ってＩＣ区東の調査を終え、ＩＣ区西から東への調査排土の転地換えを行った。その間に山持遺跡と馬渡り遺跡の試掘調査と平行しながらＩＡ区の調査を行った。ＩＡ区の東側では、事前の聞き取り調査で伊佐波神社の旧境内地とされた部分で石敷きと石列を検出した。12月５日からＩＣ区西の遺構精査を行い、12月20日には３回目の空撮を行った。12月26日に遺構の実測を終え現地調査を完了した。

現地説明会風景



第５図　ＩＡ～ＩＣ区南壁土層断面（S＝1/300）

（２）弥生時代の遺物

ＩＢ～ＩＣ区では３ａ層以下のほとんどの層で弥生土器が出土した。全体の数量は多くないが、その中でＩＢ区７層とＩＣ区東の５ｂ層で比較的まとまって出土した。ＩＢ区は後期（Ｖ様式）の土器が主で、ＩＣ区東は前期から後期まで各時期の土器が出土している。

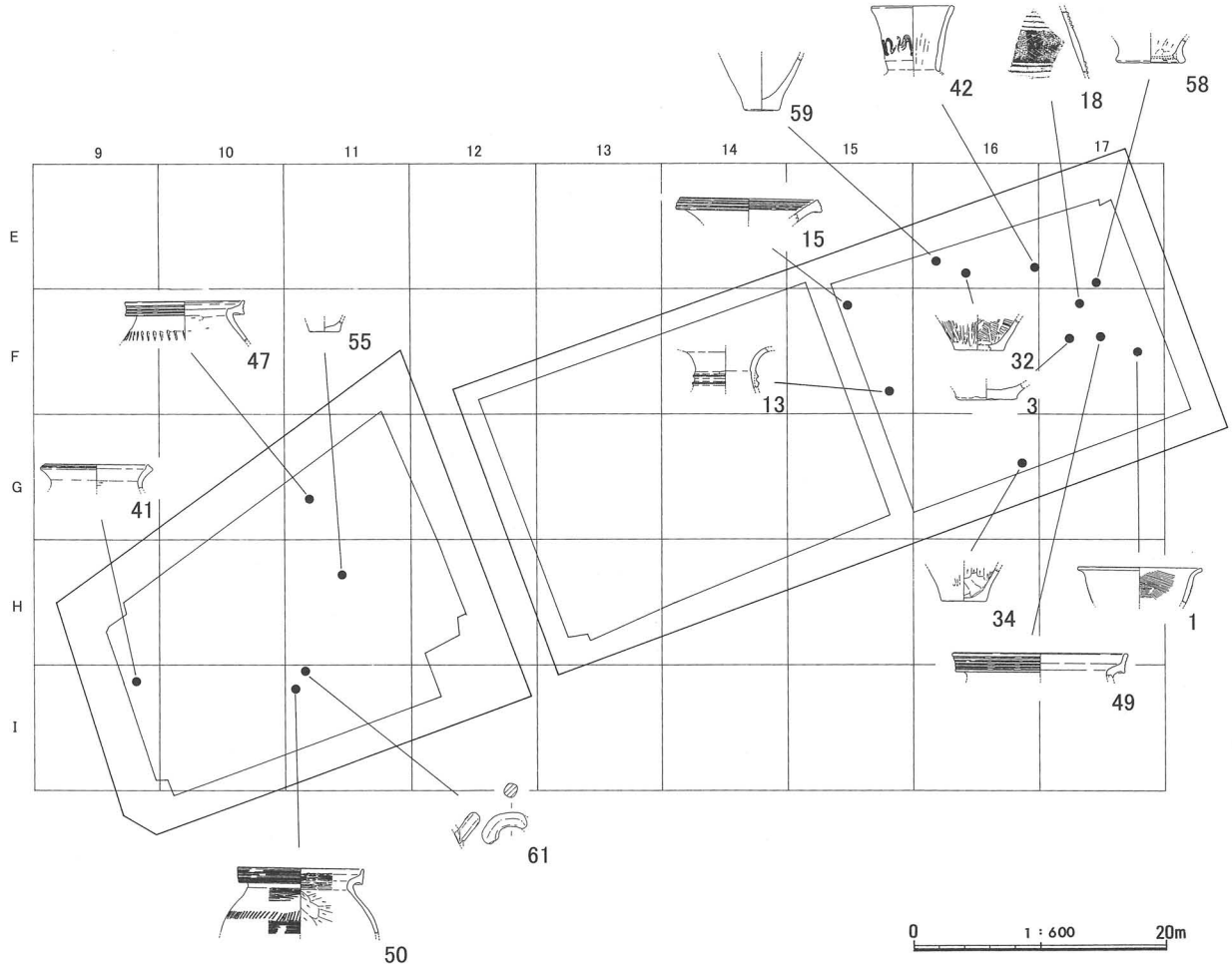
前期の土器（１～５）は数が少なくほとんどが小片で、１と底部以外は図化できなかった。中期の土器（６～39）は、前期に比べ出土数が多く壷・甕のほか、鉢や高坏も見られる。後期の土器（40～67）はほとんどが甕だった。直口壷42は口縁部外面に波状文が施される。出雲平野部ではあまり例を見ない。62は高坏・器台等の脚部と見られるが、内面に厚く炭化物が付着しているので、蓋として使用したと考えられる。68は錘と考えられる石製品で、球形の石の中央に窪みを廻らせている。形状から弥生時代のものと判断した。

これらの土器は、調査区北側から流れ込んだ礫層内で後の時代の遺物に混じって出土している。このため、調査区北側に弥生時代の集落等が存在する可能性が考えられる。

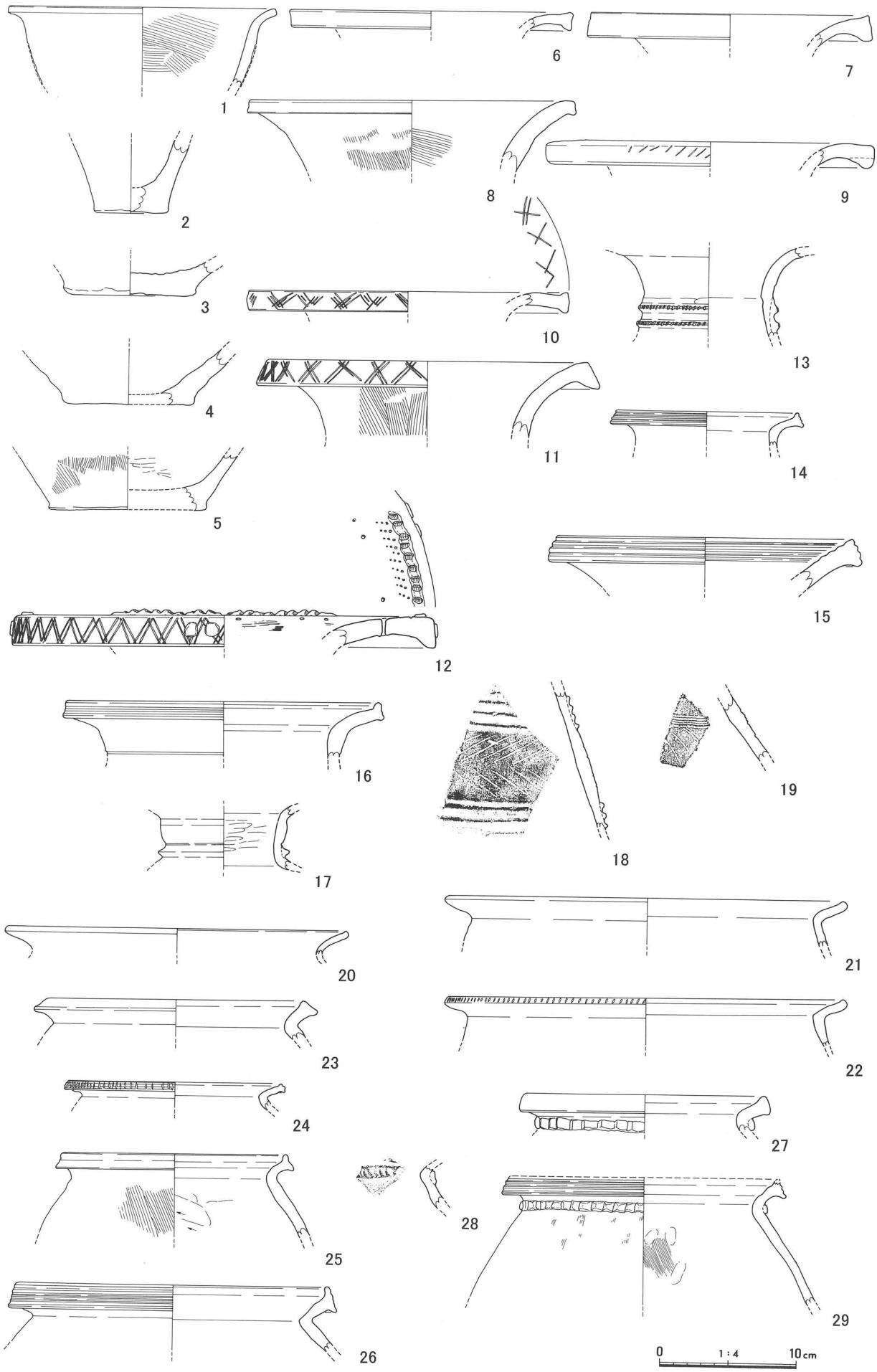
参考文献

1　松本岩雄　「出雲隠岐地域」『弥生土器の様式と編年　－山陽・山陰編－』　木耳社　1992

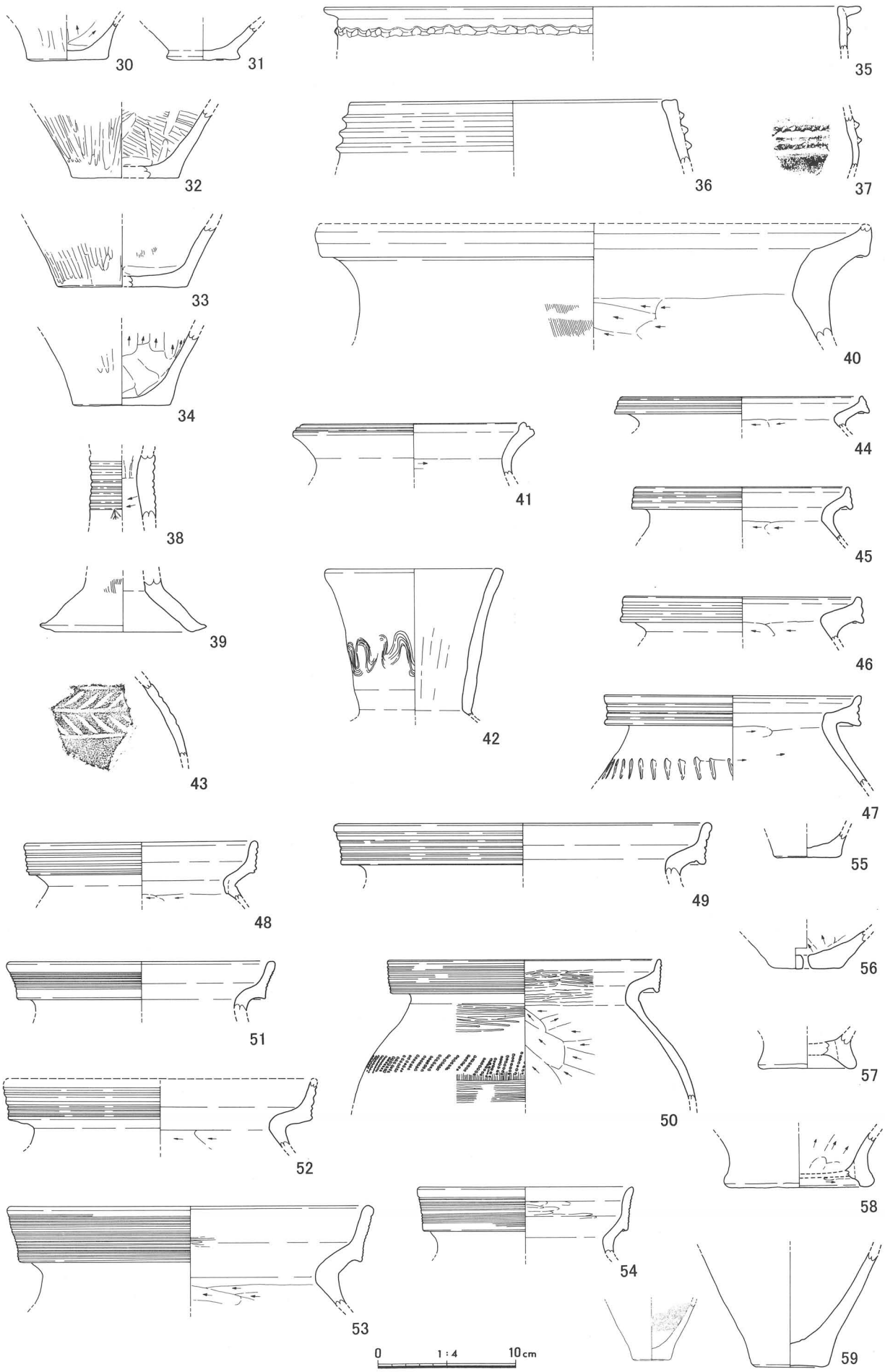
2　大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・大山町教育委員会　『妻木晩田遺跡発掘調査報告』　2000



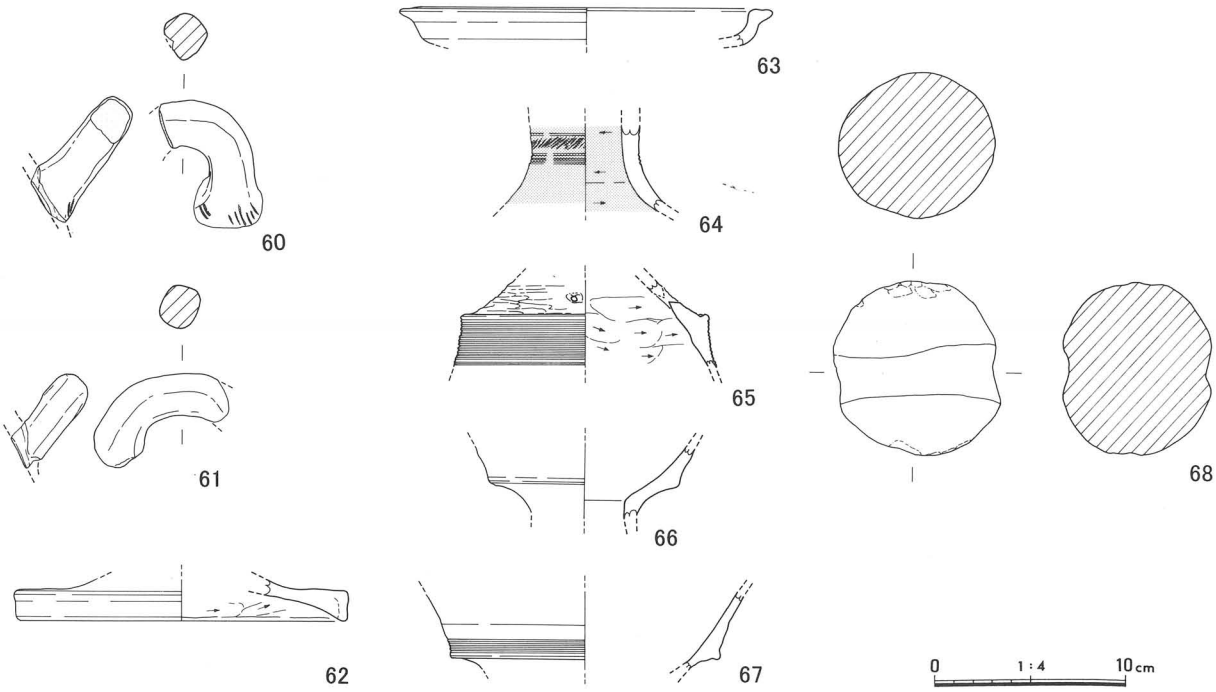
第６図　Ｉ区　弥生時代の遺物出土状況（Ｓ＝1/600）



第７図　Ⅰ区　弥生土器①（S＝1/4）



第８図　Ⅰ区　弥生土器②（S＝1/4）



第９図　Ｉ区　弥生土器③・石器（Ｓ＝1/4）

第１表　Ｉ区弥生土器観察表①

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1	7	66	弥生土器	甕	F-17	5		(19.7)		口縁端部に面を持つ	内：ヨコハケメ 外：ナデ	径2～3㎜の砂粒多量	内：灰白色(2.5Y8/2) 外：黄灰色(2.5Y5/1)	Ⅰ様式
2	7	66	弥生土器	甕	E-15	5		(5.4)			内：不明 外：不明	径2～3㎜の砂粒多量	内：鈍い黄褐色(10YR7/2) 外：鈍い褐色(7.5YR6/3)	Ⅰ様式
3	7	66	弥生土器	壷	F-17	5		9.7			内：不明 外：ナデ	径1～2㎜の砂粒多量	橙色～鈍い黄橙色	Ⅰ様式
4	7	66	弥生土器	甕	G-17	5		(9.6)			内：ナデ 外：不明	径2～3㎜の砂粒多量		Ⅰ様式
5	7	66	弥生土器	壷	F-16	5		(11.6)			内：ヘラミガキ 外：タテハケメ、ナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：浅黄橙色(10YR8/3)～褐灰色(10YR3/1)	Ⅰ様式
6	7	66	弥生土器	壷	E-16	5	(20.8)			口縁端部を上下に拡張する。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色(10YR8/4) 外：浅黄橙色（10YR8/4)	Ⅲ様式
7	7	66	弥生土器	壷	F-16	5	(20.4)			口縁端部は下重し平坦面を持つ	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径1㎜の砂粒多量	内：灰黄褐色(10YR6/2) 外：灰黄褐色（10YR6/2)	Ⅲ様式
8	7	66	弥生土器	壷	H-13	5	(23.8)			口縁端部に面を持つ	内：ヨコナデ、ヨコハケメ外：ヨコナデ、タテハケメ	径1㎜の砂粒多量	内：灰白色(2.5Y8/2)～黄灰色(2.5Y4/1) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	Ⅲ様式
9	7	66	弥生土器	壷	E-16	5	(24.2)			口縁下端に粘土紐を貼り付け、平坦面に刺突文を施す。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	Ⅲ様式
10	7	66	弥生土器	壷	J-10	5	(23.7)			口縁端部は上下に肥厚する。端部と内面に3条の復縁鋸歯文を施す。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径1㎜前後の砂粒多量	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：鈍い橙色(7.5YR7/4)	Ⅲ様式
11	7	66	弥生土器	壷	H-10	7	(23.4)			口縁端部は下重し平坦面に復縁鋸歯文を施す	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径0.5～1㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色(7.5YR8/4) 外：浅黄橙色(7.5YR8/4)	Ⅲ様式
12	7	66	弥生土器	広口壷	F-16	5	(31.2)				内：ヘラミガキ、ヨコハケメ 外：タテハケ	径1～2㎜の砂粒多量	鈍い黄橙色	
13	7	66	弥生土器	壷	G-17	5				頸部に2条の突帯を貼り付け、キザミ目を施す。	内：ヨコナデ 外：ナデ	径1㎜前後の砂粒多量	内：鈍い橙色(5YR7/4) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	Ⅲ様式
14	7	66	弥生土器	壷	側溝		(13.2)			口縁部は大きく外反し、端部は上下に拡張し3条の凹線を施す	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径1㎜の砂粒多量	内：褐灰色(10YR4/1) 外：褐灰色(2.5Y6/1)	Ⅳ様式
15	7	66	弥生土器	壷	E-17	5	(21.6)			口縁端部を下方に拡張し、3条の凹線を施す。口縁内面に4条の凹線を施す。	内：不明 外：不明	径1～2㎜の砂粒多量	内：褐灰色(10YR6/1) 外：鈍い橙色(5YR7/3)	Ⅳ様式
16	7	66	弥生土器	壷	E-16	5	(22.6)			口縁端部は上下に拡張し、2条の凹線を施す。頸部に1条以上の凹線を施す。	内：ヨコナデ、ヘラケズリ後ナデ 外：ヨコナデ	径1～3㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	Ⅳ様式
17	7	66	弥生土器	壷	H-12	8				頸部と肩部の境にと突帯を貼り付ける	内：ヘラミガキ 外：ヨコナデ	径1㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	中期
18	7	66	弥生土器	鉢	F-17？	5				頸部と肩部に4条と3条の突帯を貼り付け、その間に羽状文を施す。	内：ナデ 外：不明	径0.5㎜の砂粒多量	内：浅黄色(2.5Y7/3) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	中期
19	7	66	弥生土器	壷	E-17	5				頸部に4条の凹線と羽状文を施す	内：ナデ 外：タテハケメ	径0.5㎜の砂粒多量	内：褐灰色(10YR6/1) 外：褐灰色(10YR6/1)	Ⅳ様式

第２表　Ⅰ区弥生土器観察表②

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
20	7	66	弥生土器	甕	F-17	5	(25.0)			口縁端部は上方に僅かに肥厚し面を持つ	内：不明 外：ヨコナデ	径1㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	Ⅲ様式
21	7	66	弥生土器	甕	F-16	5	(29.6)			口縁端部は上方に僅かに肥厚する	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：黄灰色（2.5Y5/1） 外：黄灰色（2.5Y5/1）	Ⅲ様式
22	7	66	弥生土器	甕	E-15	5	(28.8)			口縁端部は上方に僅かに肥厚しキザミ目を施す	内：不明 外：ヨコナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：黒褐色(2.5Y3/1) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	Ⅲ様式
23	7	66	弥生土器	甕	F-17	5	(18.6)			口縁端部を上下に拡張する	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5～1㎜の砂粒多量	内：灰白色（2.5Y8/1） 外：灰白色（2.5Y8/1）	Ⅲ様式
24	7	66	弥生土器	甕	G16	5	(15.6)			口縁端部を上下に拡張し、2条の凹線とキザミ目を施す。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰白色（2.5Y7/1） 外：黄灰色（2.5Y4/1）	Ⅳ様式
25	7	66	弥生土器	甕	H-11	7	(16.4)			口縁端部は上下に拡張	内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（5YR6/4）	Ⅳ様式
26	7	66	弥生土器	甕	H-10	5	(22.7)			口縁端部は上下に拡張、4条の凹線を施す	内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ	径1㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（7.5YR8/4） 外：浅黄橙色（7.5YR8/4）	Ⅳ様式
27	7	66	弥生土器	甕	H-10・I-10 東西ベルト	7	(17.6)			口縁端部は上下に拡張し、刺突文を施す。頸部に指頭圧痕文帯を貼り付ける。	内：不明 外：ヨコナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：褐灰色（10YR6/1） 外：淡赤橙色（2.5YR7/3）	Ⅲ様式
28	7	66	弥生土器	甕	F-17	5				頸部に指頭圧痕を貼り付ける	内：ナデ、ユビオサエ 外：ナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：鈍い橙色（7.5YR7/3）	Ⅳ様式
29	7	66	弥生土器	甕	H-10	5	(19.6)			口縁端部を上下に拡張し、３条の凹線文を施す。頸部に指頭圧痕を貼り付ける。	内：ヨコナデ、タテハケメ、ユビオサエ 外：ヨコナデ、ハケメ調整後ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（10YR8/4） 外：橙色（5YR7/6）	Ⅳ様式
30	8	67	弥生土器	甕	F-17	5		(5.8)			内：ヘラケズリ、ナデ 外：ヘラミガキ、ナデ	径1㎜の砂粒少量	内：黄灰色（2.5Y5/2） 外：鈍い黄橙色(10YR6/3)	中期
31	8	67	弥生土器	鉢か？	F-16	5		(5.3)		底部と胴部の境が強くくびれる	内：ナデ 外：不明	径0.5～1㎜の砂粒多量	内：黒色（2.5Y2/1） 外：黒褐色（2.5Y3/1）～鈍い橙色（5YR6/4）	中期
32	8	67	弥生土器		E-16	5		(8.2)			内：ヘラミガキ、ナデ 外：ヘラミガキ、ナデ	径0.5㎜の砂粒多量、黒雲母微量	内：灰黄色（2.5Y7/2） 外：灰黄色（2.5Y7/2）	
33	8	67	弥生土器	壷	F-16	5		(9.4)			内：タテハケメ後ナデ 外：ヘラミガキ	径1～2㎜の砂粒多量	鈍い黄橙色	
34	8	67	弥生土器	甕	G-16	5		(7.0)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ヘラミガキ、ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰白色（2.5Y7/1） 外：灰黄色（2.5Y6/2）	
35	8	67	弥生土器	鉢	E-16	5	(39.2)			口縁端部は大きく外に拡張し、幅広の面を持つ。口縁下に指頭圧痕文帯を貼り付ける。	内：ナデ 外：ヨコナデ	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い黄褐色(10YR5/3) 外：浅黄橙色（7.5YR8/4）	中期
36	8	67	弥生土器	鉢	F-17	5	(23.8)			口縁端部は肥厚し面を持つ。口縁下に3条の突帯を貼り付ける。	内：不明 外：ヨコナデ	径1㎜の砂粒多量	内：黄灰色（2.5Y5/1） 外：灰白色（2.5Y7/1）	中期
37	8	67	弥生土器	鉢	南側溝					胴部に2条の突帯を貼り付け、キザミを施す。	内：ナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰白色（2.5Y7/1） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	Ⅲ-1様式
38	8	67	弥生土器	高坏	F-16	5				脚部に7条の沈線と線刻の文様を施す	内：ヘラケズリ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	中期
39	8	67	弥生土器	高坏	F-17	5		(10.0)		脚端部は上方に肥厚し面を持つ	内：ナデ 外：タテハケメ、ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：黄灰色（2.5Y6/1） 外：灰色（5Y4/1）	中期
40	8	67	弥生土器	壷	H-11	8	(40.0)			口縁端部を下に拡張する	内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（10ＹＲ8/3）～灰白色（10ＹＲ8/2） 外：灰白色（10ＹＲ8/2）	Ⅴ-1様式
41	8	67	弥生土器	壷	E-11	5		(18.2)		口縁端部は上方に肥厚し、２条の凹線を施す	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ヘラケズリ後ナデ	径1㎜の砂粒少量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	Ⅴ-2様式
42	8	67	弥生土器	壷	E-16	5	(13.0)			口縁端部に面を持ち、波状文を施す	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	Ⅴ様式
43	8	67	弥生土器	壷	F-17	5				肩部にヘラ描きの有軸羽状文を施す	内：ヘラケズリ 外：ナデ	径1㎜の砂粒少量	内：灰黄色(2.5Y7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	Ⅴ様式
44	8	67	弥生土器	甕	F-17	5	(15.6)			口縁端部を上下に拡張し、3条の凹線を施す。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	Ⅴ-1様式
45	8	67	弥生土器	甕	F-16	5	(14.6)			口縁端部を上下に拡張し、3条の凹線を施す。	内：ヨコナデ、ヘラケズリ外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：黒色(2.5Y2/1)～鈍い黄橙色（10YR6/3） 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)～橙色（2.5YR6/8）	Ⅴ-1様式
46	8	67	弥生土器	甕	F-16	5	(17.4)			口縁端部を上下に拡張し、2条の凹線を施す。	内：ヨコナデ、ヘラケズリ外：ヨコナデ	径1㎜前後の砂粒少量	内：灰白色（10YR8/2） 外：灰白色（10YR8/2）	Ⅴ-1様式
47	8	67	弥生土器	甕	G-11	7	(18.6)			口縁端部は上下に拡張し、3条の凹線を施す。肩部に刺突文を施す。	内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ	径2㎜以下の砂粒含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)～黒褐色（10YR3/1）	Ⅴ-1様式
48	8	67	弥生土器	甕	側溝	5	(16.4)			口縁部外面に5条の凹線を施す。端部は丸い。	内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ		内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：鈍い橙色(7.5ＹＲ7/3)	Ⅴ-2様式
49	8	67	弥生土器	甕	F-17	5	(27.2)			口縁部外面に5条の凹線を施す。端部は丸い。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：灰黄褐色（10YR6/2）	Ⅴ-2様式

第３表　Ｉ区弥生土器観察表③

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
50	8	67	弥生土器	甕	I-11	7	(20.0)			口縁端部は上下に拡張し、8条の凹線を施す。肩部に刺突文を施す。	内：ヨコナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、ヘラミガキ、タテハケメ、ヨコハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色(7.5YR8/3) 外：鈍い橙色(7.5ＹＲ7/3)	Ｖ-2様式
51	8	68	弥生土器	甕	北側側溝	5	(19.3)			口縁部外面に7条の平行沈線を施す。端部は丸い。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	Ｖ-2様式
52	8	68	弥生土器	甕	西側溝？					口縁部外面に5条の凹線を施す。	内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：黄灰色（2.5Ｙ6/1） 外：灰白色（2.5Ｙ8/2）	Ｖ-2様式
53	8	68	弥生土器	甕	H-10、河道		(26.7)			口縁部外面に15条の平行沈線を施す。端部が丸い。	内：ヨコナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ	径3㎜以下の砂粒含む	内・外：灰白色(10ＹＲ8/2)～黒褐色（10ＹＲ3/1）	Ｖ-3様式
54	8	68	弥生土器	甕	F-14	5	(15.5)			口縁外面に5+6条の平行沈線を施す。端部は先細りし段部は下垂する。	内：ヘラミガキ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：褐灰色（10ＹＲ5/1） 外：灰黄褐色（10YR6/2）	Ｖ-3様式
55	8	68	弥生土器	不明	H-11	7		4.9			内：ヘラケズリ、ナデ 外：不明	径1㎜の砂粒多量	内：黒褐色(2.5YR3/1) 外：鈍い赤褐色(2.5YR5/4)～黄灰色（2.5Ｙ4/1）	Ｖ様式
56	8	68	弥生土器	甕	Ｉ-11			(5.0)		底部の中央に径6㎜の穴を穿孔している。	内：ヘラケズリ 外：不明	径1～3㎜の砂粒多量	内：褐灰色（10ＹＲ5/1） 外：鈍い橙色（2.5Ｙ6/4）	Ｖ様式
57	8	68	弥生土器	不明	重機掘削			(7.2)		底部を高台状に作る	内：ナデ 外：ヨコナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：鈍い赤褐色(5ＹＲ5/3) 外：鈍い橙色(2.5Ｙ6/4)	Ｖ様式
58	8	68	弥生土器	不明	E-17	5		(11.0)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ヘラケズリ	径1㎜の砂粒多量	内：灰白色（5Y8/1） 外：灰白色（10ＹＲ8/2）	Ｖ様式
59	8	68	弥生土器	甕	E-16	5		(5.7)			内：不明 外：ナデ、ヘラ起こし後ナデ	径0.5㎜以下の砂粒少量	内：褐灰色（10ＹＲ5/1） 外：灰黄色（2.5Ｙ6/2）	Ｖ様式
60	9	68	弥生土器	把手	F-14	5				平面はＵ字状、断面は楕円形。	内：ヘラケズリ 外：ナデ	径1～2㎜の砂粒多量	外：暗灰黄色（2.5Y5/2）	Ｖ-3様式？注口土器の把手か。
61	9	68	弥生土器	把手	I-11	7				平面はＵ字状、断面は台形で、貝殻文を施す。	内：ヘラケズリ 外：ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	外：橙色（5YR7/6）～灰褐色（7.5YR5/2）	Ｖ様式
62	9	68	弥生土器	蓋	F-16	5	17.2			口縁端部は下方に肥厚する。	内：ヘラケズリ 外：ヨコナデ、ナデ	径0.5～1㎜の砂粒多量	内：黒色（2.5Y2/1） 外：鈍い黄橙色(10YR6/3)～黄灰色（2.5Y4/1）	Ｖ様式
63	9	68	弥生土器	高坏	I-10	5	(19.7)			口縁端部は外に大きく肥厚し、上面は浅く窪む。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：灰黄色（10YR5/2）	Ｖ-1様式
64	9	68	弥生土器	鼓形器台	E-16	5				筒部に１条以上+３条の平行沈線と貝殻による刺突文を施す。	内：ヘラケズリ 外：不明	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3)～赤褐色（10R4/4） 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	Ｖ-3様式。赤彩
65	9	68	弥生土器	鼓形器台	F-15	5				脚部外面に13条以上の平行沈線を施し、径3㎜の穴を穿孔。	内：ヘラケズリ 外：粗いヘラミガキ	径1㎜の砂粒少量	内：灰黄色（2.5YR7/2） 外：灰黄色（2.5YR7/2）	Ｖ-3様式
66	9	68	弥生土器	鼓形器台	F-19	5				稜が突出しない。	内：不明 外：ヨコナデ	径0.5～1㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	Ｖ-4様式
67	9	68	弥生土器	器台	E-17	5				上台部外面に平行沈線を施した後なで消す	内：ヘラミガキ? 外：ヨコナデ、ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰白色（10YR8/2） 外：灰白色（10YR8/2）	Ｖ-4様式

第４表　Ｉ区弥生時代の石器観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 長さ	幅	厚さ	重さ（ｇ）	形態・文様の特徴	色調	備考
68	9	68	石器	石錘	E-15	5	6.9	6.4	6.4	303.14	石の中央に窪みが廻る		

（３）古墳時代の遺物

古墳時代の土師器・須恵器はＩＢ区とＩＣ区で出土しているが、数量は少ない。弥生土器に比べ土師器は前期のものを中心に、灰白色等明るい色調のものが多くなる。

69は大型の複合口縁壷の口縁部で、古墳時代前期のものと判断した。

甕75は形状から古墳時代前期のものと判断したが、口縁外面と上面に細かい波状文を施しており、あまり例を見ないものである。87は甕の底部を意図的に円形に打ち欠いている。

須恵器の甕（113～128）は胴部の小片が多く時期の判断が困難だったので、図示したものの中には、古墳時代後期の甕のほか一部古代の甕がまじっている可能性がある。

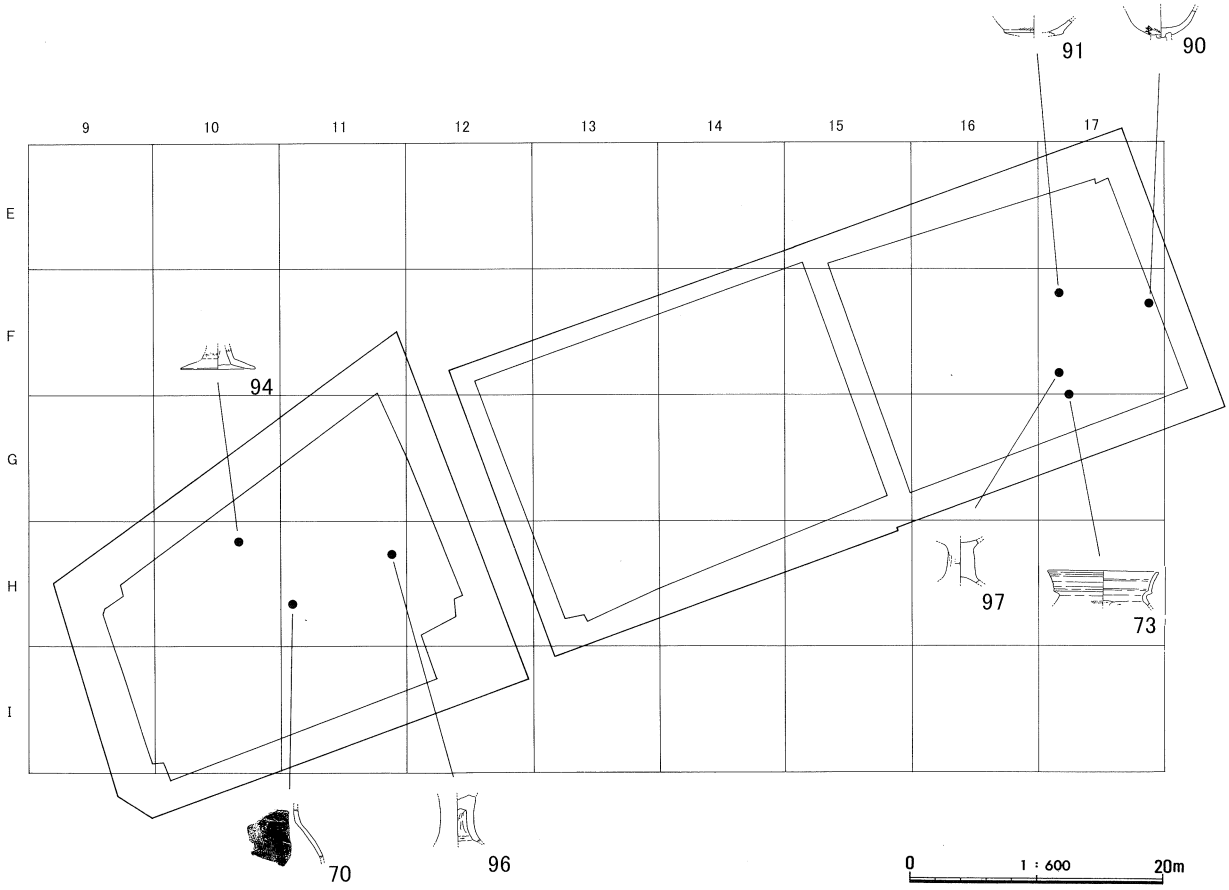
これらの土器は弥生土器同様ほとんどが小片で、全形のわかるものは少なかった。

参考文献

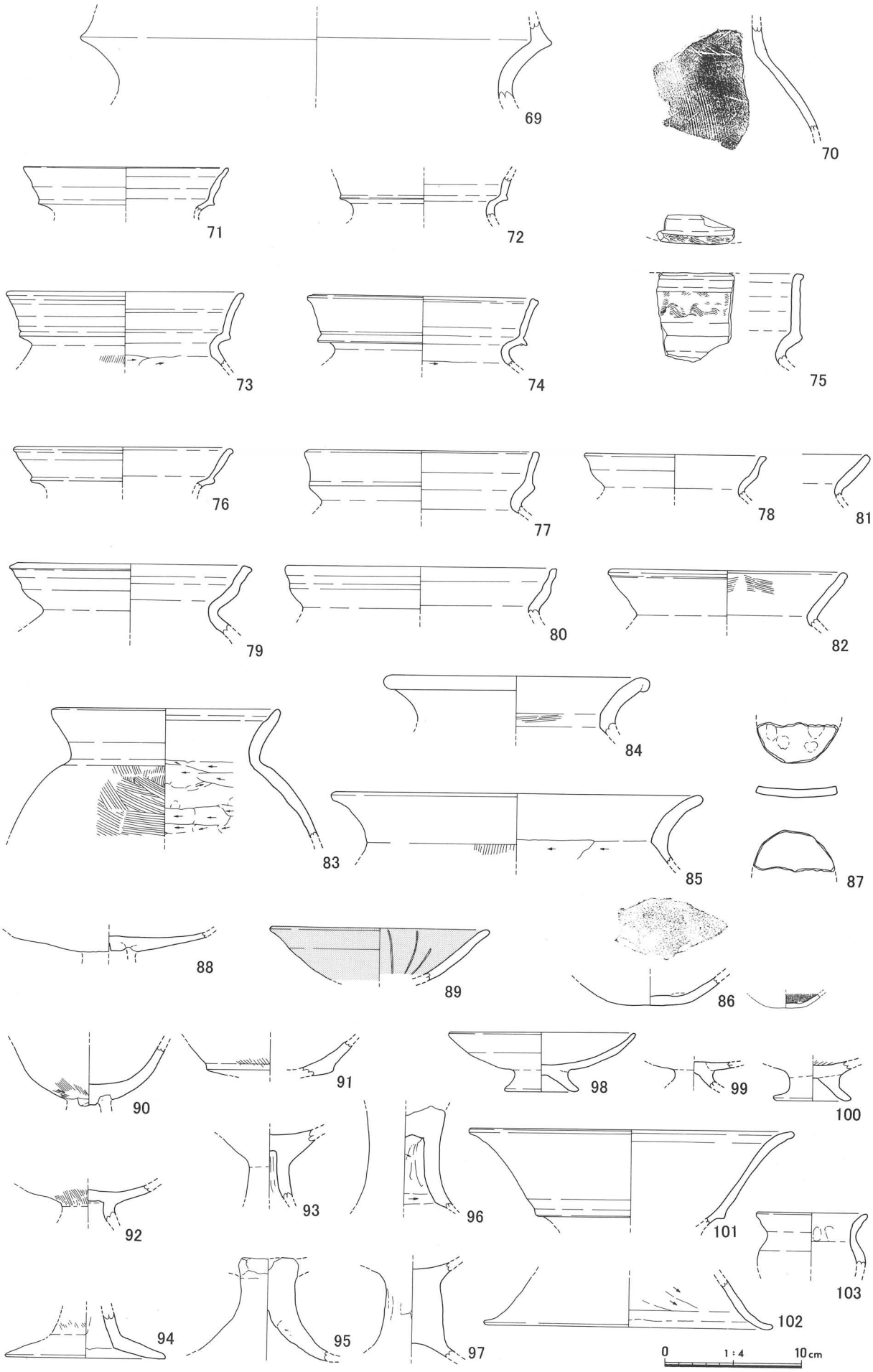
1　鹿島町教育委員会　『南講武草田遺跡』　1992

2　松山智弘　「出雲における古墳時代前半期の土器の様相　－大東式の再検討－」『島根考古学会誌』第８集　島根考古学会　1991

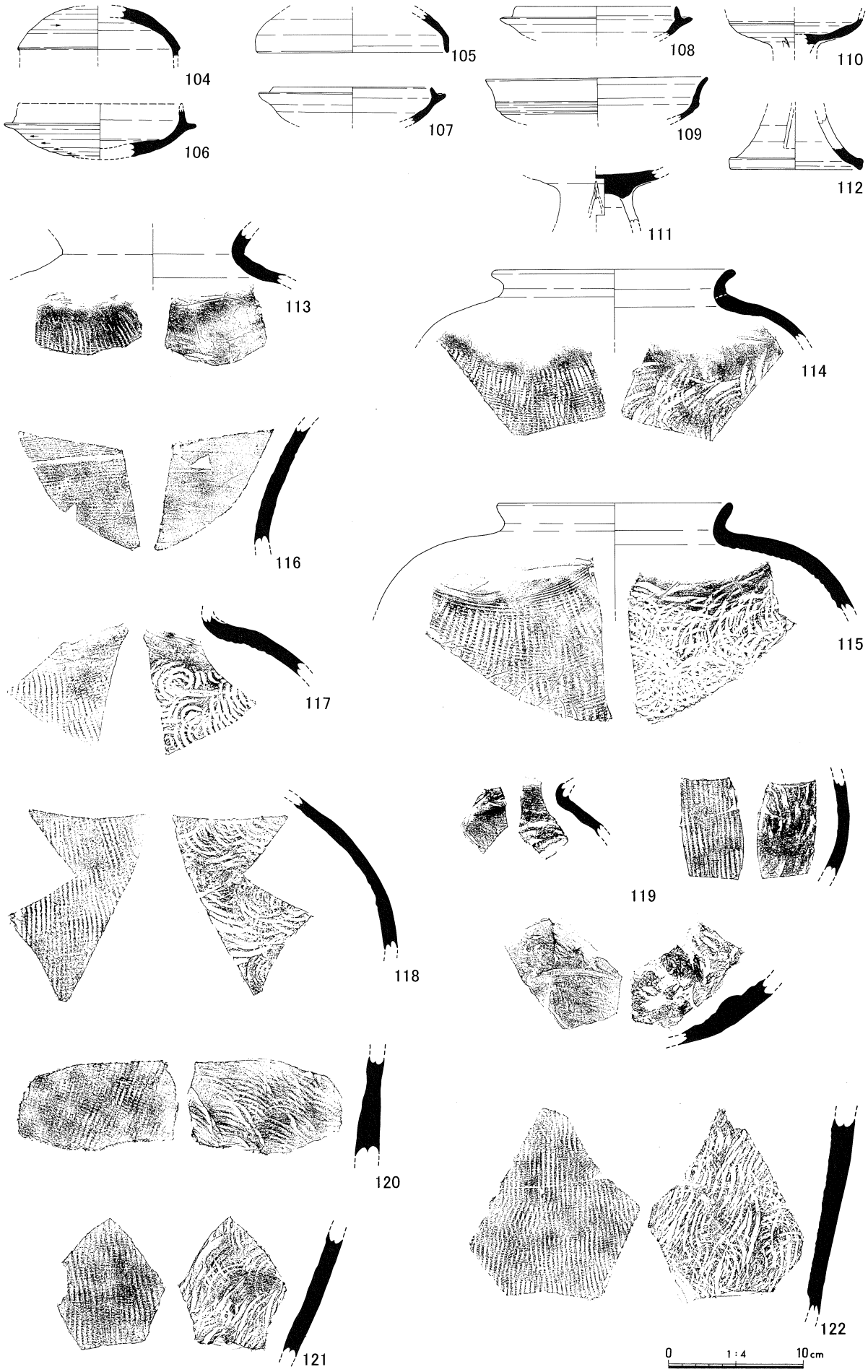
3　大谷晃二　「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集　島根考古学会　1994



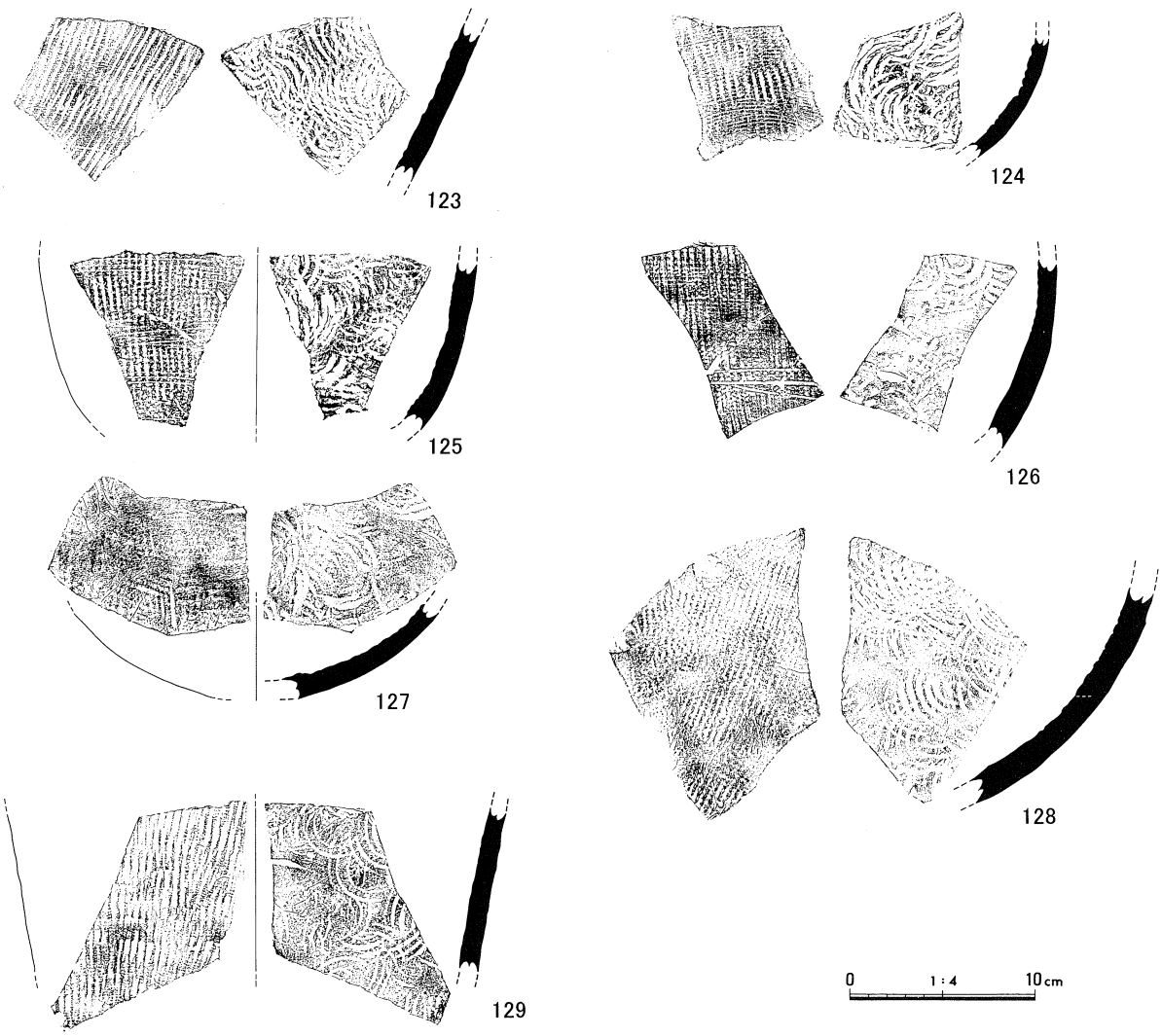
第10図　Ｉ区　古墳時代の土師器出土状況（Ｓ＝1/600）



第11図　Ⅰ区　土師器①（S＝1/4）



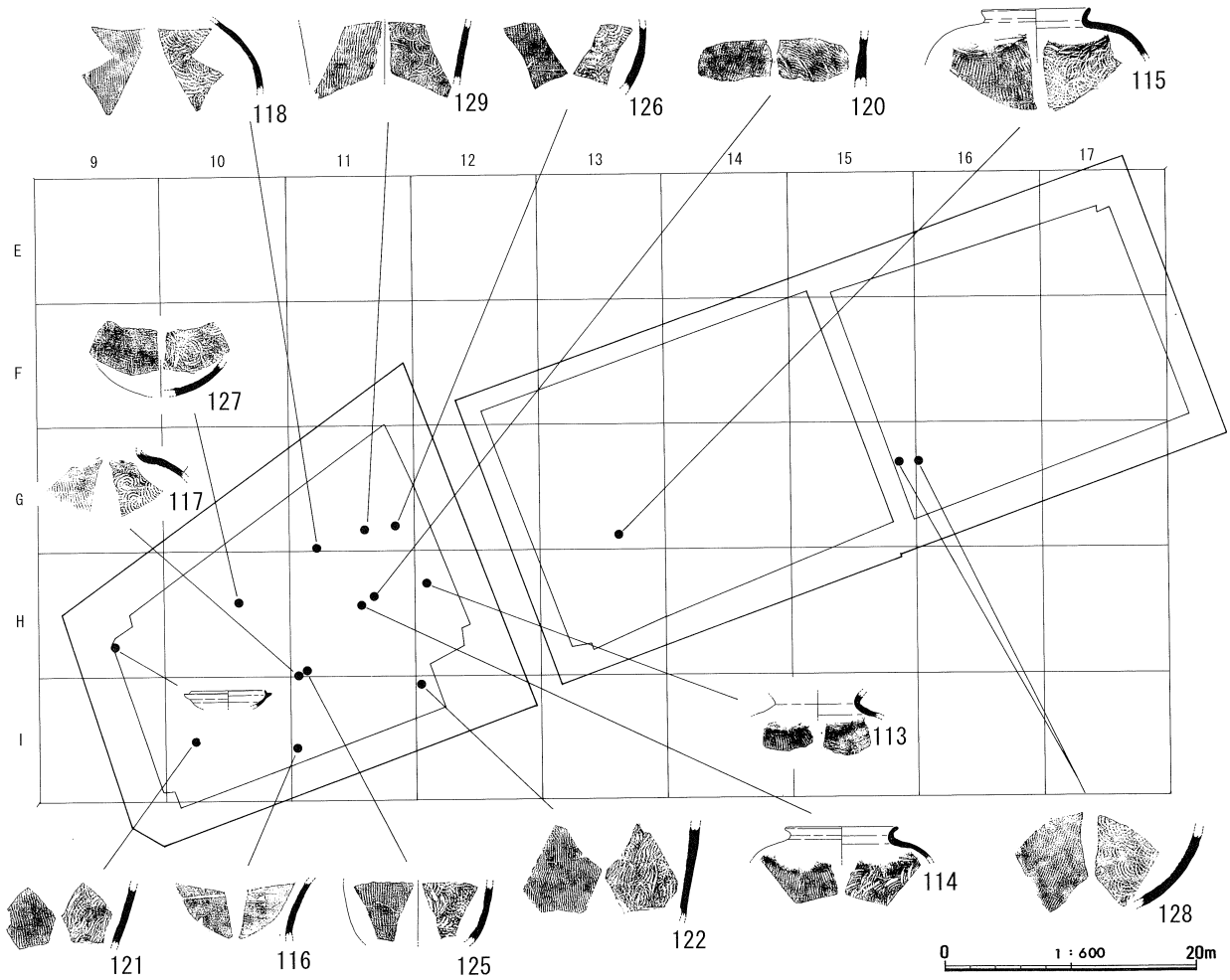
第12図　Ⅰ区　須恵器①（S＝1/4）



第13図　Ｉ区　須恵器②（Ｓ＝1/4）

第５表　Ｉ区土師器観察表①

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
69	11	69	土師器	壷	東側溝	8				口縁部は内傾し、稜は水平に突出する。	内：不明 外：不明	径0.5㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（7.5YR8/3） 外：浅黄橙色（7.5YR8/3）	
70	11	69	土師器	壷	東側溝 H-11	7				頸部に羽状文を施す	内：ナデ、ユビオサエ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径0.5㎜の砂粒多量	内：　灰白色(10YR8/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	
71	11	69	土師器	甕	H-11	7		(15.1)		口縁部は外反しほぼ水平に突出する。全体にシャープなつくり。	内：不明 外：不明	径1㎜の砂粒多量	内：灰色（N5/） 外：灰白色（5Y7/1）	
72	11	69	土師器	甕	G-11	7				口縁部は外反し稜はほぼ水平に突出する。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	
73	11	69	土師器	甕	G-17	5	(17.4)			口縁部は緩く外反し、稜は水平に突出する	内：ヨコナデ、ヘラケズリ外：ヨコナデ、タテハケメ	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰白色（10YR8/2） 外：灰白色（10YR8/2）	
74	11	69	土師器	甕	F-16、南側溝	5	(17.0)			口縁端部は肥厚し面を持つ。稜はシャープで斜めに突出する。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ヘラケズリ	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	
75	11	69	土師器	甕	F-16	5				口縁部外面と上端に波状文を施す	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5～1㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
76	11	69	土師器	甕	F-17	5	(16.2)			口縁端部は肥厚し面を持つ	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
77	11	69	土師器	甕	G-14	5	(17.2)			口縁部外面の稜と内面の段は不明瞭	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ヘラケズリ	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
78	11	69	土師器	甕	F-17	2	(13.4)			口縁部外面の稜と内面の段は痕跡的になる。端部に面を持つ。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：灰白色（10YR8/2）	
79	11	69	土師器	甕	F-17	5	(17.8)			口縁部外面の稜、内面の段は不明瞭である。端部に面を持つ。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径1㎜の砂粒多量	内：灰白色（10Y R8/2） 外：灰白色（10Y R8/2）	
80	11	69	土師器	甕	F-14	5	(20.0)			口縁部外面の稜と内面の段は痕跡的になる。端部に面を持つ。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰白色（10YR8/2） 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	



第14図　Ⅰ区　古墳時代の須恵器出土状況（S＝1/600）

第６表　Ⅰ区土師器観察表②

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
81	11	69	土師器	甕	北側溝	7				口縁部は直線的に開き、端部に面を持つ	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰白色（10YR8/2） 外：灰白色（10YR8/2）	
82	11	69	土師器	甕	F-17	5	(17.6)			口縁部は直線的に開き、端部は外側に肥厚する	内：ヨコハケメ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い褐色（7.5YR6/3） 外：鈍い橙色（2.5YR6/3）	
83	11	69	土師器	甕	排土		(16.8)			口縁部は緩く外反し、端部は内側に肥厚する	内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、ハケメ	径0.5～1㎜の砂粒多量	内：黄灰色（2.5Y6/1） 外：灰黄色（2.5Y7/2）	
84	11	69	土師器	甕	F-15	5	(19.6)			口縁部は外反し、端部は肥厚する	内：ヨコナデ、タテハケメ 外：ヨコナデ	径1㎜の砂粒少量	内：鈍い橙色（7.5YR7/3） 外：鈍い橙色（7.5YR7/3）	
85	11	69	土師器	甕	E-17	5	(27.3)			口縁部は外反する	内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径0.5～1㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/3） 外：鈍い橙色（7.5YR7/3）	
86	11	69	土師器	甕	F-17	5	(5.6)			底部に平坦面がある。	内：ヘラケズリ後ナデ、ユビオサエ 外：ナデ	径0.5㎜の砂粒、黒雲母少量	内・外：鈍い橙色(10YR7/2)～黒褐色（10YR3/1）	
87	11	69	土師器	甕	E-15	5				甕の胴部（底部）破片を円形に加工している。	内：ナデ、ユビオサエ 外：ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：灰黄褐色（10YR6/2） 外：暗灰黄色（2.5Y5/2）	
88	11	69	土師器	高坏	G-17					杯底部は刺突孔を持つ円盤充填	内：ナデ？ 外：ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：灰白色(10YR8/2)	
89	11	69	土師器	高坏	東西トレンチ	7	(16.2)			口縁部は緩く内彎し、端部は外反する。内面に暗文を施す。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：橙色（5YR6/6） 外：橙色(5YR6/6)～灰色(5Y6/1)	
90	11	69	土師器	高坏	F-17	5				杯部は稜を持たず、体部は内彎する	内：ヘラミガキ 外：ナデ、タテハケメ	径2㎜以下の砂粒含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2)～褐灰色(10YR6/1) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	
91	11	69	土師器	高坏	G-17	5				杯部は段状の稜を持つ	内：不明 外：タテハケメ	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い赤褐色(2.5YR5/4) 外：鈍い赤褐色(2.5YR5/4)	
92	11	69	土師器	高坏	東側溝						内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径0.5㎜の砂粒多量	内・外：鈍い黄橙色(10YR7/2)～赤褐色(10YR5/4)	一部赤彩
93	11	70	土師器	高坏	南側溝	9					内：不明 外：不明	径0.5㎜の砂粒多量	内：橙色（5YR6/6） 外：橙色（5YR6/6）	
94	11	70	土師器	高坏	H-10	5				脚端部は大きく屈曲し、外側に開く	内：不明 外：タテハケメ	径0.5㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（7.5YR8/4） 外：浅黄橙色（7.5YR8/4）	
95	11	70	土師器	高坏	？-16	5				脚部は器壁が厚い	内：ナデ 外：ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：灰白色（10YR8/2） 外：浅黄橙色（10YR8/3）～鈍い赤褐色（5YR5/4）	一部赤彩
96	11	70	土師器	高坏	H-12	7				器壁が厚い	内：ヘラケズリ、ナデ 外：ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：灰黄色（2.5Y7/2） 外：灰黄色（2.5Y7/2）	

第７表　Ｉ区土師器観察表③

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
97	11	70	土師器	高坏	F-17	5				脚部は中空ではない	内：ナデ 外：ナデ	径1.5㎜以下の砂粒含む	内・外：鈍い黄橙色(10YR 7/3)～鈍い橙色(5YR7/3)	
98	11	70	土師器	低脚坏	E-17	5	(13.7)	(5.2)	4.4	杯部は緩く内彎する	内：ヘラミガキ？ 外：ヨコナデ、ナデ	径3㎜以下の砂粒含む	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）～褐灰（10YR5/1）	
99	11	70	土師器	低脚坏	H-9	5					内：ナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒、雲母少量	内：浅黄橙色（7.5YR8/3） 外：浅黄橙色（7.5YR8/3）	
100	11	70	土師器	低脚坏	F-17	5		(5.7)		脚部は強く外反する	内：ヘラミガキ 外：ヨコナデ	径1㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（10YR8/4） 外：浅黄橙色（10YR8/4）	
101	11	70	土師器	器台	H-13	5	(23.8)			口縁端部は外反する	内：ヨコナデ、ヘラケズリ後ナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒、黒雲母多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	
102	11	70	土師器	器台	F-16	5		(22.3)			内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ヘラケズリ	径0.5㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
103	11	70	土師器	小型壷	F-10	5	(8.2)			口縁部は短く、外反する	内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 外：ヨコナデ、ヘラケズリ後ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰白色（10YR8/2） 外：灰白色（10YR8/2）	
104	12	70	須恵器	坏蓋	G-11	7				稜はあまり突出しない	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	径2ｍｍ程度の砂粒含む	内：灰色（7.5Y6/1） 外：灰色（7.5Y6/1）	
105	12	70	須恵器	坏蓋	南側溝		(13.9)			体部と天井部の境が浅く窪む	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰色（7.5Ｙ R6/1） 外：灰色（N6/）	
106	12	70	須恵器	坏	Ｉ-11	8	(11.0)			口縁は直線的に立ち上がる	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N6/）	
107	12	70	須恵器	坏身	H-10、P141	7	(11.5)			口縁部は短く内傾して立ち上がる	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ナデ	径2㎜の砂粒含む	内：青灰色（5B5/1） 外：青灰色（5B5/1）	
108	12	70	須恵器	坏身	G-11	5	(11.7)			口縁部は短くやや内傾して立ち上がる	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰白色（N7/） 外：灰色（N5/）	
109	12	70	須恵器	高坏	G-12	8	(16.0)			口縁部は外反する。体部に２条の沈線を廻らせる。	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1㎜以下の砂粒微量	内：灰白色（N7/） 外：灰白色（N7/）	
110	12	70	須恵器	高坏	G-11	7				杯部に沈線を廻らせる。脚部に穿孔を設ける。	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	径1㎜以下の砂粒含む	内：灰色（10YR5/1） 外：灰色（10YR5/1）	
111	12	70	須恵器	高坏	G-11	8				脚部に２方向に開く透穴を設ける	内：ナデ 外：回転ナデ	径2㎜以下の砂粒やや多量	内：灰白色（7.5Y7/1） 外：灰白色（7.5Y7/1）	
112	12	70	須恵器	高坏	H-11	7				脚部に透穴を設け、端部は外面に面を持つ。	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径4ｍｍ以下の砂粒含む	内：灰色（7.5Y6/1） 外：灰色（7.5Y6/1）	
113	12	72	須恵器	甕	H-12	7				口縁部は外反する	内：回転ナデ、ナデ、同心円文オサエ後ナデ 外：回転ナデ、平行タタキ後ナデ	径6㎜以下の長石、径1㎜以下の砂粒含む	内：灰色（N5/） 外：灰色（7.5Y6/1）	
114	12	72	須恵器	甕	H-11	7	(17.9)			口縁部は短く外反し、端部は丸い	内：ヨコナデ、同心円文オサエ 外：ヨコナデ、平行タタキ	径0.5㎜以下の砂粒少量	内：灰白色（N7/） 外：灰白色（7.5Y7/1）	
115	12	72	須恵器	甕	G-13	5	(17.4)			口縁部は短く外反する	内：ヨコナデ、同心円文オサエ 外：ヨコナデ、平行タタキ、カキメ	径1㎜以下の砂粒微量	内：灰色（7.5Y5/1） 外：青灰色（10ＢG5/1）	
116	12	72	須恵器	甕	Ｉ-11	7				口縁部外面に波状文と沈線を廻らせる	内：回転ナデ 外：カキメ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（N4/） 外：灰白色（7.5Y8/1）	
117	12	72	須恵器	甕	Ｉ-11	7					内：ヨコナデ、同心円文オサエ 外：ヨコナデ、平行タタキ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰白色（5Y7/1） 外：灰色（N6/）	
118	12	72	須恵器	甕	G-11、北側側溝内	7					内：同心円文オサエ（一部布目痕が残る） 外：平行タタキ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（N5/） 外：灰色（Ｎ5/）～灰白色（7.5Y7/2）	
119	12	72	須恵器	甕	G-11、Ｉ-9・12、東側溝	3・5・7・8					内：ヨコナデ、同心円文オサエ後ナデ 外：ヨコナデ、平行タタキ後ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰色（N5/） 外：灰色（N5/）	
120	12	72	須恵器	甕	H-11	7					内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N5/）	
121	12	72	須恵器	甕	Ｉ-10	5					内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N3/）	
122	12	72	須恵器	甕	Ｉ-12	7					内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N5/）	
123	13	72	須恵器	甕	南側溝	7					内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰白色（2.5Y7/1） 外：黄灰色（2.5Y6/1）	
124	13	72	須恵器	甕	北側溝	7					内：同心円文オサエ 外：平行タタキ後カキメ	径1㎜の砂粒少量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N5/）	
125	13	72	須恵器	甕	Ｉ-11	7					内：同心円文オサエ 外：平行タタキ後カキメ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（5Y6/1） 外：灰色（5Y6/1）	
126	13	72	須恵器	甕	G-11	3・5・7・8					内：同心円文オサエ後ナデ 外：平行タタキ後ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰色（N5/） 外：暗灰色（N3/）	
127	13	72	須恵器	甕	H-10	8					内：同心円文オサエ後ナデ 外：平行タタキ後ナデ・カキメ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（N5/） 外：灰色（N6/）	
128	13	72	須恵器	甕	南側溝 G-16、西側溝	7・5					内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径0.5㎜の砂粒少量	内：鈍い黄褐色(10Ｙ R5/3) 外：灰色（N4/）	
129	13	72	須恵器	横瓶	G-11	7					内：同心円文オサエ後ナデ 外：平行タタキ	径0.5㎜の砂粒微量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N5/）	

（４）奈良・平安時代前半の遺構・遺物

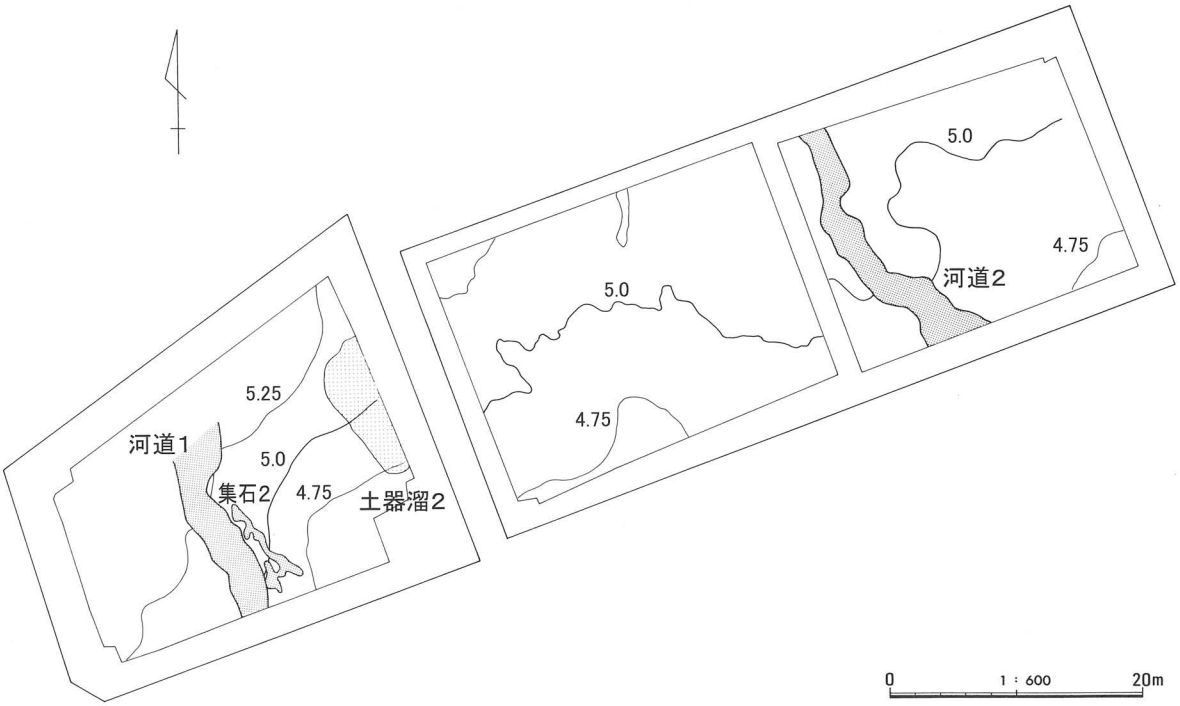
奈良時代から平安時代前半の遺物は、それ以前の遺物に比べて出土数量が大幅に増加する。特にＩＢ区の東側では７・８層で９世紀の須恵器・土師器がまとまって出土した。また、７層掘削後に９世紀の遺物が出土した集石２を検出し、同時期の自然流路と見られる河道１・２が青灰色粘質土を掘り込んでいるので、河道１よりも東側では８層の上面が９世紀以降の遺構面と考えられる。ＩＣ区では５ｂ層掘削後に８層上面でいくつか柱穴を検出したが、上層で検出できなかった柱穴の可能性もあり建物を復元できなかった。遺物は須恵器・土師器の坏類が多く出土したほか、製塩土器がまとまって出土した点が注目される。

参考文献

4　島根県教育委員会　『高広遺跡発掘調査報告書』　1984

5　島根県教育委員会　『西川津遺跡Ⅷ』　2001

6　出雲市教育委員会　『上長浜貝塚』　1996



第15図　Ｉ区　奈良・平安時代前半の遺構（Ｓ＝1/600）

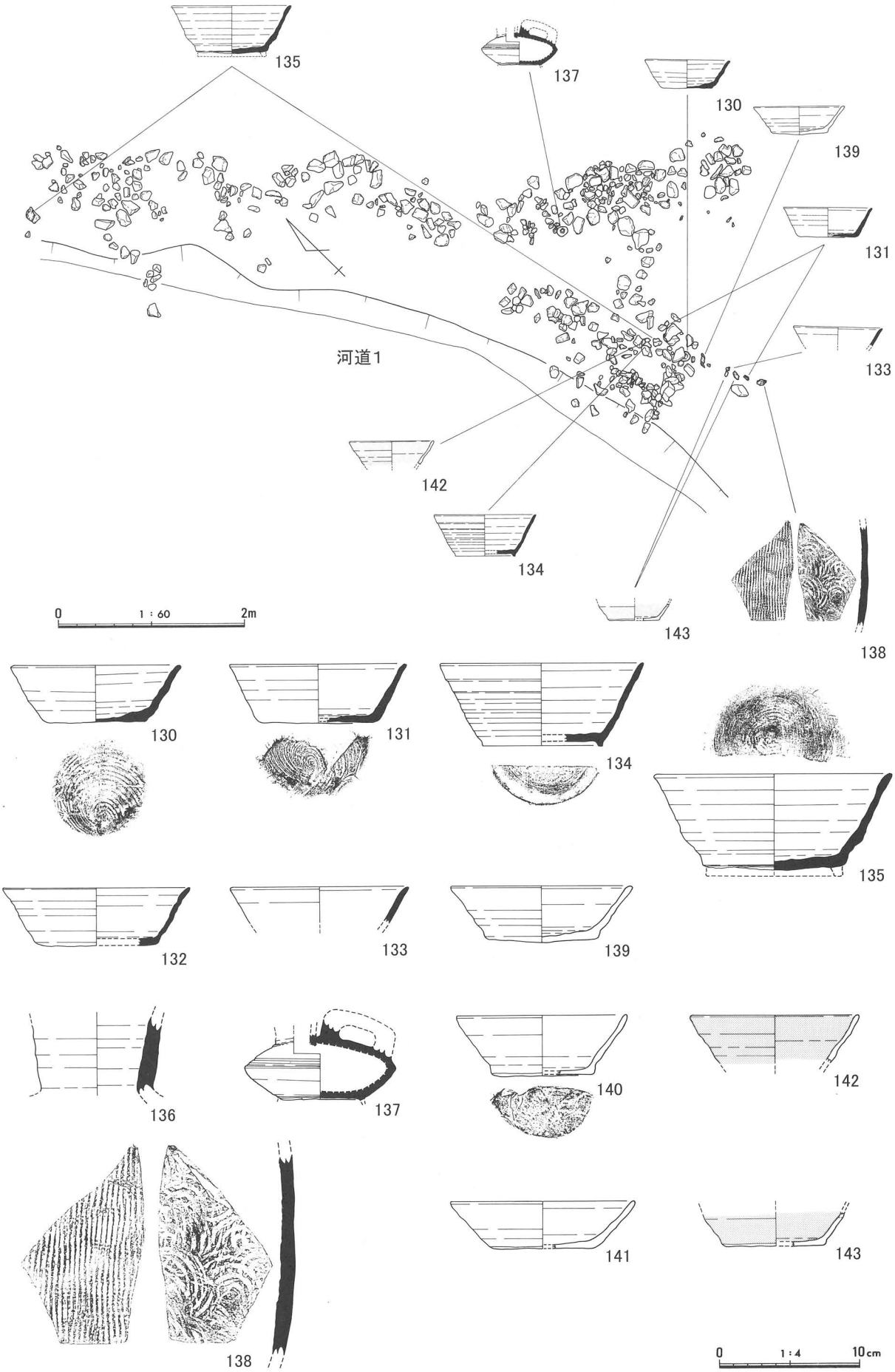
集石２（第16図、写真図版22・23）

ＩＢ区のＨ11～Ｉ11グリッドの６層上面で、長さ7.9m、幅0.6～0.8mの範囲で拳大から人頭大の石がまとまって出土した。明確な並びや掘り方などは確認できなかったが、検出状況から人的に並べられた可能性が高い。石の間からは須恵器と土師器が出土している。須恵器の坏（**130～135**）は体部が直線的に伸び、口縁部は僅かに外反する。底部外縁に高台を貼り付ける**134**は他の須恵器に比べ焼成が良く、胎土も異なる。**135**は底部に高台が剥離した痕跡があり、切り離しは回転糸切りでなくヘラ切りである。内面の見込み部にはカキメの痕が明確に残る。土師器の坏と同様なつくりで焼成も軟質で、他の須恵器坏と大きく異なった印象を受ける。**137**は小型の平瓶で口縁部と把手を欠くほかは完形である。土師器の坏（**139～143**）は須恵器の坏とほぼ同じ寸法で、内面にカキメの痕が残る。**142・143**は赤彩の痕が確認できる。

集石２の性格は、ほぼ同時期の自然流路と見られる河道１に隣接して検出した点から、護岸施設の可能性が考えられる。

第８表　Ｉ区集石２出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点Gr/遺構	層位	寸法（cm）口径	寸法（cm）底径	寸法（cm）器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
130	16	73	須恵器	坏	集石2	下層	12.0	7.0	4.2	口縁端部は緩く外反する	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜以下の砂粒含む含む	内：灰色（7.5YR6/1） 外：灰色（7.5YR6/1）～暗灰色（N4/）	
131	16	73	須恵器	坏	集石2	下層	(12.5)	(8.0)	4.2	口縁部は緩く外反する	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒含む	内・外：灰白色((7.5Y7/1)～灰色（N4/）	
132	16	73	須恵器	坏	集石2	下層	13.4	8.9	4.15	口縁端部は緩く外反する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰白色（5Y7/1）～黄灰色（2.5Y4/1） 外：灰白色（N8/）～灰色（5Y5/1）	
133	16	73	須恵器	坏	集石2	下層	(12.6)				内：回転ナデ 外：回転ナデ	砂粒をほとんど含まない	内：灰色（N5/） 外：灰色（N5/）	
134	16	73	須恵器	高台付坏	集石2	下層	(12.4)	(8.5)	5.9	底部外縁に高台を貼り付ける	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ナデ、回転糸切り	径2㎜以下の砂粒含む	内：灰色（(N5/） 外：灰色（(N5/）	
135	16	73	須恵器	高台付坏	集石2	6	(15.6)			底部外縁に高台を貼り付ける	内：カキメ後ナデ 外：カキメ後ナデ、ヘラ切り後ナテ	径0.5㎜の砂粒少量	内・外：浅黄橙色(10YR8/3)～灰白色（2.5Y8/2）	土師器と同じつくり。
136	16		須恵器	壷	集石２						内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰白色（5Y7/1） 外：灰色（N6/）	
137	16	73	須恵器	平瓶	集石2			(5.6)		胴部最大径部分に2条の沈線を廻らす。底部外面に高台を貼り付ける。	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	径2㎜以下の砂粒含む	外：灰白色（N7/）～灰色（N5/）	
138	16	73	須恵器	甕	集石2	下層					内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（7.5Y5/1） 外：灰色（N5/）	
139	16	73	土師器	坏	集石2	下層	(13.0)	(7.4)	4.1		内：回転ナデ、ハケメ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内・外：鈍い橙色（7.5YR7/4）～橙色（5YR6/6）	
140	16	73	土師器	坏	集石2		(12.0)	(9.0)	4.4	胴部と底部の境が括れる	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径2㎜以下の砂粒含む	内・外：鈍い橙色(7.5YR7/4)～浅黄橙色(10YR8/3)	
141	16	73	土師器	坏	集石2	下層					内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	密	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	赤彩
142	16	73	土師器	坏	集石2	下層	(11.9)				内：カキメ後ナデ 外：回転ナデ	径1㎜以下の砂粒含む	内・外：鈍い橙色(7.5YR7/4)～橙色（5YR6/8）	赤彩
143	16	73	土師器	坏	集石2	下層		6.9			内：カキメ後ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径4㎜以下の砂粒含む	内・外：鈍い橙色(7.5YR7/4)～橙色（5YR6/8）	赤彩



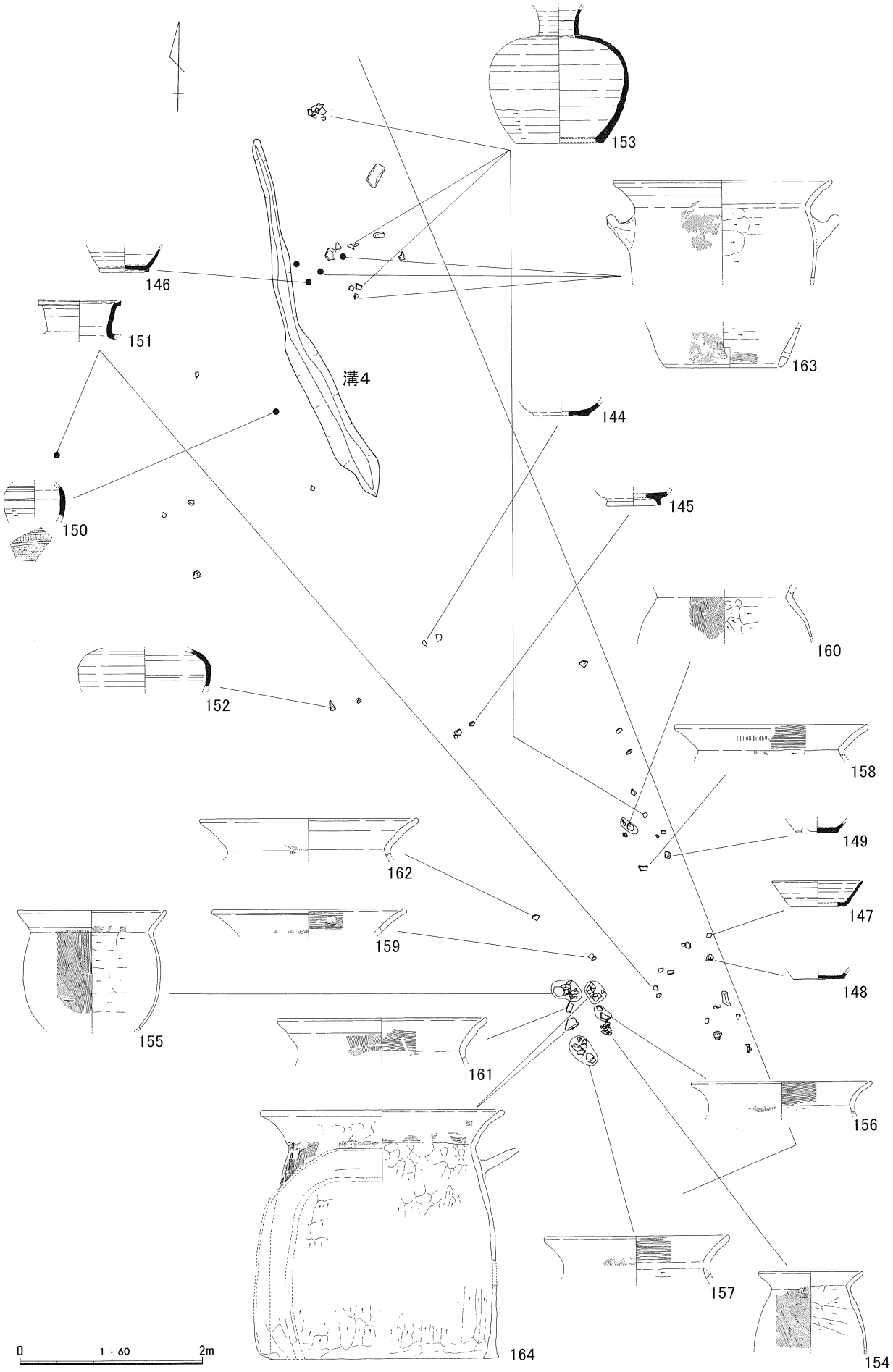
第16図　Ⅰ区　集石２（Ｓ＝1/60、遺物はＳ＝1/4）

土器溜２（第17～19図、写真図版24）

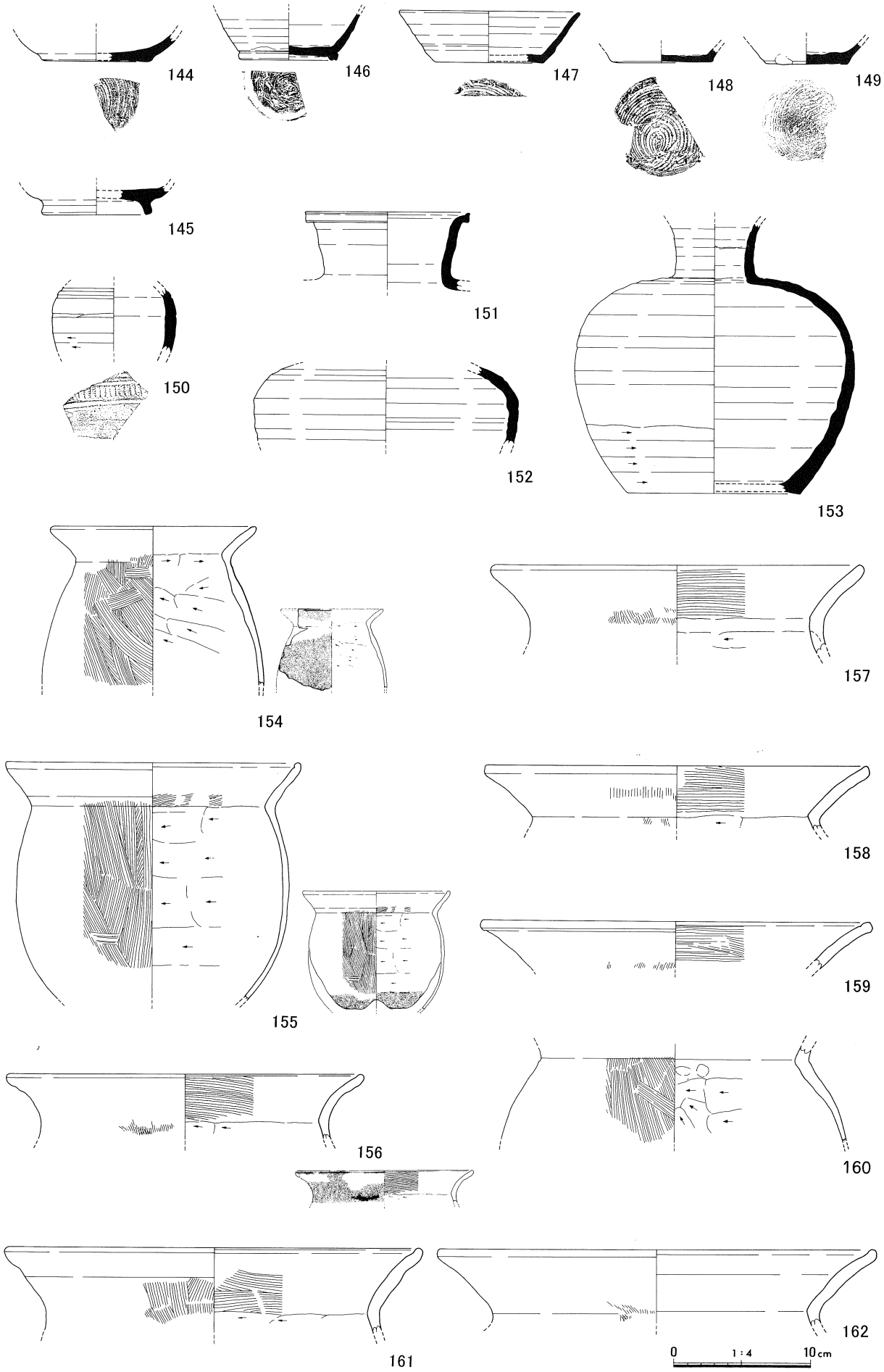
ＩＢ区のＧ12～Ｈ12グリッドでは、８層掘削時に他のグリッドに比べ土器がまとまって出土した。特に東壁付近でまとまりが見られたので土器溜２として取り上げた。これらの遺物は、一部他の時代の土器が混じるが８世紀後半から９世紀頃の土器が中心で、土師器の煮炊き具（154～164）が多く見られた。土師器の口縁部は、甕・甑・竈とも端部が肥厚したり上方に僅かに屈曲し、非常に良く似た胎土・作りをしている。このため口縁部のみでは器種を判断しきれなかったので、口縁部のみのものは便宜上甕に分類した。163は甑で短く屈曲する把手が付き、胴部下位には４個以上の小孔が開けられる。竈164は小片になっており甕との区別が困難だったが、内面にのみシマ状に炭化物が付着することから竈と判断した。器壁の厚さが５～８㎜と薄く、県内でもあまり例を見ない。

第９表　Ｉ区土器溜２出土遺物観察表

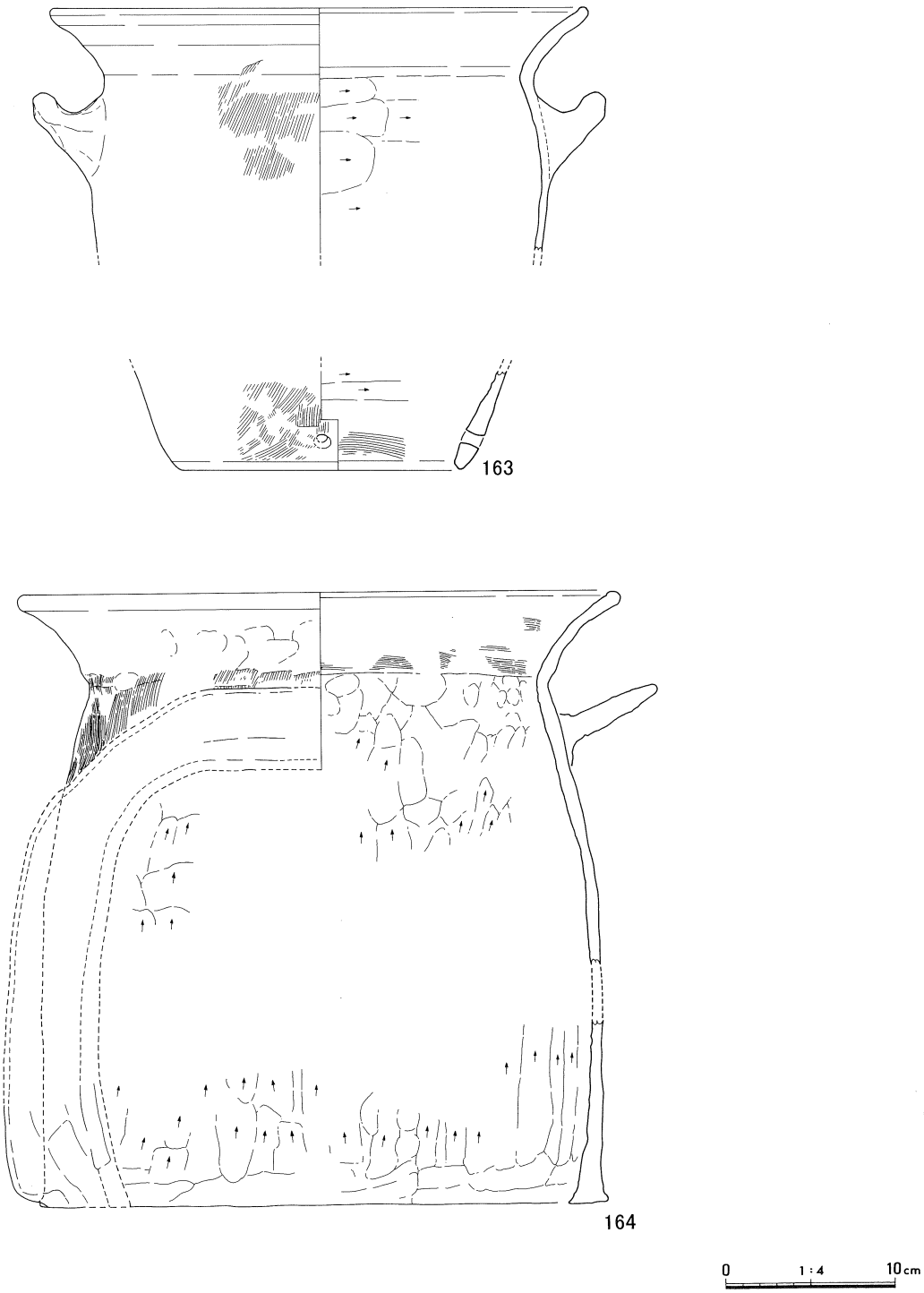
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
144	18	74	須恵器	坏	H-12	8		(8.0)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N6/）	
145	18	74	須恵器	高台付坏	H-12	8		(8.1)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（N5/） 外：灰色（N4/）	
146	18	74	須恵器	高台付坏	G-11	8		(7.3)		高台部の接地面が窪む	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ナデ	径0.5㎜以下の砂粒少量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N6/）	
147	18	74	須恵器	坏	H-12	8	(13.2)	(7.8)	3.8		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒微量	内：灰色（N7/） 外：灰色（N7/）	
148	18	74	須恵器	坏	H-12 東側溝	8		7.5			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒微量	内：灰色（7.5Y6/1） 外：灰色（7.5Y6/1）	
149	18	74	須恵器	坏	H-12	8		(5.9)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径.0.5㎜の砂粒少量	内：灰白色（7.5Y8/1） 外：灰白色（N5/）	
150	18	74	須恵器	壷	G-11	8				胴部に３条の沈線を廻らせ、その間に押し引き状の刺突文を施す。	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	径1㎜以下の砂粒含む	内：灰色（N5/） 外：灰色（N5/）	
151	18	74	須恵器	壷	G-11 、H-12、I-11・12、南壁溝	3・5・8	(12.1)				内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1㎜以下の砂粒多量	内：灰色（N4/） 外：灰白色（5Y7/1）～灰色（N6/）	
152	18	74	須恵器	壷	H-11・12	6・8					内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N5/）	
153	18	74	須恵器	壷	G-11 、H-10・11・12、I-11	3・5・7・8		(12.8)		口縁部はやや外反し、肩部は丸く張る。底部は平底。	内：回転ナデ、回転ヘラケズリ 外：回転ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰白色（N7/） 外：灰色（N5/）	
154	18	75	土師器	甕	H-12	8	(15.0)			口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。	内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内：褐灰色（10YR4/1） 外：黒褐色（10YR3/1）	
155	18	74	土師器	甕	H-12 、H-11、	8	(21.4)			口縁部は緩く外反し、端部は上方に僅かに屈曲する。	内：ヨコナデ、ヨコハケメ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、ヘラケズリ	径2～3㎜の砂粒多量	内・外：鈍い橙色（5YR7/4）～黒褐色（7.5YR3/1）	
156	18	75	土師器	甕	H-12	8	(26.2)			口縁部は外反し、端部は上方に僅かに屈曲する。	内：ヨコハケメ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内：褐灰色（10YR4/1） 外：黒色（10YR2/1）～褐灰色（10YR5/1）	
157	18	75	土師器	甕	H-12	8	(27.2)			口縁部は緩く外反し、端部は上方に屈曲する。	内：ヨコハケメ、ヘラケズリ 外：ナデ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内：灰白色（10YR8/2） 外：鈍い黄橙色（10YR7/2）	
158	18	75	土師器	甕	H-12	8	(28.2)			口縁端部は上方に肥厚し、外側に面を持つ。	内：ヨコハケメ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（10YR8/4） 外：鈍い黄橙色（10YR7/2）	
159	18	75	土師器	甕	H-12	8	(28.6)			口縁端部は僅かに肥厚し、丸く収める。	内：ヨコハケメ、ユビオサエ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、ヨコハケメ	径1～3㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色（10YR6/3） 外：橙色（10YR5/2）	
160	18	75	土師器	甕	H-12	8					内：ヨコハケメ、ユビオサエ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、ヨコハケメ	径1～3㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色（10YR6/3） 外：橙色（10YR5/2）	
161	18	75	土師器	甕	H-11・12	8	(30.6)			口縁部は緩く外反し、端部は上方に僅かに屈曲する。	内：ヨコナデ、ヨコハケメ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内：灰白色（10YR8/2） 外：灰黄褐色（10YR6/2）	
162	18	75	土師器	甕	H-11・12	7・8	(31.8)			口縁端部は上方に僅かに屈曲し、丸くおさめる。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ヨコハケメ	径1～3㎜の砂粒多量	内・外：灰白色（10YR8/2）～褐灰色（10YR6/1）	
163	19	75	土師器	甑	G-11	8	(31.0)			口縁端部は内側に僅かに屈曲する。胴部下位に桟木孔を施す。	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	径2㎜以下の砂粒含む		
164	19	76	土師器	竈	H-12	8	(35.2)	(33.8)		口縁部は緩く外反し、端部は肥厚する。比較的器壁が薄い。	内：ヨコナデ、ヨコハケメ、ナデ、ユビオサエ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、ユビオサエ、タテハケメ	径2㎜以下の砂粒多量	内・外：灰白色（2.5Y8/2）～橙色（5YR6/6）	図上合成



第17図　Ⅰ区　土器溜２（S＝1/30）



第18図　Ⅰ区　土器溜２出土遺物①（S＝1/4）



第19図　Ｉ区　土器溜２出土遺物②（Ｓ＝1/4）

河道１・２（第15・20図、写真図版５・25～28）

ＩＡ区～ＩＣ区では３ａ・３ｂ層掘削後に、大小の礫を大量に含む５ａ・５ｂ・７層を検出した。これらの礫層を掘削すると青灰色粘質土（６・８層）の面で溝状のプランが検出された。このようなプランは調査区内で５か所確認し、土層断面でのみ認識できる浅い窪みを含めるとさらに多数存在したと考えられる。このうちＩＢ区で検出した溝は河道１とし、形状や床面の傾斜から遺跡北側の谷間から南に向かって流れる自然流路と判断した。調査の結果遺構内からは弥生時代から平

安時代前半の遺物（165～183）が出土した。河道１の時期は床面と東側岸部分で９世紀頃の須恵器・土師器が出土したので、平安時代前半頃までと考えられ、この流路が氾濫して北山から大小の礫が運ばれた時期はそれ以降と推測される。

ＩＣ区東で検出した河道２は、調査区北壁と３か所に設定したトレンチの土層観察から河道１と同様の自然流路と判断し、調査はプランを検出するにとどめた。河道２の時期はトレンチ内で出土した土師器坏188の特徴から河道１とほぼ同じ頃と判断される。

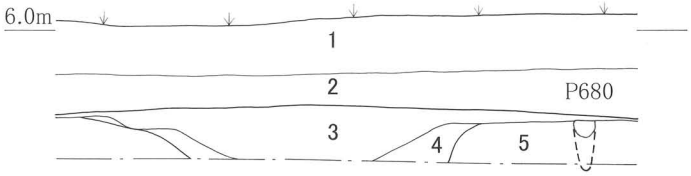
第10表　Ｉ河道１出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点Gr/遺構	層位	寸法（cm）			形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
							口径	底径	器高					
165	20	77	土師器	壷	河道1					頸部にハケメ原体による羽状文を施す	内：ヨコハケメ後ナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
166	20	77	土師器	甕	河道1		(13.8)			口縁端部は大きく開き、端部に面を持つ。稜は緩い。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（7.5YR8/4） 外：浅黄橙色（7.5YR8/4）	古墳時代中期
167	20	77	須恵器	坏身	I-10、河道1		(10.6)			口縁部は短く内傾する	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：青灰色（5PB6/1） 外：灰色（5PB6/1）	
168	20	77	須恵器	坏身	H-10、河道1			(8.3)		口縁部は緩く内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒極微量	内：灰色（5Y6/1） 外：灰色(5Y6/1) ～黄灰色（2.5Y4/1）	
169	20	77	土師器	壷	河道1			(6.8)		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	径1㎜の砂粒微量	内：青灰色(5PB6/1) ～暗青灰色（5PB4/1） 外：青灰色(5PB5/1) ～灰白色（N7/）	
170	20	77	須恵器	壷	I-10、河道1			(9.6)		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ヘラケズリ後ナデ、ヘラ切り	径0.5㎜の砂粒微量	内：青灰色（5PB6/1） 外：灰色（N6/）	
171	20	77	須恵器	壷（平瓶?）	H-10、河道1	床面				胴部最大径部分に突帯を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ヘラケズリ後ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰白色（7.5Y7/1） 外：灰白色（7.5Y7/1）	平瓶の可能性有り。
172	20	77	須恵器	把手付鉢	H-10、河道1						内：同心円文オサエ 外：平行タタキ後ナデ、回転ナデ	径3㎜の砂粒含む	内：灰色（N5/） 外：灰色（10Y4/1）	
173	20	77	須恵器	甕	河道1					口縁部外面に沈線と波状文を廻らせる	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰色（7.5Y6/1） 外：灰色(7.5Y6/1) ～オリーブ黒色（7.5Y3/1）	
174	20	77	須恵器	甕	河道1						内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径1㎜の砂粒少量	内：灰色（N6/） 外：暗灰色（N3/）	
175	20	77	須恵器	甕	H-10、河道1						内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径1㎜の砂粒多量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N5/）	
176	20	77	土師器	坏	I-10、河道1		(11.9)	(7.2)	4.0		内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜以下の砂粒含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
177	20	77	土師器	坏	I-10、河道1	床面	(12.8)	(6.9)	3.7		内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色(10YR8/4) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
178	20	77	土師器	坏	P245（本来河道1に伴うものと考えられる）		(13.2)	(7.6)			内：カキメ後ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	赤彩。
179	20	77	土師器	坏	I-10、河道1			(7.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径1㎜の砂粒微量	内：鈍い黄橙色(10YR7/4) 外：鈍い黄橙色(10YR7/4)	
180	20	77	土師器	坏	H-10、河道1			(8.1)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径1㎜の砂粒少量	内：鈍い黄橙色(10YR7/4) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	
181	20	77	土師器	高台付坏	H-11、道1			(10.4)		底部に高台を貼り付ける	内：ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：鈍い黄橙色(10YR7/4) ～灰黄褐色(10YR6/2) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)	
182	20	77	土師器	甕	河道1		(25.0)			口縁端部は上方に屈曲する	内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1㎜の砂粒多量	内：褐灰色(7.5YR4/1) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	古代
183	20	77	土師器	器種不明	H-12、河道1		(14.3)			口縁端部は大きく外反する	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒極微量	内：浅黄橙色(7.5YR8/4) 外：浅黄橙色(7.5YR8/4)～明赤褐色(5YR5/6)	外面赤彩。

第11表　Ｉ河道２出土遺物観察表

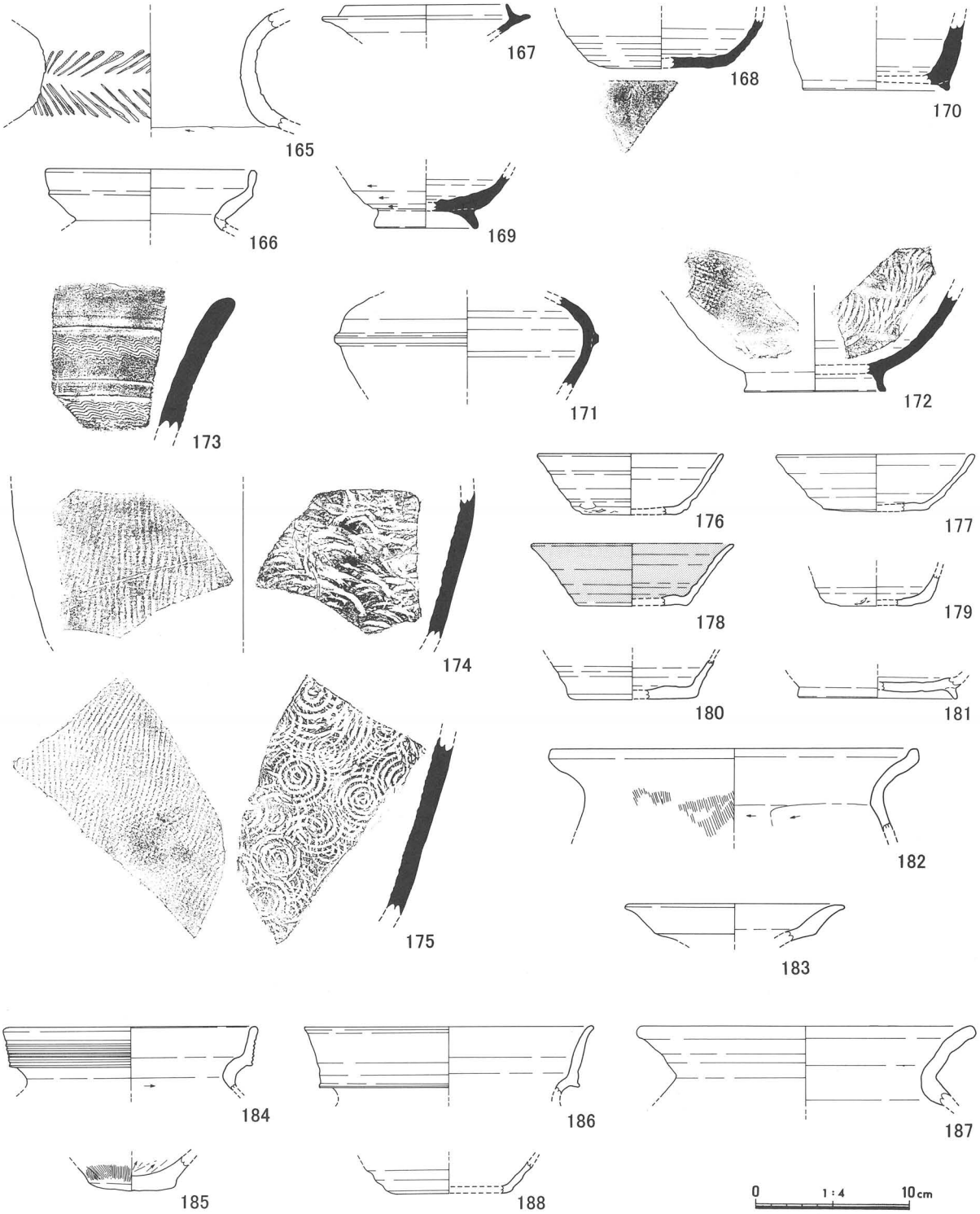
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点Gr/遺構	層位	寸法（cm）			形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
							口径	底径	器高					
184	20	78	弥生土器	甕	河道2南トレンチ		(16.5)			口縁外面に6条の凹線を施す	内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、ヘラケズリ	径1㎜の砂粒多量	内・外：灰白色（2.5Y8/2） ～黒褐色（2.5Y3/1）	V-2様式
185	20	78	弥生土器	不明	河道2中央トレンチ、F-15			5.5		底部が括れる	内：ヘラケズリ、ナデ 外：タテハケメ、ナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：褐灰色（10YR6/1）	V様式
186	20	78	弥生土器	甕	河道2南トレンチ		(18.8)			口縁部は外反し、稜は下方に突出する	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径2㎜以下の砂粒多量	内：灰白色（10YR8/2） 外：灰白色（10YR8/2）	V-4様式
187	20	78	土師器	甕（複合口縁）	河道2中央、F-15					口縁外面の稜、内面の段は痕跡的になる	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：灰白色（10YR8/2）	古墳時代中期か？
188	20	78	土師器	坏	河道2中央トレンチ			(7.6)			内：カキメ後ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：鈍い橙色(7.5YR7/4)	

河道2北壁土層断面



1. 灰褐色土(耕作土)
2. 暗黄褐色砂質土
3. 灰黄褐色砂レキ層(拳大から人頭大の石を多く含む)
4. 灰褐色砂レキ層
5. 暗黄褐色土(5cm以下のレキを少し含む)

0　1：60　2m



第20図　Ⅰ区　河道出土遺物（S＝1/4）

遺構に伴わない遺物（第22～25図）

奈良・平安時代前半の遺物は、８層まで掘削したＩＢ区で最も多く出土した。須恵器の坏類（189～214）は蓋の点数が少なく、坏身は底部を回転糸切りし外縁に高台を貼り付けるものが多く出土している。197はＩＣ区東の北側溝内で出土し、内面に「伊」の墨書がある。回転ヘラケズリが施されており、８世紀の坏蓋の可能性もある。219は器形から椀としたもので、胎土・色調・調整が他のものと大きく異なる。壷類（220～230）は全形の分かる資料が無いが、胴部最大径部分に突帯を貼り付けるものが数点出土している。220は口縁部や把手の痕跡が無いので壷としたが平瓶の可能性もある。甕（231～236）は胴部の小片が多く、タタキの特徴で平安時代のものと判断した。灰釉陶器は椀（238）と壷類（239）が１点ずつ出土している。

土師器は坏・皿類（240～259）が多く出土した。中でも245～257のように体部と見込み部にカキメを施し底部はヘラ切り後ナデを施すタイプの坏が最も多く出土している。高台の付くものと無いものがあり、それぞれ赤彩するものもある。258・259は坏と同じ作りの皿で、確認した数は坏に比べて非常に少ない。甕（261～271）はいずれも小片で全形の分かるものは無かった。製塩土器（274～285）はＩＢ区の東側で特にまとまって出土した。非常に良く焼けており、外面が須恵質に変化したものも見られる。286～291は器形が須恵器の坏に近いものや胎土に砂粒を多く含むもの、７層以下で出土したもので、11世紀以前のものと判断した。292はＩＣ区西のＦ14グリッドで５ｂ層掘削中に出土した石錘で、外面は非常に丁寧に磨かれている。

第12表　Ｉ区奈良時代・平安時代前半の遺物観察表①

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
189	22	79	須恵器	坏蓋	I-10	5	(15.5)		3.2	輪状つまみ。口縁部内面にかえしが付く。	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	径1.5㎜以下の砂粒含む	内：灰色（10Y6/1） 外：灰色（10Y6/1）	
190	22	79	須恵器	坏蓋	I-11	7				輪状つまみは上部に面を持つ	内：回転ナデ後ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N6/）	
191	22	79	須恵器	坏蓋	G-12	8	(16.6)			口縁部内面にかえしが付く	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1㎜以下の砂粒含む	内：灰色（7.5Y6/1） 外：灰色（7.5Y6/1）	
192	22	79	須恵器	坏蓋	I-?	7				口縁端部は下方に屈曲する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：灰色（N5/） 外：灰色（N5/）～暗灰色（N3/）	
193	22	79	須恵器	坏蓋	排土中					外面に１条の沈線と「×」状のヘラ記号を施す	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	径1㎜以下の砂粒含む	内：灰色（N4/） 外：灰色（N4/）	
194	22	79	須恵器	坏蓋	G-11	8	(19.4)			口縁端部をした方につまみだす	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	径3㎜の砂粒含む	内：灰色（7.5Y6/1） 外：灰色（7.5Y6/1）	
195	22	79	須恵器	坏蓋	H-11	8	(17.9)			口縁端部を僅かにつまみ出す	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1㎜以下の砂粒含む	内：灰色（10Y5/1） 外：灰色（10Y4/1）	
196	22	79	須恵器	高坏	H-11	7	(18.0)			口縁端部が浅くくぼむ。	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰色（10YR5/1） 外：灰色（10YR5/1）	
197	22	79	須恵器	坏	E-17、北側溝							径0.5㎜以下の砂粒、黒色粒含む	内：黄灰色（2.5Y6/1） 外：黄灰色（2.5Y6/1）	内面に「伊」の墨書あり
198	22	79	須恵器	坏	H-10	7	(14.2)	(8.6)	4.2		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内・外：灰白色（5Y7/1）～灰色（5Y5/1）	
199	22	79	須恵器	坏	東側溝	7		(7.8)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ナデ、ヘラケズリ後カキメ	径0.5㎜の砂粒少量	内：青灰色（5B6/1） 外：青灰色（5B6/1）	
200	22	79	須恵器	高台付坏	G-11	6		(6.6)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径.0.5㎜の砂粒微量	内：灰色（5Y6/1） 外：灰色（5Y6/1）	
201	22	79	須恵器	高台付坏	G-11	6		(7.6)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰色（N5/） 外：灰色（N5/）	
202	22	79	須恵器	高台付坏	G-13、H-13南	5・黒褐色土		(7.9)		底部外縁に高台を貼り付ける	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰白色（5Y7/1） 外：灰白色（5Y7/1）	

第13表　Ｉ区奈良時代・平安時代前半の遺物観察表②

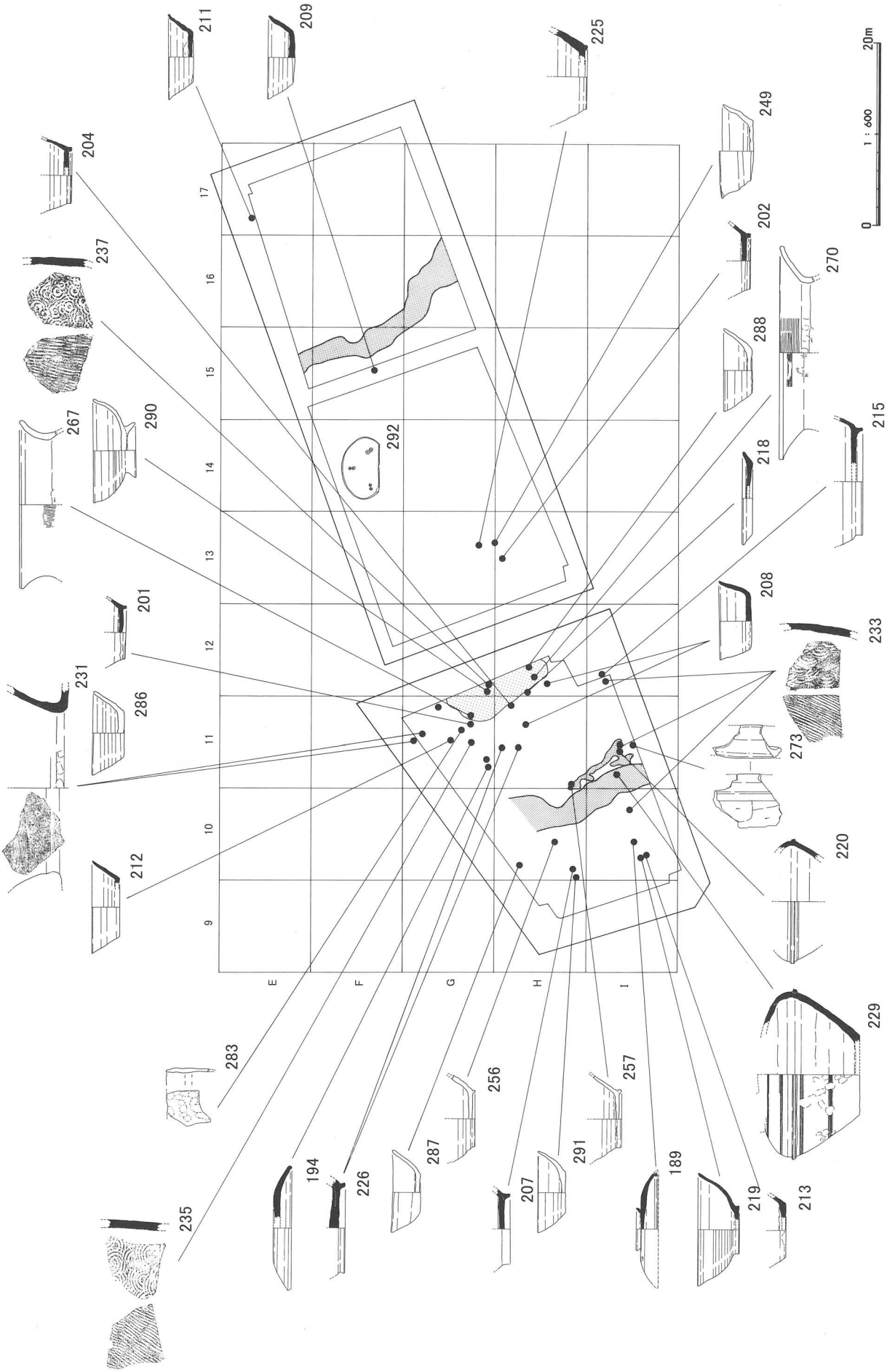
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
203	22	79	須恵器	高台付坏	H-10	3・5		(8.1)		高台部の接地面が窪む	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰色（N7/） 外：灰色（N7/）	
204	22	79	須恵器	高台付坏	H-11	7		(8.2)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N6/）	
205	22	79	須恵器	高台付坏	H-11	7		(10.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ナデ	径1㎜の砂粒少量	内：黄灰色（2.5Y5/1） 外：灰色（N5/）	
206	22	79	須恵器	高台付坏	G-11	7		(9.3)		高台部の接地面が窪む	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（7.5Y6/1） 外：灰色（N5/）	
207	22	79	須恵器	高台付坏	H-10	5		(10.2)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：灰色（N7/） 外：灰色（N7/）	
208	22	78	須恵器	坏	H-11・12、G-11	7	(11.5)	(8.4)	4.7		内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、回転糸切り、ナデ	径1㎜の砂粒少量	内：灰色（N7/） 外：灰色(N7/)～灰色(N5/)	
209	22	78	須恵器	坏	F-15	6	(12.0)	7.7	3.9	口縁部は緩く外反する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	黒色粒子多量	内：灰色（7.5Y6/1） 外：灰色（7.5Y6/1）	
210	22	79	須恵器	坏	G-11	7	(11.1)	(6.4)	4.3		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰色（N5/） 外：灰白色（N8/）	
211	22	78	須恵器	坏	G-17		(12.3)	7.1	3.6	口縁部は外反する	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒含む	内・外：灰色（7.5Y6/1） ～黄灰色（2.5Y4/1）	
212	22	79	須恵器	坏	G-11、H-12		(13.4)	(8.6)	4.05		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰白色（7.5Y7/1） 外：灰白色（7.5Y7/1）	
213	22	79	須恵器	坏	I-10	5		(8.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰色（N8/） 外：灰色（N8/）	
214	22	79	須恵器	坏	G-11	7		(9.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒微量	内：灰白色（7.5Y8/1） 外：灰色（7.5Y6/1）	
215	22	79	須恵器	盤	I-12 南東側溝			(15.4)		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ナデ	径3㎜程度の砂粒含む	内：灰色（10YR5/1） 外：灰色（10YR5/1）	
216	22	80	須恵器	Ⅲ	G-11 東壁溝		(15.2)	(8.2)	2.4		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ナデ	径1㎜の砂粒少量	内：灰色（5Y6/1） 外：灰色（5Y6/1）	
217	22	80	須恵器	Ⅲ	東側側溝内		(15.5)	(9.0)	2.3		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ナデ	径1～2㎜の砂粒少量	内：青灰色（5PB5/1） 外：青灰色（5PB5/1）	
218	22	80	須恵器	Ⅲ	H-12	7	(13.6)	(10.2)	1.6		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1～2㎜の砂粒少量	内：灰色（10Y5/1） 外：灰色（10Y5/1）	
219	22	80	須恵器	碗	I-10	5	(15.7)	(7.0)	6.2		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径.0.5㎜の砂粒微量	内・外：灰白色（N7/）～灰色（N5/）	
220	23	80	須恵器	壷	I-11	7				胴部最大径部分に突帯を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ヘラケズリ後ナデ、ヨコナデ	径1㎜以下の砂粒含む	内：灰色（N6/） 外：灰色（N6/）	平瓶の可能性有り
221	23	80	須恵器	壷	G-10・11、H-10～12、I-10・11	3・5・7・8・16				胴部最大径部分に沈線を１条廻らせる	内：回転ナデ 外：カキメ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	径1㎜以下の砂粒含む	内：灰白色（5Y7/1） 外：灰色（5Y6/1）	
222	23	80	須恵器	高台付壷	排土中			(9.6)		底部に高台を貼り付ける。高台端部は外側に面を持つ。	内：回転ナデ 外：回転ヘラケズリ、回転ナデ	径1㎜の砂粒含む	内・外：灰色（(N6/）～灰色（5Y6/1）	
223	23	80	須恵器	壷	G-11	7		(5.8)		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：灰色（N5/） 外：灰色（N5/）	
224	23	80	須恵器	壷	I-10、H-10	18層上面、3		(10.2)		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ヘラケズリ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（N5/） 外：灰白色（N7/）	
225	23	80	須恵器	壷	G-13	5		(9.2)		底部外縁に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（N5/） 外：灰色（N5/）	
226	23	80	須恵器	坏	H-11、I-11	7・16		(12.8)		底部に高台を貼り付ける	内：ヘラケズリ 外：回転ナデ、ヘラケズリ後ナデ	径3㎜以下の砂粒含む	内：灰色（N6/） 外：灰色（N5/）	
227	23	80	須恵器	高台付壷	南壁溝			(16.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラケズリ、ナデ、ヘラ切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（5Y6/1） 外：灰色（N4/）	
228	23	80	須恵器	壷	I-11 東側溝	8・16	(14.4)			平底	内：ヨコナデ 外：ヘラケズリ後ナデ、ヘラケズリ	径1㎜の砂粒少量	内：灰白色（N7/） 外：灰色（N5/）	
229	23	80	須恵器	平瓶	I-9・11、H-9			(11.6)		胴部最大径部分に突帯を貼り付ける。肩部と胴部にカキメを施す	内：回転ナデ 外：回転ヘラケズリ後ナデ	径1㎜前後の砂粒少量	内：灰色(N6/)～暗灰色((N3/) 外：灰色(N6/)	
230	23	80	須恵器	平瓶	H-10・11、G-11	3・5・7				胴部最大径部分に突帯を貼り付ける	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ヘラケズリ後ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：灰白色（N7/） 外：灰色（N6/）	
231	23	81	須恵器	甕	G-11	7・16				口縁部は長く、波状文を施す	内：回転ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ、同心円文オサエ 外：回転ナデ、ナデ	径0.5～1㎜の砂粒多量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N6/）	

第14表　Ｉ区奈良時代・平安時代前半の遺物観察表③

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
232	23	81	中世須恵器	甕	G-1 1・13	7		(12.4)			内：ヨコナデ、ナデ、同心円文オサエ 外：ナデ、格子目タタキ、ヘラ切り	径1㎜以下の砂粒含む	内：灰黄色（2.5Y7/2） 外：灰黄色（2.5Y7/2）	焼成不良。平安時代？
233	23	81	須恵器	甕	Ｉ-10	5・7・16					内：同心円文オサエ、ナデ 外：平行タタキ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（N6/） 外：灰白色（N7/）	平安時代
234	23	81	須恵器	甕	G-11、H-12	5・7					内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N5/）	平安時代
235	23	81	須恵器	甕	G-11、H-11	5・16					内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰白色（N7/） 外：灰色（N6/）	平安時代
236	23	81	須恵器	甕	Ｉ-9	5					内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰白色（N7/） 外：灰色（N6/）	平安時代
237	23	81	須恵器	甕	G-12	6					内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰白色（N7/） 外：灰白色（N7/）	平安時代
238	23	81	灰釉陶器	碗	Ｉ-10					口縁端部は外反する	内：回転ナデ 外：回転ナデ	混入物は認められない	内：灰黄色（2.5Y7/2） 外：灰黄色（2.5Y7/2）	
239	23	81	灰釉陶器		E-17	5				底部は低い高台状に削り出す	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	径0.5㎜の砂粒少量	内：（灰釉）淡黄色(5Y8/2)～暗オリーブ灰色(2.5GY4/1) 外：黄灰色(2.5Y6/1)～（灰釉）暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)	
240	24	82	土師器	坏	H-11	7	(12.0)	(7.4)	2.9	体部は緩く内彎する	内：カキメ後ナデ 外：カキメ後ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内・外：明赤褐色(2.5YR5/8)～浅黄橙色(7.5YR8/4)	
241	24	82	土師器	皿	P44		(15.0)	(10.2)	1.9	口縁端部は丸く収め、体部は外反する。	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	赤彩。
242	24	82	土師器	皿	H-11	8	(15.9)	(12.0)	2.1	口縁部は外反する。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰黄色（2.5Y7/2） 外：灰黄色（2.5Y7/2）	
243	24	82	土師器	高台付皿	南側溝	5		(9.9)		高台は高く、外側に開く	内：ナデ、回転ナデ 外：ナデ、回転ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：明赤褐色（2.5YR5/6） 外：明赤褐色（2.5YR5/6）～浅黄橙色（10YR8/3）	赤彩。
244	24	82	土師器	高台付皿	G-11			(12.9)		高台端部は外方に強く屈曲する	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内・外：橙色（5YR7/6）～灰白色（10YR8/2）	赤彩。
245	24	82	土師器	坏	G-11	7	(11.2)	(7.0)	3.8	口縁・体部は直線的に開く	内：カキメ後ヨコナデ、ナデ 外：カキメ後ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)～黒褐色（10YR3/1）	
246	24	83	中世土師器	坏	G-11		(12.0)	6.9	3.9	体部は緩く内彎する。器壁が薄い。	内：回転ナデ、カキメ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜前後の砂粒少量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：褐灰色（10YR5/1）	
247	24	82	土師器	坏	北側溝		(12.0)				内：カキメ後ナデ 外：回転ナデ、ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：灰白色（10YR8/2）	
248	24	82	土師器	坏	G-11、H-11	7	(12.3)	(8.2)	4.3	口縁・体部は直線的に開く	内：ヨコナデ 外：ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：鈍い黄橙色(10YR7/4) 外：鈍い黄橙色(10YR7/4)	
249	24	83	土師器	坏	G-13	5	13.7	8.6	5.0	体部は内彎する	内：カキメ後ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	金雲母多量	内・外：橙色（5YR7/6）～鈍い橙色（5YR7/3）	器面全体がやや歪む
250	24	82	中世土師器	坏	F-16	5		(6.2)		体部は底部から直線的に外傾する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	
251	24	82	土師器	坏	H-13	5		(7.6)			内：カキメ後ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：鈍い橙色（7.5YR7/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
252	24	82	土師器	坏	南側溝			(7.8)			内：ハケメ後ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5～1㎜の砂粒少量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い橙色（7.5YR7/3）	一部赤彩が残る。
253	24	82	土師器	坏	P205			(8.0)			内：不明 外：ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）～灰白色（10YR8/2）	
254	24	82	土師器	高台付坏	P128			(6.4)		器壁が薄く底部外縁に高台を貼り付ける	内：カキメ後ヨコナデ 外：ヨコナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：浅黄橙色（7.5YR8/4）～明赤褐色（2.5YR5/6） 外：浅黄橙色（7.5YR8/4）	
255	24	82	土師器	高台付坏	H-13	5		(9.0)		底部外縁に高台を貼り付ける	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
256	24	82	土師器	高台付坏	H-10	8		(8.0)		底部外縁に高台を貼り付ける	内：カキメ後ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜以下の砂粒少量	内：鈍い黄褐色(10YR5/4) 外：橙色(7.5Y6/6)～鈍い黄橙色(10YR6/3)	
257	24	82	土師器	高台付坏	F-11	7		(8.4)		底部外縁に高台を貼り付ける	内：カキメ後ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：灰白色（10YR8/2）	
258	24	82	中世土師器	皿	G-16		(11.0)	(6.5)	1.6	口縁・体部は直線的に開く	内：カキメ後ナデ、ユビオサエ 外：カキメ後ナデ、ヘラ切り後ナデ	径1㎜以下の砂粒含む	内：浅黄橙色（7.5YR8/4） 外：浅黄橙色（7.5YR8/4）	
259	24	82	土師器	皿	H-11	7	(13.3)	(8.6)	1.25	体部は大きく開く	内：ヨコナデ、ユビオサエ、ハケメ 外：ヨコナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：灰白色（10YR8/2） 外：灰白色（10YR8/2）	
260	24	82・84	土師器	手捏土器	北側溝		(6.8)	(2.9)	3.4	口縁端部は先細りし、底部は平坦である	内：ナデ 外：ナデ	径1㎜の砂粒多量、金雲母少量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	

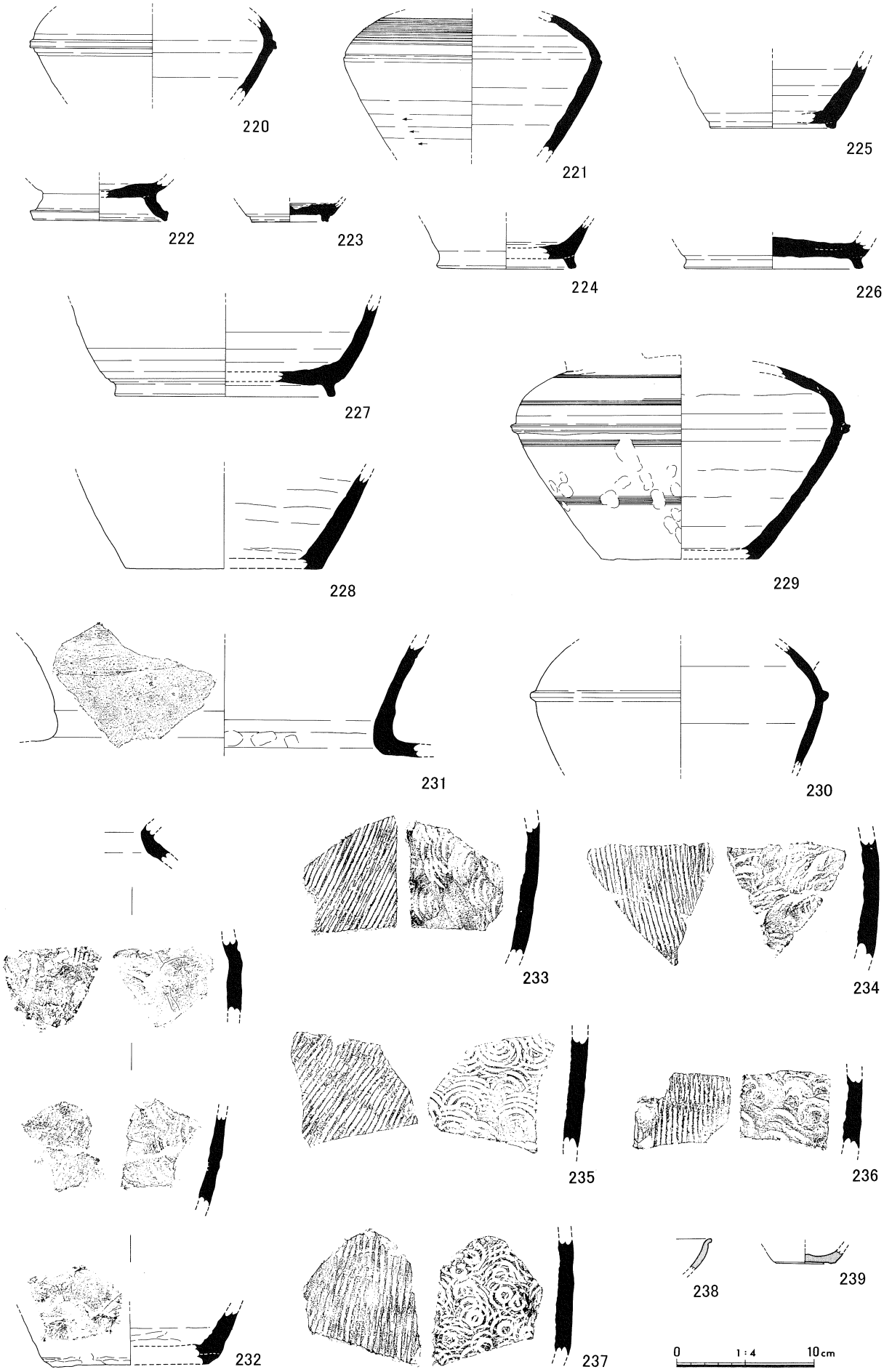
第15表　Ⅰ区奈良時代・平安時代前半の遺物観察表④

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
261	24	82	土師器	甕	F-17	5	(17.8)			口縁部は短く、胴部はあまり張らない	内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：灰黄褐色（10YR6/2） 外：灰黄褐色（10YR6/2）～黒色（10YR2/1）	
262	24	82	土師器	甕	F-14、北側溝	5	(18.0)			口縁部は短く、胴部はあまり張らない	内：ヨコハケメ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径2～3㎜の砂粒多量	内：橙色（7.5YR7/6） 外：黒色（7.5YR2/1）	
263	24	82	土師器	甕	H-10	7	(32.4)			口縁部は大きく開き、端部に面を持つ。	内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ	径2㎜以下の砂粒多量	内：灰黄褐色（10YR6/2） 外：黄灰色（2.5Y5/1）	
264	24	82	土師器	甕	H-10	5	(30.4)			口縁部は強く外反し、端部は丸い。胴部はあまり張らない。	内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径2～3㎜の砂粒少量、黒雲母多量	内：灰黄色（2.5Y6/2）～灰黄褐色（10YR5/2） 外：灰黄褐色（10YR5/2）～黒褐色（10YR3・1）	
265	24	82	土師器	甕	G-13	5	(32.4)			胴部はあまり張らない	内：ヨコハケメ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径0.5～1㎜の砂粒多量	内：灰黄褐色（10YR6/2） 外：褐灰色（10YR4/1）～黒褐色（10YR3/1）	
266	24	82	土師器	甕（竈か?）	南側溝						内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内：褐灰色（10Y R5/1） 外：褐灰色（10Y R5/1）	
267	24	82	土師器	甕	G-11	8	(24.3)			口縁部は外反し端部は上方に僅かに屈曲する。	内：ヨコナデ、ヨコハケメ後ナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色（10YR7/3） 外：鈍い黄橙色（10YR7/2）～黒褐色（10YR3/1）	
268	25	85	土師器	甕	G-12	8	(29.7)			口縁部は強く外反し、端部は肥厚し丸く収める。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1㎜の砂粒少量	内・外：鈍い褐色（7.5YR6/3）～黒褐色（10YR3/1）	
269	25	85	土師器	甕	G-13	5	(39.6)				内：ヨコハケメ、ヘラケズリ 外：ヨコハケメ後ナデ、タテハケメ	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/3）～褐灰色（7.5YR4/1） 外：黒色（7.5YR2/1）	
270	25	85	土師器	甕	H-12	8	(30.8)			口縁端部は肥厚し、丸く収める。	内：ヨコハケメ、ユビオサエ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、ヨコハケメ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（5YR7/4） 外：橙色（5YR7/6）～灰褐色（7.5YR5/2）	
271	25	85	土師器	甕	G-11、H-11	7	(31.0)			口縁部は緩く外反し、端部は肥厚し丸く収める。他に比べ器壁が厚い。	内：ヨコハケメ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内・外：浅黄橙色（10YR8/4）～灰黄褐色（10YR4/2）	
272	25	85	土師器	竈	G-11	7					内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、ユビオサエ、タテハケメ	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色（10YR6/3）～黒褐色（10YR3/1） 外：鈍い黄橙色（10YR6/3）	
273	25	85	土師器	竈	I-11？	7				庇の端部は肥厚し、丸く収める	内：ナデ、ヘラケズリ 外：タテハケメ、ナデ	径1殻㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色（10YR7/2） 外：灰白色（10YR8/2）	
274	25	85	製塩土器		北側溝		(6.3)			口縁端部は面を持つ	内：ヨコナデ、ユビオサエ 外：ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（7.5Y R7/4） 外：鈍い橙色（7.5Y R7/4）	
275	25	85	製塩土器		G-13南	黒褐色土	(7.2)			口縁端部は先細りする	内：ヨコナデ、ユビオサエ 外：ナデ	径0.5～3ｍｍの砂粒少量	内：浅黄橙色（10Y R8/4） 外：浅黄橙色（10Y R8/4）	
276	25	85	製塩土器		G-13南	黒褐色土	(8.2)			口縁端部は丸い	内：ナデ 外：ナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：明褐灰色（7.5Y R7/2） 外：灰白色（10Y R8/2）	
277	25	85	製塩土器		G-11	5	(8.6)			口縁端部は面を持つ	内：ヨコナデ 外：ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：浅黄橙（7.5Y R8/4） 外：灰白色（10Y R8/2）	
278	25	85	製塩土器		G-11	7	(9.0)			口縁端部は先細りする	内：ナデ 外：ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（7.5Y R7/3） 外：灰褐色（7.5Y R6/2）	
279	25	85	製塩土器		G-13南	黒褐色土	(10.1)			口縁端部は面を持つ	内：ヨコナデ、ユビオサエ 外：ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（7.5Y R7/4） 外：浅黄橙色（7.5Y R8/4）	
280	25	85	製塩土器		H-11	5	(12.2)			口縁端部は内側に肥厚する	内：ナデ 外：ナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（10Y R8/4） 外：鈍い黄橙色（10Y R7/2）	
281	25	85	製塩土器		北側溝					口縁端部は先細りする	内：ナデ 外：ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（10Y R8/4） 外：鈍い橙色（7.5Y R6/4）	
282	25	85	製塩土器		西側溝 G-13					口縁端部は先細りする。歪みが大きい。	内：ナデ 外：ナデ	径2㎜の砂粒多量	内・外：鈍い橙色（7.5Y R7/4）～黄灰色（2.5Y6/1）	
283	25	85	製塩土器		G-11	7				口縁端部は先細りする	内：ヨコナデ 外：ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：橙色（5Y R7/6）～灰褐色（7.5Y R5/2） 外：浅黄橙色（7.5Y R8/4）～灰褐色（7.5Y R5/2）	
284	25	85	製塩土器		G-11	7				口縁端部は先細りする	内：ヨコナデ 外：ナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：橙色（5Y R7/6） 外：鈍い橙色（5Y R7/4）	
285	25	85	製塩土器		排土					口縁端部は肥厚し面を持つ	内：ヨコナデ 外：ナデ	径1～2㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（10Y R8/4）～灰黄色（2.5Y6/2） 外：灰黄色（2.5Y6/2）	
286	25	83	土師器	坏	G-11	7	12.2	6.4	4.7	口縁・体部は直線的に開く	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：鈍い橙色（5YR7/4） 外：浅黄橙色（7.5YR8/4）	
287	25	83	土師器	坏	H-10	5	12.1	5.8	4.3	口縁・体部は直線的に開く	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1～2㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（5YR6/4） 外：鈍い橙色（5YR6/4）～鈍い褐色（7.5YR5/3）	
288	25	84	土師器	坏	H-12	8	(12.0)	6.1	4.15	口縁・体部は緩く内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5～1㎜の砂粒、金雲母多量	内：灰黄褐色（10YR6/2） 外：灰黄褐色（10YR6/2）	
289	25	84	土師器	椀	H-13	5		(5.8)		体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1～2㎜の砂粒多量	内：灰黄色（2.5Y7/2） 外：鈍い橙色（7.5YR6/4）	
290	25	84	土師器	高台付椀	G-12	8	15.1	8.0	6.2	体部は内彎し、高台はハの字状に開く	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り後ナデ	密	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：鈍い橙色（5YR7/4）～鈍い赤褐色（2.5YR4/4）	
291	25	84・85	中世土師器	坏	G-11、溝1	7	(11.8)	6.0	4.0	口縁・体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（10YR8/4） 外：浅黄橙色（10YR8/4）	
292	25	83・83	石製品	石錘	F-14	5	縦：4.45	横：2.70	厚：0.65	2穴1組の小孔が３ヶ所に施される。			内：灰白色（5G Y8/1） 外：明オリーブ灰色（5G Y 7/1）～暗オリーブ灰色（5 G Y8/1）	重量：18 g

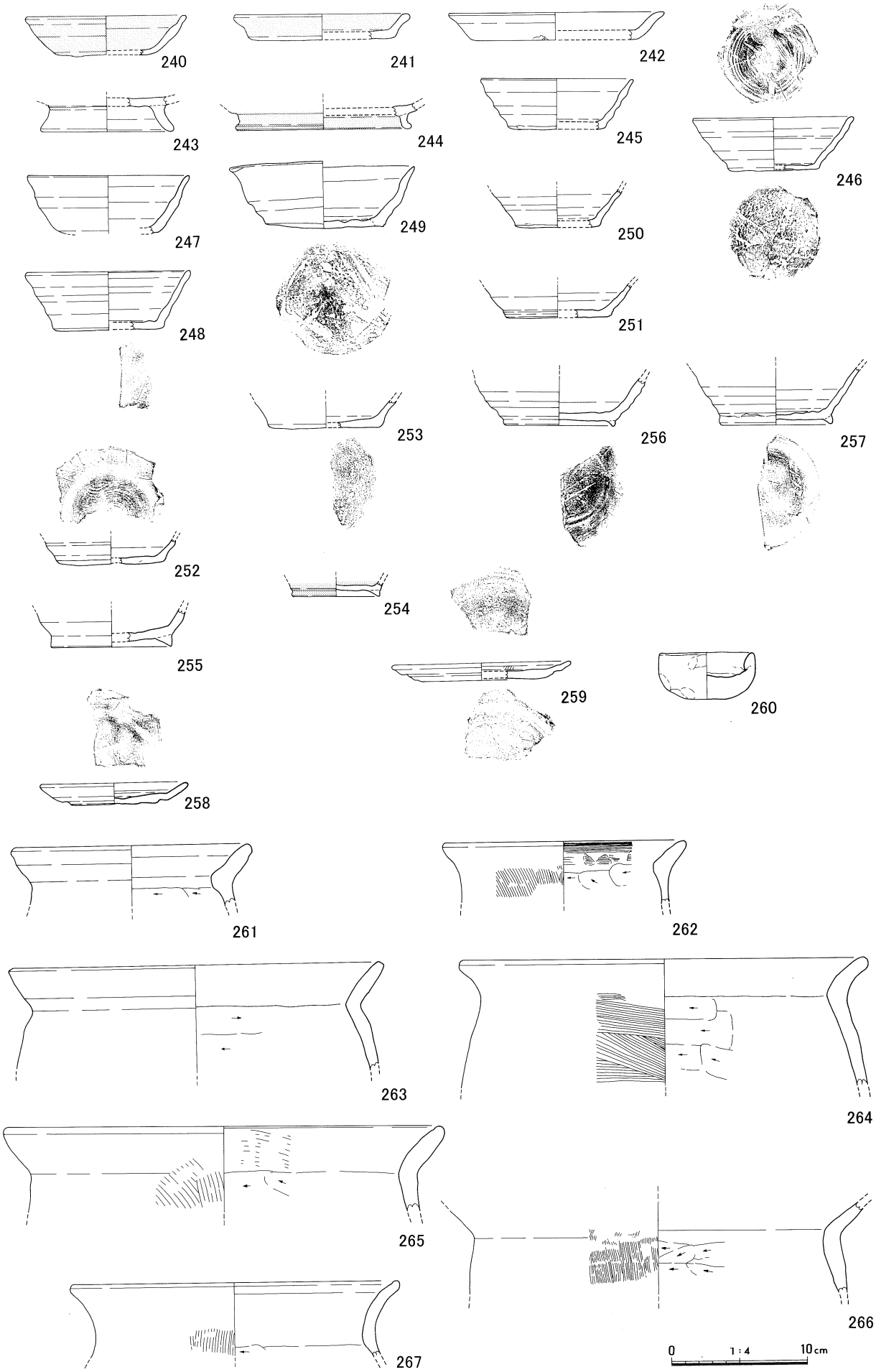


第21図　Ⅰ区　奈良・平安時代前半の遺物出土状況（S＝1/600）

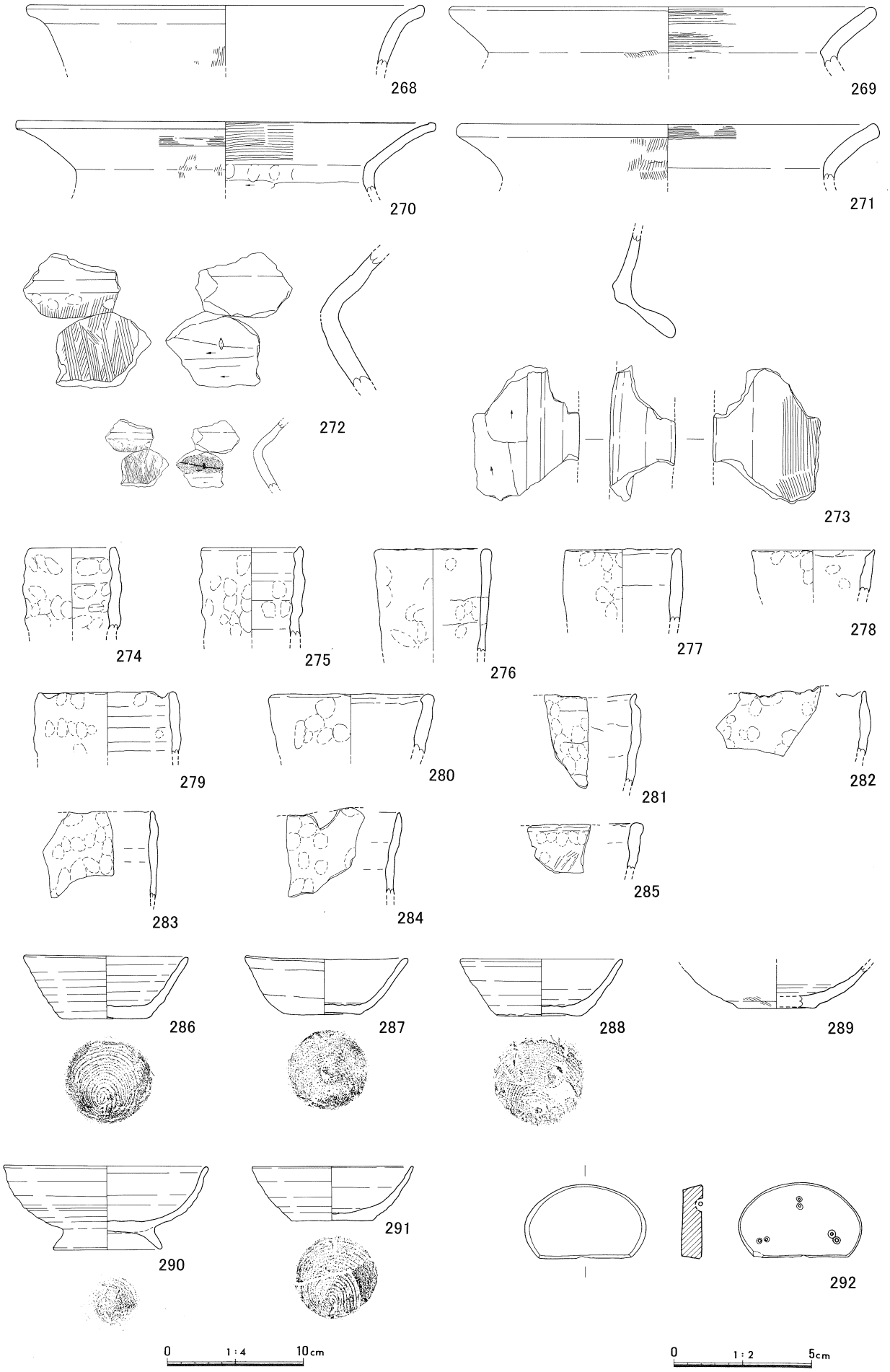
第22図　Ⅰ区　須恵器③（S＝1/4）



第23図　Ⅰ区　須恵器④・灰釉陶器（S＝1/4）



第24図　Ⅰ区　土師器②（S＝1/4）



第25図　Ⅰ区　土師器③・土製品・石器（S＝1/4）

（５）平安時代後半～鎌倉時代の遺構・遺物

ＩＡ～ＩＣ区の調査ではこの時期の遺構・遺物が最も多く、時期を特定できなかった遺構もこの時期のものが多いと推測される。遺構は掘立柱建物や柵列などの柱穴・溝・土坑で、建物の主軸は現在の区画に近い。また、柱穴内で様々な形状・樹種の柱根が多数出土しており、中世の建物を考える上で貴重な資料を得ることができた。遺物はほとんどのグリッドで出土し、各時期の中で最も出土量が多い。種別も土師器・須恵器に加え貿易陶磁・国産陶器・木製品など豊富である。

参考文献

7　島根県教育委員会　「大屋敷遺跡」『北松江幹線・松江連絡線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』1987

8　島根県教育委員会　「天満谷遺跡」　７に同じ

9　島根県教育委員会　「門生黒谷Ⅱ遺跡」『門生黒谷Ⅰ遺跡・門生黒谷Ⅱ遺跡・門生黒谷Ⅲ遺跡』　1998

10　島根県教育委員会　『馬場遺跡』　2001

11　松江市教育委員会　「的場遺跡」『松江北東部遺跡発掘調査報告書』　1999

12　浜田市教育委員会　『横路遺跡（土器土地区）』　1998

13　浜田市教育委員会　『横路遺跡（原井ヶ市地区）』　1998

14　仁摩町教育委員会　「白石遺跡」『仁摩健康公園造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』　1989

15　仁摩町教育委員会　『清石遺跡外発掘調査報告書』　1998

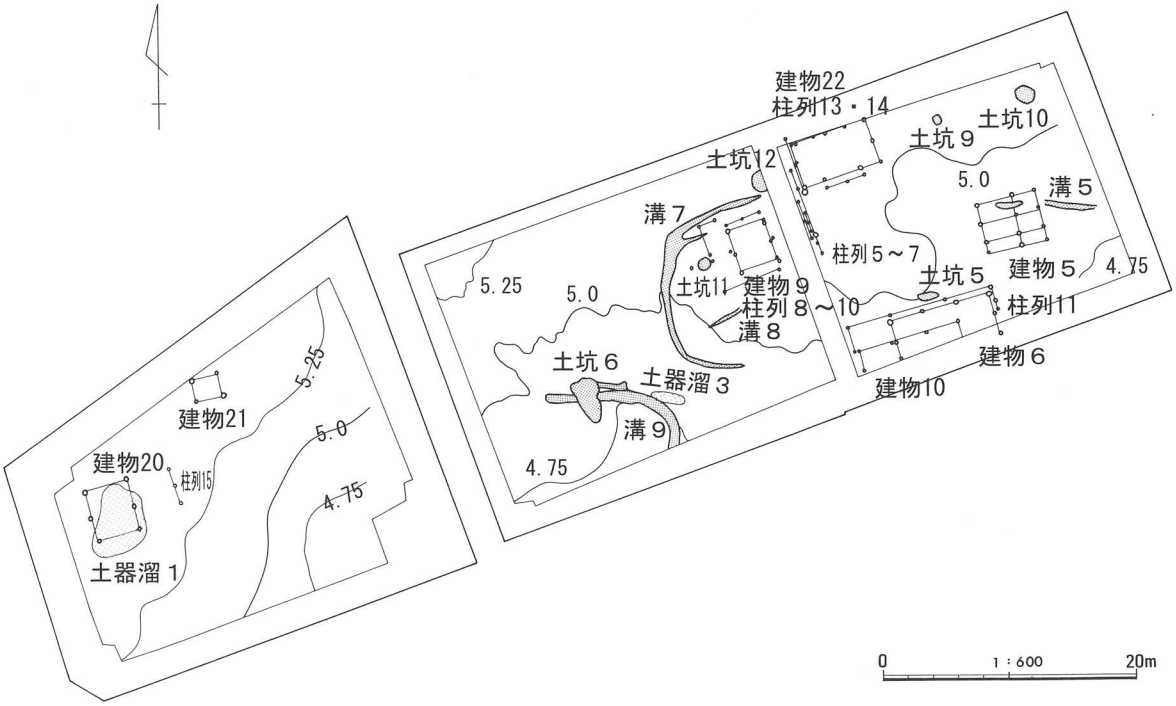
16　山口県教育委員会　『船頭遺跡』山口県埋蔵文化財調査報告第172集　1994

17　大宰府市教育委員会　『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』　2000

18　安城市歴史博物館　『愛知の中世陶器　－渥美・常滑・瀬戸－』　1996

19　広江耕史　「島根県における中世土器について」『松江考古』第８号　松江考古談話会　1992

20　山陰考古学研究集会　「山陰における中世前期の貿易陶磁」『第26回　山陰考古学研究集会資料』　1998



第26図　Ｉ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺構（Ｓ＝1/600）

建物20・柱列15（第27図）

ＩＢ区の西側で検出した１間×２間の掘立柱建物である。北東に位置するＰ48内で12世紀後半頃の土師器皿が出土した。建物の約3.6ｍ東で検出した柱列15は、位置関係から建物21に伴うものと判断した。

第16表　青木遺跡　建物20　計測表

規模			梁行き				桁行き			
			1間				2間			
主軸			N－16°－W							
穴	番号		P48	P230	P168	P192	P193	P67	P237	P156
穴	平面規模（cm）		31×30	33×26	27×25	23×22	30×22	34×30	21×14	33×25
穴	標高（m）	上面	5.40	5.29	5.33	5.37	5.25	5.33	5.20	6.28
穴	標高（m）	下面	4.98	5.06	5.05	5.14	4.99	4.98	5.01	4.94
柱間距離（cm）			P48－P230	P230－P168	P148－P192	P230－P193	P168－P67	P192－P237	P193－P156	
			340	350	208	226	224	194	188	
			P192－P193	P193－P67	P237－P156					
			364	338	348					

第17表　Ｉ区建物20出土遺物観察表

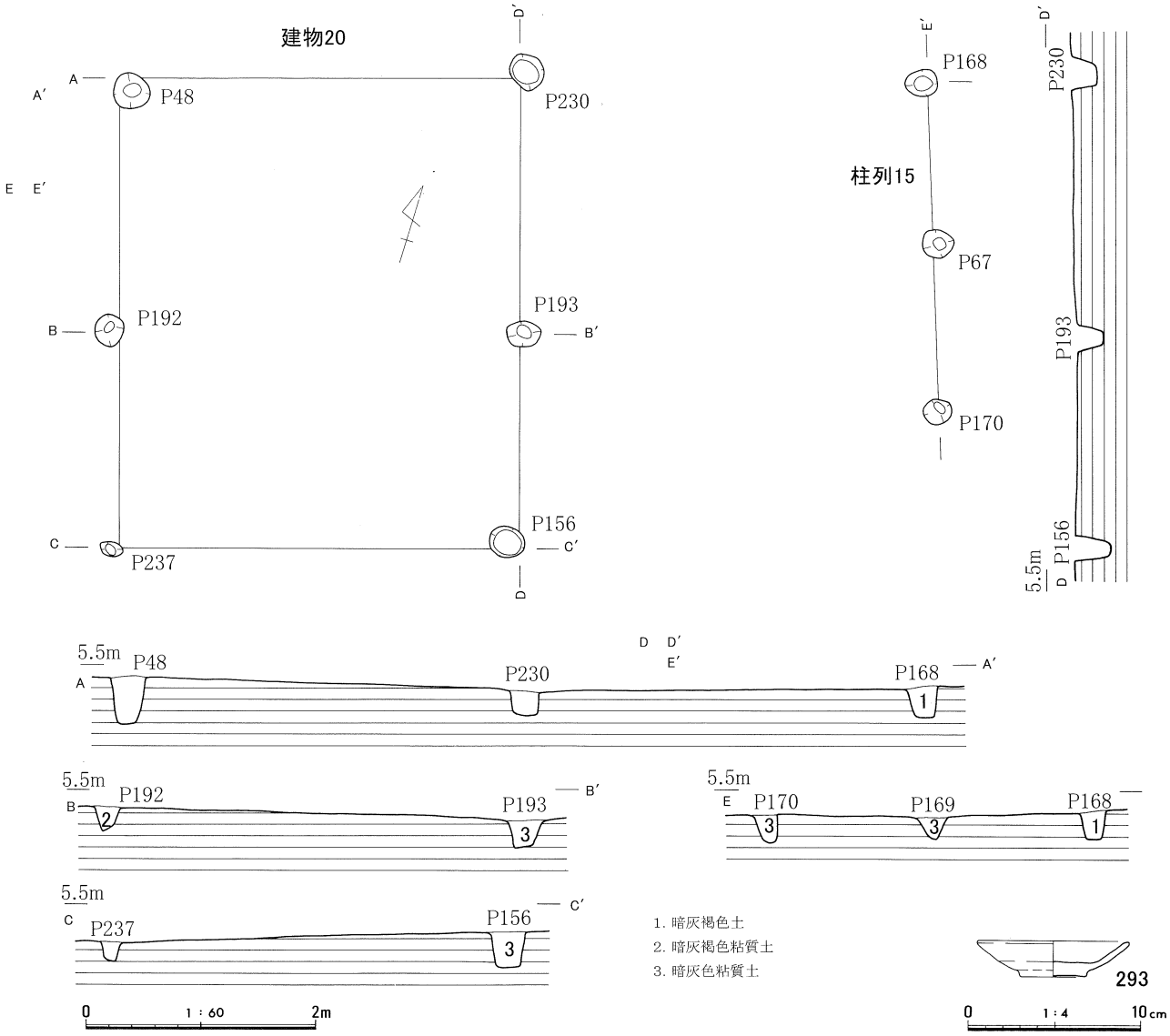
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	寸法（cm） 底径	寸法（cm） 器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
293	27	86	中世土師器	皿	P48		(8.6)	(3.9)		体部と底部の段に稜がつく	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1～2㎜の砂粒多量	内・外：鈍い黄橙色(10YR 7/3)～褐灰色(10YR6/1)	

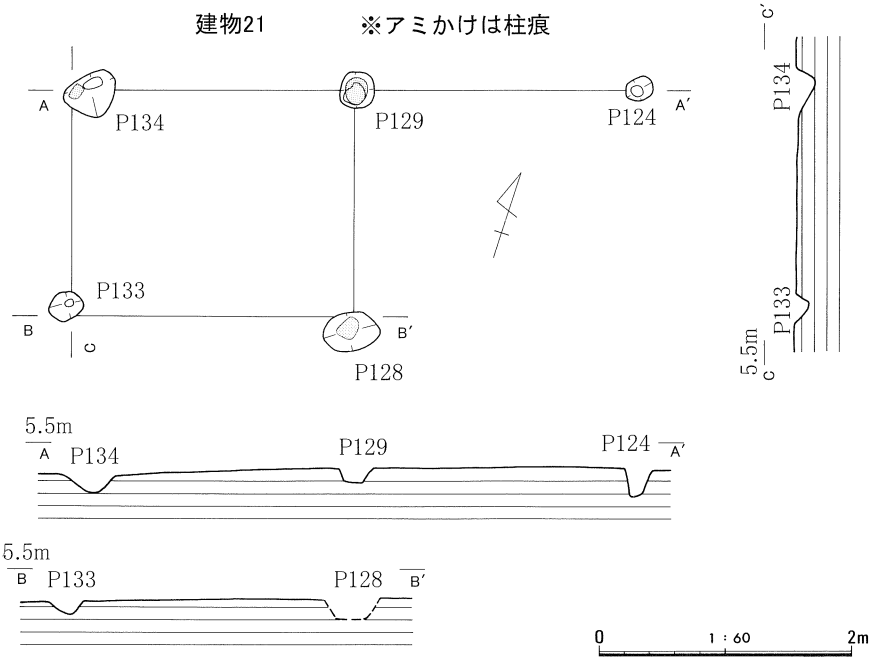
建物21（第27図）

ＩＢ区の北側Ｇ10グリッドで検出した１間×１間の掘立柱建物である。Ｐ128・129・134では柱痕を確認した。建物20との位置関係や柱穴内の遺物から同時期の建物と判断した。Ｐ129・134の延長上の同じ間隔でＰ124を検出したので、建物はさらに東に続いていた可能性がある。

第18表　青木遺跡　建物21　計測表

規模			梁行き		桁行き	
			1間		1間	
主軸			N－18°－W			
穴	番号		P133	P134	P129	P128
穴	平面規模（cm）		28×23	45×35	30×30	45×30
穴	標高（m）	上面	5.26	5.25	5.30	5.27
穴	標高（m）	下面	5.14	5.11	5.18	
柱間距離（cm）			P134－P129	P129－P128	P128－P133	P133－P134
			210	200	220	180





第27図　Ⅰ区　建物20・21、柱列15（S＝1/60）

建物５（第28図）

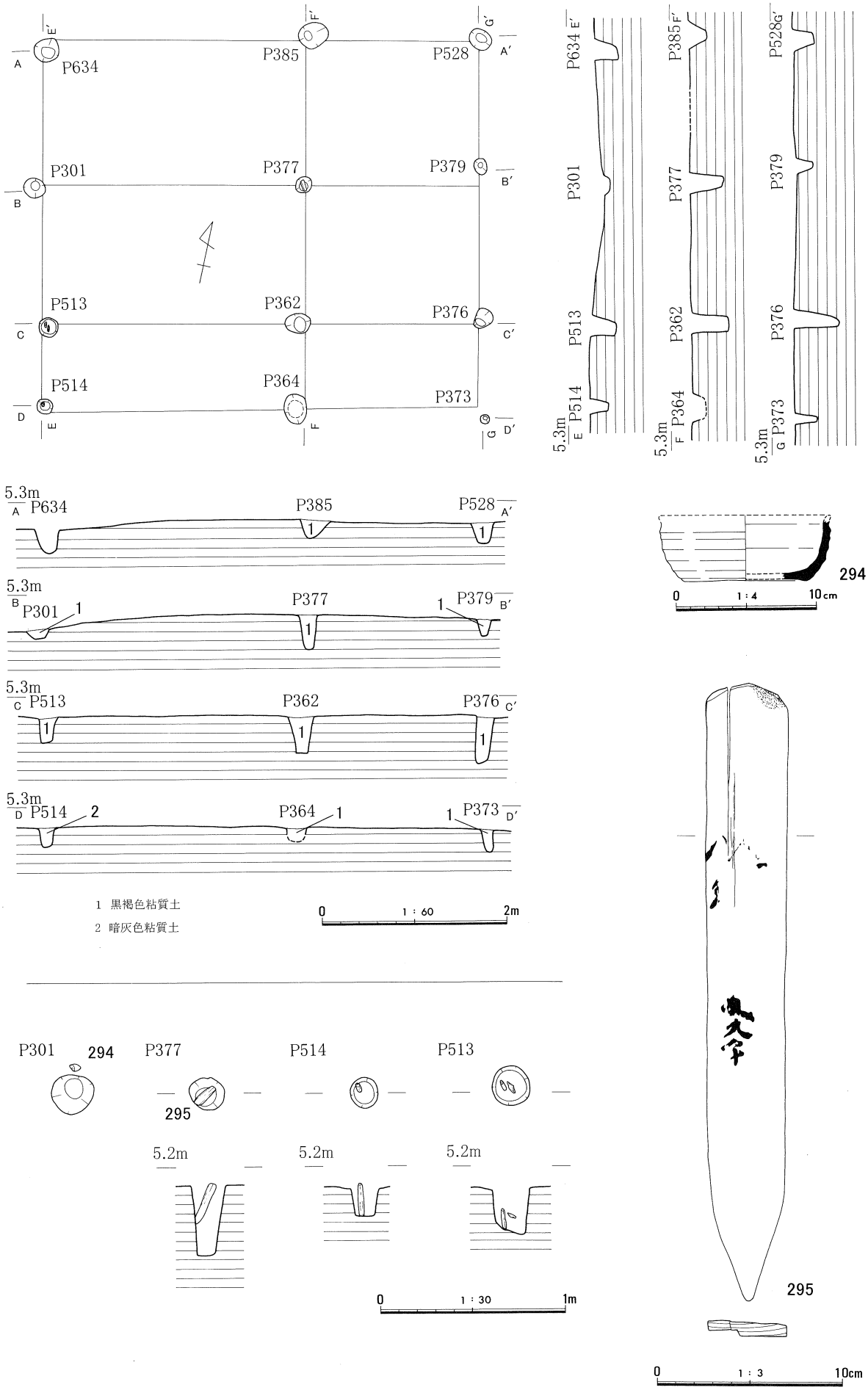
ＩＣ区東のＦ16～17グリッドで検出した２間×３間の掘立柱建物である。東側の柱の並びは、中央の並びと間隔が近く、他の並びと柱の位置がややずれている。建物の柱ではなく建物に伴う柵列等の可能性も考えられる。Ｐ513から12世紀後半頃の土師器坏が出土している。Ｐ377では呪符木簡が出土した。上部は丸く加工し下端を尖らせている。中央上よりに墨書の痕跡があるが判読できなかった。下よりには「□九八十」と読める墨書がある。この部分より下は表面の残りが良く、地中に埋められていたためと考えられる。

第19表　青木遺跡　建物５　計測表

規模			梁行き			桁行き		
			２間			３間		
主軸			N－12°－W					
穴	番号		Ｐ634	Ｐ385	Ｐ528	Ｐ301	Ｐ377	Ｐ379
	平面規模（cm）		30×28	32×25	25×23	25×23	19×17	17×15
	標高（m）	上面	5.00	5.09	5.06	5.09	5.08	5.04
		下面	4.76	4.89	4.82	4.83	4.70	4.84
	番号		Ｐ513	Ｐ362	Ｐ376	Ｐ514	Ｐ364	Ｐ373
	平面規模（cm）		35×24	30×22	22×19	18×18	33×19	11×10
	標高（m）	上面	5.08	5.07	5.08	5.07	5.07	5.05
		下面	4.78	4.67	4.56	4.87		4.81
柱間距離（cm）			Ｐ634－Ｐ385	Ｐ385－Ｐ528	Ｐ634－Ｐ301	Ｐ385－Ｐ377	Ｐ528－Ｐ379	Ｐ301－Ｐ377
			280	188	148	166	140	290
			Ｐ377－Ｐ379	Ｐ301－Ｐ513	Ｐ377－Ｐ362	Ｐ379－Ｐ376	Ｐ513－Ｐ362	Ｐ362－Ｐ376
			190	154	150	172	272	198
			Ｐ513－Ｐ514	Ｐ362－Ｐ364	Ｐ376－Ｐ373	Ｐ514－Ｐ364	Ｐ364－Ｐ373	
			82	92	104	276	204	
柱痕	Ｐ№		513	514				
	規模（cm）	長						
		幅						

第20表　Ｉ区建物５出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
294	28	86	須恵器	坏	P301			(9.0)		体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	密	内： 外：	
295	28	86		呪符木簡			長：33.3	幅：4.4	厚：0.8	下部を尖らせる。「□九八十」？の墨書あり。				スギ



第28図　Ⅰ区　建物５（S＝1/60）

建物６・柱列11（第29図、写真図版29）

ＩＣ区東のＧ16～17グリッドで検出した２間×３間の掘立柱建物である。桁行きの柱間は約９尺、梁行きは約11尺で中間に小規模な柱穴を検出している。Ｐ311・573では柱根が残存しており、Ｐ573と切り合うＰ674上層で土師器皿が出土した。柱穴内から12世紀後半頃の土師器坏が出土している。また、建物６の周囲で検出した柱列11は、建物６に伴うものと判断した。

第21表　青木遺跡　建物６　計測表

規模			梁行き				桁行き			
			２間				３間			
主軸			N－74°－E							
穴	番号		P311	P577	P306	P573	P625	P704	P662	P707
	平面規模（cm）		40×37	27×23	36×33	35×35	22×22	27×19	15×13	
	標高（m）	上面	5.04	5.09	5.07	5.08	4.93	4.88	4.92	4.88
		下面	4.67	4.83	4.80	4.80	4.73	4.63	4.66	4.68
柱間距離（cm）			P707－P662	P662－P311	P311－P577	P577－P306	P306－P573	P573－P625	P625－P704	
			154	168	278	282	266	162	166	
柱痕	PNo.		311	573						
	規模（cm）	長	樹皮のみ	樹皮のみ						
		幅								

第22表　Ｉ区建物６出土遺物観察表

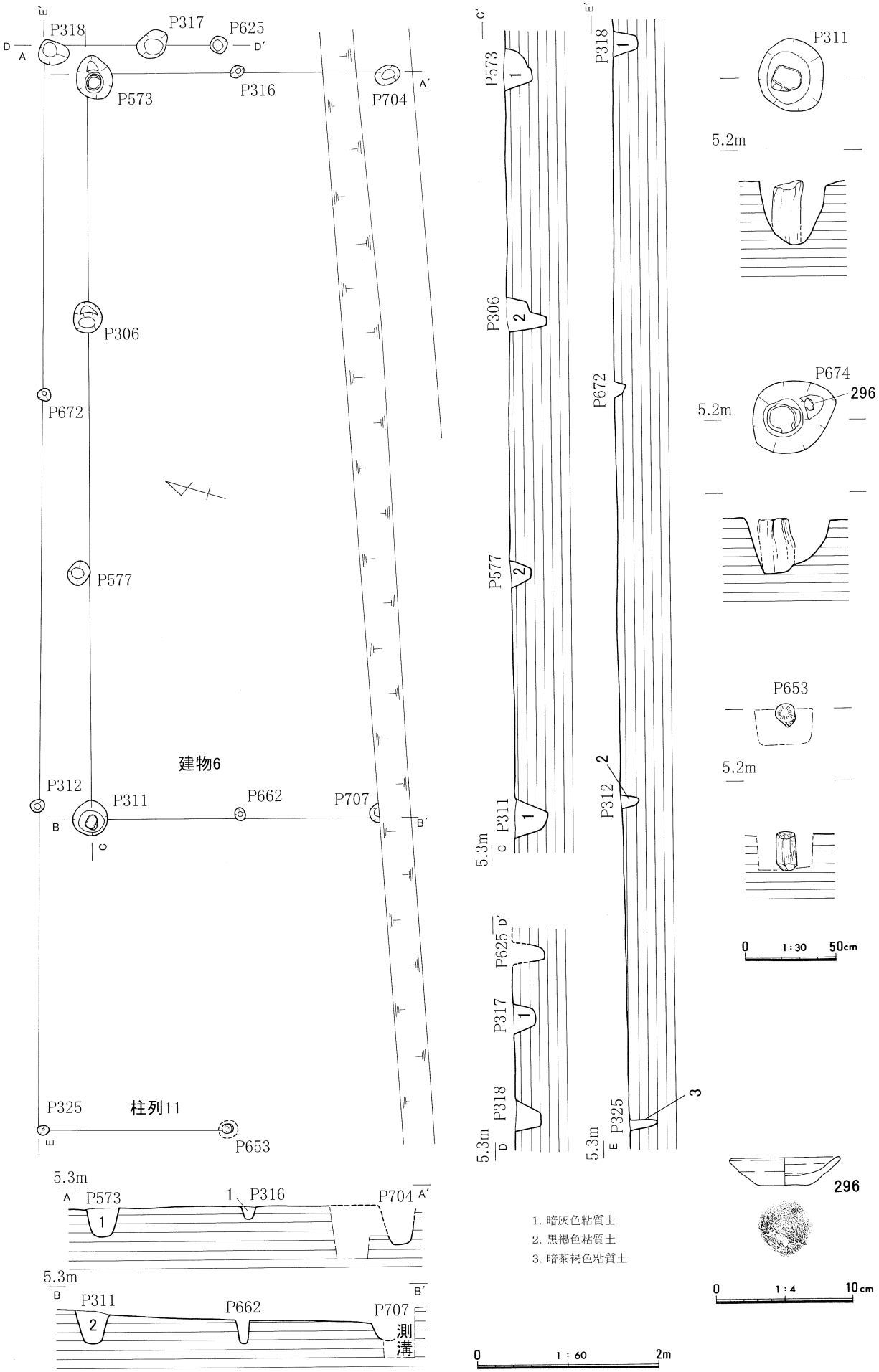
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
296	29	86	中世土師器	皿	P674		8.2	3.6	2.1	体部は直線的に外傾する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1～3㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	

第23表　青木遺跡　柱列11　計測表

規模			２間				３間		
主軸			N－75°－E						
穴	番号		P653	P325	P312	P672	P318	P317	P625
	平面規模（cm）		11×10	13×12	15×14	16×15	36×31	39×31	22×22
	標高（m）	上面	4.88	5.01	5.08	5.01	5.08	5.10	4.93
		下面	4.60	4.71	4.86	4.95	4.79	4.84	4.73
柱間距離（cm）			P653－P325	P325－P312	P312－P672	P672－P318	P318－P317	P317－P625	
			205	360	460	390	115	70	
柱痕	PNo.		653						
	規模（cm）	長	20						
		幅	長10　短９						

建物10（第30図）

建物６と一部重複する位置で検出した１間×３間以上の掘立柱建物である。Ｐ656・657・661は柱根のみ確認し、堀方は検出できなかった。建物６を南西側にずらした位置で検出し、ほぼ同じ規模・主軸であることから、前後関係は不明だが連続する時期の建物と考えられる。



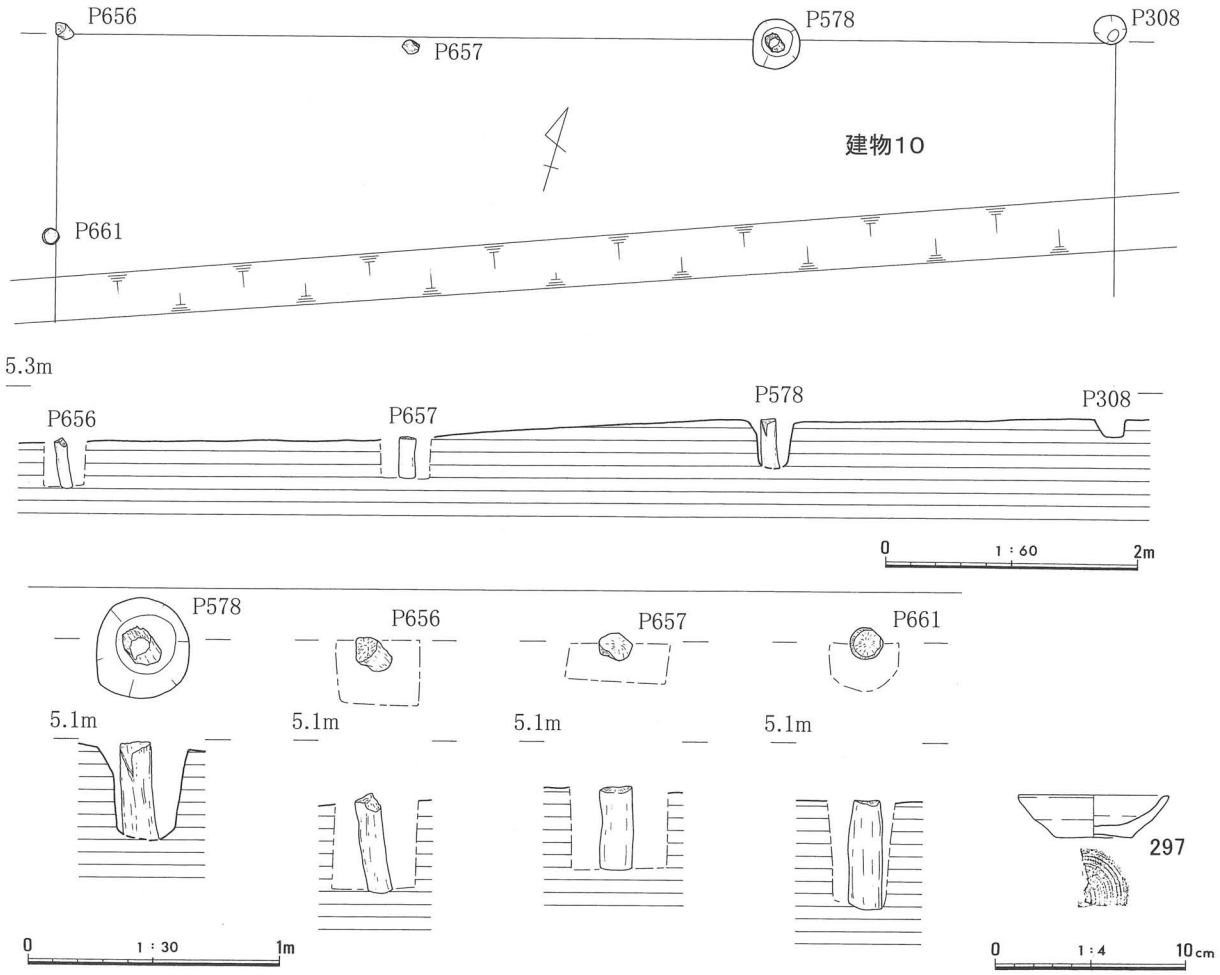
第29図　Ⅰ区　建物6、柱列11（S＝1/60）

第24表　青木遺跡　建物10　計測表

規模			梁行き			桁行き	
			1　間			3　間	
主軸			N－74°－E				
穴	番号		P661	P656	P657	P578	P308
	平面規模（cm）		15×12	12×9	15×12	28×25	25×20
	標高（m）	上面			4.90	5.07	5.09
		下面				4.90	4.97
柱間距離（cm）			P661－P656	P656－P657	P657－P578	P578－P308	
			170	284	288	270	
柱痕	P№		661	656	657	578	
	規模（cm）	長	26	37	30		
		幅	長15短12	長10短10	長15短12		

第25表　Ｉ区建物10出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
297	30	86	中世土師器	Ⅲ	P578（建物10）		(7.8)	(4.2)	2.5	体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒多量	内：灰黄色（2.5Y6/2） 外：灰黄色（2.5Y7/2）	



第30図　Ｉ区　建物10（Ｓ＝1/60）

建物22・柱列13・14（第31図、写真図版30）

ＩＣ区東のＥ15・16～Ｆ15・16グリッドで検出した２間×３間の掘立柱建物である。Ｐ304・699の上面で土師器の皿が天地逆の状態で出土した。また、建物範囲内の北東部分で浅い窪み（Ｐ303）から器高の低い坏が出土している。これらの土師器から建物６の時期はおよそ12世紀後半～13世紀頃と考えられる。ほとんどの柱穴は５ｂ層掘削後に検出したが、柱穴の深さや柱穴に伴う遺物のレベルから、本来は５ｂ層上に建てられた建物と考えられる。建物22の南側で検出した柱列13は、位置関係から建物22に関連するものと判断した。建物の西側で検出した柱列14は位置が近すぎるので、建物22の立て替えに関係するものかもしれない。

第26表　青木遺跡　建物22　計測表

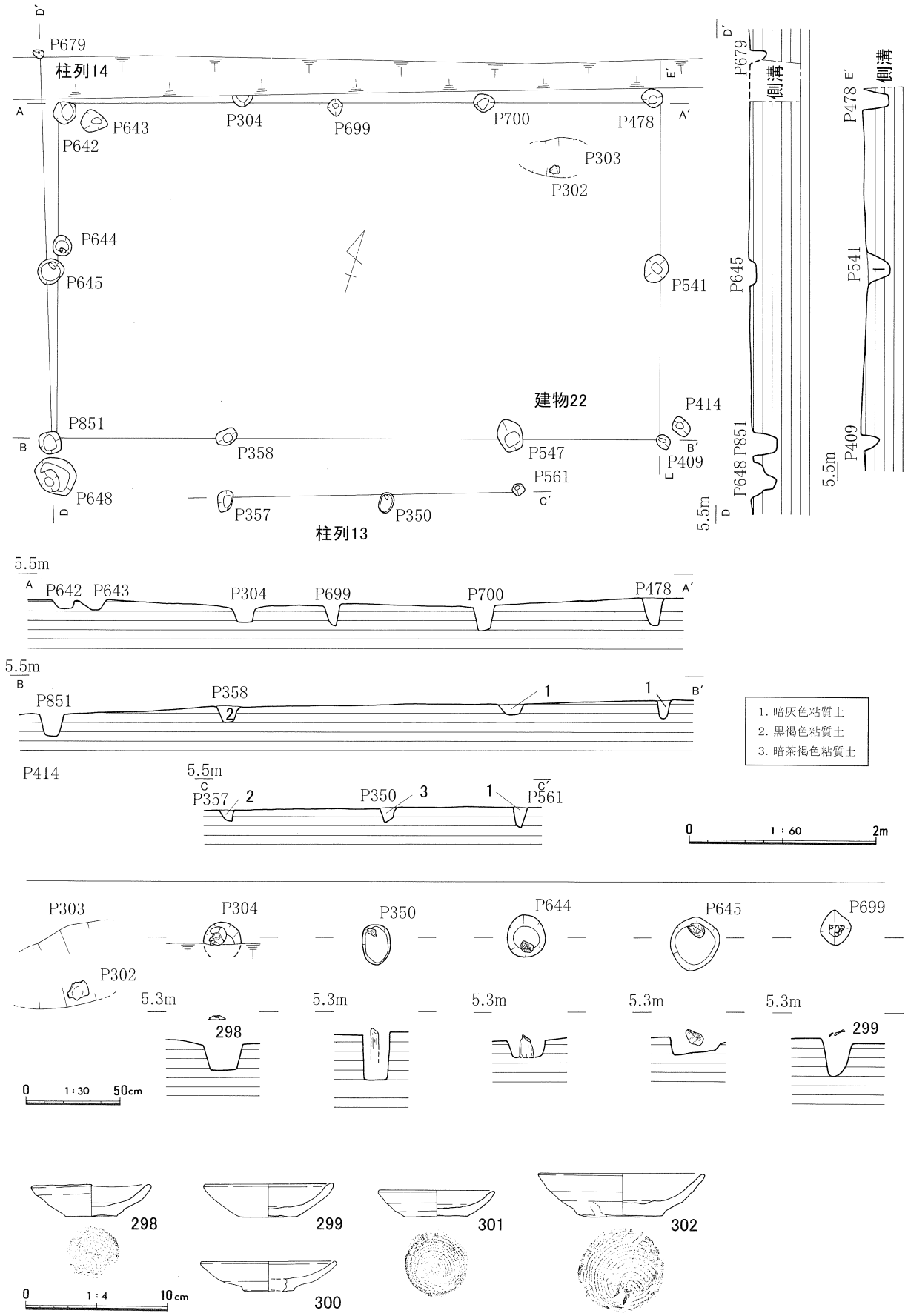
規模			梁行き					桁行き				
			２間					３間				
主軸			N－73°－E									
穴	番号		P642	P304	P700	P478	P541	P409	P547	P358	P851	P644
	平面規模（cm）		27×24		24×22	22×22	30×25		36×25	23×20		10×6
	標高（m）	上面	5.22		5.17	5.24	5.18	5.26	5.22	5.19		
		下面	5.14		4.90	4.96	4.93	5.05	5.08	5.01		
柱間距離（cm）			P642－P304	P304－P700	P700－P478	P478－P541	P541－P409	P409－547	P547－P358	P358－P851	P851－P644	PP644－P642
			190	260	184	180	185	160	300	195	210	150
柱痕	PNo.		645									
	規模（cm）	長										
		幅										

第27表　青木遺跡　柱列13・14　計測表

規模			２間			２間		
主軸			N－72°－E			N－19°－W		
穴	番号		P357	P350	P561	P679	P645	P851
	平面規模（cm）		24×20	17×16	15×12	12×8	10×8	
	標高（m）	上面	5.17	5.19	5.21	5.14		
		下面	5.05	4.99	4.99	4.96		
柱間距離（cm）			P357－P350	P350－P561		P679－P645	P645－P851	
			170	140		230	235	
柱痕	PNo.					645		
	規模（cm）	長						
		幅						

第28表　Ｉ区建物22出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
298	31	86	中世土師器	皿	P304		8.6	3.8	2.8		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒多量	内：灰白色（2.5Y7/1） 外：灰白色（2.5Y7/1）～黒色（2.5Y2/1）	
299	31	86	中世土師器	皿	×P323 →P699		(9.3)	4.0	2.4	体部は直線的に外傾する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒多量	内・外：橙色（7.5YR7/6）～褐灰色（10YR5/1）	
300	31	86	中世土師器	皿	P699 (→323)		(9.7)	(3.6)	2.15	体部は緩く内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切	径0.5㎜の砂粒少量	内・外：鈍い橙色（7.5YR7/3）～灰褐色(7.5YR4/2)	
301	31	86	中世土師器	皿	P648、P677（建物6）		8.4	4.4	1.9	体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	金雲母多量		
302	31	86	中世土師器	皿	P303、		11.8	4.1	3.1	体部は内彎する	内：回転ヨコナデ 外：回転ヨコナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	



第31図　Ｉ区　建物22、柱列13・14（Ｓ＝1/60）

建物９・柱列５～11（第32～34図、写真図版30）

ＩＣ区西のＦ14～15グリッドで検出した１間×２間の掘立柱建物である。建物の周囲は柱列に囲まれ、西側に湧水のある土坑11があり、さらにその周りを溝７が廻っている。これら遺構は検出した位置や出土した遺物からほぼ同時期の遺物考えられ、溝７・８と建物９東側の柱列で囲まれた範囲が１セットになっていると考えられる。建物北東の柱は位置的にはＰ801と考えられるが、柱の規模からするとＰ800の可能性もある。同様に南東のＰ786も建物９の柱となる可能性がある。Ｐ779では柱穴の上面で柱を固定するのに使用したと考えられる人頭大の石が出土している。建物９と周辺の柱穴からは多数の柱根が出土した。柱穴埋土は遺構面との区別が困難で、これらの柱根には掘り方を検出できなかったものもある。Ｐ786・789の柱根は下端近くに抉りを廻らせている。また、Ｐ782の西側で自然木（Ｐ790）を検出した。建物９と位置が近すぎるので、建物９とは別時期のものと考えられる。

第29表　青木遺跡　建物９　計測表

規模			梁行き			桁行き		
			１間			２間		
主軸			N－19°－W					
穴	番号		Ｐ779	Ｐ801	Ｐ789	Ｐ795	Ｐ782	Ｐ787
	平面規模（cm）		31×29	12×11	18×11	13×10	25×22	22×16
	標高（m）	上面	5.02	5.05	5.01		4.98	5.00
		下面						
	番号		Ｐ769	Ｐ768	Ｐ784	Ｐ791	Ｐ804	Ｐ802
	平面規模（cm）		23×20	24×24	22×18	8×8	6×4	18×14
	標高（m）	上面	4.95	4.98	5.02			5.07
		下面						
柱間距離（cm）			Ｐ779－Ｐ801	Ｐ779－Ｐ789	Ｐ789－Ｐ782	Ｐ782－Ｐ787	Ｐ801－Ｐ795	Ｐ795－Ｐ787
			295	165	160	305	185	150
柱痕	Ｐ№		789	795	787			
	規模（cm）	長	25	18	38			
		幅	長11.6 短11.4	長18 短12	長12 短10			

第30表　青木遺跡　柱列５・６　計測表

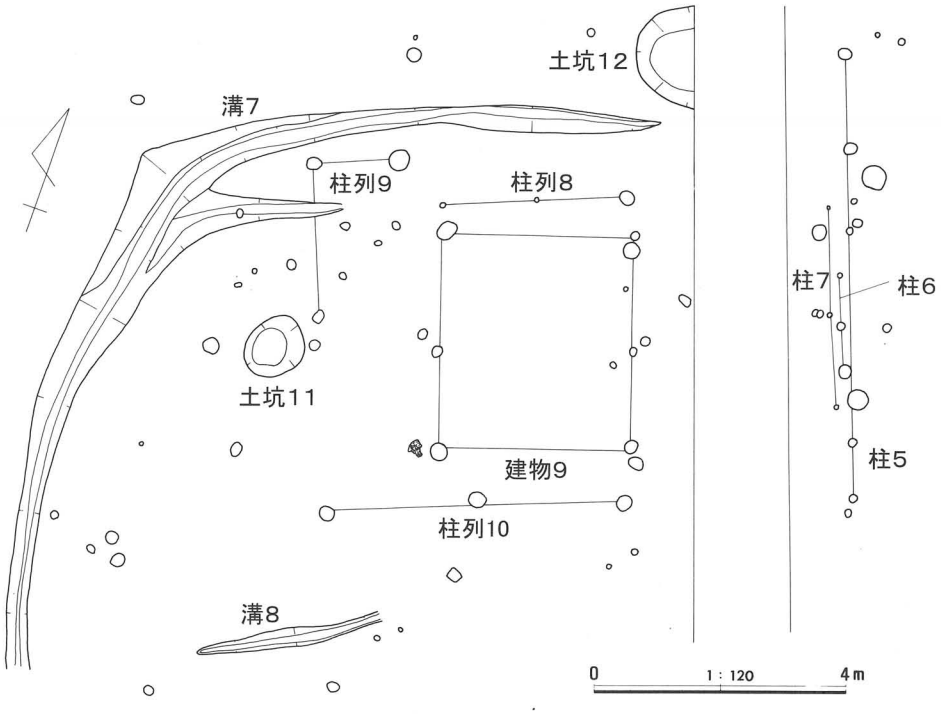
規模			５間						２間		
主軸			N－20°－W						N－22°－W		
穴	番号		Ｐ331	Ｐ332	Ｐ333	Ｐ650	Ｐ647	Ｐ646	Ｐ336	Ｐ337	Ｐ649
	平面規模（cm）		13×12	14×13	32×31	11×8	11×10	7×7	20×19	13×12	10×7
	標高（m）	上面	5.19	5.17	5.19				5.18	5.16	
		下面	4.94	4.92	5.03		4.95		4.90	4.92	
柱間距離（cm）			Ｐ331－Ｐ332	Ｐ332－Ｐ333	Ｐ333－Ｐ650	Ｐ650－Ｐ647	Ｐ647－Ｐ646		Ｐ336－Ｐ337	Ｐ337－Ｐ649	
			95	65	267	130	150		75	80	
柱痕	Ｐ№		650	646					649		
	規模（cm）	長	19	10					25		
		幅	長12 短12	長６ 短６					長９ 短９		

第31表　青木遺跡　柱列７・８　計測表

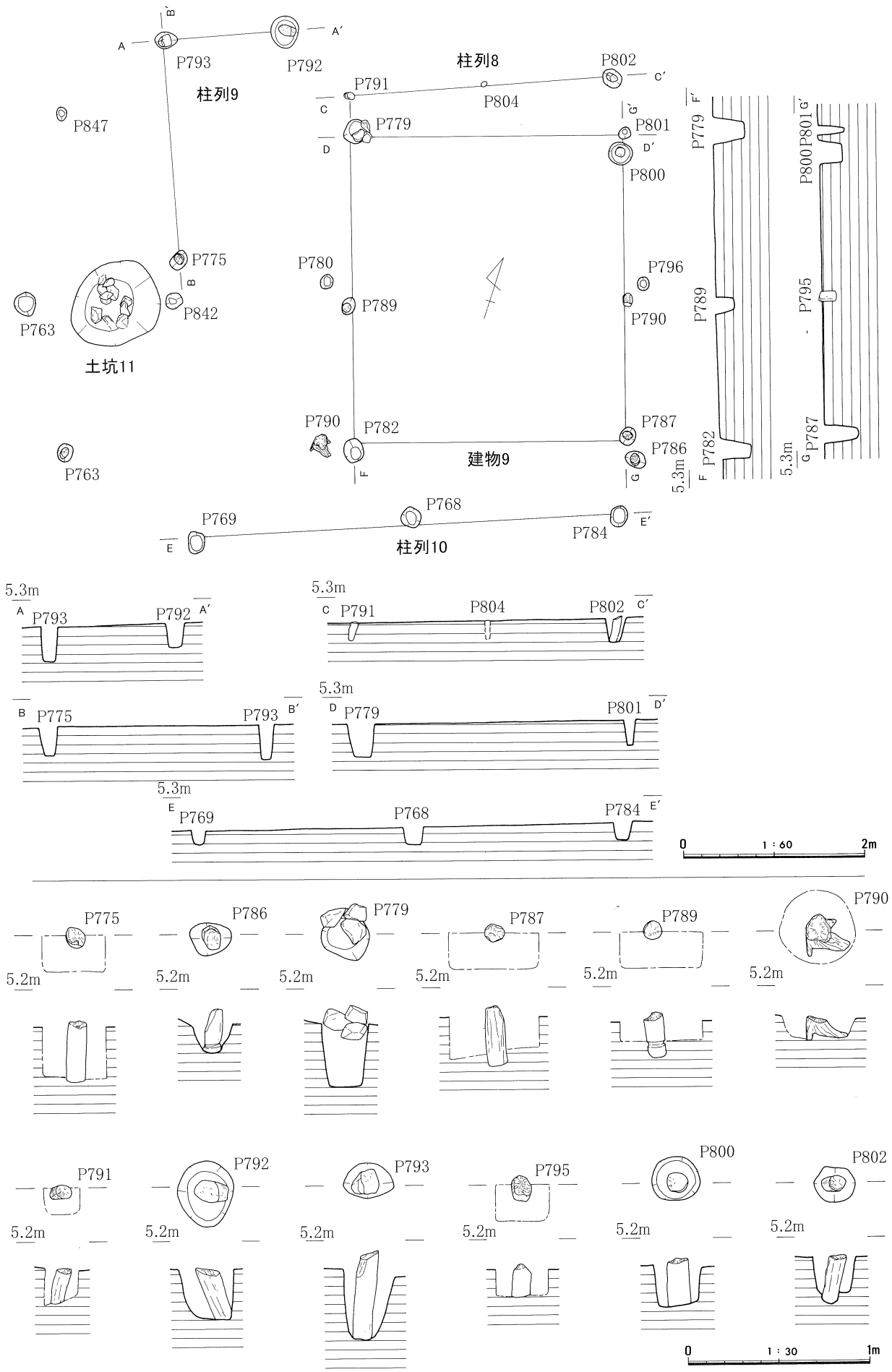
規模			2　間			2　間		
主軸			N－21°－W			N－67°－E		
穴	番号		P 334	P 708	P 651	P791	P804	P 802
	平面規模（cm）		7×5		6×4	8×8	6×4	18×14
	標高（m）	上面	5.18	5.12				5.07
		下面	4.97					
柱間距離（cm）			P334－P708	P708－P651		P791－P804	P804－P802	
			150	170		150	145	
柱痕	P No.		651			791	802	
	規模（cm）	長	6			18	27	
		幅	長3　短3			長8　短8	長9　短8	

第32表　青木遺跡　柱列９・10　計測表

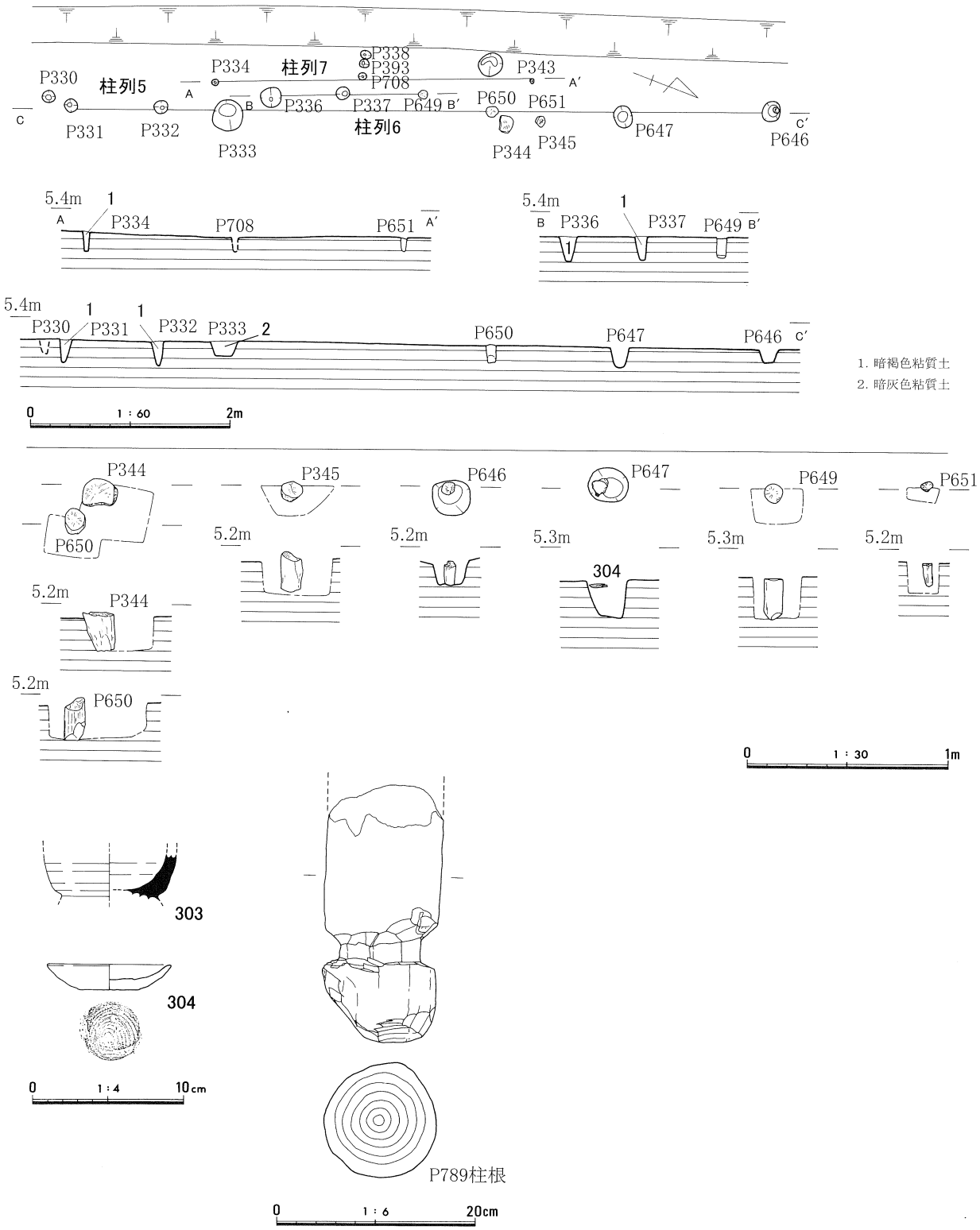
規模			2　間			2　間		
主軸			N－22°－W			N－69°－E		
穴	番号		P 792	P 793	P 775	P 769	P 768	P 784
	平面規模（cm）		13×12	20×16	23×17	23×20	24×24	22×18
	標高（m）	上面	5.03	5.01	5.00	4.95	4.98	5.02
		下面						
柱間距離（cm）			P792－P793	P793－P775		P796－P768	P768－P784	
			135	245		240	230	
柱痕	P No.		792	793	775			
	規模（cm）	長	27	32	33			
		幅	長12　短9	長10　短9	長12　短11			



第32図　Ｉ区　建物９周辺の遺構（Ｓ＝1/120）



第33図　Ⅰ区　建物９、柱列８～10（S＝1/60）



第34図　Ｉ区　柱列５～７（Ｓ＝1/60）、建物９、柱列５出土遺物（Ｓ＝1/4）

第33表　Ｉ区柱列５出土遺物観察表

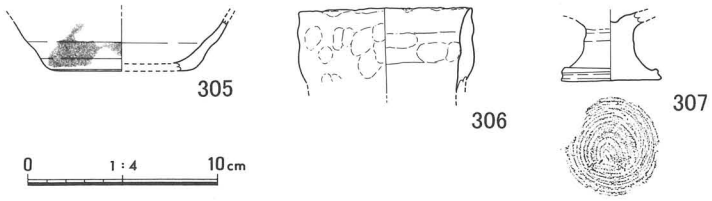
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
303	34	86	須恵器	小型壷	F-15、P647					底部に高台が付く	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1～3mmの砂粒多量	内：灰色（(N5/) 外：灰色（(N5/)	
304	34	86	中世土師器	Ⅲ	P647		(8.2)	4.0	1.7	体部は緩く内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	金雲母多量	内：灰黄褐色（10YR5/2） 外：鈍い橙色（7.5YR6/4）	底部内面中央に煤の付着が認められる

土坑６（第35・36図、写真図版31）

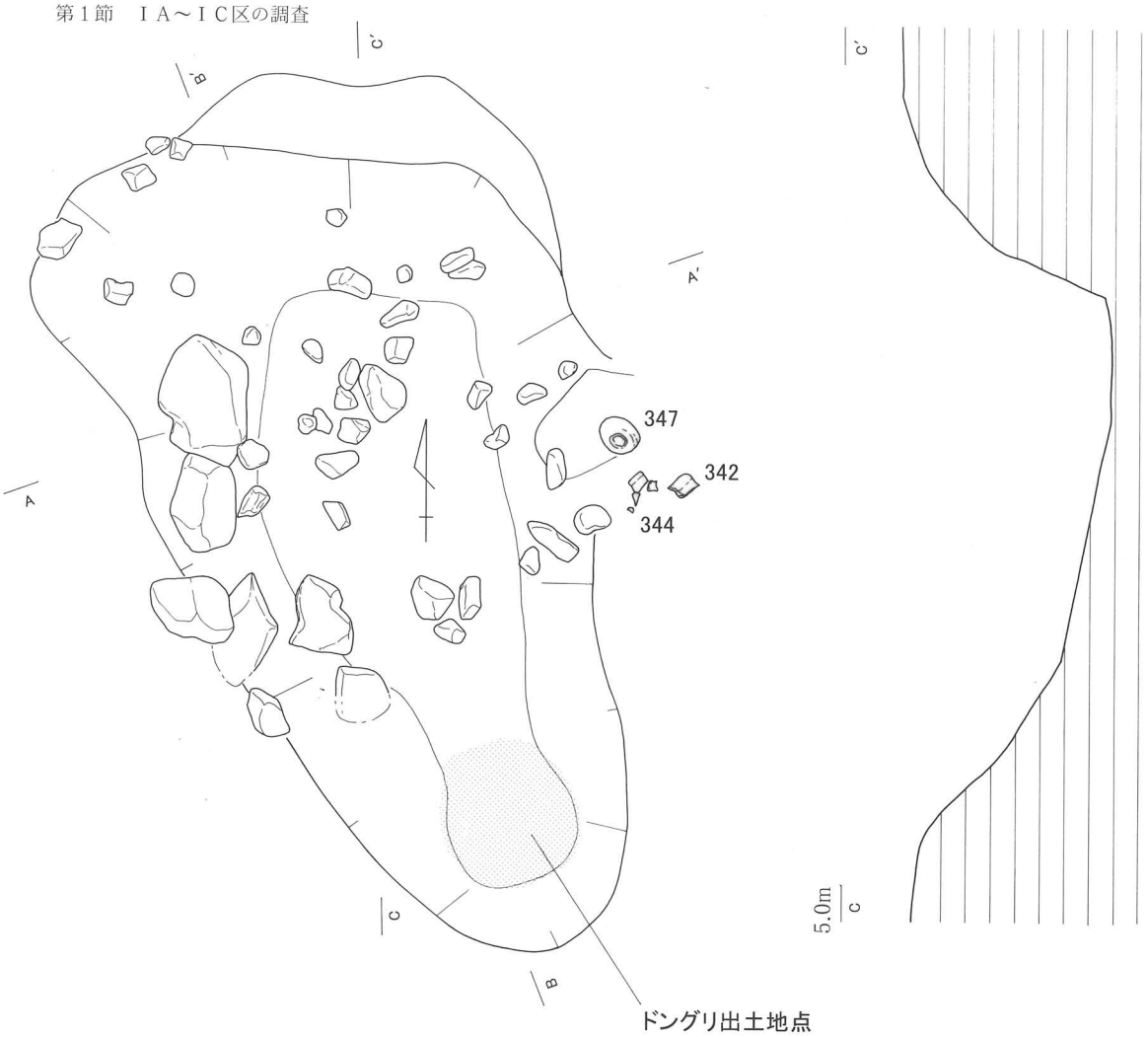
ＩＣ区西のＧ16～Ｈ16グリッドで検出した。規模は検出面で3.7×２ｍ、深さは約0.9ｍである。土坑上面では大小の石が検出され、上層には腐植層が堆積していた。下層には粘質土が堆積し、土坑内からは土師器や須恵器が出土した。また、土坑の南側は丸く南東に突出しており、この部分で約250点のドングリが出土し、その下には植物の繊維が堆積していた。土坑６の時期は高台坏皿（307）の時期からおよそ12世紀後半頃と考えられる。中世のドングリ貯蔵遺構は現在のところ県内で報告されていないが、山口県豊浦町「船頭遺跡」に類例がある。

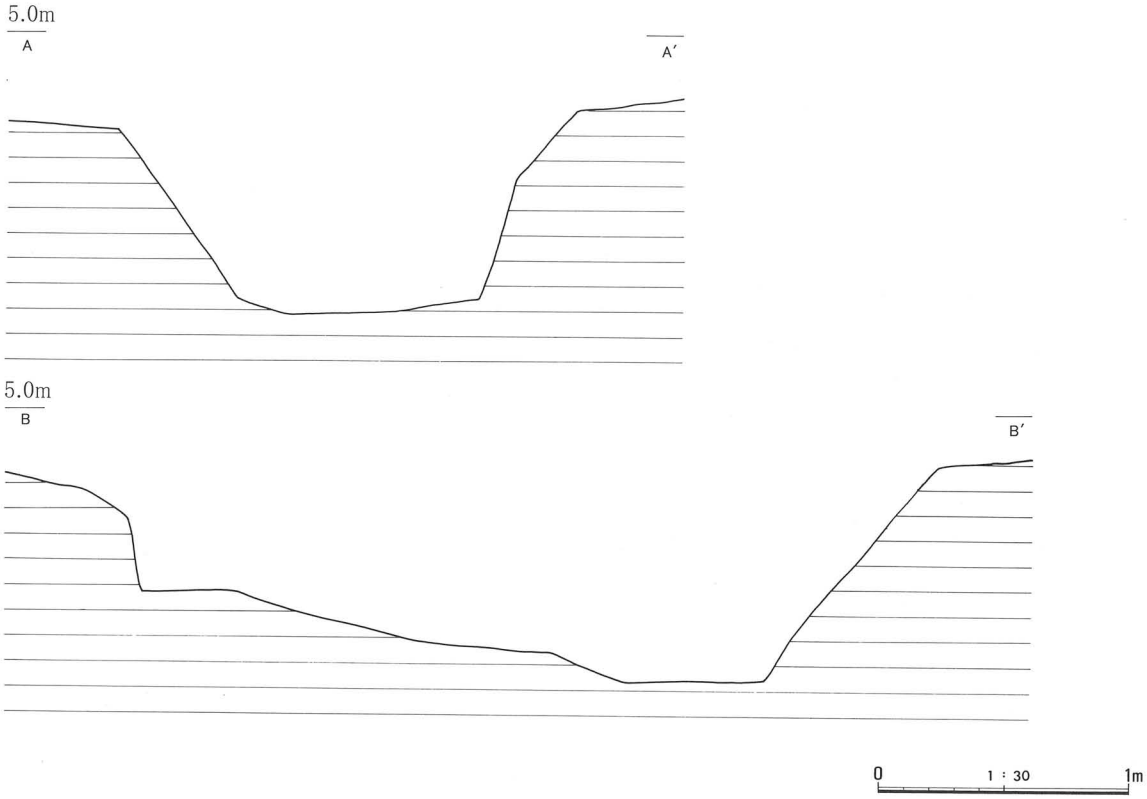
第34表　Ｉ区土坑６出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
305	35	88	土師器	坏	土坑6			(7.4)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：灰褐色(7.5Y R5/2)～黒色 (7.5Y R2/1)	
306	35	88	製塩土器		土坑6		(9.2)			口縁端部は一部面を持つ	内：ヨコナデ、ユビオサエ 外：ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：浅黄橙色(10Y R8/3)～黄灰色 (2.5Y5/1)	
307	35	88	中　世土師器	柱状高台	土坑６	下層		5.3		高台端部は外方に拡張する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、糸切り	径0.5㎜以下の砂粒少量、金雲母多量	内：浅黄橙色(10Y R8/3) 外：浅黄橙色(10Y R8/3)	



第35図　Ｉ区　土坑６出土遺物（Ｓ＝1/4）





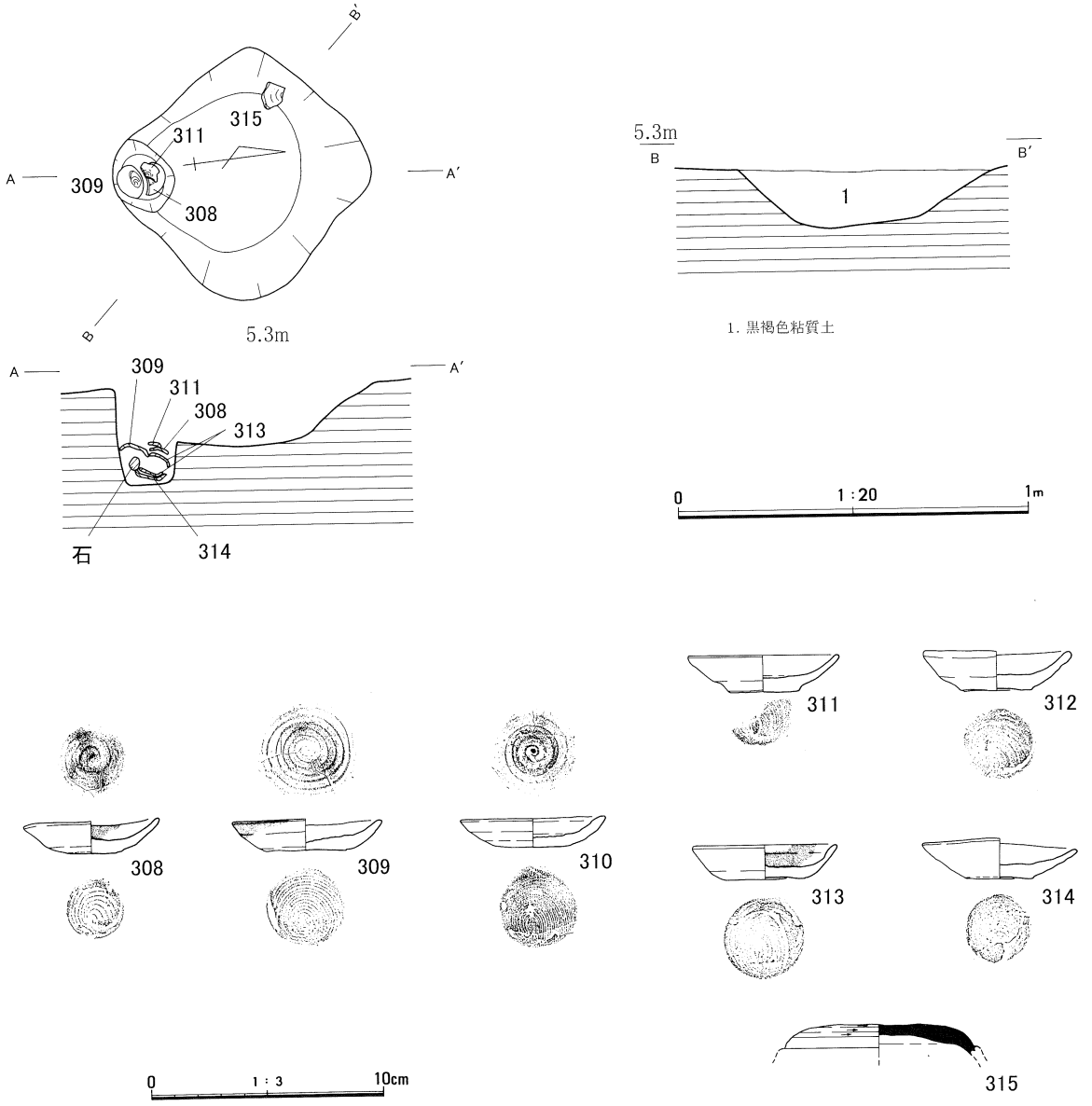
第36図　Ｉ区　土坑６（Ｓ＝1/30）

土坑９（第37図、写真図版32）

ＩＣ区東のＥ16グリッドで検出した。規模は検出面で61×59㎝、深さ約20㎝で、土坑の南側は一段深く、土師器皿が重ねて置かれていた。この部分は別の柱穴の可能性も考えられる。

第35表　Ｉ区土坑９出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
308	37	87	中世土師器	皿	土坑９		7.8	3.4	2.0	内面に回転ナデの痕が残る	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5～1㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色(7.5YR7/4)～黒色(7.5YR2/1) 外：橙色（5YR7/6）	
309	37	87	中世土師器	皿	土坑９		8.6	4.5	1.8	内面に回転ナデの凹凸が残る	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	金雲母多量	内・外：鈍い黄橙色(10YR7/3)～灰黄褐色(10YR5/2)	
310	37	87	中世土師器	皿	土坑９		8.2	4.1	1.7	内面に回転ナデの凹凸が残る	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	金雲母多量	内・外：橙色(7.5YR7/6)～灰褐色(7.5YR5/2)	
311	37	87	中世土師器	皿	土坑９		(8.6)	(4.0)	2.1	体部は緩く内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内・外：浅黄橙色(7.5YR8/4)～褐灰色(10YR6/1)	
312	37	87	中世土師器	皿	土坑９		8.4	3.9	2.3		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5～1㎜の砂粒少量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
313	37	87	中世土師器	皿	土坑９		8.3	4.4	1.9	内面中央が回転ナデにより隆起する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内・外：鈍い橙色(7.5YR7/4)～褐灰色(7.5YR4/1)	
314	37	87	中世土師器	皿	土坑９		8.8	3.8	2.3		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
315	37	88	須恵器	蓋坏	土坑９						内：回転ナデ後ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	径4ｍｍの長石含む	内：灰色（N6/） 外：灰色（N5/）	



第37図　Ｉ区　土坑９（Ｓ＝1/30）

土坑10（第38図、写真図版32）

ＩＣ区東のＥ17グリッドで検出した。規模は検出面で約1.64×1.38m、深さ約45cmである。土坑の中央南東よりの床面で長さ約30cmの石が出土し、その周りで小型の石が出土している。327はＩＤ区遺構外出土の破片と接合した。土坑10の時期はおよそ12世紀後半頃と考えられる。

第36表　Ｉ区土坑10出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
316	38	88	土師器	坏	土坑10		(12.4)	(7.2)	3.9		内：カキメ後ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
317	38	88	須恵器	坏	土坑10		(11.7)	(7.8)	4.5	口縁部は緩く外反する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5～1㎜の砂粒多量	内・外：灰白色(5Y7/1)～黒褐色(2.5Y3/2)	
318	38	88	須恵器	坏	土坑10			(7.6)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰白色(2.5Y7/1) 外：灰白色(2.5Y7/1)	
319	38	88	須恵器	壷	土坑10					口縁端部は上方に屈曲する	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1㎜の砂粒少量	内：青灰色(5B5/1) 外：青灰色(5B5/1)	
320	38	88	製塩土器		土坑10					口縁端部は先細りする	内：ユビナデ、ユビオサエ 外：ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	
321	38	88	土師器	坏	土坑10		(13.0)	(8.2)	3.6		内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)～橙炉(2.5YR6/6)	赤彩
322	38	87	中世土師器	Ⅲ	土坑10		(9.2)	(4.8)	2.0	体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒少量	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：鈍い橙色(7.5YR7/4)	
323	38	87	中世土師器	Ⅲ	土坑10		(9.3)	(4.8)	1.9	体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色(7.5YR8/4) 外：浅黄橙色(7.5YR8/4)	
324	38	88	白磁	碗	土坑10					口縁部は玉縁状である	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜以下の黒色粒子微量	内：(釉)灰白色(5Y7/2) 外：(釉)灰白色(5Y7/2)	Ⅳ類
325	38	88	白磁	碗	土坑10					内面に沈線が廻る	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	径0.5㎜の黒色粒子少量	内：灰白色（5Y8/1） 外：灰白色（5Y7/1）	Ⅳ類
326	38	88	同安窯系青磁	碗	土坑10			(5.1)		体部に5条以上のクシ描き文様を施す	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：(釉)灰オリーブ(5Y6/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)～(釉)灰白色(5Y8/1)	Ⅰ-1b類
327	38	88	褐釉陶器	壷	土坑10						内：回転ナデ 外：不明	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：(釉)灰黄褐色(10YR4/2) 外：灰色(5Y6/1)	Ⅴ類

土坑11（第38図、写真図版33）

ＩＣ区西のＦ14グリッドで検出した。規模は検出面で約1.02×0.87m、深さ約37cmである。土坑下層には黒褐色粘質土が堆積し、長さ20cm前後の石が出土した。また、土坑床面では湧水があった。時期は上層で出土した土師器皿から12世紀前後と考えられる。

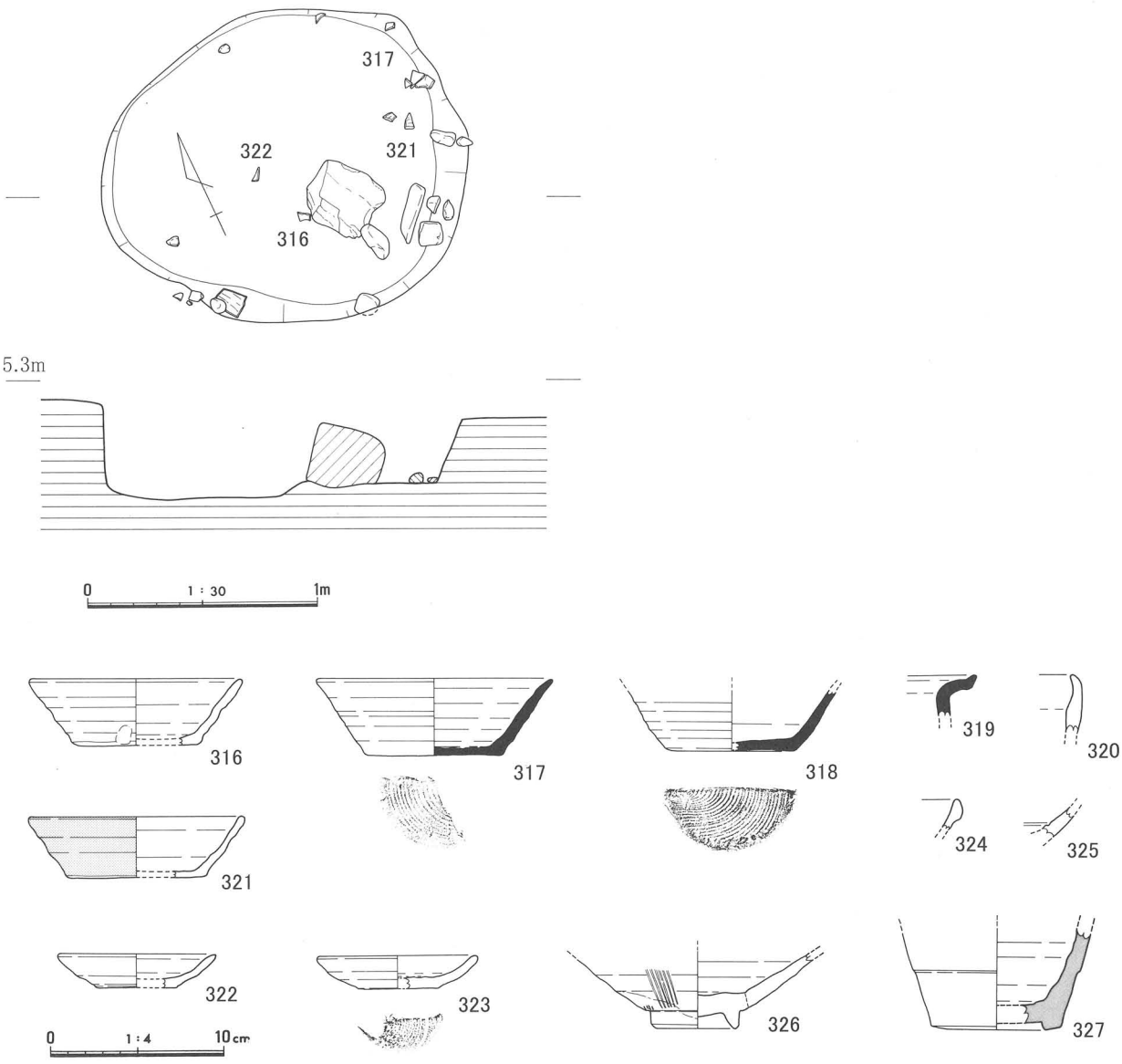
第37表　Ｉ区土坑11出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
328	38	87	中世土師器	Ⅲ	土坑11			(4.2)		体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰黄色（2.5Y7/2） 外：灰黄色（2.5Y7/2）	

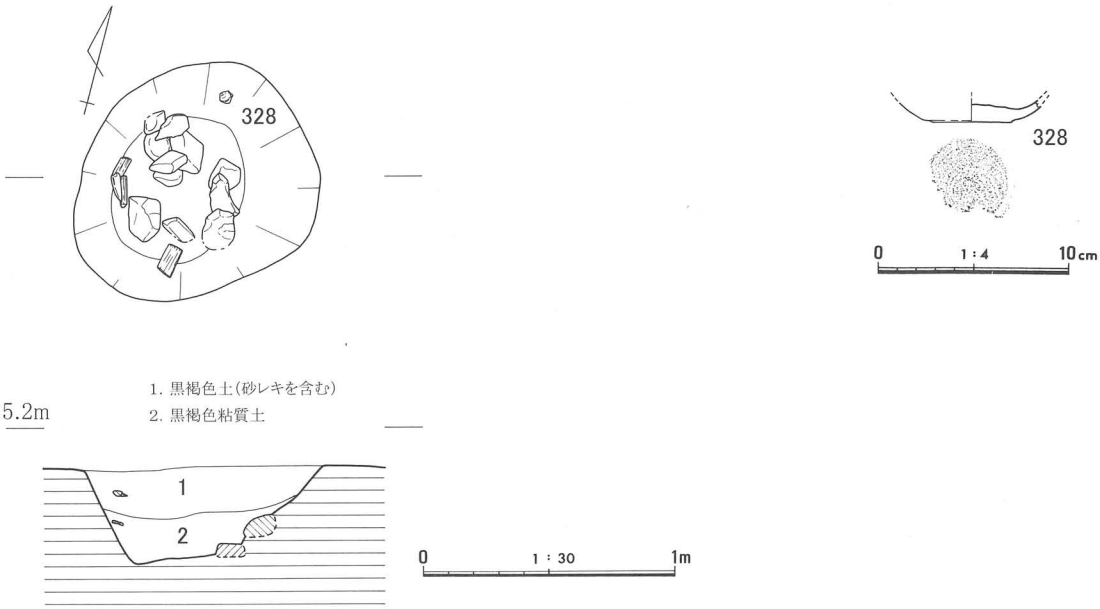
土坑12（第39図、写真図版34）

ＩＣ区西のＦ15グリッドで検出した。規模は検出面で約1.72×1.7m以上、深さは約30cmである。土坑床面では大小の石が出土した。時期は12世紀後半～13世紀頃と考えられる。

土坑10



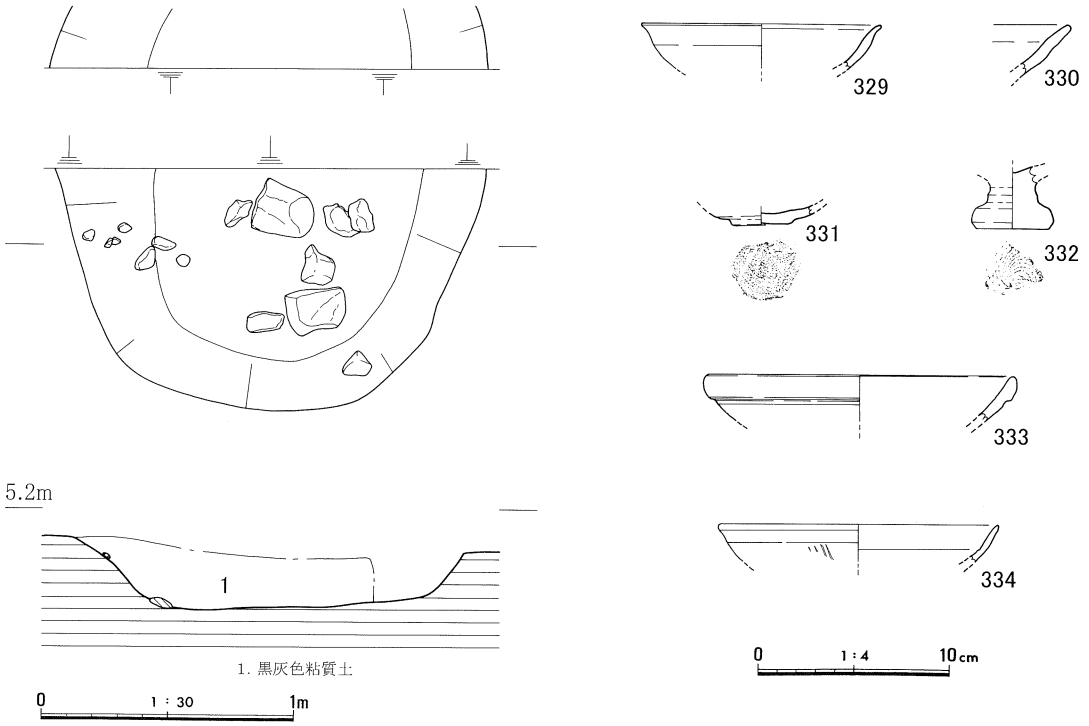
土坑11



第38図　Ⅰ区　土坑10・11（S＝1/30）

第38表　Ｉ区土坑12出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点Gr/遺構	層位	寸法（cm）口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
329	39	88	中世土師器	坏	土坑12		(12.6)			口縁端部は外反する	内：回転ナデ 外：回転ナテ	径0.5㎜の砂粒多量	内・外：灰黄色（2.5Y7/2）～黄灰色（2.5Y4/1）	
330	39	88	中世土師器	坏	土坑12						内：回転ナデ 外：回転ナデ	金雲母多量	内：灰黄色（2.5Y7/2） 外：灰黄色（2.5Y7/2）	
331	39	87	中世土師器	皿	土坑12			(3.1)		体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い褐色(7.5YR6/3) 外：鈍い褐色(7.5YR6/3)	
332	39	88	中世土師器	柱状高台	土坑12					高台端部は外方に拡張する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5～1㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	
333	39	88	白磁	碗	土坑12		(16.2)			口縁部は玉縁	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	黒色粒子少量	内：(釉)灰白色(5Y8/1) 外：(釉)灰白色(5Y8/1)	Ⅳ類
334	39	88	同安窯系青磁	碗	土坑12		(14.8)			混入物は認められない		混入物は認められない	内：(釉)オリーブ黄色(5Y6/3) 外：(釉)オリーブ黄色(5Y6/3)	Ⅰ-1類。



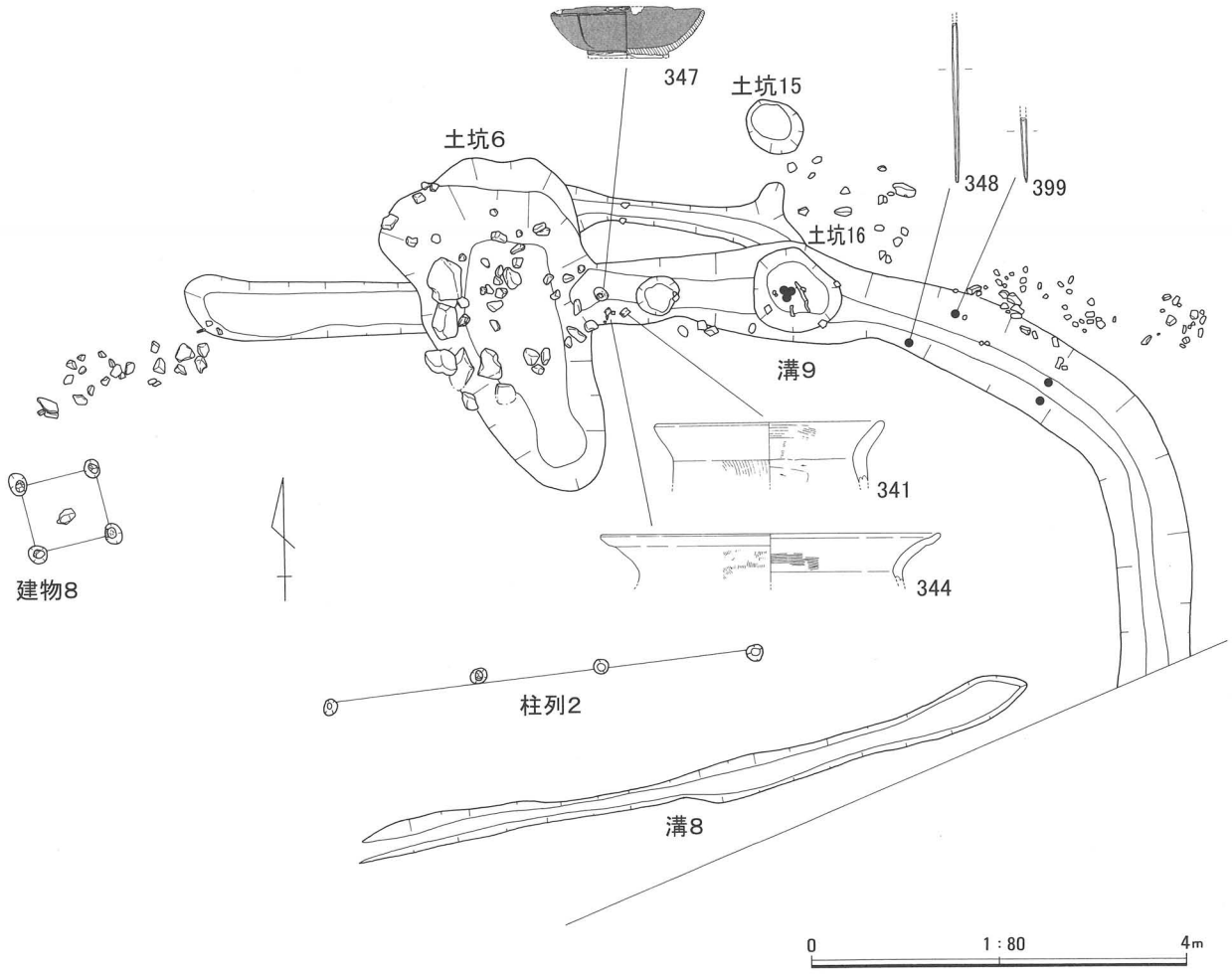
第39図　Ｉ区　土坑12（Ｓ＝1/30）

溝９（第40・41図、写真図版38）

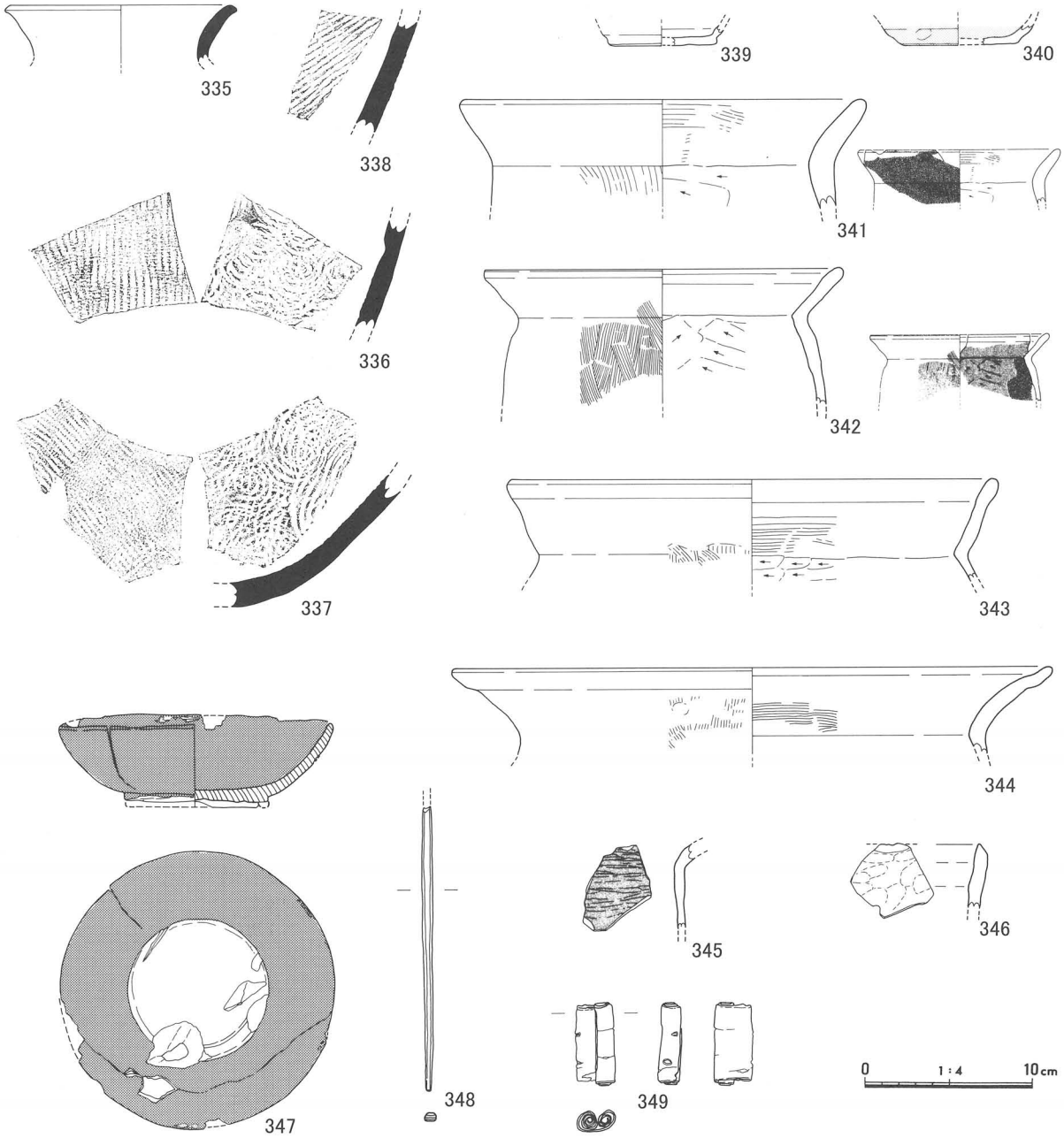
ＩＣ区西のＧ13・14、Ｈ13・14グリッドで検出した溝状遺構で、床面レベルは西側が高く東側で直角に近い角度で南に曲がっている。規模は幅60～90㎝、長さは東西10.4m、南北は検出した範囲で2.8mでさらに調査区の南に続いている。土坑６・土坑16と切り合っているが埋土の区別が困難だったので、遺構の前後関係は判断できなかった。遺物は須恵器・土師器・木製品が出土している。甕**345**は内面を丁寧に磨き、炭素を吸着させている。木製の椀**347**は口径に対し器高が低く、体部と底部の境に段がつく。表面には底部以外に漆が塗られている。箸**348**は丁寧に角を取っており、出土地点が近いので土器溜３で出土した**399**とセットになる可能性がある。溝９内からは平安時代前半の遺物が多く出土し、遺構の軸も他の12世紀頃の遺構と異なり方位に近い。しかし、床面で出土した**347**の形状や、小片だが12世紀頃の土師器坏が出土していることから平安時代後半以降の遺構と考えられる。

第39表　Ⅰ区溝９出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
335	41	88	須恵器	壷	溝9		(14.0)			口縁端部に面を持つ	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：灰色（N5/） 外：灰色（N5/）	
336	41	88	須恵器	甕	溝9						内：同心円文オサエ 外：ヨコハケメ、平行タタキ	径1㎜の砂粒少量	内：灰色（7.5Y6/1） 外：黄灰色（2.5Y6/1）	
337	41	88	須恵器	甕	溝9						内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径0.5～1㎜の砂粒微量	内：灰白色（N7/） 外：灰色（N6/）	
338	41	88	須恵器	甕	溝9						内：ナデ 外：平行タタキ	径0.5㎜の砂粒微量	内：灰色（N4/） 外：灰色（N4/）	
339	41	88	土師器	坏	溝9			(6.4)			内：ハケメ後ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内・外：鈍い黄橙色(10YR7/3)～褐灰色（10YR4/1）	
340	41	88	土師器	坏	溝9			(7.2)			内：カキメ後ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内・外：浅黄橙色(7.5YR8/4)～橙色(5YR6/6)	
341	41	88	土師器	甕	溝9		(24.4)			口縁部は緩く外傾し、胴部は張らない	内：ヨコハケメ後ナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒少量	内：灰黄褐色（10YR6/2） 外：黒色（5Y2/1）	
342	41	88	土師器	甕	溝9		(21.5)			口縁部は直線的に外傾し、端部は外側に面を持つ	内：ヨコナデ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2)～黒色(2.5Y2/11) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
343	41	88	土師器	甕	溝9		(29.4)			口縁部は緩く外傾し、端部は肥厚する	内：ヨコナデ、ヨコハケメ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)～黒色(2.5Y2/1)	
344	41	88	土師器	甕	溝9		(36.0)			口縁端部は内側に屈曲する	内：ヨコナデ、ヨコハケメ 外：ヨコナデ、タテハケメ	径1～2㎜の砂粒多量	内・外：浅黄橙色(10YR8/2)～褐灰色(10YR6/1)	
345	41	88	土師器（黒色土器）	甕	溝9					内面に炭素を吸着させる	内：ヘラミガキ 外：ヘラミガキ	径0.5㎜の砂粒少量	内：黒色（7.5Y2/1）	
346	41	88	製塩土器		溝9						内：ヨコナデ、ナデ 外：ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：橙色（5YR7/6） 外：橙色（5YR7/6）	
347	41	90	木製品	椀										ケヤキ
348	41	90	木製品	箸										スギ
349	41	90	樹皮											



第40図　Ⅰ区　溝９（S＝1/80）



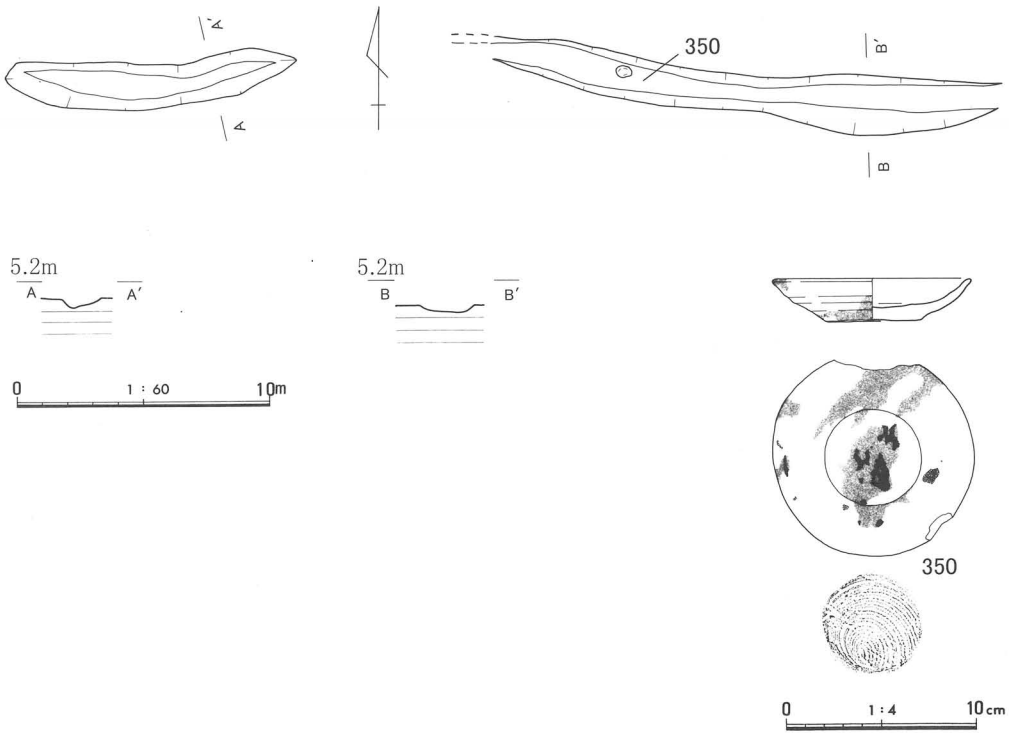
第41図　Ｉ区　溝９出土遺物（Ｓ＝1/4）

溝５（第42図）

ＩＣ区東のＦ17グリッドで検出した。東西に分かれて検出したが溝の方向や埋土の状況から本来は一連の溝と考えられる。溝の方向はほぼ東西軸で、規模は検出面で幅35～50㎝、長さは東西合わせて約８ｍである。溝の中央東よりで土師器皿350が出土した。外面に炭化物が付着した部分があり、灯明皿に使用したものと考えられる。時期は12世紀後半頃と思われる。

第40表　Ｉ区溝５出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
350	42	89	中世土師器	皿	溝5		10.4	5.1	2.3		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	雲母多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い橙色(7.5YR7/4)～黒褐色(7.5YR3/1)	



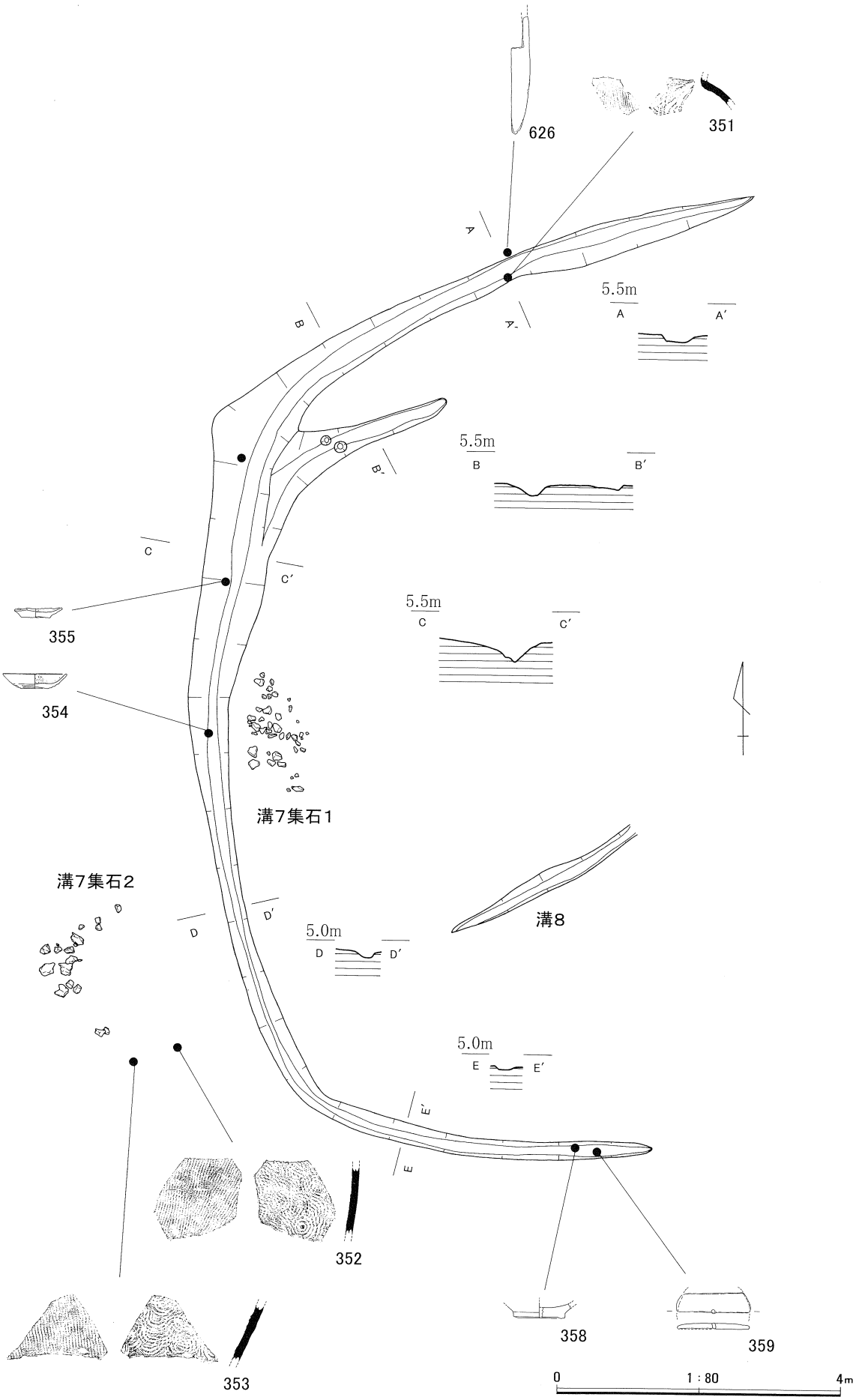
第42図　Ｉ区　溝５（Ｓ＝1/60）

溝７（第43～44図、写真図版35）

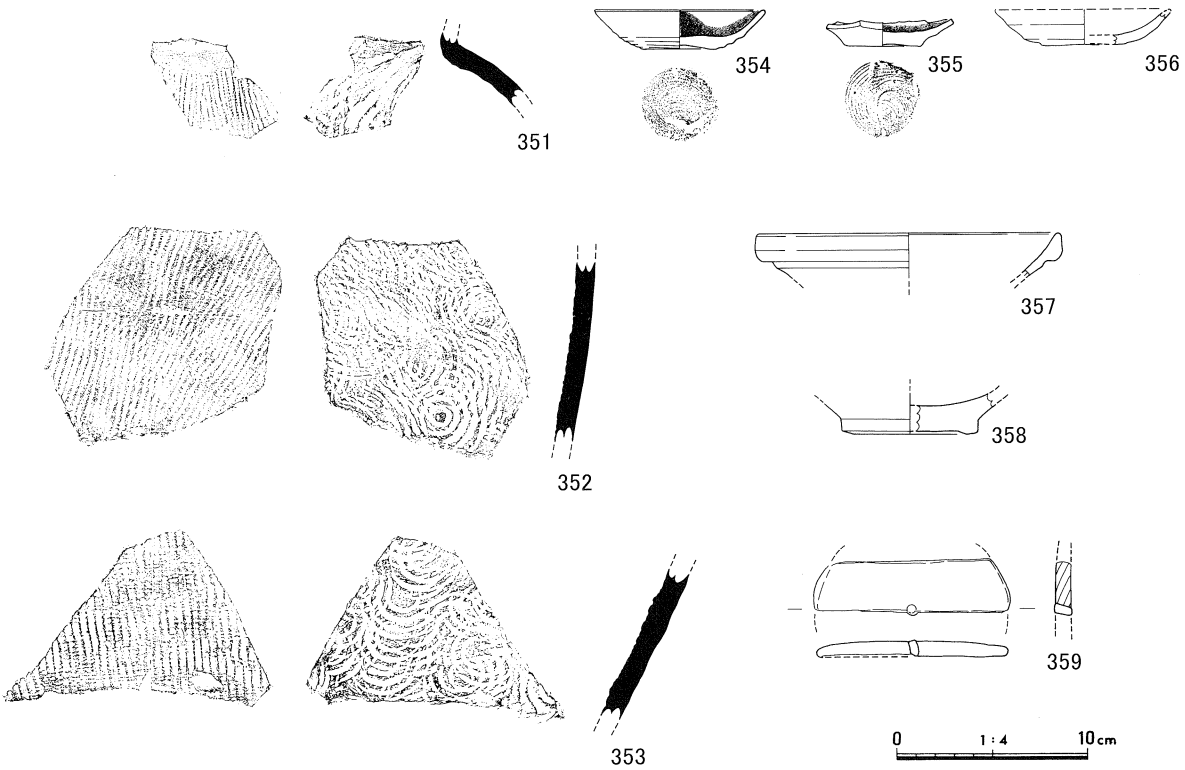
ＩＣ区西のＦ14・15～Ｇ14・15グリッドで検出した。建物９・柱列８～10、土坑11、溝８やその他の柱穴など、ＩＣ区西の東側で検出したほとんどの遺構を囲んでいる。北側に溝が２重になる部分があり、内側の短い溝が一段高くなっているので北側に堀直したと考えられる。溝の中央の両側に拳大から人頭大の石の集まりがある。溝内や周辺で須恵器・土師器・陶磁器・木製品が出土している。溝９の時期は出土した遺物の年代や、溝の内側で検出した遺構の年代から12世紀頃と考えられる。

第41表　Ｉ区溝７出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
351	44	89	須恵器	甕	溝7						内：ヨコナデ、同心円文オサエ 外：ヨコナデ、平行タタキ	径0.5㎜の砂粒微量	内：灰色（N5/） 外：灰色（5Y6/1）	
352	44	89	須恵器	甕	G-14						内：同心円文オサエ 外：平行タタキ、カキメ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（7.5Y6/1） 外：黄灰色（2.5Y5/1）	
353	44	89	須恵器	甕	G-14						内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰色（5Y6/1） 外：灰色（N6/1）	
354	44	89	中世土師器	皿	溝7		(9.0)	3.8	2.1	体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：鈍い橙色(7.5YR6/4)～黒褐色(7.5YR3/1) 外：鈍い橙色(7.5YR6/4)	
355	44	89	中世土師器	皿	溝7			4.0		体部を打ち欠いて器高を低くしている	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒少量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3)～黒色(10YR2/1) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
356	44	89	中世土師器	皿	溝7			(4.4)		体部は緩く内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒少量、金雲母多量	内：黄橙色(10YR8/3) 外：鈍い橙色(7.5YR6/4)	
357	44	88	白磁	碗	溝7		(15.7)			口縁部は厚みのある玉縁	内：回転ナデ 外：回転ナデ	黒色粒子多量	内：(釉)灰白色(7.5Y8/1) 外：(釉)灰白色(7.5Y8/1)	Ⅳ類。
358	44	88	白磁	碗	溝７、G-14			(7.2)		高台部は幅が広くなり、削り出しが浅い	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	小さな空洞がある	内：(釉)灰白色(5Y8/1) 外：灰白色(10Y8/1)	Ⅳ類。
359	44	88	木製品		溝7		径：10.4	厚：0.8		円板状。中央に径4㎜の棒が刺さる。				ヒノキ



第43図　Ｉ区　溝７（Ｓ＝1/80）



溝7集石1

溝7集石2

第44図　Ⅰ区　溝７集石（S＝1/30）、出土遺物（S＝1/4）

土器溜１（第45～47図、写真図版36・37）

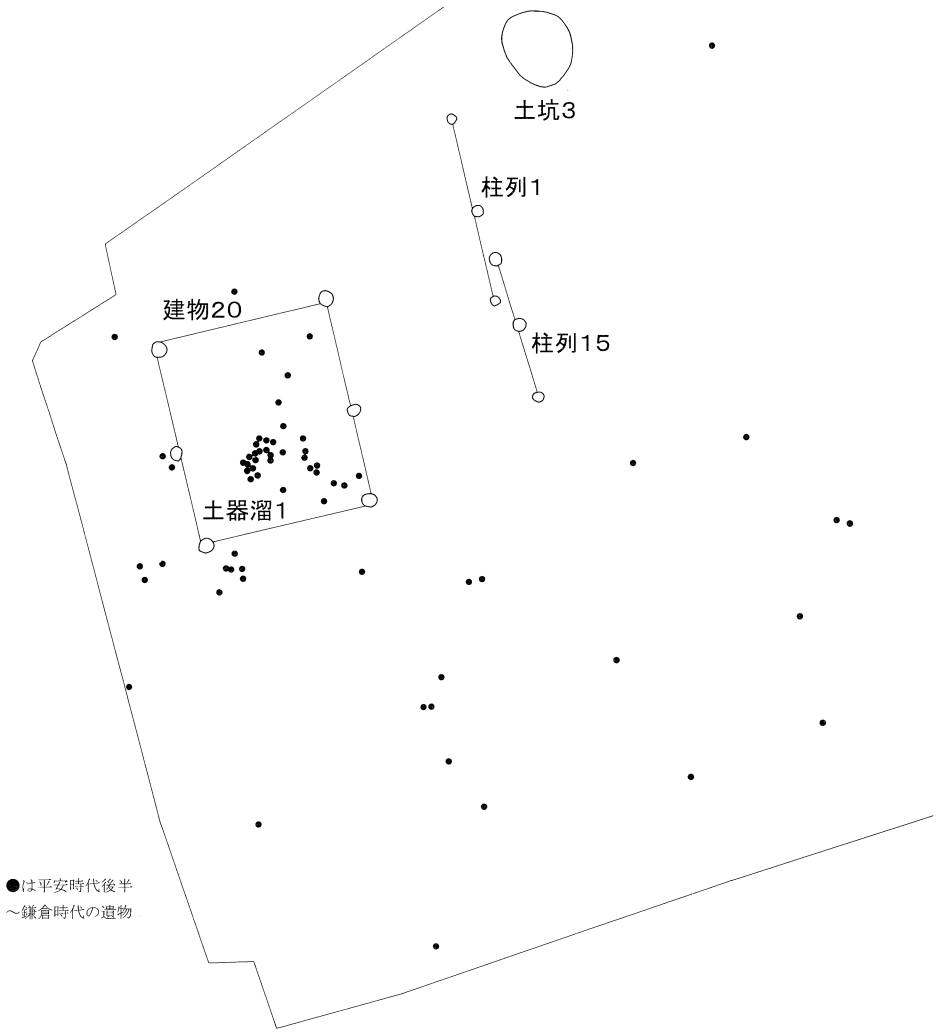
ＩＢ区のＨ９・10～Ｉ９・10グリッドで６層検出中に、土師器の坏・皿類がまとまって出土した。出土した土器は主に11世紀～12世紀の土師器だが、一部10世紀頃と思われるものや弥生土器が含まれており、坏・皿類も全て一時期のものではなくやや時期幅のある資料と思われる。しかし、第45図に示したようにこの部分だけ平安時代後半～鎌倉時代の遺物が密集して出土しているので、何らかの意味を持つまとまりと考えられる。

第42表　Ｉ区土器溜１出土遺物観察表①

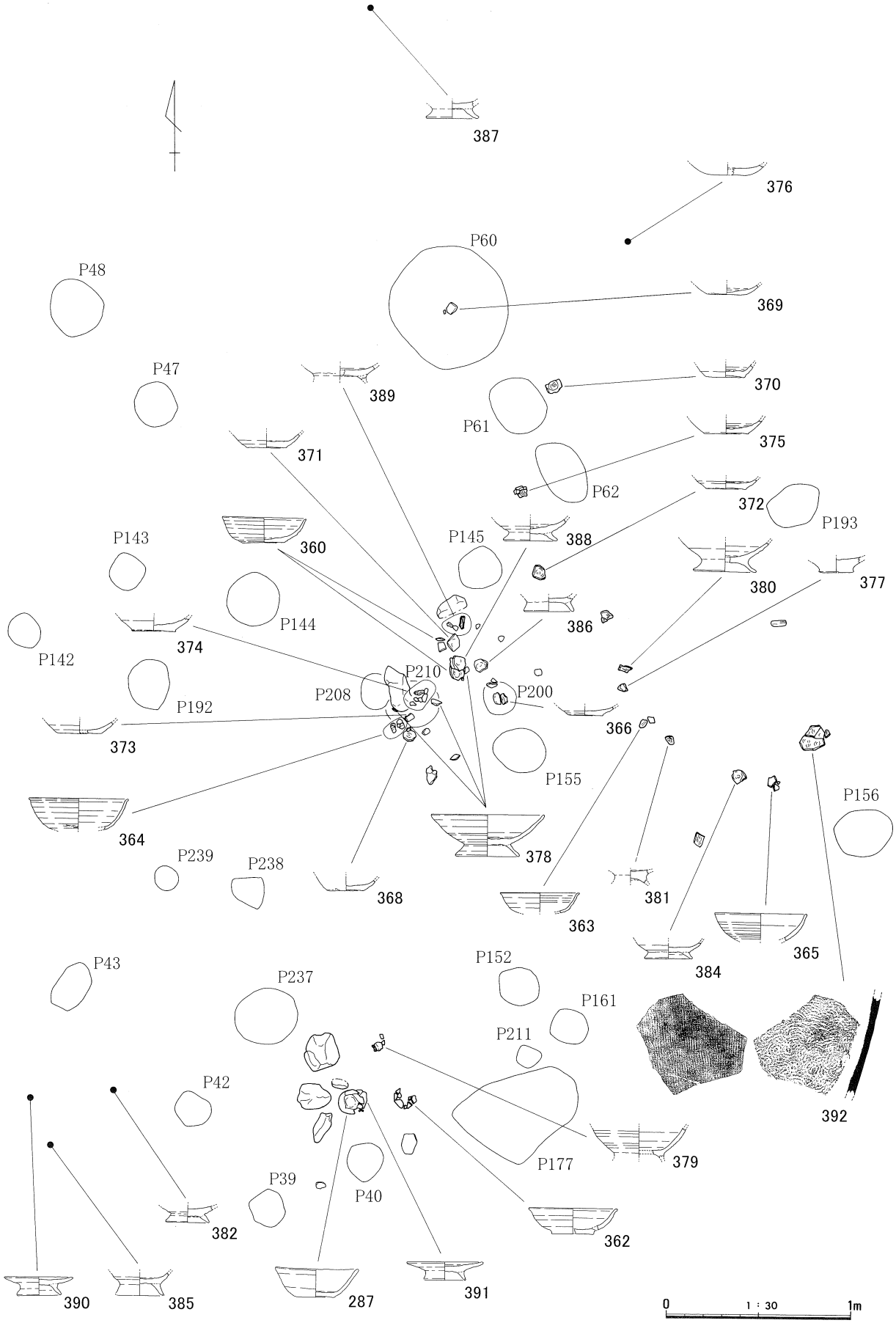
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
360	47	92	中世土師器	坏	H-10	5	12.1	6.0	3.8		内：回転ナデ 外：回転ナデ、糸切り	密	鈍い橙色	
361	47	92	中世土師器	坏	H-10	5	(12.2)	(6.2)	3.8		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の金雲母少量	内・外：鈍い橙色(7.5YR6/4)～灰褐色（7.5YR5/2）	
362	47	92	中世土師器	坏	I-10	5	(13.4)	(6.0)	(3.7)		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒微量、金雲母少量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
363	47	90	中世土師器	坏	H-10	5	(11.4)				内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：浅黄橙色（10YR8/4） 外：鈍い橙色（2.5YR6/45）	
364	47	90	中世土師器	坏	H-10	5	(14.3)				内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
365	47	90	中世土師器	坏	H-10	7	(13.1)				内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
366	47	91	中世土師器	坏	H-10	7		5.0			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量、金雲母多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
367	47	91	中世土師器	坏	H-10			5.3			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒・金雲母多量	内：鈍い橙色（7.5YR6/4） 外：鈍い橙色（(7.5YR6/4）	
368	47	91	中世土師器	坏	H-10	5		5.4			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
369	47	91	中世土師器	坏	H-10	5		5.6			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（7.5YR6/4） 外：鈍い橙色（7.5YR6/4）	
370	47	91	中世土師器	坏	H-10	5		5.6			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：橙色（7.5YR7/6） 外：橙色（7.5YR7/6）	
371	47	91	中世土師器	坏	H-10	5		5.7			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒微量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（(7.5YR7/4）	
372	47	91	中世土師器	坏	H-10	5		5.8			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：橙色（7.5YR7/6） 外：橙色（7.5YR7/6）	
373	47	91	中世土師器	坏	H-10	5		(6.4)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（7.5YR8/4） 外：鈍い橙色（(7.5YR7/3）	
374	47	91	中世土師器	坏	I-10	5		(6.3)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の金雲母多量	内：鈍い橙色（7.5YR6/4） 外：鈍い橙色（(7.5YR6/4）	
375	47	91	中世土師器	坏	H-10	5		(6.4)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒、金雲母少量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（(7.5YR7/4）	
376	47	90	中世土師器	坏	H-10	5		(6.1)			内：不明 外：不明	径0.5㎜以下の砂粒少量	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：浅黄橙色(10YR8/3)～鈍い赤褐色(2.5YR4/4)	
377	47	91	中世土師器	柱状高台	H-10			(5.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の金雲母多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
378	47	92	中世土師器	高台付坏	H-10・P208	5・7	(16.3)	(9.3)	6.0	口縁・体部は内彎し、端部は外反する。底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ナデ	密(雲母多量)	鈍い橙色	
379	47	90	中世土師器	高台付坏	H-9	5				底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
380	47	90	中世土師器	高台付坏	H-10	5		(9.0)		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：橙色（5YR7/6） 外：橙色（5YR7/6）	

第43表　Ⅰ区土器溜１出土遺物観察表②

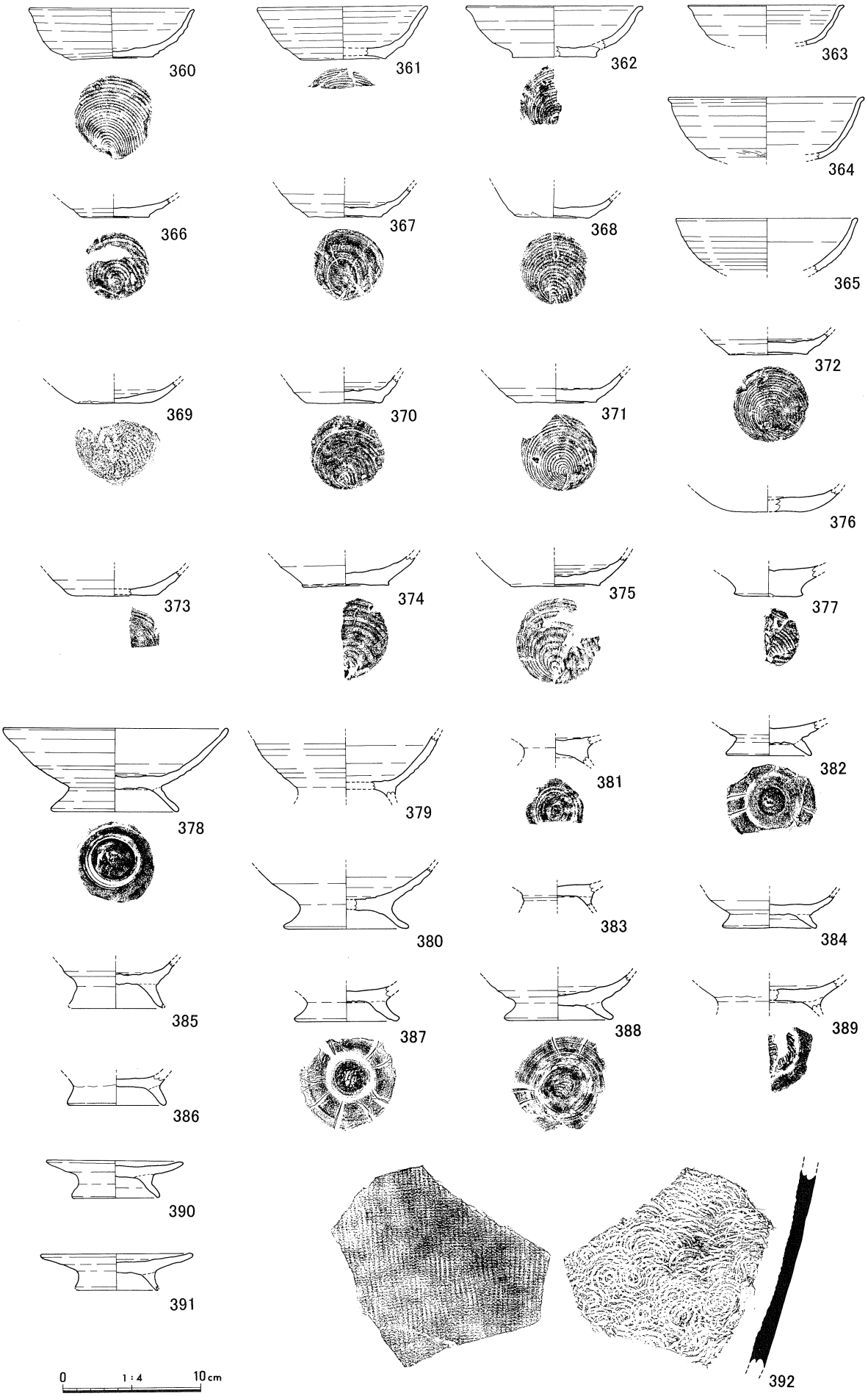
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
381	47	90	中世土師器	高台付坏	H-10	5				底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の金雲母少量	内：鈍い黄橙色(10YR7/4) 外：鈍い黄橙色(10YR7/4)	
382	47	90	中世土師器	高台付坏	H-9	7		6.3		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヨコナデ	径0.5㎜の金雲母少量	内：鈍い黄橙色(7.5YR7/3) 外：鈍い黄橙色(7.5YR7/3)	
383	47	90	中世土師器	高台付坏	G-11	6				底部に高台を貼り付ける	内：不明 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：浅黄橙色（7.5YR8/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
384	47	90	中世土師器	高台付坏	H-10	5		6.8		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ヨコナデ	径0.5㎜の金雲母多量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：褐灰色（10YR4/1）	
385	47	90	中世土師器	高台付坏	H-9	7		(7.0)		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ヨコナデ	径0.6㎜の金雲母多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/5）	
386	47	90	中世土師器	高台付坏	H-10	5		7.2		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
387	47	90	中世土師器	高台付坏	H-9	3		(7.6)		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ヨコナデ	径0.5㎜の金雲母多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
388	47	90	中世土師器	高台付坏	H-10	5		(7.8)		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ヨコナデ	径0.5㎜の金雲母少量	内：鈍い橙色（7.5YR6/4） 外：鈍い橙色（7.5YR6/4）	
389	47	90	中世土師器	高台付坏	H-10	5				底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い黄橙色(7.5YR7/4)	
390	47	92	中世土師器	台付Ⅲ	I-9	7	(10.0)	6.4	2.7	底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、貼り付け高台	径0.5㎜前後の砂粒多量	灰黄褐色	
391	47	92	中世土師器	台付Ⅲ	I-9	5	(11.0)			底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、貼り付け高台	密(雲母多量)	鈍い黄橙色	
392	47	91	須恵器	甕										



第45図　Ⅰ区　土器溜１の位置（Ｓ＝1/150）



第46図　Ｉ区　土器溜１（Ｓ＝1/30）



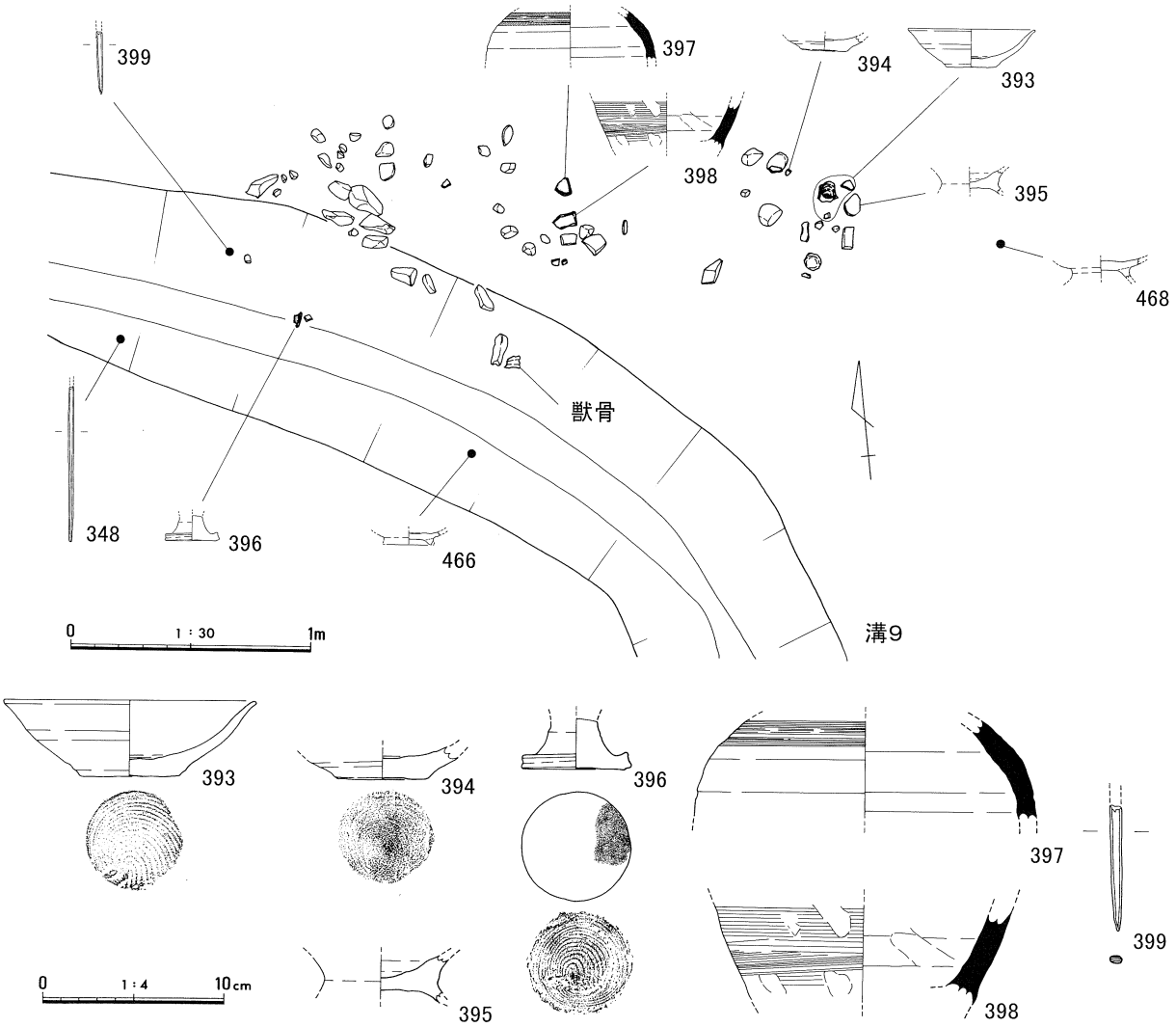
第47図　Ⅰ区　土器溜１出土遺物（S＝1/4）

土器溜３（第48図、写真図版38）

ＩＣ区西のＧ14グリッドで土師器・須恵器が多数の石と共にまとまって出土した。時期はおよそ12世紀ごろと考えられる。ほかに木製の箸399や獣骨、種実類も出土しており、周辺の同時期の建物から廃棄されたものと考えられる。

第44表　Ｉ区土器溜３出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点Gr/遺構	層位	寸法（cm）			形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
							口径	底径	器高					
393	48	93	中世土師器	坏	G-14		(13.9)	4.2	5.4	口縁部は緩く外反する	内：不明 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜以下の砂粒含む、金雲母多量	内：鈍い黄褐色(10Y R5/3) 外：鈍い黄褐色(10Y R5/3)	
394	48	93	中世土師器	坏	G-14			2.6		内面に炭素を吸着させる	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜以下の砂粒含む	内：黒褐色（2.5Y3/1） 外：灰白色（2.5Y8/2）	
395	48	93	中世土師器	高台付坏	G-14					底部外縁に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：ナデ	径2㎜以下の砂粒、金雲母含む	内：鈍い黄褐色(10Y R7/3) 外：鈍い黄褐色(10Y R7/3)	
396	48	93	中世須恵器	柱状高台	G-14			6.0		高台端部は外方に拡張する	内：不明 外：回転ナデ、回転糸切り	金雲母多量	外：浅黄橙色(10Y R8/3)～黒色（10Y R2/1）	
397	48	93	中世須恵器	壷	G-14					肩部は丸くつくる	内：回転ナデ 外：回転ナデ、カキメ	径2㎜以下の砂粒、5mm以下の長石含む	内：鈍い黄橙色(10Y R7/3) 外：黄灰色(2.5Y R6/1)	
398	48	93	中世須恵器	甕	G-14						内：ナデ 外：カキメ、ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰白色（5Y8/1） 外：暗灰色（N3/）	
399	48	93	木製品	箸	G-14									スギ



第48図　Ｉ区　土器溜３（Ｓ＝1/30）

遺構に伴わない遺物（第49～55図）

ＩＡ区では６層上面で土師器の坏・皿類（400～404）が出土している。このうち401～403は色調・胎土が土器溜１の遺物と同様のものである。このほか伊佐波神社跡の礫面や造成土内で、瓷器系陶器や貿易陶磁が若干出土した。

ＩＢ区では11世紀～13世紀頃と思われる遺物が比較的まとまって出土している。405～436は土師器の坏・皿類で、土器溜１のある調査区西側での出土量が多い。また、内面に炭素を吸着させた坏（432～435）は、Ｉ区ではＩＢ区西側のグリッドでのみ出土している。436は内面に漆の膜が付着していた。擂鉢・鍋などの調理具は小片が多く、鍋は図示できなかった。鉢類は土師器・須恵器・瓷器系陶器のものが出土した。土師器の擂鉢（437・438）は内面にクシ描きの摺り目があり、鎌倉時代以降のものと思われる。須恵器の鉢（444～447）は内面ハケ調整のものが大半で、ナデ調整のものは小片が２点出土している。瓷器系陶器の鉢（450・451）は底部外縁に断面三角形の高台を貼り付け、体部外面の下半には粗いケズリが施される。ＩＤ区・ⅡＡ区で多数出土したものと同様の胎土・焼成で、同じ産地の製品と考えられる。451の内面上部には３条の平行沈線がある。壷・甕類も小片が多いが、須恵器（439～443）のほか瓷器系陶器（448・449）のもの出土している。441～443は外面に格子目タタキ、内面にハケ調整を施すもので焼成は軟質である。ＩＢ区では胴部のみ出土したが、ⅡＡ区で全形の分かる資料が出土している。貿易陶磁は白磁椀（452～456）が青磁類（457～459）より多く出土した。また、陶器の壷（460・461）はⅡＡ区北側で出土した破片と同一固体の可能性もある。462は調整・胎土・焼成から中国陶器の壷類の底部と判断した。

ＩＢ区では土師器の坏・皿類が北よりのグリッドで多く出土するのに対し、壷・甕・擂鉢や陶磁器類は南よりのグリッドで多く出土している。ＩＢ区の南に隣接するⅡＡ区では、この時期の調理具や貯蔵具、陶磁器類が多数出土しているので、遺物の分布差は遺構の時期や性格の違いを反映していると考えられる。

ＩＣ区もＩＢ区同様に12世紀頃の遺物が全出土遺物の中で最も多く出土している。土師器の坏・皿類（463～499）は基本的にＩＢ区と類似するものが出土した。ＩＢ区と異なる点としては、柱状高台付きの坏・皿類（489～499）が遺構出土のものも含めると、ＩＢ区の13点に対し３倍以上の41点出土したことが挙げられる。調理具・貯蔵具はほとんど出土せず、鍋・釜類は確認できなかった。須恵器の鉢（505～508）はいずれもナデ調整が施されるもので、508にはクシ描きの摺り目がある。壷・甕類は須恵器の胴部（500～504）が小片で出土し、全形の分かる資料は無かった。瓷器系陶器のものはＩＤ区と同一固体の小片が僅かに出土したのみである。貿易陶磁（509～530）は12世紀頃の白磁が最も多く出土し、陶器類は確認できなかった。

ＩＣ区は出土した遺物のほとんどが土師器・貿易陶磁の坏・皿類で、出土遺物で見ると他の調査区と異なる様相を示している。

第45表　Ｉ区出土平安時代後半～鎌倉時代の遺物観察表①

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
400	49	94	中世土師器	坏	ＩＡ		(12.3)	(5.9)	4.9	体部は緩く内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、静止糸切り	径3mmの砂粒含む	内：橙色（5YR6/6） 外：橙色（5YR6/6）	
401	49	94	中世土師器	坏	ＩＡ	6	(12.2)	5.2	4.8	口縁部は外反する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5mm以下の砂粒少量、金雲母多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
402	49	94	中世土師器	坏	ＩＡ	6	(12.0)	(5.6)	3.4	体部は緩く内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ	金雲母多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	

第46表　Ｉ区出土平安時代後半～鎌倉時代の遺物観察表②

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
403	49	94	中世土師器	高台付坏	ＩＡ	6				底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（7.5YR8/6） 外：橙色(5YR7/6)～鈍い黄橙色（10YR6/4）	
404	49	94	中世土師器	Ⅲ	ＩＡ	5	(7.4)	(3.8)	1.4	体部は内彎する。器壁が薄い。	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒微量	内・外：淡黄色(2.5Y8/3)～黄灰色(2.5Y5/1)	
405	51	94	中世土師器	高台付坏	H-10	7	15.0	10.0	7.7	高台は高く、ハの字状に開く	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：橙色（2.5YR6/8） 外：橙色（2.5YR6/8）	
406	51	95・96	中世土師器	坏	I-10、西側溝	18		5.6		見込み部に「×」のヘラ書き	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：橙色(5YR7/6)～褐灰色（10YR5/1） 外：橙色（5YR7/6）	
407	51	95・96	中世土師器	坏	I-10、H-10	5		(5.8)		体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒、金雲母少量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） ～褐灰色（7.5YR4/1） 外：橙色（5YR7/6）	
408	51	94	中世土師器	高台付坏	I-10	5	(18.6)			口縁・体部は内彎し、端部は外反する。底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（10YR8/4） 外：浅黄橙色（10YR8/4） ～黒褐色（10YR3/1）	
409	51	97	中世土師器	高台付坏	I-10	5		(3.9)		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い黄橙色(10YR6/3)	
410	51	97	中世土師器	高台付坏	I-10	5				底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
411	51	94	中世土師器	坏	H-9	5	14.0	5.8	4.7	口縁端部は外方に肥厚し面を持つ	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量、金雲母多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
412	51	94	中世土師器	坏	H-9	16	(11.3)	(5.8)	3.2	口縁端部は外反する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量、金雲母多量	内：灰黄褐色（10YR6/2） 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
413	51	95・96	中世土師器	Ⅲ	G-11	6	(10.0)	(5.2)	2.45	口縁・体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径4㎜以下の砂粒多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4） ～鈍い褐色（7.5YR5/3）	
414	51	95・96	中世土師器	坏	H-9	3			5.0	体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径2㎜以下の砂粒含む	内：橙色（2.5YR6/6） 外：鈍い橙色（2.5YR6/4）	
415	51	95・96	中世土師器	坏	H-10	16		(5.2)		体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3) ～鈍い赤褐色（5YR5/4）	
416	51	95・96	中世土師器	坏	H-10			(5.3)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量、金雲母多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
417	51	95・96	中世土師器	坏	H-10、北側溝	18層上面		4.6			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量、金雲母多量	内・外：鈍い黄橙色(10YR7/3）～黄灰色（2.5Y6/1）	
418	51	97	中世土師器	柱状高台	I-9	5				柱状高台	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒多量	内：橙色（5YR7/6） 外：橙色（5YR7/6）	
419	51	94	中世土師器	柱状高台	G-11	5		(8.0)		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1～2㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
420	51	97	中世土師器	Ⅲ	I-9	5	(7.2)	(3.9)	4.1	口縁・体部は大きく開き、端部には面を持つ	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（10YR8/2） 外：浅黄橙色（10YR8/2）	
421	51	95・96	中世土師器	Ⅲ	I-10	16	(8.4)	(4.1)	1.8	口縁端部は外反し、丸く収める	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜以下の砂粒多量	内・外：鈍い黄橙色(10YR7/2）～灰黄褐色(10YR5/2)	
422	51	97	中世土師器	Ⅲ	I-10	5	(11.2)	(4.8)	1.55	口縁・体部は大きく開き、器高が低い	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰白色（10YR8/1） ～鈍い橙色（7.5YR7/3） 外：鈍い橙色（7.5YR7/3）	
423	51	97	中世土師器	Ⅲ（台付Ⅲ?）	H-10	7	(11.2)			口縁・体部は大きく開く	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
424	51	97	中世土師器	Ⅲ（台付Ⅲ?）	I-10 東西ベルト	7	(12.0)			口縁・体部は大きく開く	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の以下の砂粒微量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
425	51	97	中世土師器	台付Ⅲ	I-10	5					内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
426	51	95・96	中世土師器	Ⅲ	H-11	5	(8.2)	(5.0)	1.65	口縁・体部は緩く内彎し、底部との境に段が付く	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒少量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
427	51	95・96	土師器	Ⅲ	H-9	5	(9.7)	(5.6)	1.85	口縁・体部は緩く内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
428	51	95・96	中世土師器	Ⅲ	H-11	5	(7.3)	(3.6)	1.3	口縁・体部は緩く内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰黄褐色（10YR6/2） 外：灰黄褐色（10YR6/2）	
429	51	95・96	中世土師器	Ⅲ	G-11	5	(7.8)	(5.4)	1.5	口縁端部はシャープに先細りし、外に面を持つ	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：橙色（5YR6/6） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
430	51	95・96	中世土師器	Ⅲ	I-11	5	(8.6)	(4.8)	1.35	口縁端部は緩く内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒少量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
431	51	95・96	中世土師器	Ⅲ	I-11	3	7.8	5.3	1.6	口縁端部はシャープに先細りする	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜以下の砂粒含む	内：灰黄色（2.5Y5/1） 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	

第47表　Ⅰ区出土平安時代後半～鎌倉時代の遺物観察表③

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
432	51	95•96	中世土師器（黒色土器）	坏	P145		(15.4)				内：ミガキ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：黒褐色（2.5Y3/1） 外：鈍い黄橙（10YR7/2）	
433	51	95•96	中世土師器（黒色土器）	高台付坏		5				底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ、ヘラミガキ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：黒色（2.5Y2/1） 外：褐灰色（10YR5/1）	
434	51	95•96	中世土師器（黒色土器）	高台付坏	H-9					底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ、ヘラミガキ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：黒色（2.5Y2/1） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
435	51	95•96	土師器	坏	I-10 東西ベルト	7		(6.0)		内面に炭素を吸着させる	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：黒色（2.5Y2/1） 外：黄灰色（2.5Y5/1）	
436	51	95•96	中世土師器	坏	I-10	16		(6.4)			内：不明 外：不明	径0.5㎜の砂粒少量、金雲母多量	内：黒色（2.5Y2/1） 外：灰黄褐色（10YR6/2）	
437	51	95•96	中世土師器	擂鉢	I-9	5				口縁端部に面を持つ。内面にクシ描きの摺り目を施す	内：ヨコナデ 外：ハケメ、ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
438	51	95•96	中世土師器	擂鉢	G-11	3				口縁端部に面を持つ。内面にクシ描きの摺り目を施す	内：ハケメ、ナデ 外：ハケメ、ヨコナデ	径1㎜の砂粒微量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
439	51	95•96	中世須恵器	壷	I-10	5		(10.0)		底部に重ね焼きの痕跡あり	内：回転ナデ、ユビオサエ 外：回転ナデ、平行タタキ、回転ヘラケズリ	径1㎜の砂粒少量	内：灰色（N6/） 外：褐灰色（10YR6/1）	底部
440	51	97	須恵器	壷	G-11、H-10・11•12、溝1	3.・7・18層上面		(14.2)		底部平底	内：ヨコナデ 外：ヘラケズリ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N5/）	
441	51	95•96	中世須恵器	甕	I-9•10	5					内：ハケメ 外：格子目タタキ	径0.5㎜以下の砂粒含む	内：灰色（2.5Y8/2） 外：灰色（5Y5/1）	
442	51	95•96	中世須恵器	甕	G-11	5					内：ハケメ 外：格子目タタキ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰色（N5/） 外：暗灰色（N3/）	
443	51	95•96	中世須恵器	甕	H-11	7					内：ハケメ、ナデ 外：格子目タタキ	径2㎜以下の砂粒含む	内：灰白色（10YR8/2）～鈍い橙色(5YR7/4) 外：灰白色(10YR8/2)	
444	52	95•96	中世須恵器	鉢（内面ハケ調整）	G-11	5				口縁端部は肥厚し突帯状になる	内：ハケメ 外：ヘラケズリ後ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰色（N6/）～暗灰色（N3/） 外：灰白色(7.5Y7/1)	
445	52	95•96	中世須恵器・瓦質土器	鉢（内面ハケ調整）	I-11	3				口縁端部は肥厚し玉縁状になる	内：ハケメ 外：ヘラケズリ後ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：灰色（N5/） 外：灰色（N6/）	
446	52	95•96	瓦質土器	鉢（内面ハケ調整）	I-11	5				口縁端部は肥厚し玉縁状になる	内：ハケメ 外：ヨコナデ、ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：灰色（N6/） 外：暗灰色（N4/）	
447	52	95•96	中世須恵器	鉢（内面ハケ調整）	I-10・11	5				底部は平坦	内：ハケメ 外：ヘラケズリ後ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：灰白色（N8/） 外：灰白色（5Y7/1）	
448	52	95•96	瓷器系陶器	甕	I-10、集石1	3•5•6•16•18層上面				口縁端部は上方に屈曲する	内：ヨコナデ、タタキ 外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	径1～3㎜の砂粒多量	内：灰色(N4/) 外：灰色（N4/）～黄灰色(2.5Y5/1)	
449	52	97	瓷器系陶器	甕	I-10（Ⅱ区P№.274）	5、18層上面				口縁部は「N」字状に屈曲する	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径1㎜の砂粒少量	内：暗灰色（N3/） 外：灰色（N4/）～灰白色(7.5Y8/1)	
450	52	97	瓷器系陶器	擂鉢	I-10（Ⅱ区西側溝）	5、18層上面		(9.6)		底部に断面三角形の高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：ヘラケズリ	径0.5～1㎜の砂粒少量	内：鈍い赤褐色(5YR4/3)～灰色（N5/） 外：灰黄褐色(10YR5/2)	
451	52	98	瓷器系陶器	擂鉢	I-9・10・11（Ⅱ区K-10）	3•5•16•18層上面）	(37.6)	(16.8)	17.0	口縁端部に沈線を廻らせる。底部に断面三角形の高台を貼り付ける。	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラケズリ	径2～3㎜の砂粒多量	内•外：鈍い赤褐色(2.5YR5/4)～鈍い赤褐色(2.5Y4/3)	
452	52	97	白磁	碗	I-10	3•16	(17.5)			口縁部は玉縁	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	黒色粒子多量	内：(釉)灰白色(2.5GY8/1) 外：(釉)灰白色(2.5GY8/1)	Ⅳ類
453	52	97	白磁	碗	H-11、Ⅱ区SX02	5・8	(18.2)			玉縁状の口縁部		黒色粒子極微量	内：(釉)灰白色(7.5Y8/1) 外：(釉)灰白色(7.5Y8/1)	Ⅳ類
454	52	97	白磁	碗	H-10	3		(6.8)		高台部は幅広で削り出しが浅い。	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	黒色粒子多量	内：(釉)灰白色(5Y7/2) 外：灰白色（5Y7/1）	
455	52	97	白磁	碗	解読不可	5	(15.4)			口縁端部は先細りし、丸くおさめる。	内：回転ナデ 外：回転ナデ	黒色粒子少量	内：(釉)灰白色(7.5Y8/1) 外：(釉)灰白色(7.5Y8/1)	Ⅴ-1類
456	52	97	白磁	碗	I-10	5	(17.3)			口縁部は外反し、体部内面に沈線を廻らせる	内：回転ナデ 外：回転ナデ	黒色粒子多量	内：(釉)灰白色(5Y7/2) 外：(釉)灰白色(5Y7/2)	Ⅴ-2類
457	52	97	同安窯系青磁	皿	I-11	3		(5.2)		底部外面の釉を掻き取る		黒色粒子微量	内：(釉)明緑灰色(7.G5Y7/1) 外：(釉)明緑灰色(7.G5Y7/1)～灰白色(7.5Y7/1)	Ⅰ-2ｂ類

第48表　Ｉ区出土平安時代後半～鎌倉時代の遺物観察表④

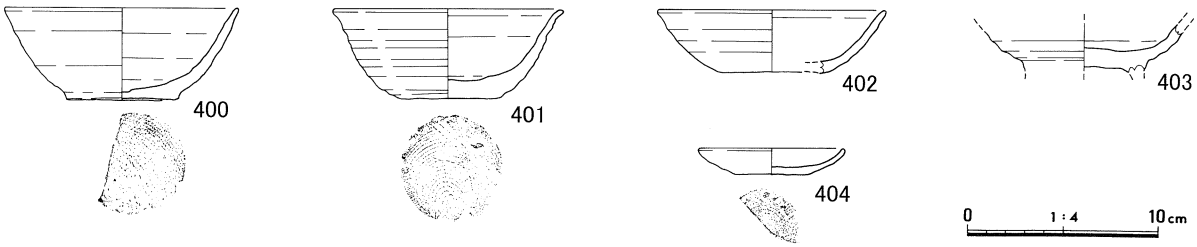
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
458	52	97	龍泉窯系青磁	碗	I-11	7		(6.0)			内： 外：回転ケズリ	混入物は認められない	内・外：(釉)緑灰色(7.5GY6/1) ～オリーブ灰色(2.5GY6/1)	Ｉ類
459	52	97	龍泉窯系青磁	碗	I-9	5						黒色粒子少量	内：オリーブ灰色(2.5GY6/1) 外：オリーブ灰色(2.5GY6/1)	Ⅱｂ類
460	52	97	褐釉陶器	壷	I-10	16	(10.4)			口縁部は水平に屈曲する。頸部に沈線が廻る。	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内・外：(釉)灰オリーブ色(5Y4/2)	Ｖ類
461	52	97	褐釉陶器	壷	H-10	4		(5.9)		底部外面に目痕がある	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内・外：(釉)黄褐色(2.5Y5/3)	Ｖ類B群
462	52	97	中国陶器	壺類	重機掘削			(7.6)			内：回転ナデ 外：回転ケズリ	混入物は認められない	内：灰黄褐色（10Y6/2） 外：灰黄褐色（10Y6/2）	
463	53	98	中　世土師器	坏	F-13	5	(15.6)			口縁部は緩く外反し、外面に煤が付着する	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：灰黄褐色（10YR5/2） 外：褐灰色（10YR4/1）～黒色（2.5Y2/1）	
464	53	98	中　世土師器	坏	東側溝		(12.6)			体部は内彎する	内：回転ナデ、ヘラケズリ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：鈍い橙（7.5YR7/4）	
465	53	98	中　世土師器	高台付坏	F-17	5		4.6		底径に対し大きめの高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：黄灰色（2.5Y5/1） 外：鈍い橙色（5YR6/4）	
466	53	98	中　世土師器	高台付坏	H-14	5				底部外縁に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒少量	内：鈍い橙色（5YR7/4） 外：鈍い橙色（5YR7/4）	
467	53	98	中　世土師器	高台付坏	G-16	5				底部外縁に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（5YR7/3） 外：灰黄褐色（10YR6/2）	
468	53	98	中　世土師器	高台付坏	G-14	5				高台部は外反する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
469	53	98	中　世土師器	高台付坏	G-14	5				内側が暗褐色に変色	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：褐灰色（10YR5/1） 外：鈍黄橙色（10YR7/2）	
470	53	98	中　世土師器	高台付坏	H-13	5		(9.4)		高台部は大きく開く	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：浅黄橙色（7.5YR8/4） 外：浅黄橙色（7.5YR8/4）～褐灰（7.5YR4/1）	
471	53	98	中　世土師器	壷	G-15？	5				底部外縁に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：浅黄橙色（7.5YR8/4） 外：浅黄橙色（7.5YR8/4）	
472	53	99・100	中　世土師器	坏	G-16	7		5.5		底部の中心がやや厚い	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内・外：鈍い橙色(2.5YR6/4)～鈍い黄橙色(10YR7/3)	
473	53	99・100	中　世土師器	坏	G-14	5		(6.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量、径10㎜の長石含む	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
474	53	99・100	中　世土師器	坏	G-14			(4.2)		底部が歪む	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
475	53	99・100	中　世土師器	坏	G-16	5		(5.7)		底部内面は螺旋状に隆起する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	
476	53	99・100	中　世土師器	坏	F-15	5		5.9		二次焼成により外面は赤色に、内面は暗褐色に変色している	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒微量、金雲母多量	内：褐灰色（10YR4/1） 外：鈍い赤褐色（5YR5/4）	
477	53	99・100	中　世土師器	坏	G-14	5		6.1		底部内面に黒色の付着物あり	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒少量	内：橙色（5YR7/6） 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
478	53	99・100	中　世土師器	坏	北側溝	7		(5.8)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1～2㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：灰黄褐色（10YR6/2）	
479	53	99・100	中　世土師器	坏	H-13	5		(5.2)		体部は内彎する。底部内面に煤が付着する。	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量、金雲母少量	内：黄灰色（2.5Y6/1）～黒色（2.5Y2/1） 外：黄灰色（2.5YR6/1）	
480	53	99・100	中　世土師器	坏	F-15	5		(7.6)		内外面に煤が付着する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内・外：黄灰色（2.5Y6/1）～黒褐色（2.5Y3/1）	
481	53	99・100	中　世土師器	坏	G-12	5		(7.2)		体部は底部から直線的に外傾する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒微量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
482	53	99・100	中　世土師器	Ⅲ	F-16	5	8.1	3.3	2.1	口縁・体部は直線的に開く	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径3㎜程度の砂粒含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
483	53	99・100	中　世土師器	Ⅲ	G-14・15	5	(8.2)	(3.6)	1.6	器壁が薄く、底部と体部の境を丸くなでる	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	金雲母多量	内：鈍い褐色（7.5YR6/3） 外：鈍い褐色（7.5YR6/3）	
484	53	99・100	中　世土師器	Ⅲ	G-14		(9.4)	(5.2)	1.5	体部は緩く内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：鈍い黄橙色（10YR6/3） 外：灰黄褐色（10YR5/2）	
485	53	99・100	中　世土師器	Ⅲ	H-13	5		(8.2)		底部と体部の境を丸くなでる	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	金雲母多量	内：鈍い褐色（7.5YR6/3） 外：鈍い褐色（7.5YR6/3）	
486	53	99・100	中　世土師器	Ⅲ	E-16、F-16	5	(8.6)	(4.6)	2.2		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒微量、金雲母多量	内：橙色（5YR6/6） 外：橙色（5YR6/6）	
487	53	99・100	中　世土師器	Ⅲ	H-13	5	(8.6)	3.8	2.05	体部は緩く内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒微量	内・外：灰白色（5Y8/1）～暗灰黄色（2.5Y4/2）	
488	53	99・100	中　世土師器	Ⅲ	G-14	5	9.7	4.4	2.4	体部は緩く内彎する。内外面に煤が付着する。	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒少量	内・外：鈍い橙色(7.5YR7/4) ～黒褐色（7.5YR3/1）	

第49表　Ⅰ区出土平安時代後半～鎌倉時代の遺物観察表⑤

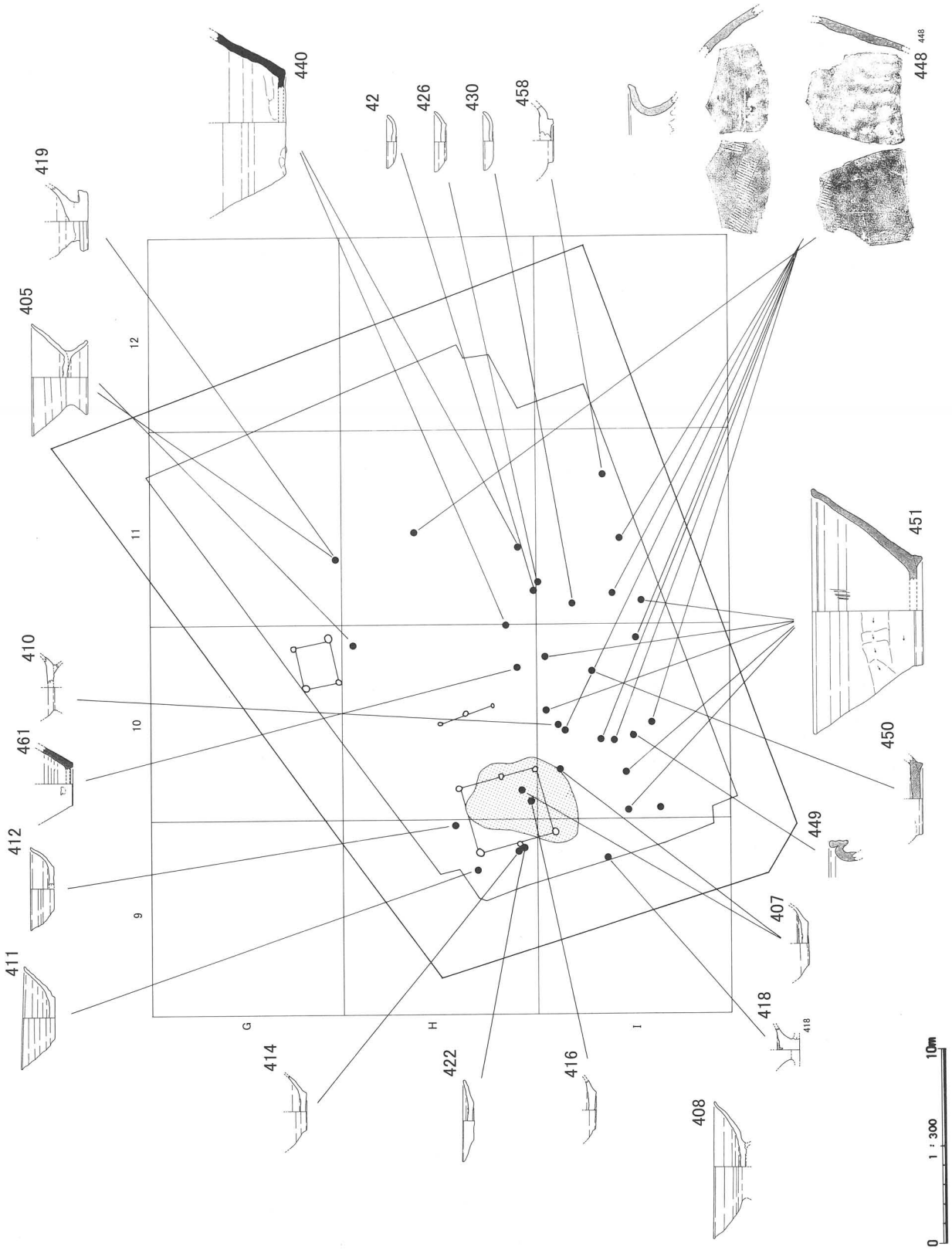
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
489	53	102	中世土師器	柱状高台付皿	G-14	5	8.2	5.7	3.8	杯部は緩く内彎し、高台端部は薄い	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒多量	内：灰白色（2.5Y8/1） 外：灰白色（2.5Y8/1）	
490	53	102	中世土師器	柱状高台	F-14？	5		4.0		高台は器高が低く、端部はあまり拡張しない	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1～2㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/4)	
491	53	102	中世土師器	柱状高台	南側溝	7		5.1		高台端部はあまり拡張しない	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内・外：鈍い黄橙色(10YR 7/3)～灰色(N4/)	
492	53	102	中世土師器	柱状高台	F-15	5		5.0		高台部端部は外方に大きく拡張する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：橙色(5Y R6/6) 外：橙色(5Y R6/6) ～鈍い橙色(7.5Y R7/4)	
493	53	102	中世土師器	柱状高台	G-15	5		(5.2)		高台部端部は外方に大きく拡張する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量、金雲母多量	内：灰白色（10Y R8/2） 外：灰色（N3/）	
494	53	102	中世土師器	柱状高台	F-15	5		5.4		底部内面中央窪む。高台部は外方に大きく拡張する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量、金雲母多量	内：灰色（N4/） 外：灰色（N4/）	
495	53	102	中世土師器	柱状高台	F-15	5		(6.5)		底部内面中央窪む。高台部は外方に大きく拡張する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	金雲母多量	外：灰色（N5/）～鈍い黄橙色（10Y R7/2）	
496	53	102	中世土師器	柱状高台	G-14	5		6.6		底部内面中央に径3㎜の穴が施され、高台端部は外方に大きく拡張する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒少量	内：橙色（5YR7/6） 外：橙色（5YR7/6）	
497	53	102	中世土師器	柱状高台付坏	G-15	5		(6.6)		高台部端部は外方に大きく拡張する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデか？	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰白色(2.5Y 7/1) 外：灰白色(2.5Y 7/1)～灰色(N4/)	
498	53	102	中世土師器	柱状高台付坏	G-14	5		(7.6)		高台は太く、端部は外方に拡張する	内：回転ナデ？ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10Y R7/3) 外：鈍い黄橙色(10Y R7/3)	
499	53	102	中世土師器	柱状高台	G-13	5		8.8		高台部端部は外方に大きく拡張する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：鈍い橙色(7.5Y R7/3) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/3)	
500	53	99・100	中世須恵器	甕	F-14・16、G-13・14・16	5					内：ハケメ 外：格子目タタキ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：灰色（2.5Y8/2） 外：暗灰色（N3/）	
501	53	99・100	中世須恵器	甕	G-16	5					内：ナデ、ユビオサエ 外：格子目タタキ	径0.5㎜の砂粒多量	内：灰白色（5Y7/1） 外：黒色（7.5Y2/1）	
502	54	99・100	中世須恵器	甕	F-16	5					内：ナデ、ハケメ 外：格子目タタキ	径1㎜以下の砂粒微量	内：灰白色(2.5Y7/1) 外：灰白色(2.5Y7/1)～黄灰色(2.5Y6/1)	
503	54	99・100	中世須恵器系	甕	F-14	5					内：ナデ 外：平行タタキ	径1㎜の砂粒多量	内：黒色（5Y2/1） 外：黒色（5Y2/1）	焼成は土師質
504	54	99・100	中世須恵器	甕	H-13	5					内：同心円文オサエ 外：ナデ	径0.5㎜の砂粒微量	内：灰白色（5Y8/1） 外：暗灰色（N3/）	
505	54	99・100	中世須恵器	鉢	西側溝					口縁部は肥厚し外側に面を持つ	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰白色（5Y7/1） 外：灰白色(5Y7/1)～灰色(N5/)	東播系
506	54	99・100	中世須恵器	鉢	F-14	5				口縁部は肥厚し外側に面を持つ。端部は肥厚する。	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径1㎜の砂粒多量	内：灰白色（N7/） 外：灰白色（N6/）	東播系
507	54	99・100	中世須恵器	鉢	5			(10.4)		平底	内：ナデ 外：ナデ、ヘラ切り後ナデ	径1㎜の砂粒多量	内：灰白色（2.5Y7/1） 外：灰白色（2.5Y7/1）	
508	54	99・100	中世須恵器	鉢	E-16			(10.8)		内面にクシ描きによる摺り目を施す	内：ハケメ 外：ナデ	径1㎜の砂粒少量	内：黄灰色（2.5Y6/1） 外：黄灰色（2.5Y6/1）	
509	54	101	白磁	碗	F-14	5	(16.0)			口縁部は小さな玉縁を持つ	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	黒色粒子多量	内・外：灰黄色(2.5Y6/2)～灰白色(2.5Y8・2)	Ⅱ-1類
510	54	101	白磁	碗	E-16	5	(16.0)			口縁部は小さな玉縁状	内：回転ナデ、回転ケズリ 外：回転ナデ、回転ケズリ	黒色粒子多量	内：(釉)灰白色(10Y7/1) 外：灰色(7.5Y6/1)～(釉)灰白色(10Y7/1)	Ⅳ類
511	54	101	白磁	碗	排土中		(16.2)			口縁部は扁平な玉縁状	内：回転ナデ 外：回転ナデ	黒色粒子微量	内：(釉)灰白色(7.5Y7/1) 外：(釉)灰白色(7.5Y7/1)	Ⅳ類
512	54	101	白磁	碗	F-14	5		(7.4)		底部内面に沈線が廻る。高台部は幅が広く浅い。	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	小さな空洞が多数ある	内：(釉)灰白色(7.5Y7/2) 外：灰白色（5Y7/1）	Ⅳ-1a類
513	54	101	白磁	碗	排土中			7.8		底部内面に段が付く。高台部は幅が広く削り出しが浅い。	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	黒色粒子少量	内：(釉)灰白色(7.5Y7/2) 外：灰白色(5Y8/2)～(釉)灰白色(7.5Y7/2)	Ⅳ-1a類
514	54	101	白磁	碗	G-16	5	(15.8)				内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	黒色粒子多量	内：(釉)灰白色(2.5GY8/1) 外：(釉)灰白色(2.5GY8/1)	Ⅴ-3類
515	54	101	白磁	碗	G-15	5	(16.0)			口縁端部は丸くおさめる	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	黒色粒子多量	内：(釉)灰白色(2.5GY8/1) 外：(釉)灰白色(2.5GY8/1)	Ⅴ-1類
516	54	101	白磁	碗		5		(6.0)		高台は細く高い	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	黒色粒子多量	内：(釉)明オリーブ灰色(2.5GY7/1) 外：灰色(7.5Y7.1)	Ⅴ類
517	54	101	白磁	碗	E-16	5		(6.3)		高台は細く高い	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	黒色粒子多量	内：(釉)灰白色(10Y8/1) 外：灰白色（7.5Y8/2）～(釉)灰白色(10Y8/1)	Ⅴ類

第50表　Ｉ区出土平安時代後半～鎌倉時代の遺物観察表⑥

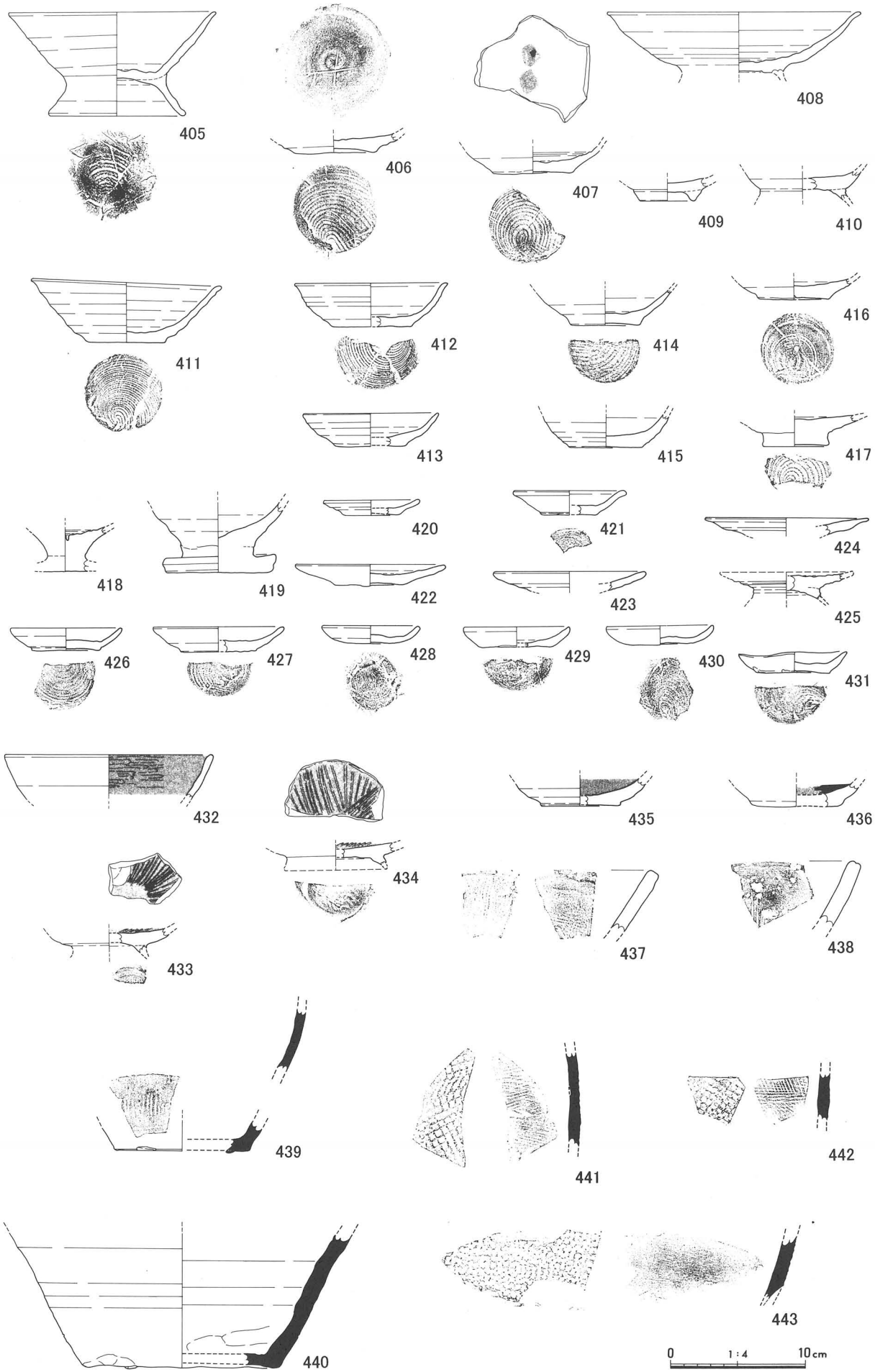
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
518	54	101	白磁	碗	E-16	5		(5.8)		内面見込みの釉を環状に掻き取る	内：回転ナデ、回転ケズリ 外：回転ケズリ	黒色粒子多量	内・外：灰白色(7.5Y8/1)～(釉)灰白色(7.5Y7/2)	Ⅷ類
519	54	101	白磁	碗	G-13	5		(6.8)		内面見込みの釉を環状に掻き取る	内：回転ナデ、回転ケズリ 外：回転ケズリ	黒色粒子多量	内・外：灰白色(5Y8/1)～(釉)灰白色(7.5Y7/1)	Ⅷ類
520	54	101	白磁	碗	F-16	5		(7.8)		高台は高い	内：回転ナデ 外：回転ケズリ、カキメ状の調整	黒色粒子微量	内：(釉)灰白色（5Y8/2） 外：灰白色（2.5Y8/2）	ＸⅡ類
521	54	101	白磁	Ⅲ	G-15	5		3.1		やや上げ底	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	黒色粒子多量	内：灰オリーブ色(7.5Y6/2) 外：灰白色(2.5Y7/1)	Ⅵ類
522	54	101	白磁	Ⅲ	F-15	5		(4.4)		内面見込みにヘラ蛾描きの草花文を施す。	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	黒色粒子少量	内：(釉)灰白色(7.5Y7/1) 外：灰色(7.5Y6/1)～(釉)灰白色(7.5Y7/1)	Ⅷ-1ｂ類
523	54	101	白磁	Ⅲ	F-16	5		(4.2)		内面見込みにヘラ蛾描きの草花文を施す。	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	小さな空洞がある		Ⅷ-1ｃ類
524	54	101	白磁	Ⅲ	G-13	5		(6.6)		全面に施釉する	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	黒色粒子少量	内：(釉)灰白色(5GY8/1) 外：(釉)灰白色(5GY8/1)	Ⅸ-1類
525	54	101	白磁	合子	G-15	5		(7.2)		口縁部外面に段を有する。	内：回転ナデ 外：回転ナデ	混入物は認められない	内・外：灰白色（5Y8/1）～(釉)灰オリーブ色(7.5Y6/2)	
526	54	101	同安窯系青磁	碗	E-15、F-15	5		(4.4)		外面に櫛目文、内面にジグザグ状の点描文が施される	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	混入物は認められない	内：(釉)オリーブ黄色(5Y6/3) 外：(5Y7/1)～(釉)オリーブ黄色(5Y6/3)	Ⅰ-1ｂ類
527	54	101	龍泉窯系青磁	碗（浅碗）	G-13	5		5.6		内面に片彫文が施される	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	混入物は認められない	内：(釉)オリーブ灰色(10Y6/2) 外：灰白色(7.5Y7/2)～(釉)オリーブ灰色(10Y6/2)	Ⅰ-2～4類
528	54	101	龍泉窯系青磁	碗	E-16	5		(6.2)		内面に片彫花文が施される	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	黒色粒子微量	内：(釉)オリーブ灰色(5GY6/1) 外：灰色(7.5Y6/1)～(釉)オリーブ灰色(5GY6/1)	Ⅰ-2～4類
529	54	101	龍泉窯系青磁	坏	F-17	5	(13.0)			口縁部は水平に屈曲する。釉が厚い。	内：回転ナデ 外：回転ナデ	黒色粒子微量	内：(釉)オリーブ灰色(5GY6/1) 外：(釉)オリーブ灰色(5GY6/1)	Ⅲ-４類
530	54	101	龍泉窯系青磁	碗	G-14	5		4.8		外面に鎬蓮弁文が施される	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	混入物は認められない	内：(釉)灰オリーブ色(7.5Y6/2) 外：灰白色(5Y7/2)～(釉)灰オリーブ色(7.5Y6/2)	Ⅱ-ｂ類



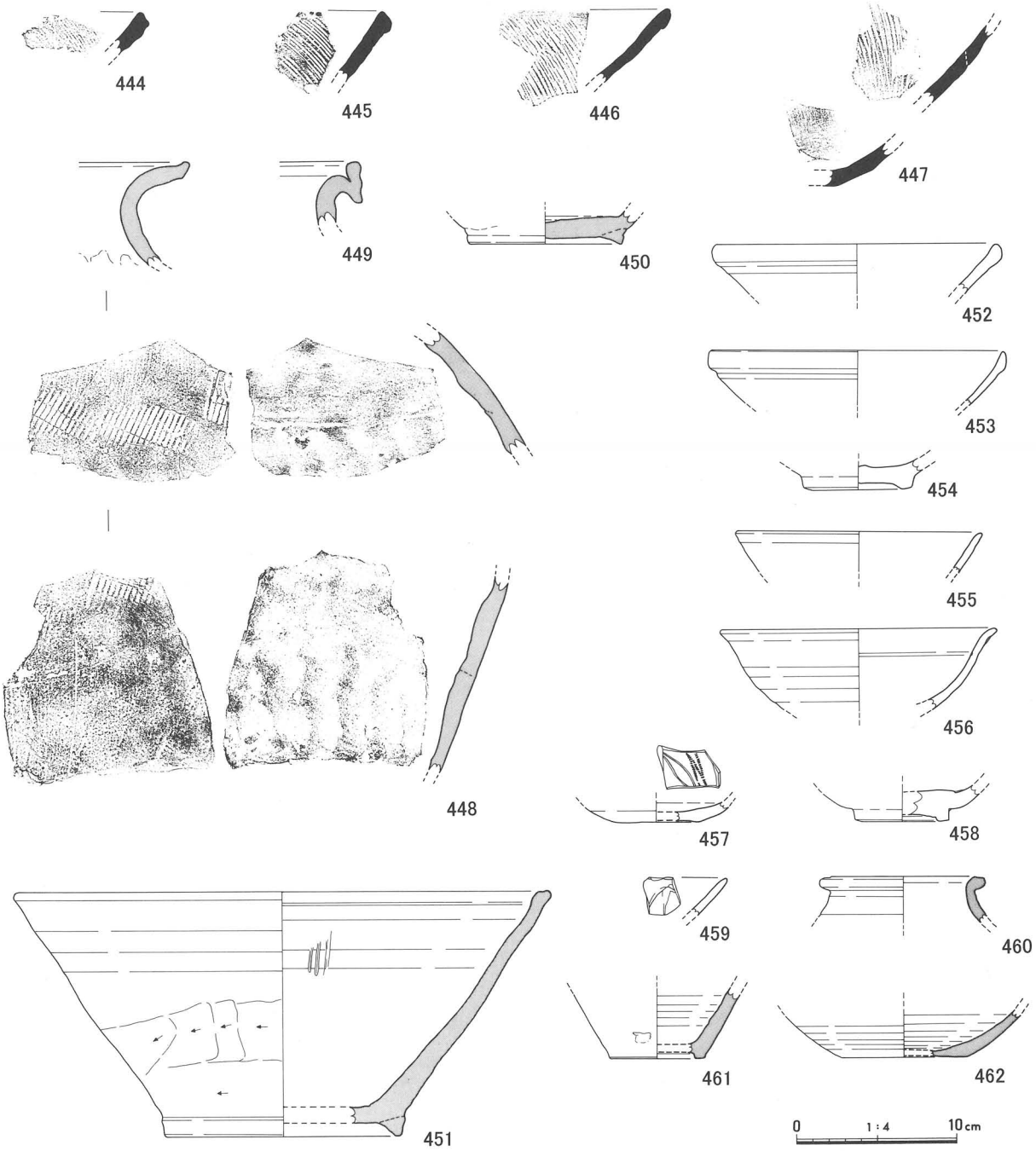
第49図　ＩＡ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺物（Ｓ＝1/4）



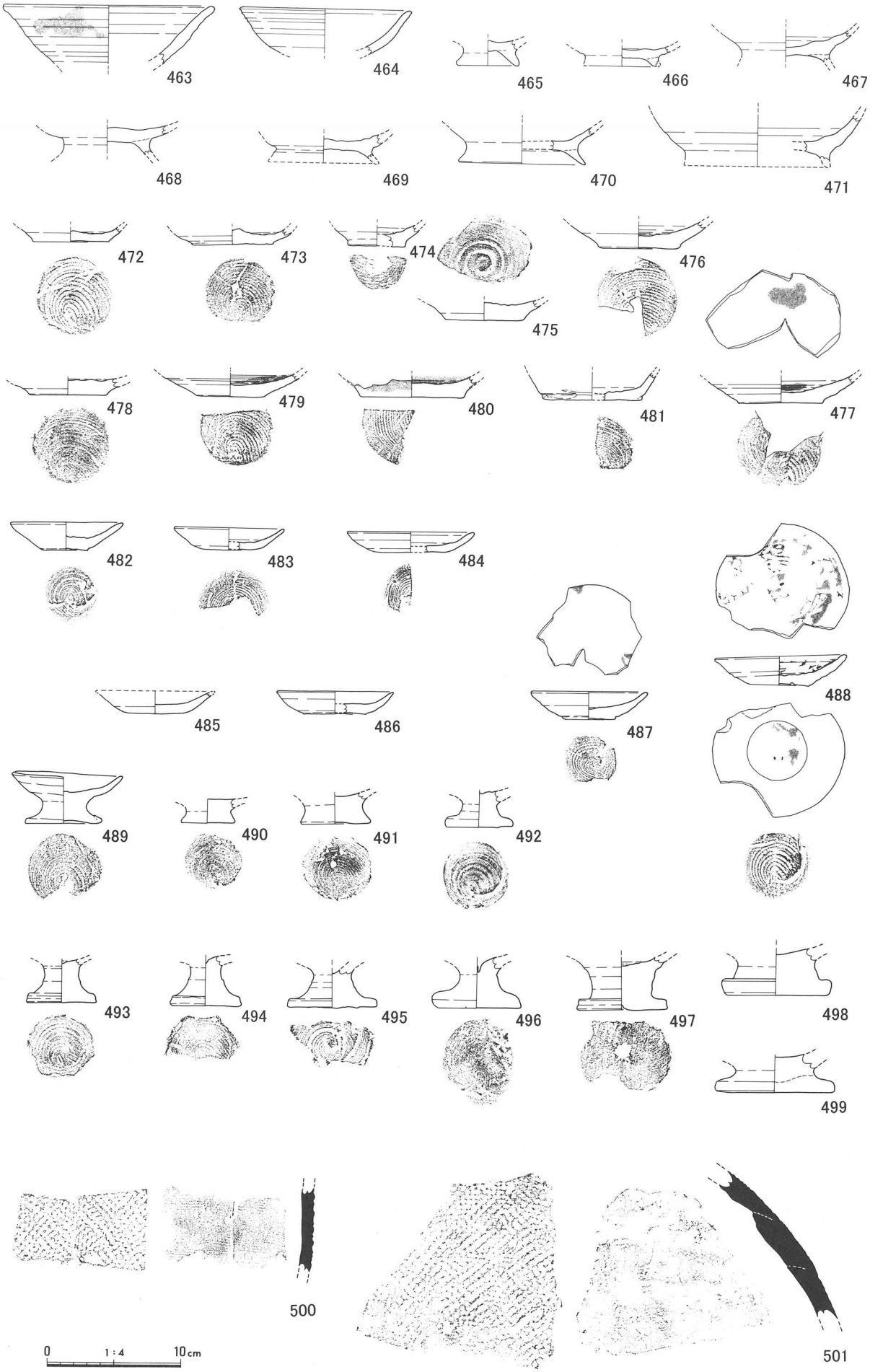
第50図　ＩＢ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺物出土状況（Ｓ＝1/300）



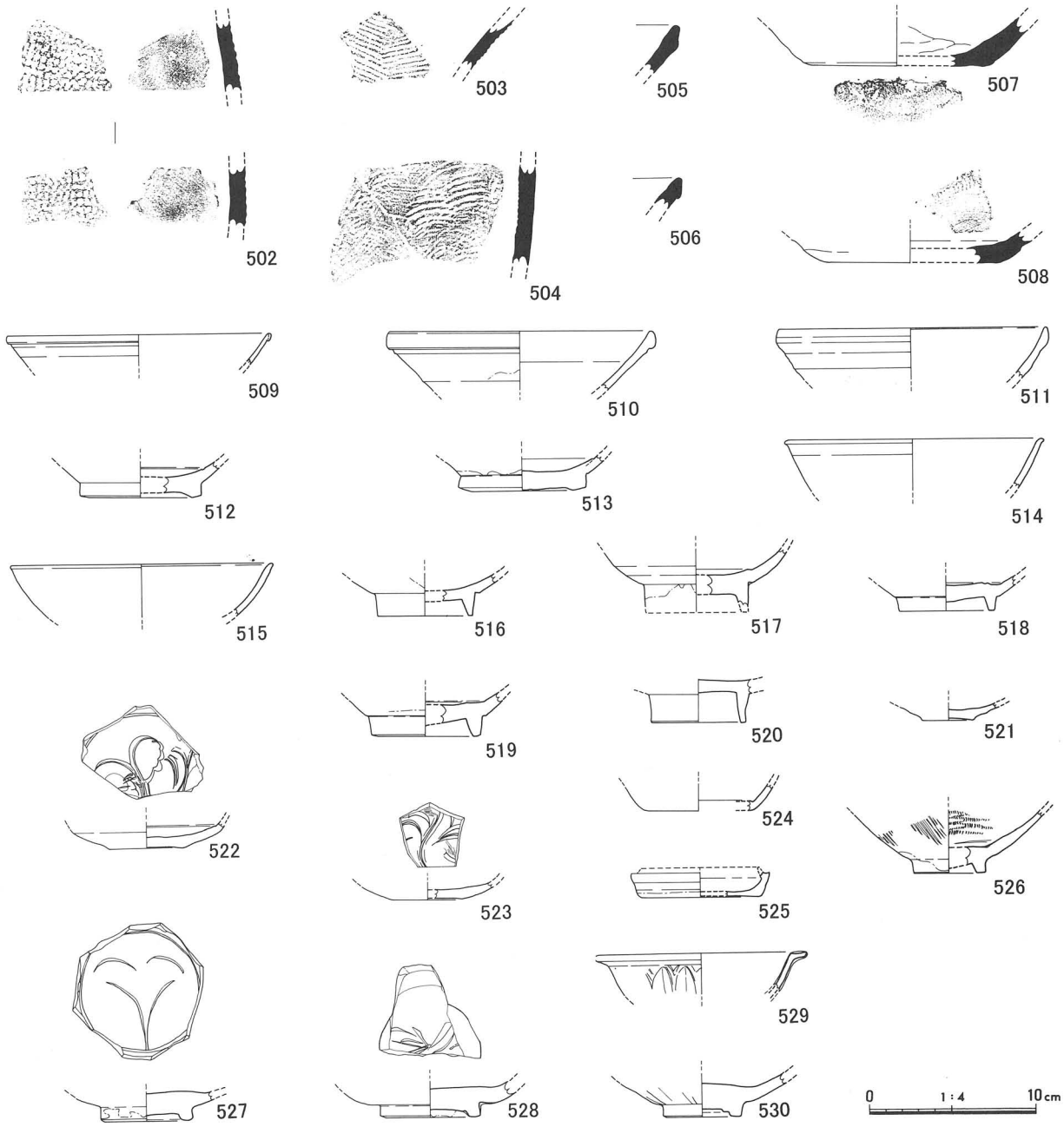
第51図　ＩＢ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺物①（Ｓ＝1/4）



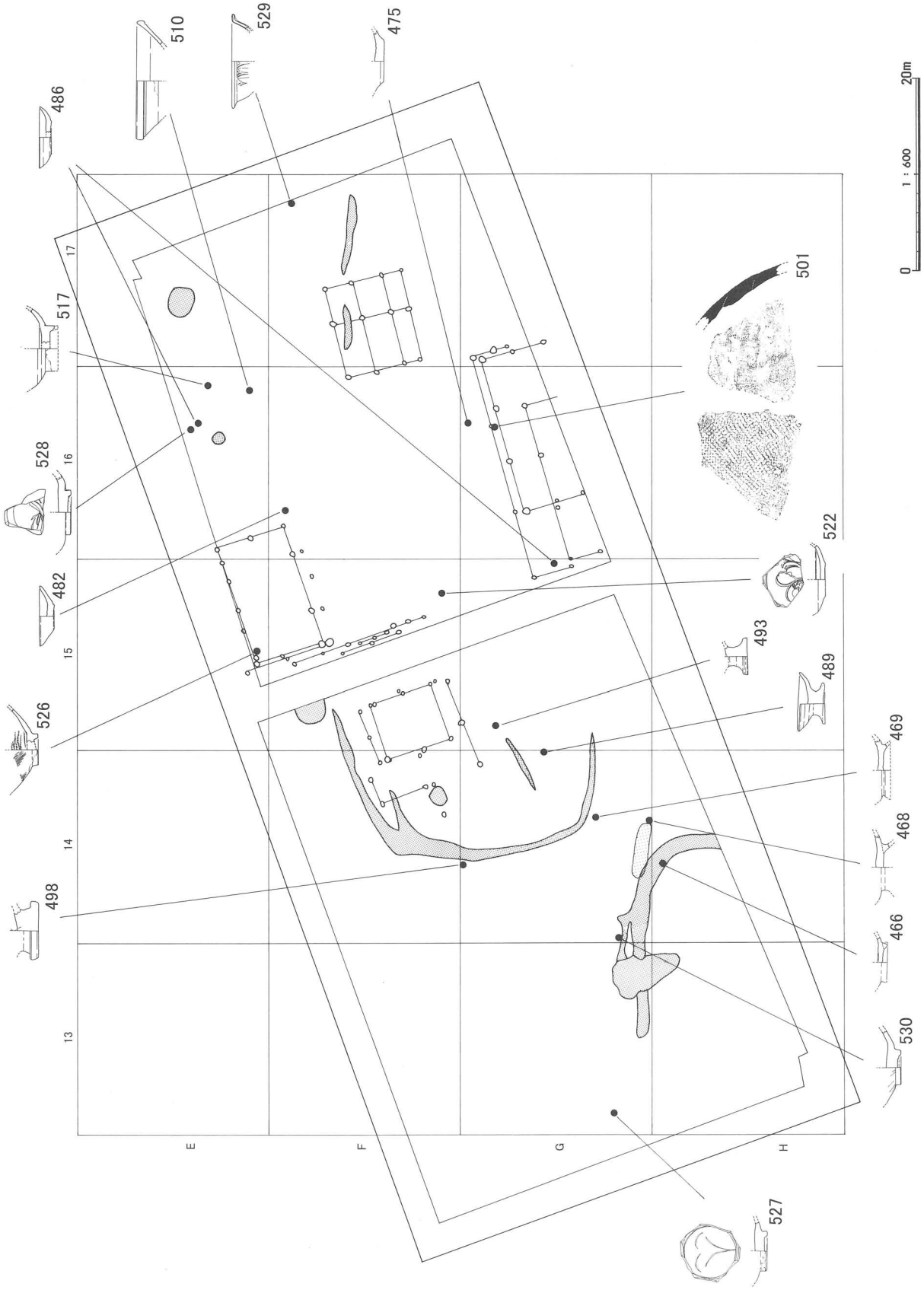
第52図　ＩＢ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺物②（Ｓ＝1/4）



第53図　ＩＣ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺物①（Ｓ＝1/4）



第54図　ＩＣ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺物②（Ｓ＝1/4）



第55図　ＩＣ区　平安時代後半～鎌倉時代の遺物出土状況（Ｓ＝1/300）

（６）室町時代の以降の遺構・遺物

室町時代以降の遺構はＩＡ区とＩＢ区で検出された。これらの遺構は基本的に５ａ層の上面で検出しており、５ａ層が検出されなかった溝１より東では明確にこの時期と判断される確認していない。溝１はⅡＡ区で続きを検出しており、昭和の圃場整備以前の図面にも表現されている。

遺物は溝１とその周辺を除けばＩＢの南東に集中している。ＩＣ区では５ｂ層の上面がほぼ水平になっており、室町時代以降の遺物はほとんど出土しなかった。こうした状況から、室町時代以降には溝１の西側、溝２の南側が居住域で、溝１の東側は削平した後に耕作地として利用されていたと考えられる。

参考文献

21　島根県教育委員会　『富田川河床遺跡発掘調査報告書－Ⅲ－』　1983

22　島根県教育委員会　『上久々茂土居跡・大峠遺跡』1994

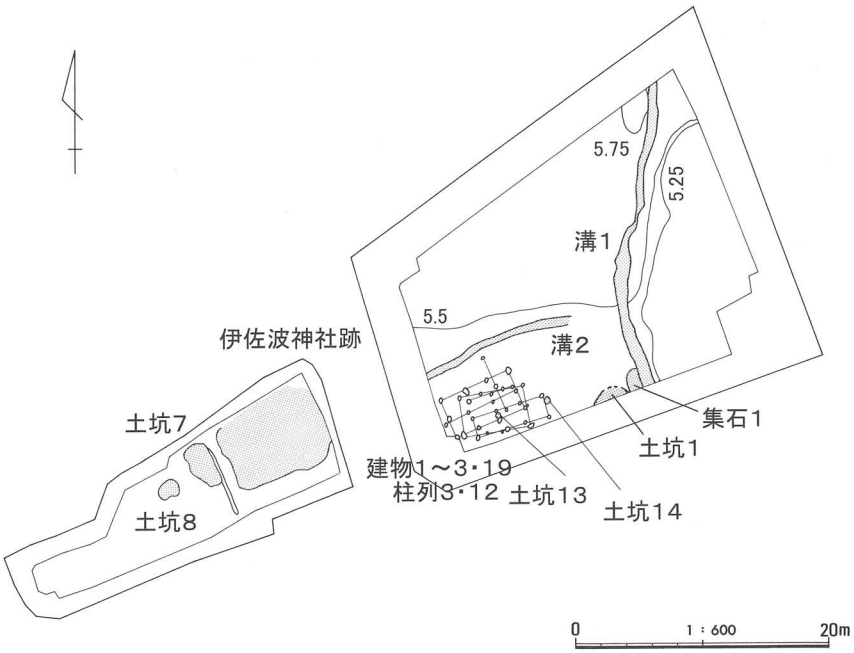
23　島根県教育委員会　『蔵小路西遺跡』　1999

24　島根県教育委員会　『古志本郷遺跡Ｉ』　1999

25　間壁忠彦　「備前焼」『考古学ライブラリー60』　ニューサイエンス社　1991

26　小野正敏　『図解・日本の中世遺跡』　2001

27　日本貿易陶磁研究会　「中世後期における貿易陶磁器の様相」『日本貿易陶磁研究集会中国大会　資料集』　2002



第56図　Ｉ区　室町時代以降の遺構と遺物（Ｓ＝1/600）

建物１・柱列３（第57図、写真図版６・39・40）

ＩＢ区のＩ10グリッドで検出した１間×３間の掘立柱建物で、５ａ層を５㎝程度水平に掘削した後に検出した。建物の南側が調査区の南端に位置するので、調査区外にさらに建物が広がる可能性がある。建物１の北側では同じ軸の柱列３瓮を検出した。柱穴の中心間の距離が建物１より短いことと、Ｐ30に対応する柱穴が検出されなかったことから建物１の一部としなかったが、関連する遺構と考えられる。遺物はＰ37の上層で瓷器系陶器448の胴部片が出土している。建物１の時期は、検出した面や周辺で出土した遺物の時期からおよそ14～15世紀頃と考えられる。重複する建物２・３・19との前後関係は不明である。

第51表　青木遺跡　建物１・柱列３　計測表

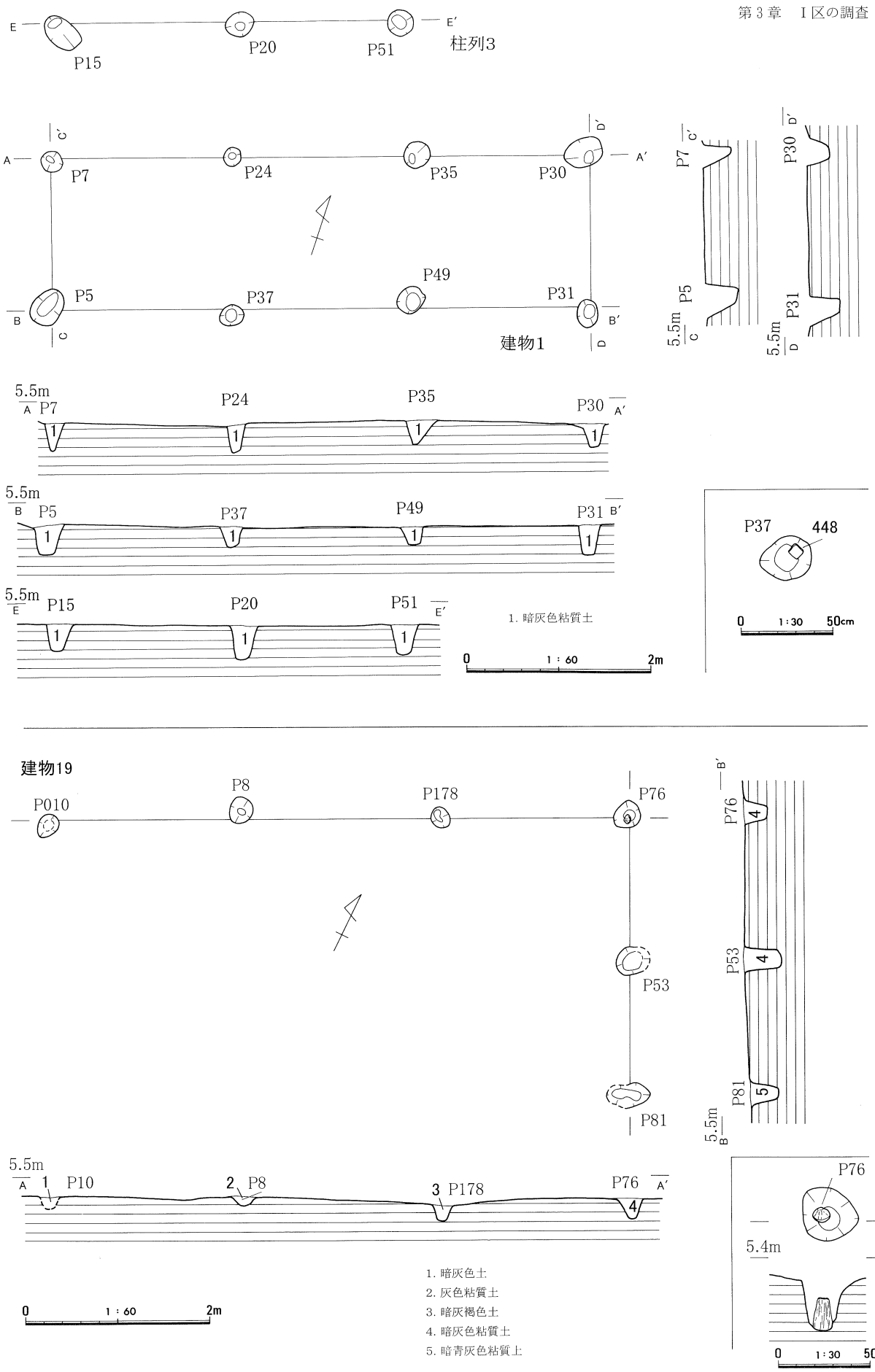
規模			梁行き				桁行き			
			１間				３間			
主軸			N－71°－E							
穴	番号		Ｐ5	Ｐ7	Ｐ24	Ｐ35	Ｐ30	Ｐ31	Ｐ49	Ｐ37
	平面規模(cm)		43×30	23×23	20×20	30×28	45×31	30×18	31×23	28×22
	標高(m)	上面	5.27	5.28	5.23	6.68	6.68	5.21	5.24	5.20
		下面	4.89	4.97	4.92	5.00	4.98	4.88	4.99	4.97
	番号		Ｐ15	Ｐ20	Ｐ51					
	平面規模(cm)		41×28	29×28	28×27					
	標高(m)	上面	5.27	5.23	5.26					
		下面	4.98	4.89	4.93					
柱間距離(cm)			Ｐ7－Ｐ24	Ｐ24－Ｐ35	Ｐ35－Ｐ30	Ｐ30－Ｐ31	Ｐ31－Ｐ49	Ｐ37－Ｐ49	Ｐ5－Ｐ37	Ｐ5－Ｐ7
			195	195	194	166	190	195	204	164
			Ｐ15－Ｐ20	Ｐ20－Ｐ51						
			206	174						

建物１・柱列３（第57図、写真図版６・39・40）

ＩＢ区のＩ10グリッドで検出した２間×３間の掘立柱建物で、規模や検出した位置から建物２・３と立て替えの関係にあると考えられる。Ｐ76は柱根が残っていた。

第52表　青木遺跡　建物19　計測表

規模			梁行き			桁行き		
			２間			３間		
主軸			N－63°－E					
穴	番号		Ｐ10	Ｐ8	Ｐ178	Ｐ76	Ｐ53	Ｐ81
	平面規模(cm)		28×21	29×28	21×20	32×28	50×37	67×27
	標高(m)	上面	5.30	5.29	5.18	5.25	5.27	5.20
		下面	5.00	5.18	5.01		4.72	4.88
柱間距離(cm)			Ｐ10－Ｐ8	Ｐ8－Ｐ178	Ｐ178－Ｐ76	Ｐ76－Ｐ53	Ｐ53－Ｐ81	
			212	216	208	154	146	
柱痕	ＰNo.		76					
	規模(cm)	長						
		幅						



第57図　Ⅰ区　建物１・19、柱列３（S＝1/60）

建物２（第58図、写真図版６・39・40）

ＩＢ区のＩ９・10グリッドで検出した２間×３間の掘立柱建物で、建物１と同様な面で検出した。Ｐ50・52は柱根が残っていた。Ｐ50の柱根は大型の材を四分して使用し、断面は長方形に近い。先端は比較的平坦に加工している。遺物はＰ64で須恵器の鉢**531**が拳大の礫に混じって出土した。建物２の時期は建物を区画する溝や周辺の遺物の年代から、およそ14～15世紀頃と考えられる。

第53表　青木遺跡　建物２　計測表

規模			梁行き					桁行き				
			２間					３間				
主軸			N－66°－E									
穴	番号		P13	P16	P52	P64	P53	P50	P36	P3	P11	
	平面規模（cm）		47×37	69×37	33×33	52×49	50×37	42×30	63×40	32×23	41×34	
	標高（m）	上面	5.29	5.26	5.21		5.27	5.24	5.26	5.27	5.29	
		下面	4.88	4.79			4.72	4.74	4.83	4.91	4.93	
柱間距離（cm）			P13－P16	P16－P52	P52－P64	P64－P53	P53－P50	P50－P36	P36－P3	P3－P11	P11－P13	
			206	196	206	326	206	200	192	170	150	
柱痕	PNo.		50	52								
	規模（cm）	長	42.6	41								
		幅	長12.8 短11.1	長14.1 短11.5								

第54表　Ｉ区建物２出土遺物観察表

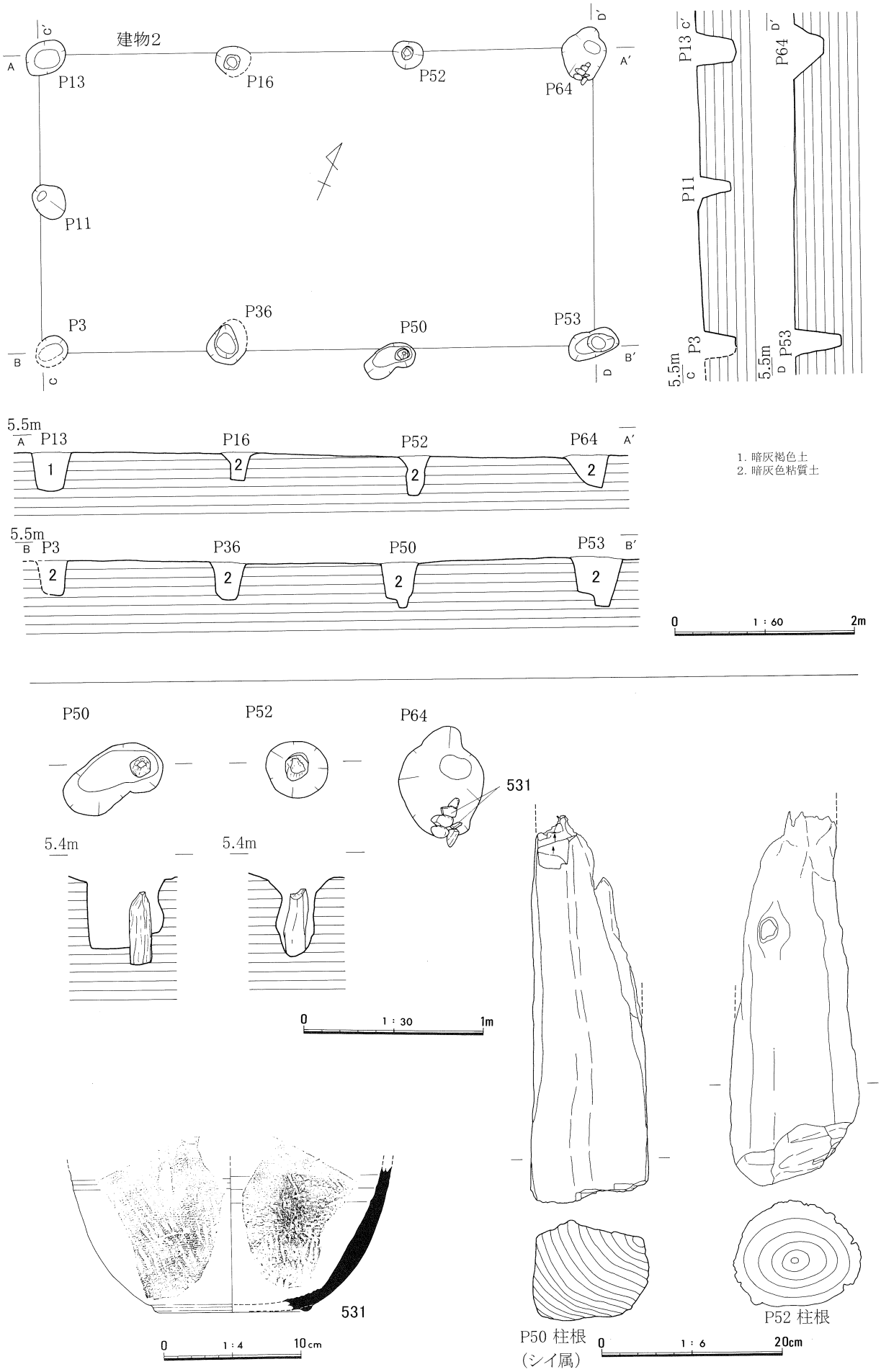
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm）			形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
							口径	底径	器高					
531	58	102	須恵器	把手付鉢	P64・I-10	5		(11.5)		底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ、放射状文あて具痕 外：カキメ、平行タタキ	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰褐色（7.5YR6/2） 外：灰褐色（7.5YR5/2）	

建物３（第59図、写真図版６・39・40・41）

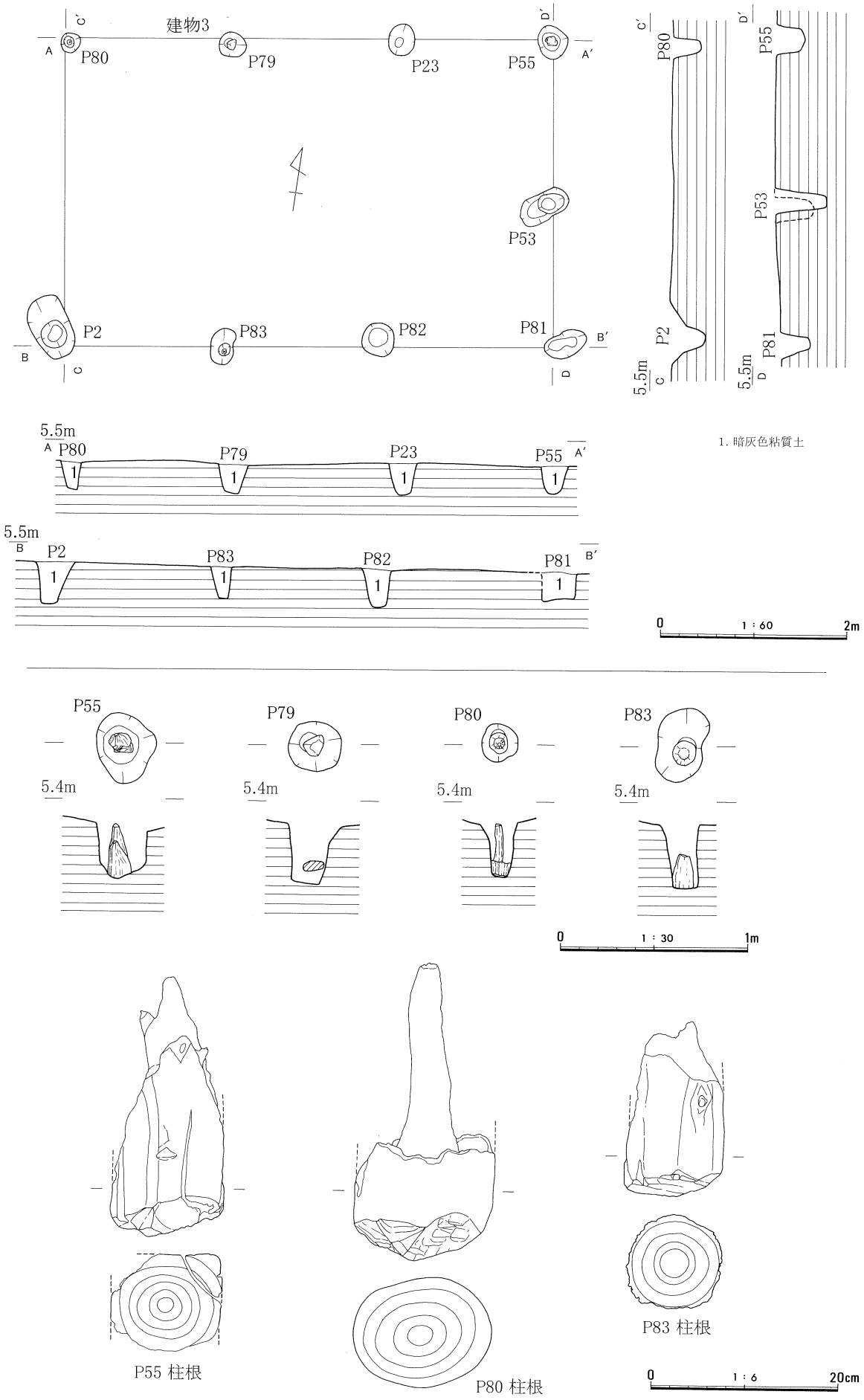
ＩＢ区のＩ10グリッドで検出した２間×３間の掘立柱建物で、Ｐ55・80・83には柱根が残っていた。規模や位置から建物２と近い時期の建物と考えられる。

第55表　青木遺跡　建物３　計測表

規模			梁行き				桁行き			
			２間				３間			
主軸			N－81°－E							
穴	番号		P80	P79	P23	P55	P81	P82	P83	P2
	平面規模（cm）		24×19	22×21	34×27	38×32	67×27	46×35	39×25	70×50
	標高（m）	上面	5.26	5.47	5.24	5.24	5.20	5.22	5.26	5.30
		下面		5.30	4.91	4.96	4.88	4.82		4.83
柱間距離（cm）			P80－P79	P79－P23	P23－P55	P55－P81	P81－P82	P82－P83	P83－P2	P2－P80
			176	180	166	324	120	166	184	310
柱痕	PNo.		55	80	83					
	規模（cm）	長	27	31.6	18.5					
		幅	長12 短10.3	長14.7 短11.6	長10.7 短10.2					



第58図　Ⅰ区　建物２（S＝1/60）



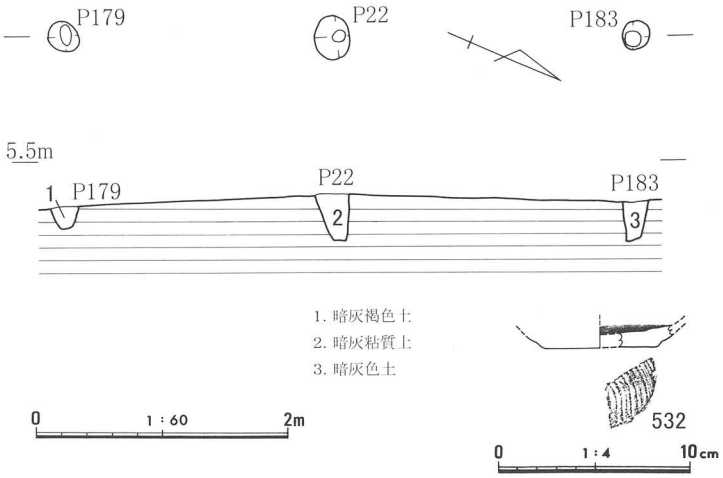
第59図　Ⅰ区　建物３（S＝1/60）

柱列12（第60図、写真図版41）

ＩＢ区のＩ10グリッドで検出した。Ｐ22内で内面に炭素を吸着させた坏が出土した。溝２の南側に位置し、建物２と主軸が合うので14世紀以降の遺構と考えたが、くわしい時期は不明である。

第56表　青木遺跡　柱列12　計測表

規模		2　間		
主軸		N－23°－W		
穴	番号	P179	P22	P183
	平面規模（cm）	22×21	33×29	25×21
	標高（m）上面	5.18	5.24	5.18
	標高（m）下面	5.01		4.86
柱間距離（cm）		P179－P22	P22－P183	
		220	235	



第60図　Ｉ区　柱列12（Ｓ＝1/60）

第57表　Ｉ区柱列12出土遺物観察表

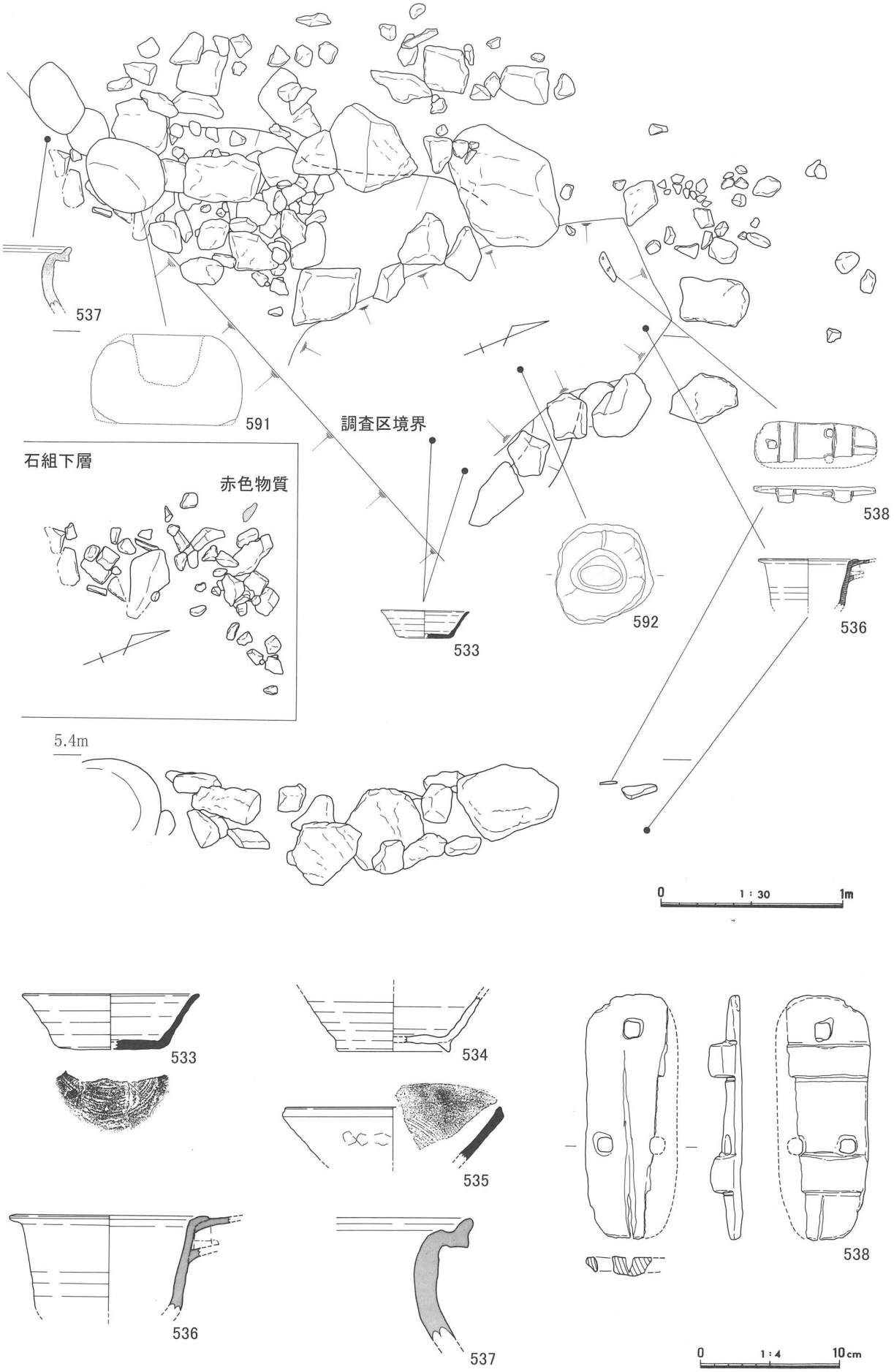
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
532	60	102	土師器（黒色土器）	坏	P22			(8.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	金雲母多量	内：黒褐色（2.5Y3/1） 外：黄灰色（2.5Y5/1）	

土坑１（第８・61・68・70図、写真図版42～44）

ＩＢ区Ｉ11グリッドで５ａ層掘削後に検出した。溝１・集石１の西側に位置する。規模は検出した範囲で長さ約2.3mだが、土坑の南側が調査区外に続いているので正確な規模は不明である。土坑内には上層に腐食層が、下層には粘質土が堆積していた。土坑の肩部には大型の石が並べられており、調査区南壁部分では五輪塔の水輪(**591**)を転用したものが出土している。西側の石組みの下層では拳大前後の石のまとまりがあり、付近で赤色物質が出土した。土坑内で瀬戸の柄付鉢（**536**）と磨石（**592**）が出土し、集石と堀り方の間で瓷器系陶器**537**が出土していることから、土坑１の時期は15世紀以降と考えられる。床面で出土した坏**533**・**534**は土坑１下層で検出した集石２に伴う遺物の可能性が高い。土坑１の性格は、遺構の形状や埋土の様子から水溜めなどが想定される。

第58表　Ｉ区土坑１出土遺物観察表

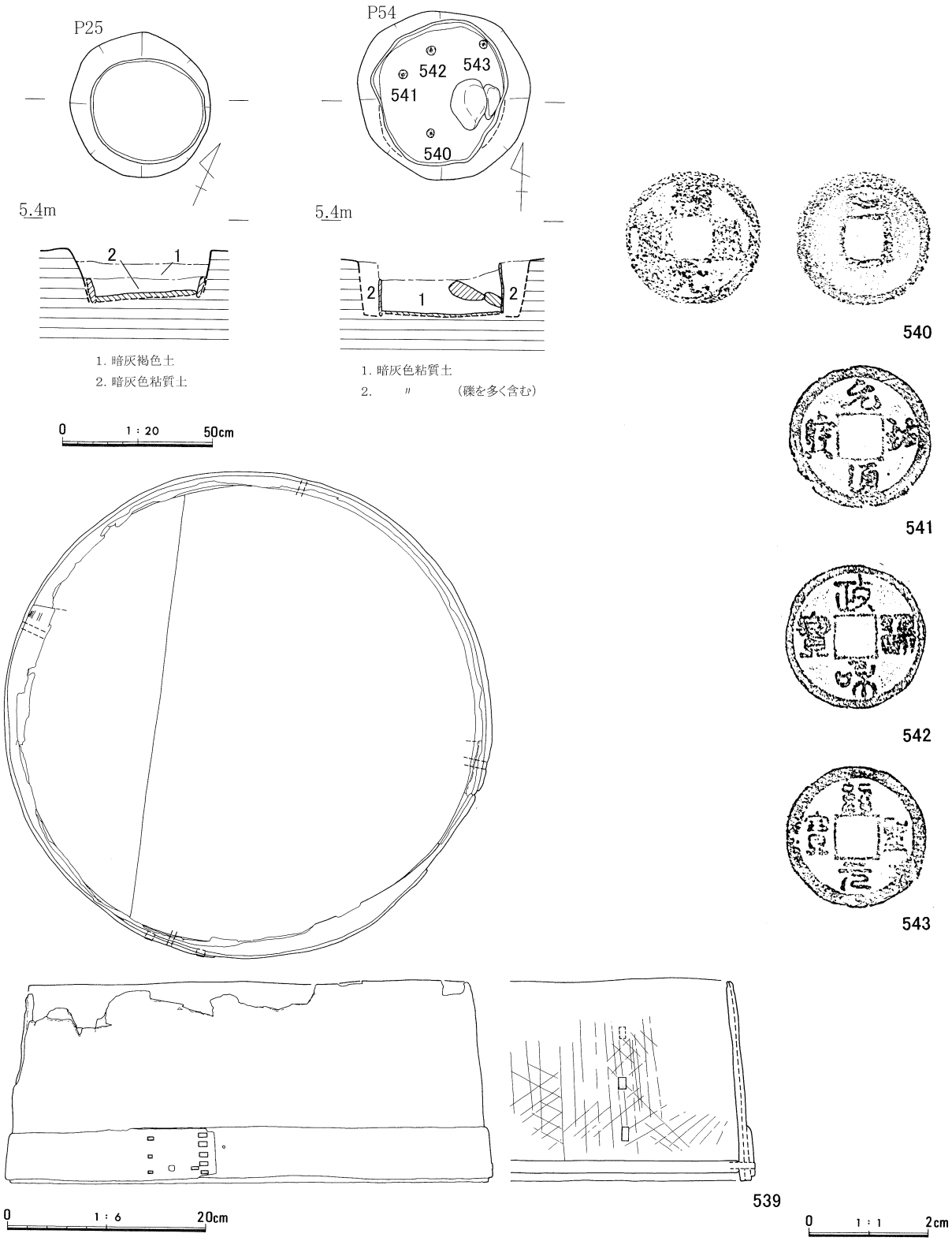
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
533	61	103	須恵器	坏	土坑1		(12.6)	(7.2)	4.05	口縁部は緩く外反する	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒少量	内：灰白色（N7/） 外：灰白色（N7/）～灰色（N4/）	
534	61	103	土師器	高台付坏	土坑1	7		(8.2)		底部に高台を貼り付ける	内：カキメ後ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
535	61	103	瓦質土器	鉢	土坑1		(15.6)			内面にクシ状工具による摺り目を施す	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ後ナデ	径0.5㎜以下の砂粒含む	内：灰色（N4/） 外：灰色(N4/)～灰色(7.5Y6/1)	
536	61	103	瀬戸	柄付片口	土坑1		(14.4)			口縁部下にロクロ成形した柄を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径9㎜の長石含む	内・外：(釉)灰オリーブ色(7.5Y6/2)	15世紀半頃
537	61	103	瓷器系陶器	甕	土坑1 石組下					口縁端部は「N」字状に屈曲する	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い赤褐色(2.5YR5/4)～灰黄色(2.5Y7/2) 外：鈍い赤褐色(2.5YR5/4)	
538	61	103	木製品	下駄	土坑1									ホオノキ



第61図　Ｉ区　土坑1（Ｓ＝1/30）

土坑13・14（第８・62図、写真図版40・46）

ＩＢ区Ｉ10グリッドで５ａ層を５㎝程度水平に掘削した後に検出した。いずれも土坑内に曲げ物を据えていた。土坑14では古銭４枚と石が出土している。検出した層位と古銭が全て中世の渡来銭であることから室町時代以降の土坑と判断したが、詳しい時期や性格は不明である。



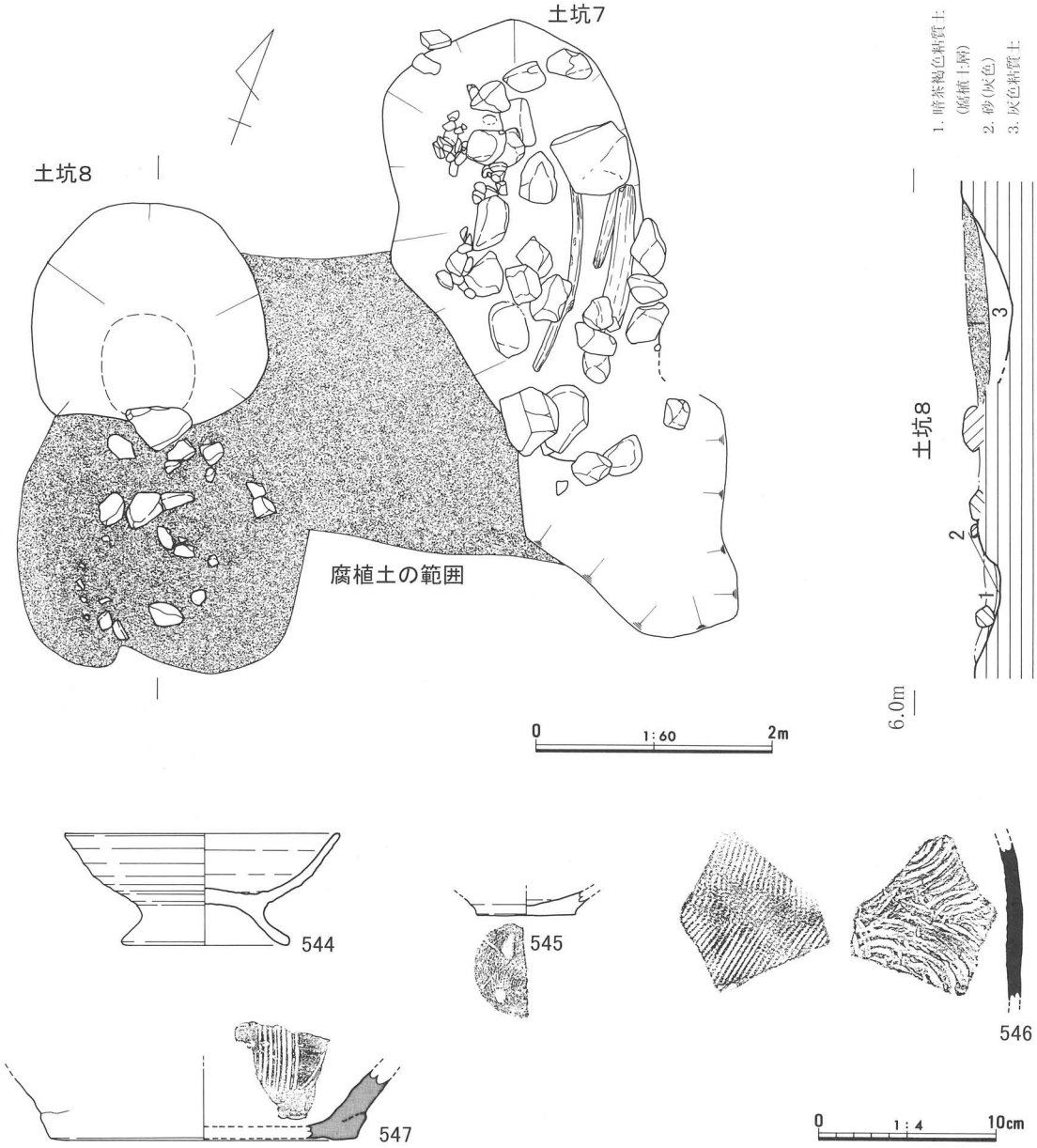
第62図　Ｉ区　土坑13・14（Ｓ＝1/30）

第59表　Ｉ区土坑14出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 長さ	幅	厚さ	形態・文様の特徴	備考
539	62	103	木製品	曲物	土坑14						スギ
540	62	102	古銭		土坑14		2.41	2.38	0.09		開元通寶
541	62	102	古銭		土坑14		2.41	2.43	0.11		元祐通寶
542	62	102	古銭		土坑14		2.28	2.29	0.08		政和通寶
543	62	102	古銭		土坑14		2.38	2.39	0.13		紹聖元寶

土坑７・８（第63図、写真図版46）

ＩＡ区のＪ７・８グリッドで検出した。土坑７は５ａ層上面から掘られており、東に隣接する伊佐波神社を調査した際に土坑上面の石が出土した。石は長方形に並び、石で囲まれた中に木材が埋まっていた。土坑７・８の上層と周辺では腐植層が堆積し、伊佐波神社の石列と近い軸の石列を上面で検出していることから、伊佐波神社に関連する水場の可能性が考えられる。



第63図　Ｉ区　土坑７・８（Ｓ＝1/60）

第60表　Ｉ区土坑７・８出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点Gr/遺構	層位	寸法（cm）			形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
							口径	底径	器高					
544	63	104	中　世 土師器	高台付坏	土坑7		(15.5)	9.5	6.3	底部に高台を貼り付ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り、ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量、金雲母多量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
545	63	104	中　世 土師器	坏	土坑7			(5.6)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1～3㎜の砂粒、金雲母多量	内：鈍い橙色（7.5YR6/4） 外：鈍い橙色（7.5YR6/4）	
546	63	104	須恵器	甕	土坑8						内：同心円文オサエ 外：平行タタキ	径1㎜の砂粒少量	内：灰色（N6/） 外：灰色（N5/）	
547	63	104	備前焼	擂鉢	土坑8	腐植層		(17.2)		内面に9条のクシ描きによる摺り目を施す	内：ヨコナデ 外：ナデ	径0.5～2㎜の砂粒、径10㎜の長石含む	内：灰色（5Y5/1） 外：褐灰色（10YR6/1）	

溝２（第64図、写真図版47・48）

ＩＢ区のＩ９・10グリッドで５ａ層精査時に検出した。検出した位置や溝の方向からＩＢ区南西で検出した遺構群の北側の区画と考えられる。溝の西側は調査区外に続き、東側はＩ10グリッドの東端で途切れていた。幅約60㎝、床面は緩く西側に傾斜し、溝内には暗褐色の粘質土が堆積していた。遺物は溝の東端で土師器の擂鉢550が天地逆に伏せた状態で出土した。口縁端部と内面に横方向のハケ調整が施され、その上からクシ描きによる摺り目を入れている。そのほかは土師器の坏の小片が出土している。溝の時期は550の形態からおよそ15世紀頃と考えられる。

第61表　Ｉ区土坑７・８出土遺物観察表

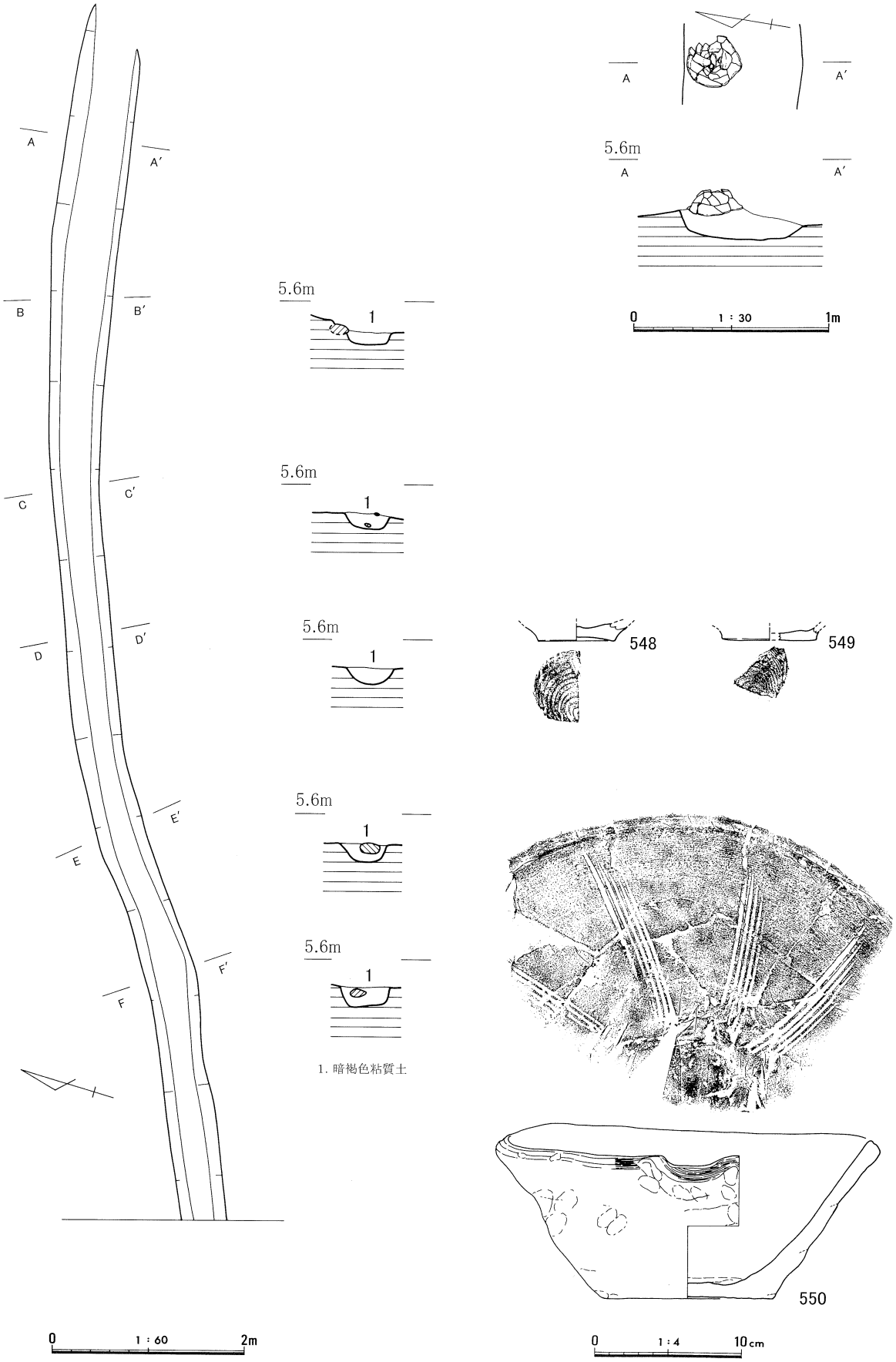
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点Gr/遺構	層位	寸法（cm）			形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
							口径	底径	器高					
548	64	104	中　世 土師器	坏	溝2	1		(5.2)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5～1㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
549	64	104	中　世 土師器	坏	溝2	1					内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5～㎜の砂粒少量	内：鈍い橙色（7.5YR7/3） 外：褐灰色（7.5YR5/2）	
550	64	104	中　世 土師器	擂鉢	溝2		26.5	11.6	12.0		内：工具によるヨコ方向のハケ調整 外：ユビナデ、ナデ	径1㎜の砂粒含む	内：灰黄色（2.5Y7/2） 外：灰黄色（2.5Y7/2）	

溝１・集石１（第65・66図、写真図版49～53）

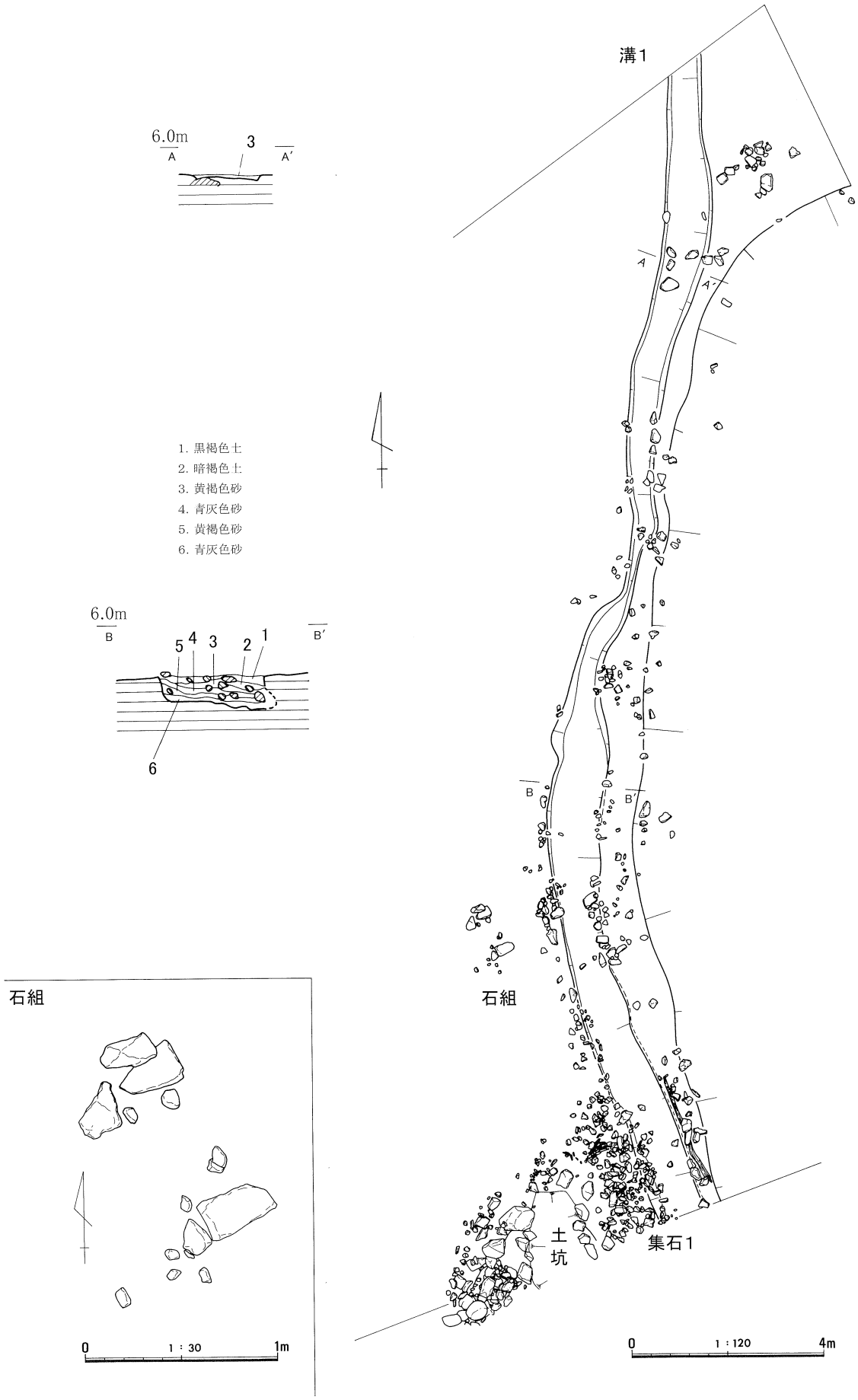
ＩＢ区のＧ11～Ｉ11グリッドで３層掘削後に検出した。溝１内には黄色と黒色の砂が堆積していた。溝の東西で石が出土し、溝２東端の延長上で間の長さが約60㎝の石組を検出した。南側の土坑１との間の部分では特に石が多く出土し集石１とした。溝１と集石１からは中世や近世初頭の陶磁器・金属器・木製品が出土し、集石１の北側では短い板がまとまって出土した。遺構の時期は、溝１の中や周辺で見込みに胎土目と砂目のある肥前系陶器の皿が出土しているので17世紀初頭まで存続していたと考えられ、遺構の造られた時期は土坑１や溝２と同時期に遡る可能性が考えられる。

第62表　Ｉ区溝１出土遺物観察表

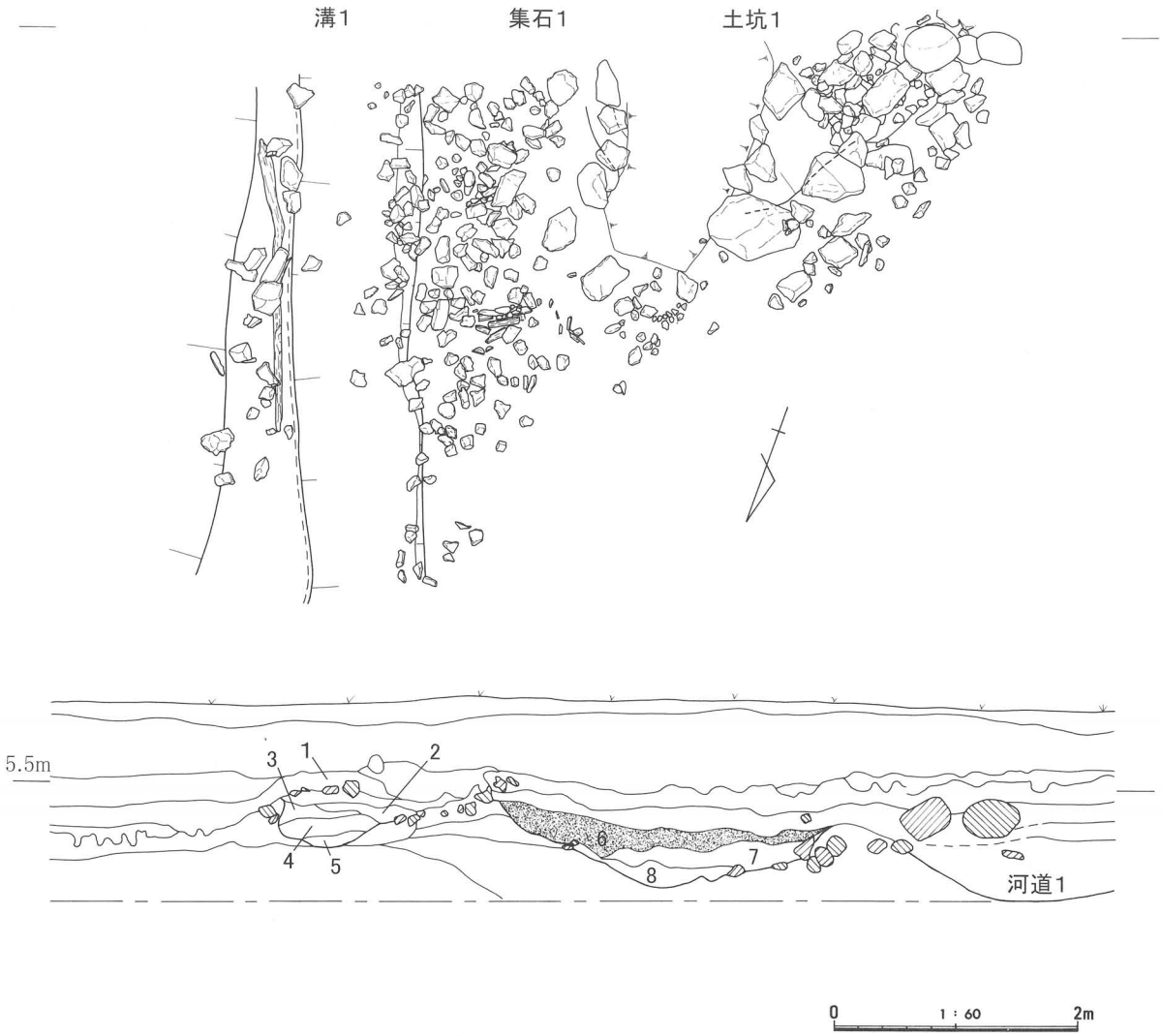
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点Gr/遺構	層位	寸法（cm）			形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
							口径	底径	器高					
551	68	105	白磁	碗	G-11、溝1			(7.2)		削り出し高台	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：(釉)浅黄色(5Y7/3) 外：灰白色(5Y8/1)	Ⅳ類
552	68	105	中国陶器（黄釉）	盤	G-11、I-11、溝1	5				口縁は外反し端部は丸い。内面に鉄絵を施す	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ナデ	径1㎜の砂粒少量	内：(釉)灰オリーブ色(5Y5/3) 外：鈍い褐色(7.5YR5/3)	Ⅰ-2ｂ類
553	68	105	備前焼	擂鉢	G-11、溝1					クシ状工具で6条の摺り目を施す	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径2～3㎜の砂粒少量	内：褐灰色（5YR4/1） 外：褐灰色（5YR4/1）	
554	68	105	唐津系陶器	皿	溝1			(4.4)		見込みに胎土目痕	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り		内：(釉)褐灰色(7.5YR4/1) 外：橙色(5Y6/6)～(釉)褐灰色(7.5YR4/1)	
555	68	105	唐津系陶器	皿	G-10・11、溝1	確認面		(4.8)		見込みに砂目痕	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	ほとんど砂粒を含まない	内：(釉)灰オリーブ色(7.5Y6/2) 外：鈍い黄色(2.5Y6/3)～(釉)灰オリーブ色(7.5Y6/2)	
556	68	105	木製品		溝1									スギ
557	68	105	鉄製品	簪	H-11、溝1		長：11.3	幅：1.2	厚：0.2					
558	68	104	木製品											ヒノキ

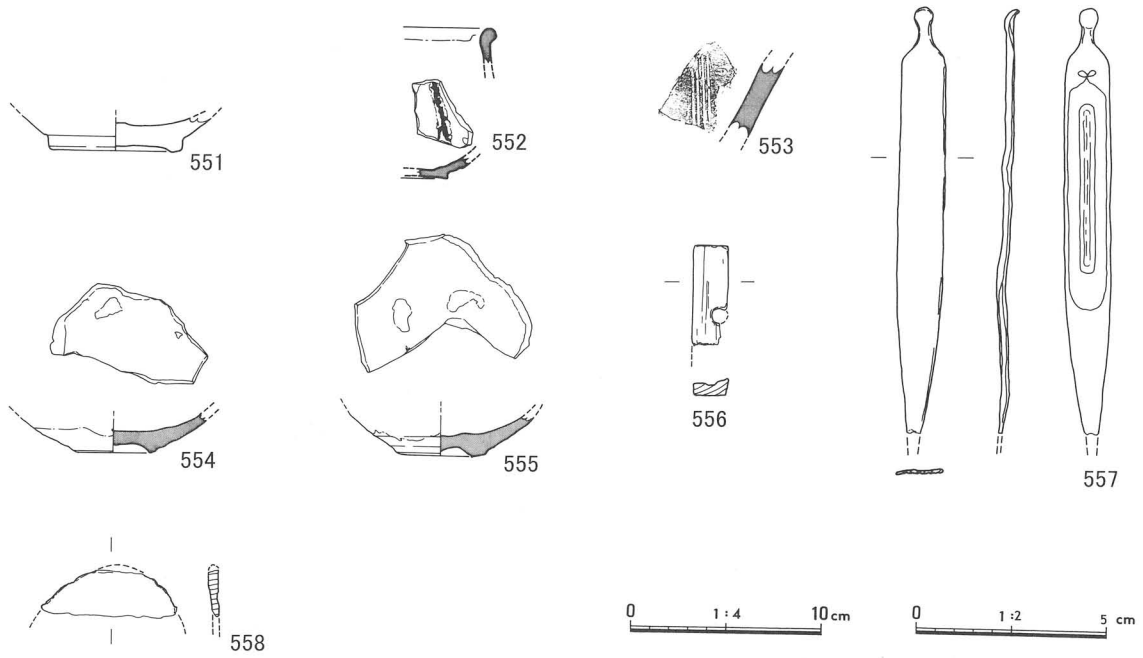


第64図　Ｉ区　溝７（Ｓ＝1/60）



第65図　Ⅰ区　溝１・集石1（S＝1/120）





第66図　Ⅰ区　溝1・集石1土層断面（S＝1/120）

伊佐波神社跡（第67・68図、写真図版54～57）

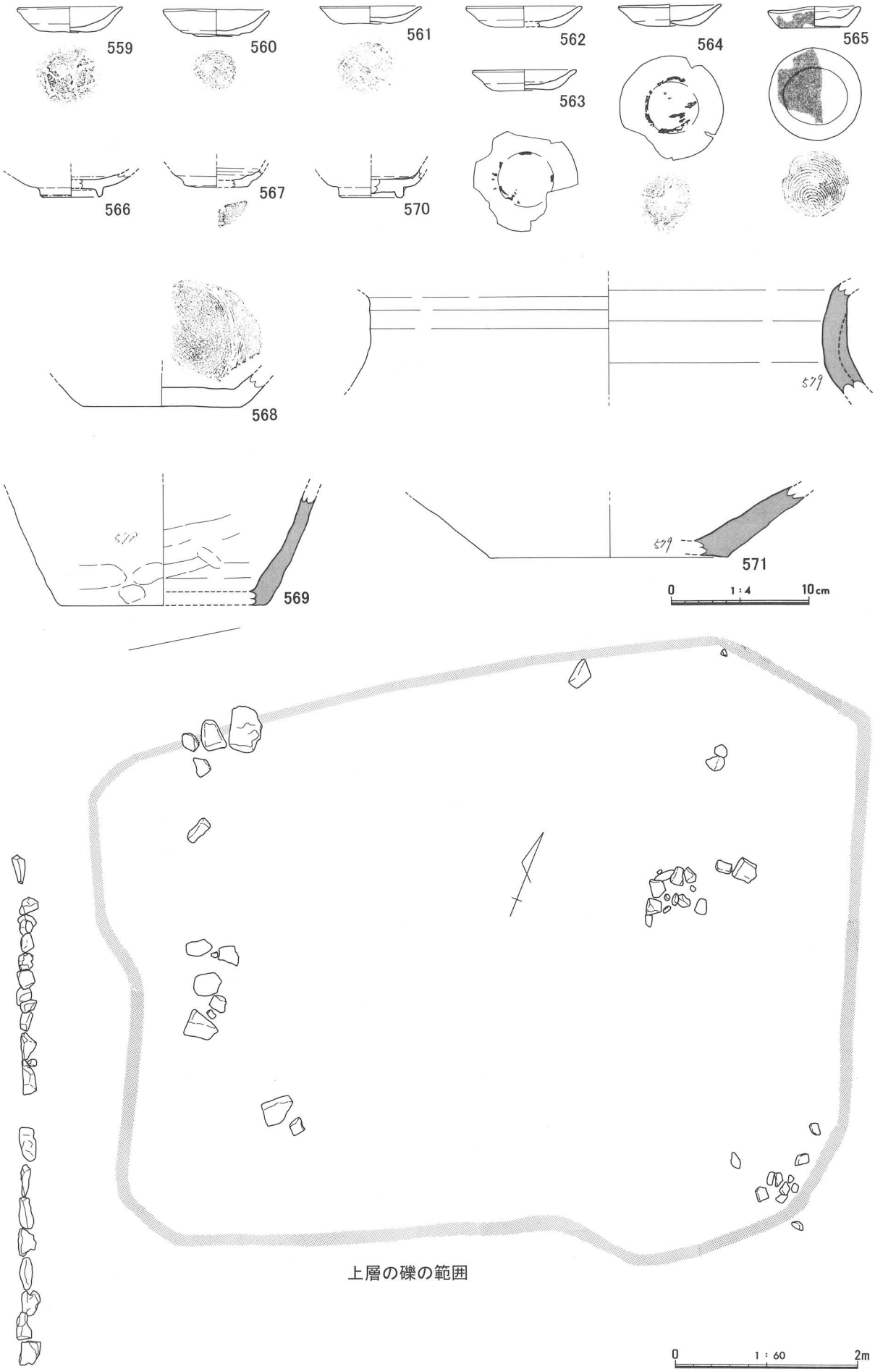
ＩＡ区の東側、Ｉ８・Ｊ８グリッドに位置する。調査前の聞き取りによって、現在国道431号線北側の都賀利神社に合祀されている、伊佐波神社の旧境内がこの位置だったと確認していた。始めにＩＡ区東側の表土を除去した際、Ｉ・Ⅱ区間の道路に直行する石列を検出した。石列から東側を精査したところ拳大以下の多数の石が約6.5×8.5ｍの範囲で検出された。石の分布には粗密があるが、人為的に敷かれたものと考えられる。また、石の中には建物などの礎石と思われるもの見られたが、建物の柱配置は復元できなかった。近世の伊佐波神社については『雲陽誌』に「伊佐波社　伊弉冊尊なり、社三尺に四尺南向、祭礼十月十五日」という記載があり、小規模な社が建てられていたと考えられる。石敷きを掘り下げると下層で拳大から長さ50㎝の石を検出した。西側で検出した石は上層の石列の約1.8ｍ東側に平行して並んでいる。

遺物は上層の石の間から土師器・須恵器・瓷器系陶器・陶磁器が出土した。土師器皿（**559～565**）は上層の遺構に伴うもので、**559・560**と**561・562**はそれぞれ口縁を合わせるようにして出土した。**563・564**の底部には墨書があるが判読できなかった。瓷器系陶器の壺**569**は同一個体の破片がＩＢ区の５ａ層でも出土している。また、図示していないが17世紀の陶磁器も若干出土している。このことから石敷きのある上層の遺構は17世紀以降に造られたと考えられる。下層で検出した遺構のくわしい時期は不明だが、石敷きの中で中世の遺物が出土していることから中世に遡る可能性も考えられる。

第63表　Ｉ区伊佐波神社跡出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点Gr/遺構	層位	寸法（cm）			形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
							口径	底径	器高					
559	68	106	中世土師器	皿	Ｉ A-1（伊佐波神社）	2	(7.5)	3.6	1.9	体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ナデ、回転糸切り	径3㎜以下の砂粒含む	内：橙色（5YR6/6） 外：橙色（5YR7/6）	
560	68	106	中世土師器	皿	Ｉ A-1（伊佐波神社）	2	7.7	3.0	2.0	体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜以下の砂粒含む	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	
561	68	106	中世土師器	皿	ＩA-1・3・4	2・3	7.4	3.5	1.3	口縁端部は先細りし、シャープなつくり	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜以下の砂粒微量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
562	68	106	中世土師器	皿	ＩA-1・3・4サブトレ（伊佐波神社）	2	(8.6)			口縁部は緩く外反する	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（10YR8/4）～鈍い黄褐色（10YR5/4） 外：浅黄橙色（10YR8/4）	
563	68	106	中世土師器	皿	Ｉ A-1サブトレ（伊佐波神社）	3	7.6	3.8	1.5	口縁は緩く外反する。底部に墨書。	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り？	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：浅黄橙色（10YR8/4）～褐色（10YR4/4） 外：浅黄橙色（10YR8/4）	
564	68	106	中世土師器	皿	Ｉ A-1サブトレ（伊佐波神社）	3	7.6	3.8	1.6	口縁は緩く外反する。底部に墨書。	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜の砂粒微量	内：浅黄橙色（7.5YR8/4） 外：浅黄橙色（7.5YR8/4）	
565	68	106	中世土師器	皿	Ｉ A-2（伊佐波神社）	2	6.8	4.9	1.6	口縁部・体部は短い	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5～2㎜の砂粒少量	内：浅黄橙色（10YR8/4） 外：浅黄橙色（10YR8/4）	灯明皿
566	68	107	白磁	皿	伊佐波神社跡	2		(4.6)				黒色粒子微量	内・外：灰白色（5Y8/1）～（釉）灰白色（2.5GY8/1）	森田E類？16世紀以降のものか。
567	68	106	中世土師器	坏	Ｉ A-1（伊佐波神社）	2		(4.6)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒少量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）	混入した古い時期の土器。
568	68	106	中世土師器	擂鉢	Ｉ A-3東（伊佐波神社）	2		(13.2)			内：ハケ目 外：不明	径1㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（7.5YR8/6） 外：浅黄橙色（7.5YR8/6）	
569	68	107	瓷器系陶器	壺	伊佐波神社跡	2・5・7・16		15.3		底部は平底	内：ナデ 外：ナデ、ユビオサエ	径2㎜以下の砂粒・3㎜以下の褐色ブロック含む	内：灰黄褐色（10YR5/2） 外：鈍い赤褐色（2.5YR4/4）	
570	68	107	龍泉窯系青磁	小碗	ＩA区	表土		(4.8)				混入物は認められない	内：（釉）明緑灰色（10G7/1） 外：（釉）明緑灰色（10G7/1）～灰色（5Y5/1）	Ｉ類
571	68	107	瓷器系陶器	甕	伊佐波神社跡、ＩA3・4、H-13、I-11		(31.4)	17.2		外面に厚く釉がかかる	内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、ナデ	径1㎜以下の砂粒含む	内：鈍い黄褐色（10YR5/4） 外：鈍い黄褐色（10YR5/4）～褐色（10YR3/4）	

第67図　Ｉ区　伊佐波神社跡①（Ｓ＝1/80）



第68図　Ⅰ区　伊佐波神社跡②（S＝1/80）

遺構に伴わない遺物（第69～71図）

ＩＡ区では備前焼や肥前系陶器・磁器、貿易陶磁などが出土している。これらは５ａ層よりも上層で出土し、17世紀以降のものは基本的に伊佐波神社に伴う遺物と考えられる。

ＩＢ区では主に南側のグリッドで土師器・国産陶器・貿易陶磁が出土している。土師器の坏・皿類は、小片の場合14世紀以前のものと以降のものを明確に区別ができなかった。小型の坏（572・573）は３ａ層以下で出土しなかった器形なので、室町時代以降の遺物と判断した。574は古志本郷遺跡のⅢＣ類と類似し、575は京都系の土師器皿である。瀬戸・美濃の碗（576・577）、瓶子579はいずれも灰釉で、ほかに図示できなかった天目茶碗の小片が出土している。備前焼の擂鉢（580・581）はⅣ・Ⅴ期のものが出土し、580はⅡＡ区北側の遺物と接合する。584は青磁の梅瓶である。585は壺類の底部と判断した陶器で、底部を除く外面には濃緑色の釉がかけられる。胎土や釉薬の特徴から中国産の可能性が考えられる。

ＩＣ区では室町時代以降の遺物はほとんど出土しなかった。瀬戸・美濃の灰釉皿578は接合する破片が北側のＩＤ区で出土していることから、15世紀頃の遺構が検出されているＩＤ区から流れ込んだ遺物と考えられる。586～589は無文銭で全てＩＣ区東の５ｂ層上面で出土した。なお、ＩＡ～ＩＣ区で出土した古銭は近世以前のもので、寛永通寶は出土しなかった。

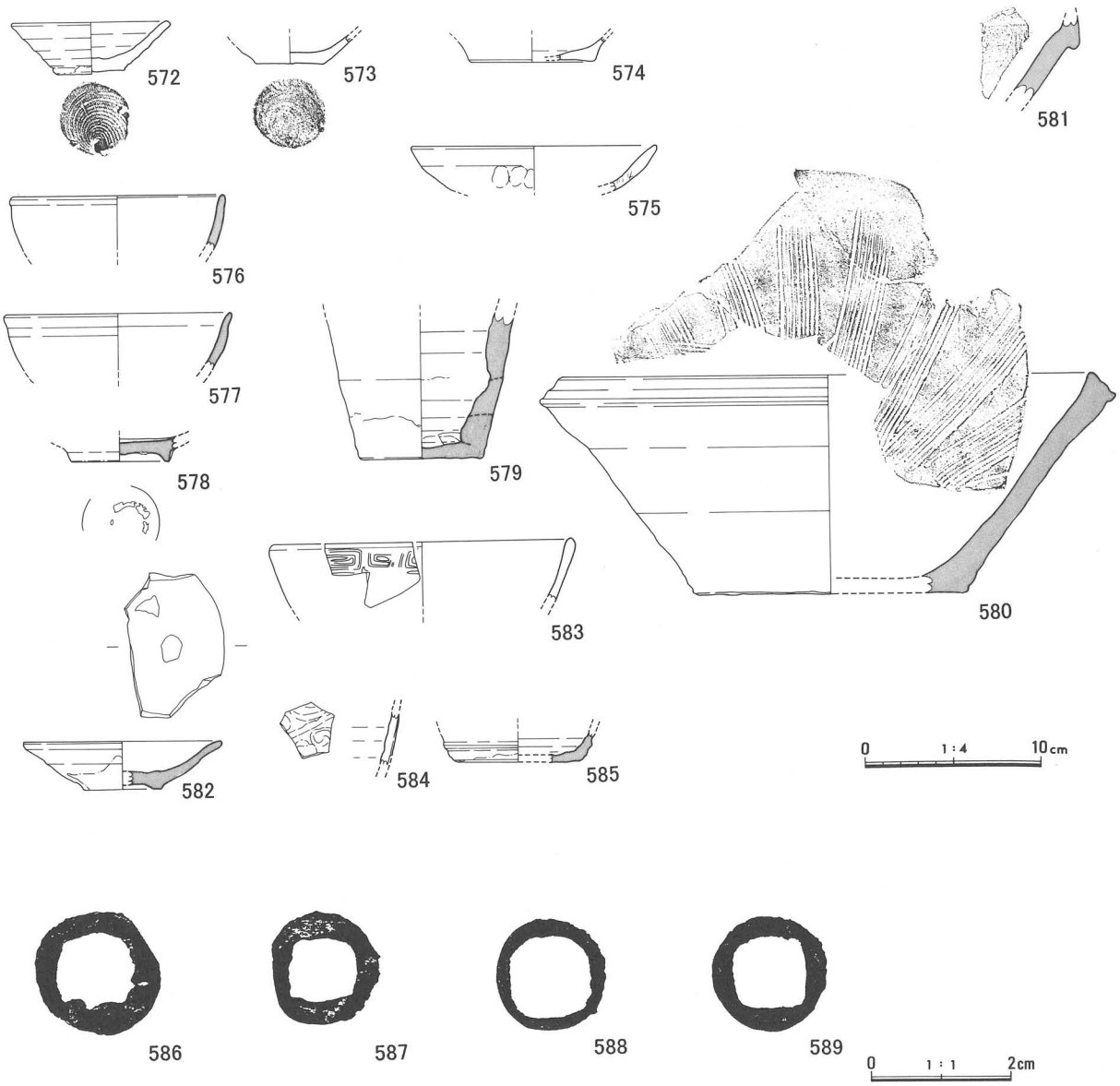
このほか五輪塔の部材が出土している。590はⅡＡ区で表採された来待石製の火輪で表面は角が取れ摩滅が著しい。591は土坑１の石組みに使用されていた白来待製の水輪で、不明石製品593も同じ石材で作られている。これらの石製品は基本的に遺跡周辺から持ち込まれたものと考えられる。

第64表　Ｉ区室町時代以降の遺物観察表①

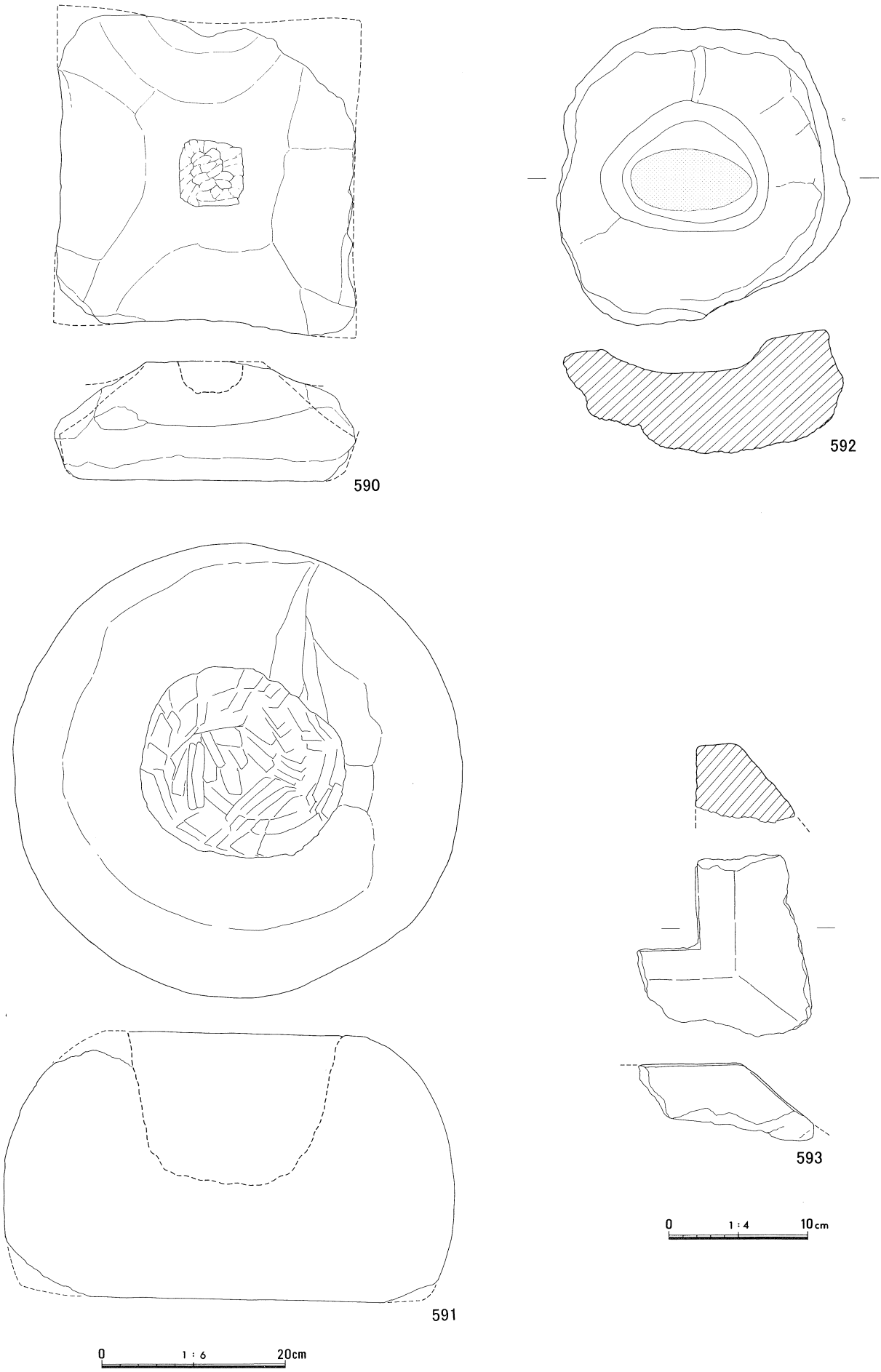
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点Gr/遺構	層位	寸法（cm）			形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
							口径	底径	器高					
572	69	107	中世土師器	坏	H-9	3	9.0	3.9	3.0	口縁・体部は底部から直線的に開く	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径0.5㎜以下の砂粒微量、金雲母多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
573	69	107	中世土師器	坏	I-9	16			4.0		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1.5㎜以下の砂粒含む	内：橙色（2.5YR6/6） 外：鈍い橙色（2.5YR6/4）	
574	69	107	中世土師器	皿	I-10	18層上面		7.0			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜以下の砂粒含む	内：浅黄色（2.5Y7/3） 外：浅黄色（2.5Y7/3）	
575	69	107	中世土師器	皿	G-11	5	(14.0)			体部から底部にかけてナデ調整で仕上げる	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ナデ	径0.5㎜以下の砂粒微量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
576	69	107	瀬戸	碗	K-11、H-11、G-11	3	(12.3)			口縁部は僅かに外反する	内：回転ナデ 外：回転ナデ	混入物は認められない	内：(釉)浅黄色（5Y7/3） 外：(釉)浅黄色（5Y7/3）	
577	69	107	瀬戸	碗	H-10	3	(13.0)			口縁部は外反する	内：回転ナデ 外：回転ナデ	混入物は認められない	内：(釉)浅黄色（5Y7/3） 外：(釉)浅黄色（5Y7/4）	
578	69	107	瀬戸	皿	G-14	5		(5.6)		底部外面に円形の砂目が残る	内： 外：回転ナデ	混入物は認められない	内：(釉)オリーブ灰色(10Y4/2) 外：(釉)オリーブ灰色(10Y4/2)	
579	69	107	瀬戸	瓶子	I-10	3、18層上面		(7.2)		底部は平坦で砂粒が付着する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラ切り	混入物は認められない	内：灰白色（7.5Y7/1） 外：(釉)灰オリーブ色(7.5Y6/2)	
580	69	108	備前焼	擂鉢	H-3、I-9・10、J-12	5、18層上面	(30.0)	(15.6)	12.6	内面に8条1単位のクシ描きの摺り目を施す	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ナデ	径1～2㎜の砂粒少量	内：褐灰色（7.5YR5/1） 外：黄灰色（2.5Y5/1）	
581	69	107	備前焼	擂鉢	G-11	5				内面にクシ描きによる摺り目を施す	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：暗赤褐色（7.5YR4/1） 外：暗赤褐色（7.5YR4/1）～暗赤色（7.5YR3/4）	
582	69	107	肥前系陶器	皿	G-11	3	(11.2)	(4.4)	2.7	胎土目	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ、糸切り	径4㎜以下の砂粒含む	内：(釉)灰オリーブ色(7.5Y5/2) 外：鈍い黄褐色(10YR5/3)～(釉)灰オリーブ色(7.5Y5/2)	
583	69	107	龍泉系青磁	碗	I-10	16	(17.2)			口縁部に雷文帯を施す		黒色粒子微量	内：(釉)灰オリーブ色(7.5Y6/2) 外：(釉)灰オリーブ色(7.5Y6/2)	上田C2類
584	69	107	青磁	梅瓶	H-11						内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜以下の黒色粒子少量	内：灰白色（7.5Y8/1） 外：明緑灰色（10GY7/1）	
585	69	107	中国陶器緑釉	壺	I-10	5		(6.8)		底部付近に突帯を廻らせる	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	混入物は認められない	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：灰褐色(7.5YR6/2)～(釉)緑(土色帖にない)	

第65表　Ⅰ区室町時代以降の遺物観察表②

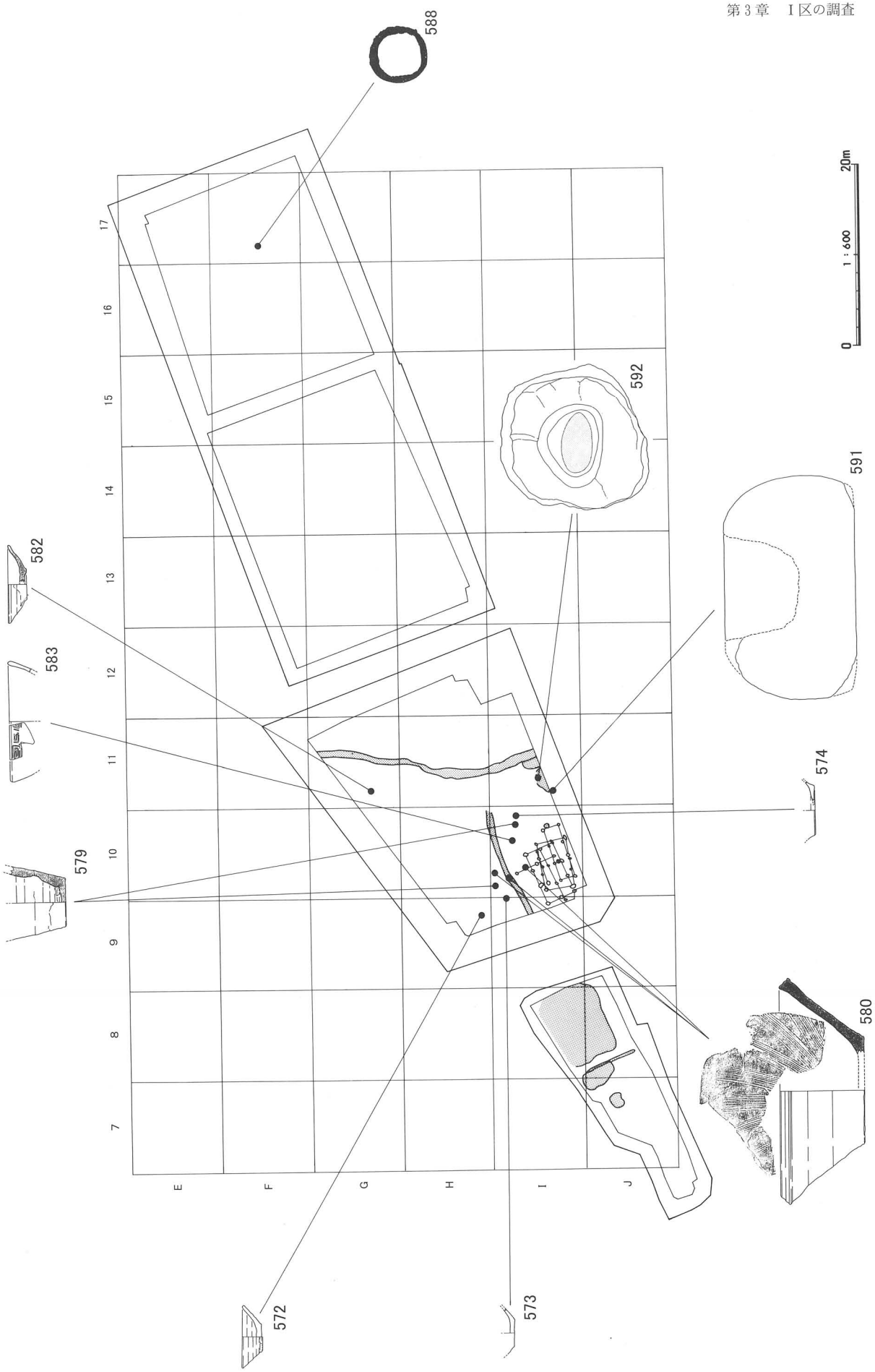
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 長さ	幅	厚さ	形態・文様の特徴	備考
586	69	108	古　銭				1.79	1.62	0.06	無文銭	
587	69	108	古　銭				1.57	1.52	0.04	無文銭	
588	69	108	古　銭				1.57	1.53	0.03	無文銭	
589	69	108	古　銭				1.58	1.58	0.04	無文銭	
590	70	109	石製品	五輪塔 火輪							来待石製
591	70	108	石製品	五輪塔 水輪							白来待石製
592	70	108	石製品	要石							
593	70	108	石製品	不明							白来待石製



第69図　ⅠＢ区　室町時代以降の遺物①（Ｓ＝1/4、586～589は1/1）



第70図　ＩＢ区　室町時代以降の遺物②（Ｓ＝1/6）



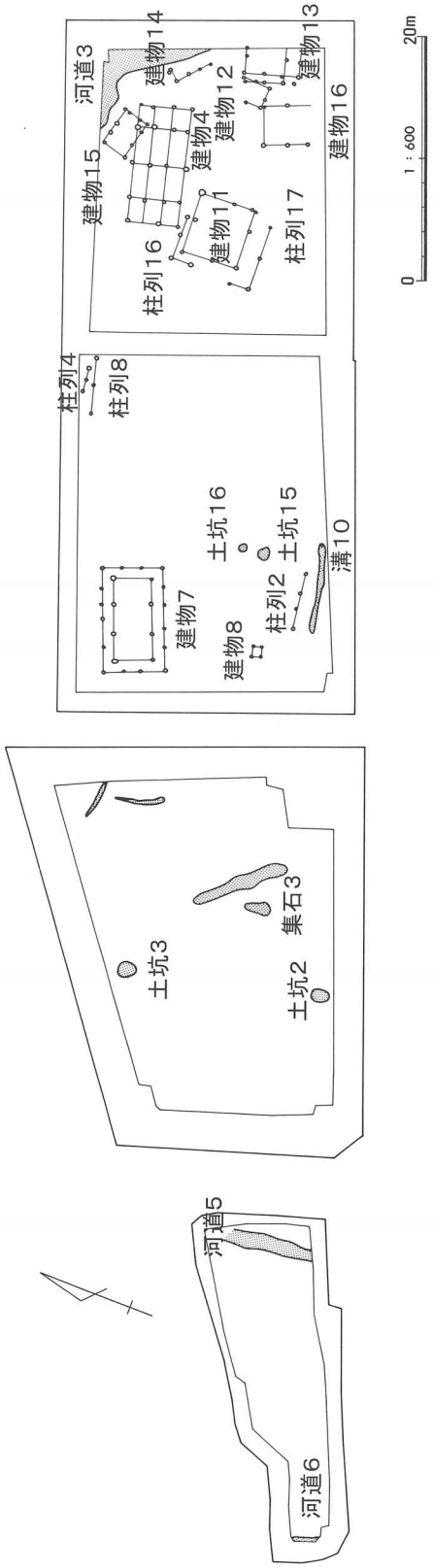
第71図　Ⅰ区　室町時代以降の遺物出土状況（Ｓ＝1/600）

（７）その他の遺構・遺物

調査区内では柱穴や土坑・溝など多数の遺構を検出したが、時期を判断できなかったものも多い。特にほとんどの柱穴は時期を特定できる遺物が出土しておらず、復元した建物も切り合いの前後関係を判断できなかった。しかし、検出した層位や周辺で出土した遺物の年代からおよそ平安時代の後半から室町時代までと考えられる。また、検出した建物・柱列と溝は主軸が方位に近いものと現在の地割に近いものが見られ、少なくとも２時期に分かれるようである。

このほか自然流路（河道３～６）を４か所で確認している。基本的に８層上面を検出した時点でプランを確認しており、平安時代以降のものと考えられる。調査区全体に堆積する礫層はこれらの流路が氾濫した際に遺跡北側から運ばれたもので、これによって地盤が周辺より高くなって安定し中世以降の建物群が広がったと考えられる[1]。

また、ＩＣ区東では５ｂ層上面で多数の柱穴を確認し、遺構面である５ｂ層は厚く堆積している（写真図版19）。掘立柱建物の柱穴と考えられる柱穴が調査区の東端で検出されたことや５ｂ層の堆積状況から、中世の遺構はＩＣ区の東側にも広がっていると推測される。



第72図　Ｉ区　時期不明の遺構（Ｓ＝1/600）

掘立柱建物

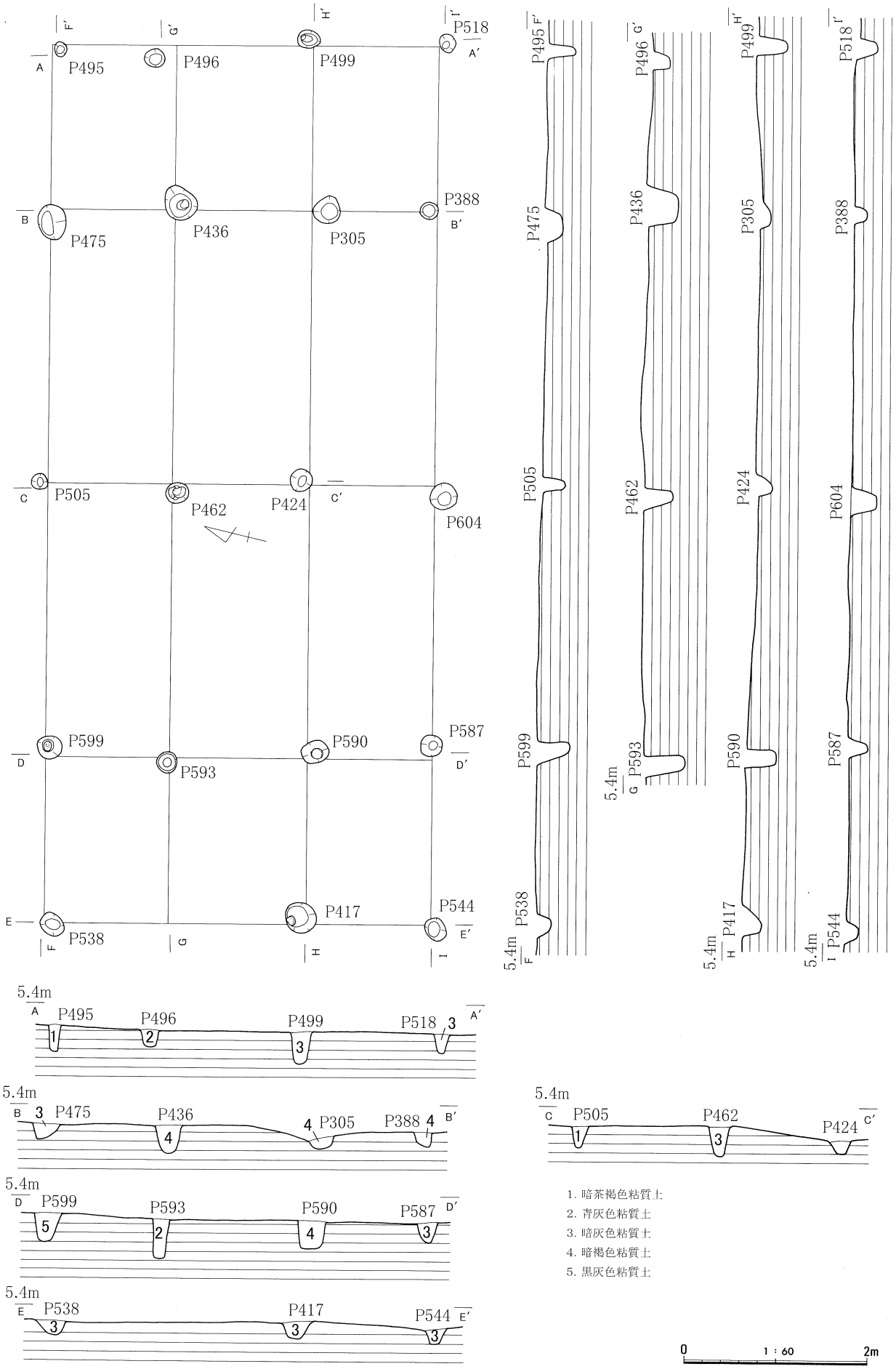
今回の調査では多数の柱穴を検出し、柱根の残っていた柱穴を重視して20棟以上の掘立柱建物を復元した。このうち、柱穴内で時期を判断できる遺物が出土した建物や、周辺での遺物の出土状況からおよその時期を判断できる建物については時期ごとに記述したが、時期を判断できなかった掘立柱が９棟ある。これらは全てＩＣ区で検出した建物で、ＩＣ区で出土した遺構外出土遺物の時期を参考にすると、時期の下限は室町時代以前の可能性が高いと考えられる。また、平成14年度以降にＩＣ区とＩＤ区の８層以下を調査し、そこで９世紀後半以降の遺物が出土していないので、建物の時期の上限は９世紀後半頃と推測される。

第66表　青木遺跡　建物４　計測表

規模			梁行き					桁行き				
			3　間					4　間				
主軸			N－77°－E									
穴	番号		P538	P599	P505	P475	P495	P593	P462	P436	P496	P417
	平面規模(cm)		30×25	16×11	19×18	35×32	16×10	30×25	28×26	43×40	21×19	15×10
	標高(m)	上面	5.25		5.20	5.20	5.16	5.17	5.22	5.19	5.12	5.25
		下面	5.07	4.90	4.96	5.01	4.88	4.75		4.84	4.94	4.98
	番号		P712	P636	P305	P499	P544	P587	P388	P518		
	平面規模(cm)		32×27	25×24	30×27	26×21	25×26	28×26	22×16	19×18		
	標高(m)	上面	4.91	5.05	5.06	5.11	5.16	5.12	5.12	5.09		
		下面	4.83	4.77	4.92	4.76	4.99	4.97	4.97	4.87		
柱間距離(cm)			P538－P599	P599－P505	P505－P475	P475－P495	P495－P538	P599－P593	P505－P462	P475－P436	P495－P496	P593－P462
			192	290	286	192	266	132	150	140	106	300
			P462－P436	P436－P496	P593－P712	P462－P636	P436－P305	P496－P499	P417－P712	P712－P636	P636－P305	P305－P499
			316	158	166	140	170	168	184	298	298	190
			P417－P544	P712－P587	P305－P388	P499－P518	P544－P587	P587－P388	P388－P518			
			150	128	110	153	200	584	184			
柱痕	PNo.		436	462	462－2	417	593	599				
	規模(cm)	長	22.8	11	24.3		27.8	18.7				
		幅	長13.3短10.5	長8.3短5.8	長12.8短12.4		長9.6短9.1	長14.0短12.2				

第67表　青木遺跡　建物７　計測表

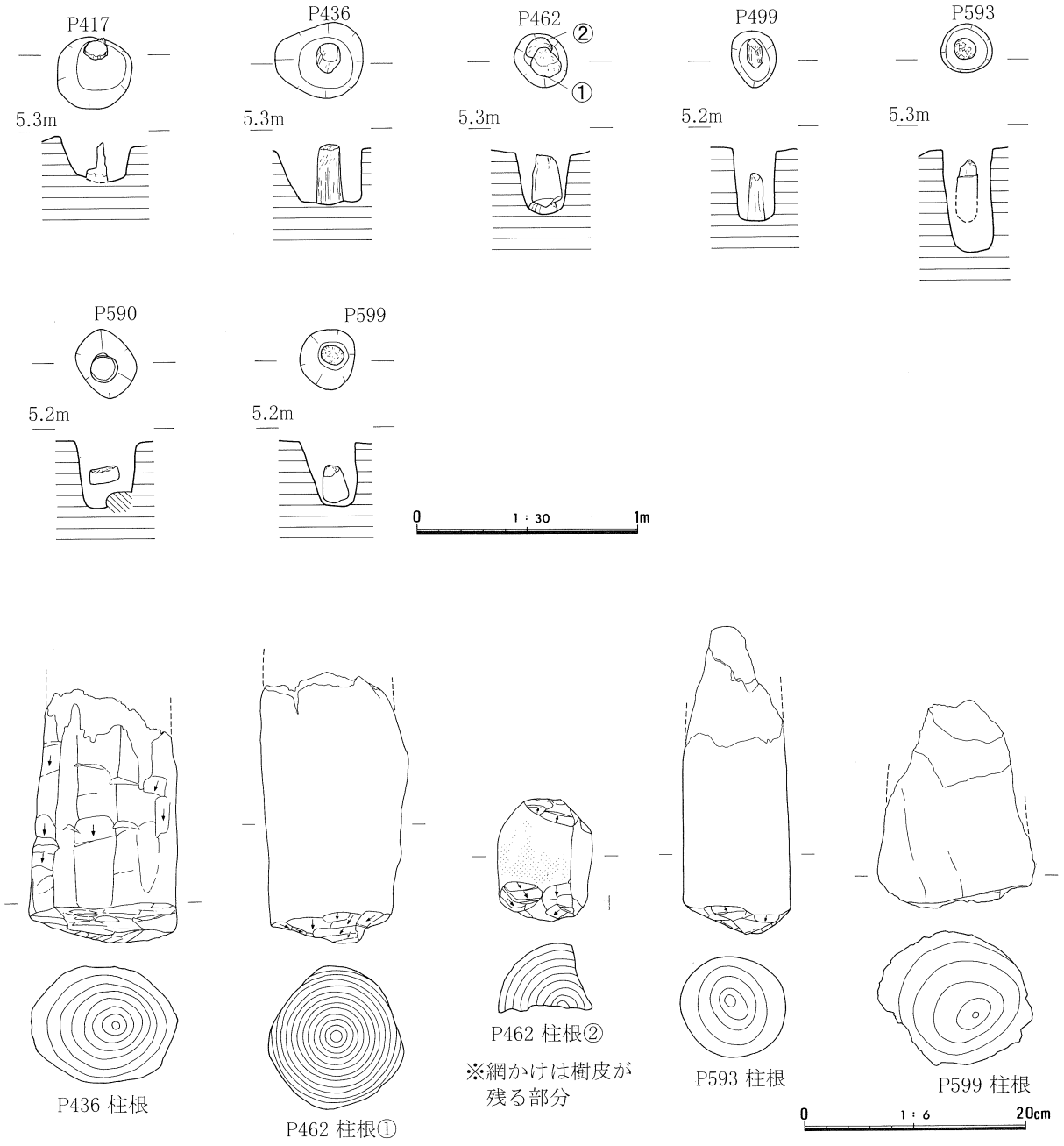
規模			梁行き					桁行き				
			1　間					3　間				
主軸			N－68°－E									
穴	番号		P738	P730	P732	P733	P739	P740	P737	P743	P744	P742
	平面規模(cm)		23×18	20×19	26×23	23×22	29×24	21×16	17×14	28×24	26×21	
	標高(m)	上面	5.21	5.11	5.11	5.01	5.01			5.02	5.01	
		下面										
	番号		P725	P724	P723	P722	P721	P720				
	平面規模(cm)		22×20	35×21	25×22	23×22	27×22	21×21				
	標高(m)	上面	5.14	5.15	5.14	5.13	5.14	5.19				
		下面										
	番号		P729	P734	P735	P736	P741	P726	P727	P728		
	平面規模(cm)		44×35	29×22	29×26	35×27	26×25	41×30	30×28	35×30		
	標高(m)	上面										
		下面										
柱間距離(cm)			P738－P730	P730－P732	P732－P733	P733－P739	P739－P740	P740－P737	P737－P743	P743－P744	P725－P724	P724－P723
			156	132	206	190	156	196	150	156	160	172
			P744－P742	P742－P725	P723－P722	P722－P721	P721－P720	P720－P738				
			176		132	116	240	206				
			P729－P734	P734－P735	P735－P736	P736－P741	P741－P726	P726－P727	P727－P728	P728－P729		
			316	216	250	210	320	216	250	220		
柱痕	PNo.		720	725	730	732	733	737	727			
	規模(cm)	長	44.5		18.7	22		36.8	58.2			
		幅	長9短8.8		長10.5短10.2	長9.8短8.5		長8.1短7.5	長12.7短12.3			



第73図　Ⅰ区　建物４（S＝1/60）

建物４（第73・74図）

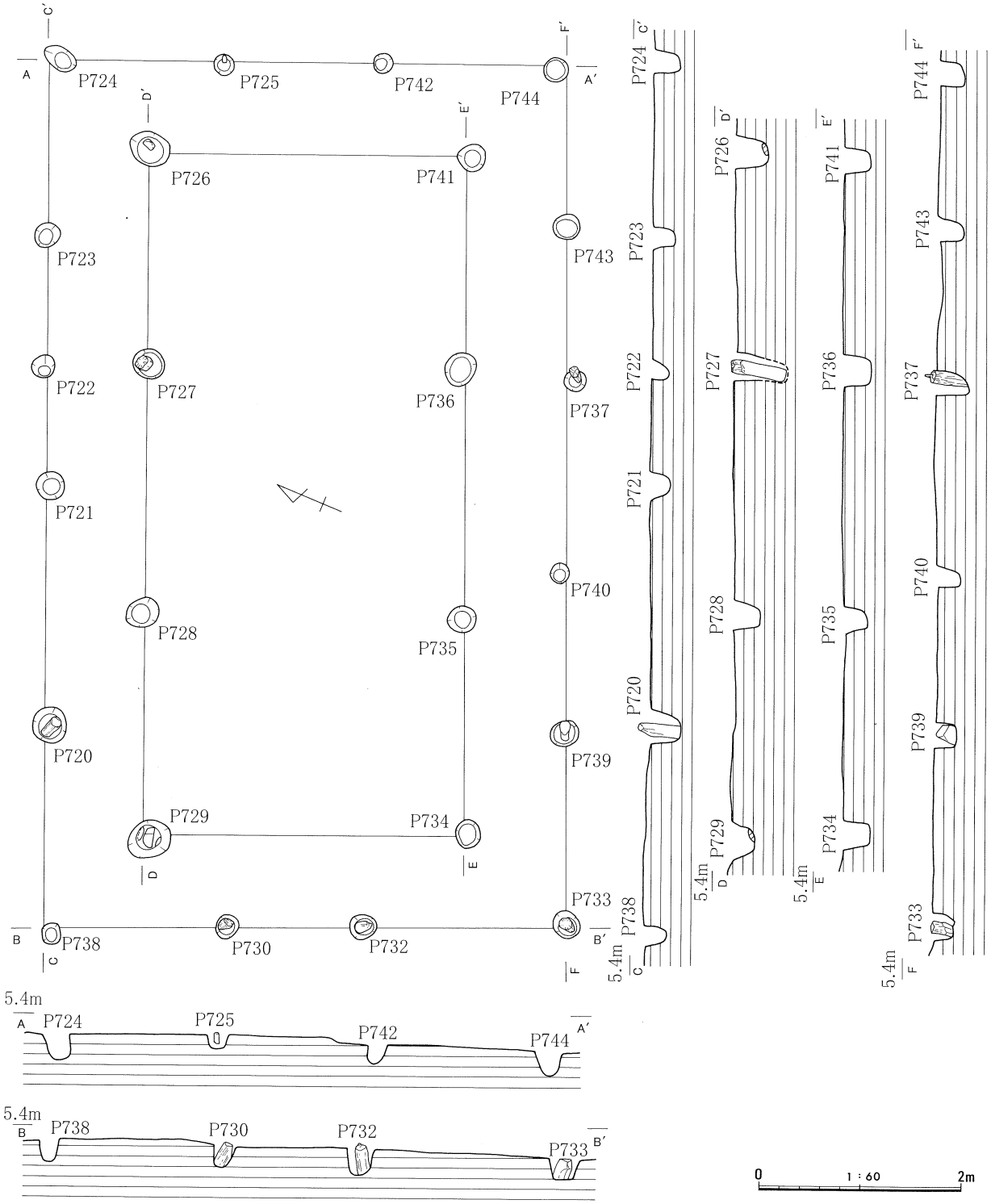
ＩＣ区東のＥ16・17～Ｆ16・17グリッドで検出した掘立柱建物で、柱の配置は３間×４間で復元した。東西の柱列は間隔が狭いので建物に伴う柵列などの可能性もあるが、柱穴の配置から床を持つ建物と考えられる。６か所の柱穴で柱根が残存し、Ｐ462では柱根の下に柱を固定するための木片が置かれていた。建物４の詳しい時期は不明だが、建物の主軸や建物５・６、土坑９との位置関係から平安時代後半頃の建物の可能性も考えられる。



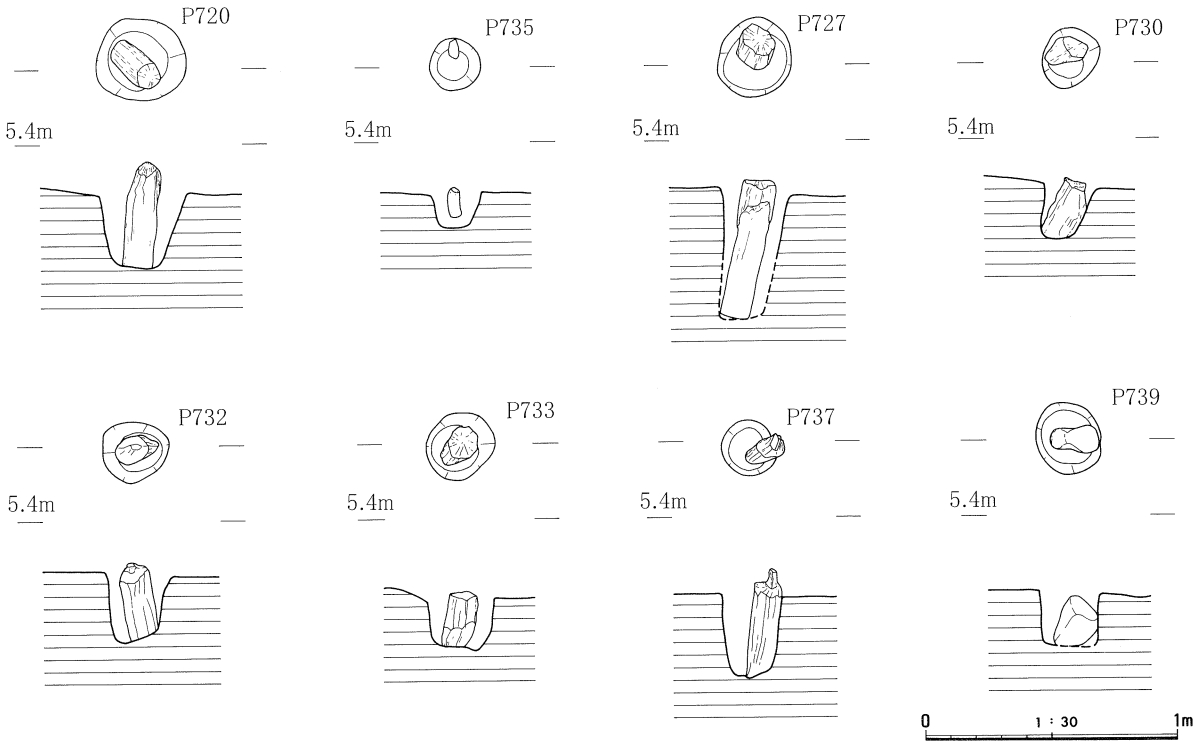
第74図　Ｉ区　建物４柱根（Ｓ＝1/30）

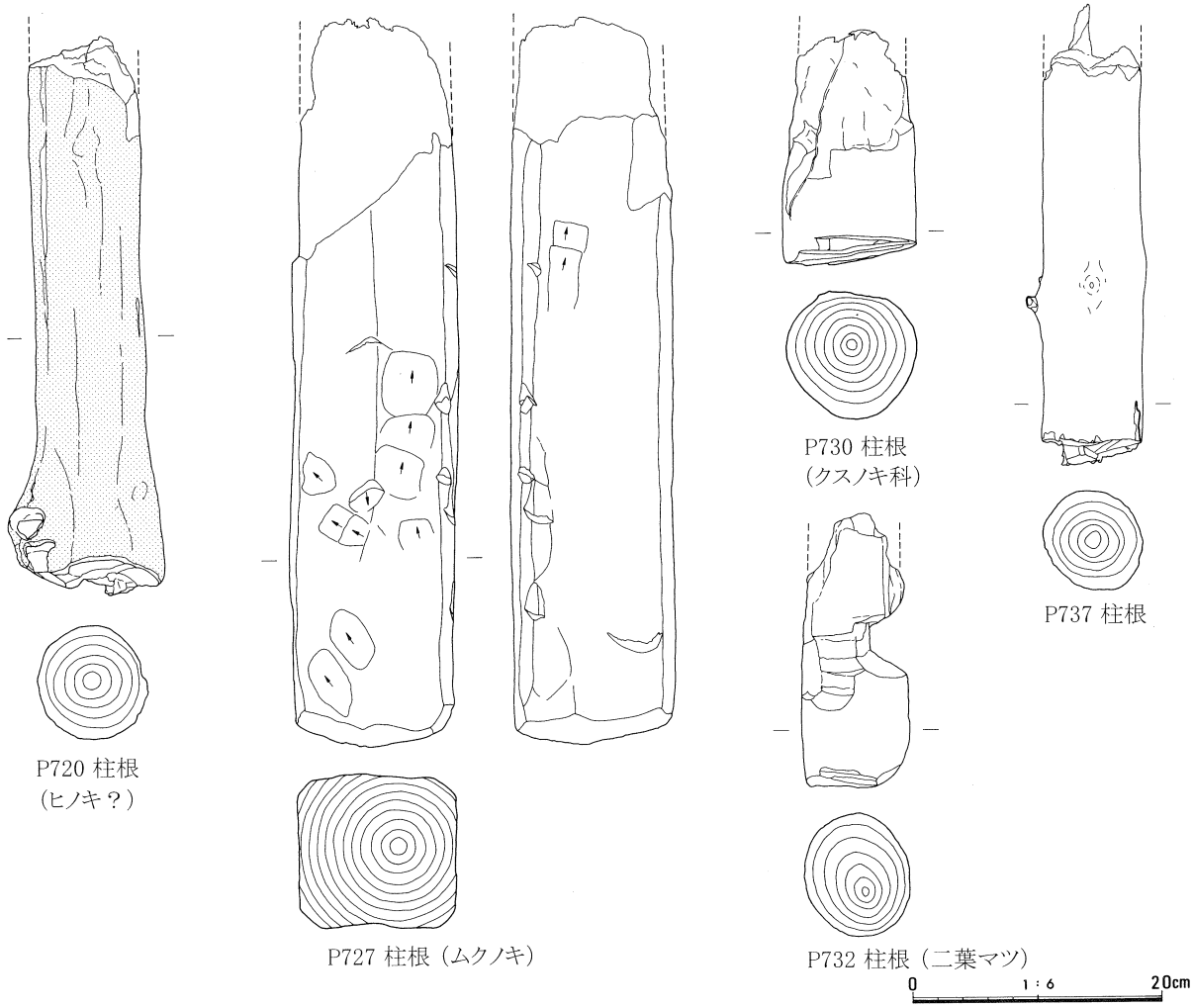
建物７（第75・76図、写真図版58～60）

ＩＣ区西のＦ13・Ｇ13グリッドで検出した１間×３間の掘立柱建物で、周囲に柱列が廻っている。周囲の柱は建東西の並びの柱間が対応しているのに対し、南北の並びはずＰ720とＰ721の間が広く、ズレがある。この部分が建物の入り口の可能性が考えられる。建物７は周辺でほとんど柱穴が検出されず、今回の調査で柱の配置を復元した建物の中では最も確実なものと思われ、柱穴の中から出土した柱根も一括性の高い資料と言える。建物の主柱穴Ｐ727の柱根は断面がほぼ正方形に加工され、四角は面取りされている。これに対し周囲の柱穴から出土した柱根は細く側面を加工しておらず、Ｐ720は樹皮が前面に残っていた。



第75図　Ｉ区　建物７（Ｓ＝1/60）





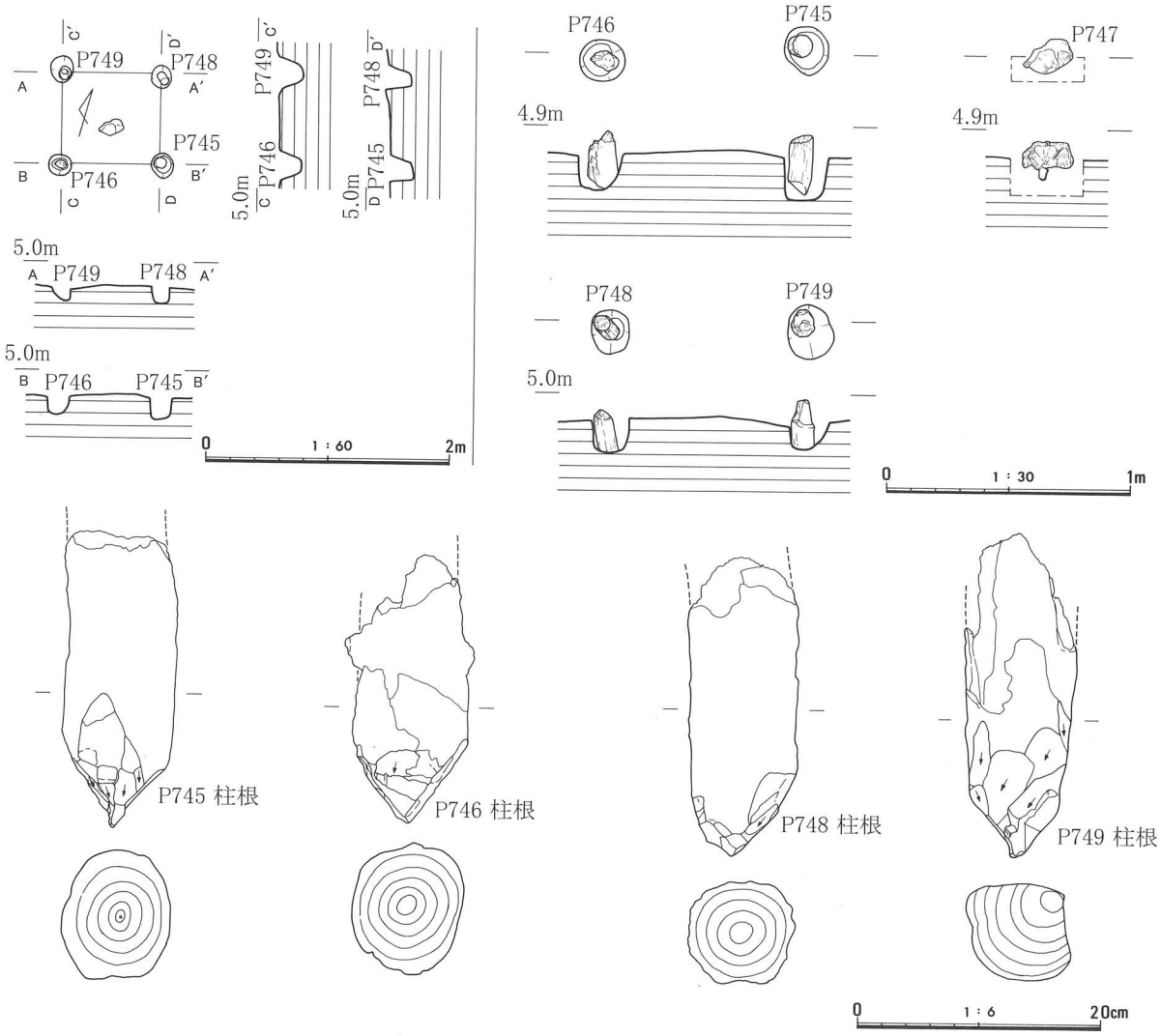
第76図　Ⅰ区　建物７柱根（Ｓ＝1/30）

建物８（第77図、写真図版61）

ＩＣ区西のＩ13グリッドで検出した１間×１間の掘立柱建物で、建物の中央やや南よりに柱がある。中央のＰ747以外は円形の掘り方を持ち、柱根は先端を杭状に尖らせていた。Ｐ747は掘り方が検出されず、柱根は厚みのある板状のものだった。建物８の性格は、規模や中央で床を支えたと考えられる柱が検出されたことから、祭祀に関連した小型の建物の可能性が考えられる。

第68表　青木遺跡　建物８　計測表

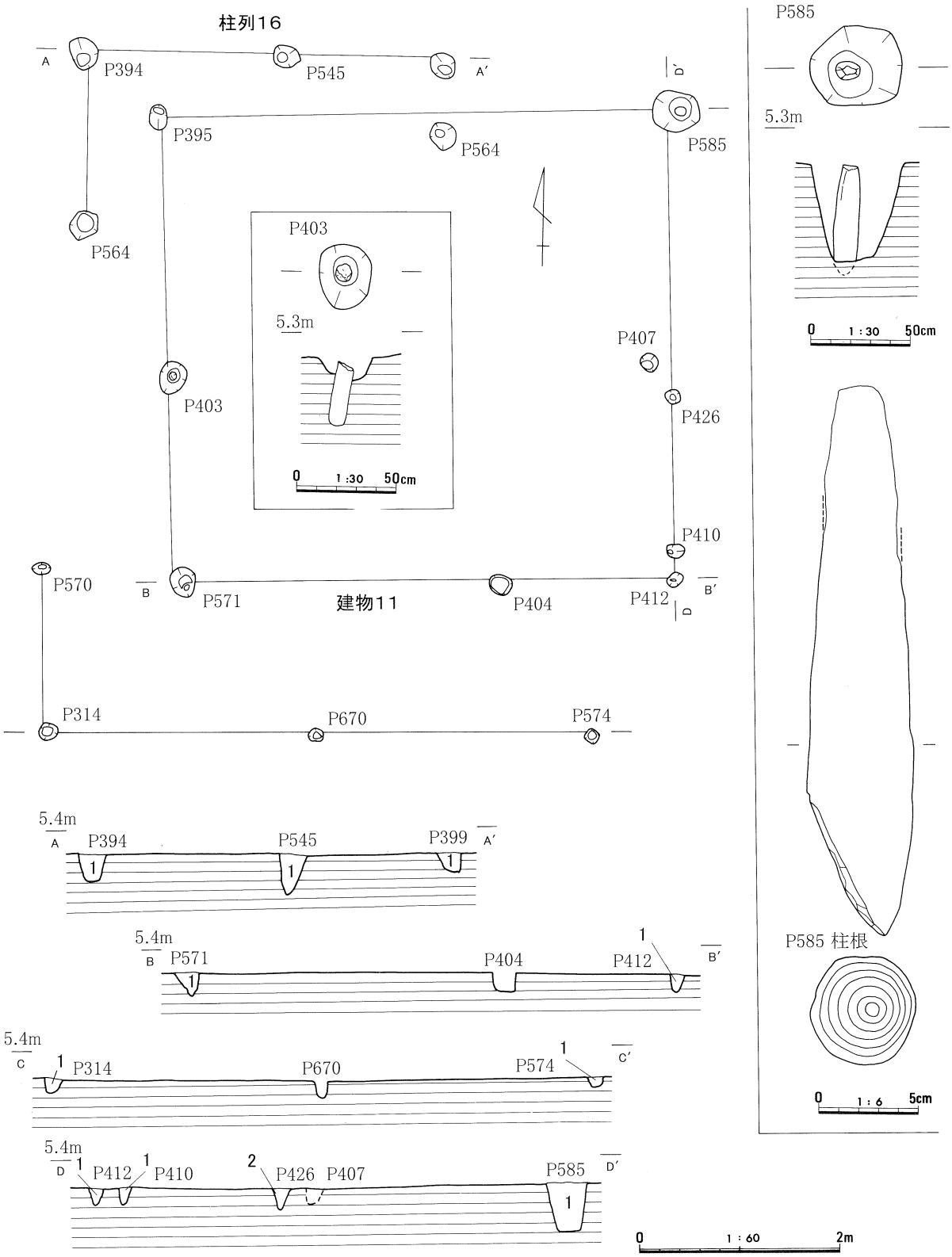
規模			梁行き		桁行き	
			１間		１間	
主軸			N－73°－E			
穴	番号		P749	P746	P745	P748
	平面規模（cm）		20×17	20×18	20×19	25×20
	標高（m）	上面				
		下面				
柱間距離（cm）			P749－P746	P746－P745	P745－P748	P748－P749
			75	80	75	80
柱痕	P No.		745	746	748	749
	規模（cm）	長	24.2	22	24.5	26.6
		幅	長11 短8.9	長10.7 短9	長8.9 短8.3	長8.3 短8.3



第77図　Ｉ区　建物８（Ｓ＝1/60）

建物11（第78図）

ＩＣ区東のＦ16グリッドに位置する２間×２間の掘立柱建物で、建物の主軸は方位に近い。南北に柱列がある。建物の北東隅の柱Ｐ585では先端を斜めに加工した柱根が出土している。詳しい時期は不明だが、主軸の方向は方位に近く、鎌倉時代以前の建物の可能性が考えられる。検出した位置や主軸の方向から、建物12・15、柱列４は近い時期の遺構と考えられる。



第78図　Ｉ区　建物11（Ｓ＝1/60）

第69表　青木遺跡　建物11　計測表

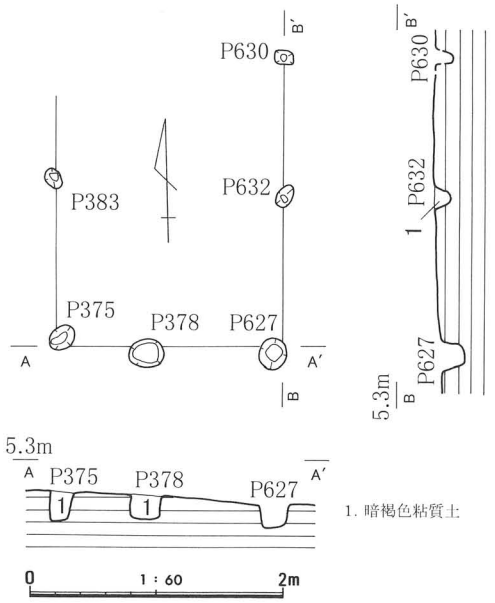
規模			梁行き				桁行き		
			2　間				2　間		
主軸			N－88°－E						
穴	番号		P395	P585	P426	P412	P404	P571	P403
	平面規模(cm)		25×23	43×40	17×16	16×11	24×18	30×26	11×9
	標高(m)	上面	5.18	5.13	5.09	5.12	5.15	5.17	
		下面	4.74	4.62	4.89	4.93	4.96	4.94	
柱間距離(cm)			P395－P585	P585－P426	P426－P412	P412－P404	P404－P571	P571－P403	P403－P395
			530	290	175	175	320	215	265
柱痕	P No.		403	585					
	規模(cm)	長	32	42					
		幅	長8　短6	長11　短10					

建物12（第79図）

ＩＣ区東のＦ17グリッドで検出した２間×２間以上の掘立柱建物で、北側が溝５と切り合っている。

第70表　青木遺跡　建物12　計測表

規模			梁行き			桁行き		
			2　間			2　間		
主軸			N－2°－W					
穴	番号		P383	P375	P378	P627	P632	P630
	平面規模(cm)		17×12	22×16	28×26	25×22	14×12	17×15
	標高(m)	上面	5.01	5.04	5.02	4.93	4.97	4.95
		下面	4.79	4.79	4.82	4.74	4.88	4.84
柱間距離(cm)			P383－P375	P375－P378	P378－P627	P627－P632	P632－P630	
			130	70	100	120	115	



第79図　Ｉ区　建物12（Ｓ＝1/60）

建物13（第80図）

ＩＣ区東のＦ17グリッドに位置し、Ｐ428・430・551・611・861が柱穴の２間×２間以上の掘立柱建物と判断した。南側に柱列を伴う建物と考えたが、Ｐ429・431・524・629が柱穴となる別の建物が切り合っている可能性もある。建物４と主軸が近く、位置関係から近い時期の建物と推測される。柱穴の検出状況や遺構検出面である５ｂ層の堆積状況から、建物13は調査区外に続くと思われる。

第71表　青木遺跡　建物13　計測表

規模			梁行き				桁行き			
			2　間				2　間			
主軸			N－74°－E							
穴	番号		P611	P524	P551	P525	P430	P428	P629	P431
	平面規模(cm)		11×11	22×20	18×16	23×18	24×22	20×18	17×13	20×14
	標高(m)	上面	4.63	5.01	4.97	4.96	4.99	4.94	4.92	4.97
		下面		4.86	4.79	4.85	4.77	4.74	4.65	4.75
	番号		P429	P554	P861	P862	P863			
	平面規模(cm)		21×18	17×16						
	標高(m)	上面	4.85	4.85						
		下面	4.71	4.71						
柱間距離(cm)			P611－P524	P524－P551	P551－P525	P611－P430	P430－P428	P428－P429	P524－P629	P629－P431
			56	142	64	168	150	54	174	24
			P431－P429	P429－P554	P429－P861	P554－P862	P862－P863			
			114	134	150	134	26			
柱痕	P No.		611							
	規模(cm)	長								
		幅								

建物14（第80図）

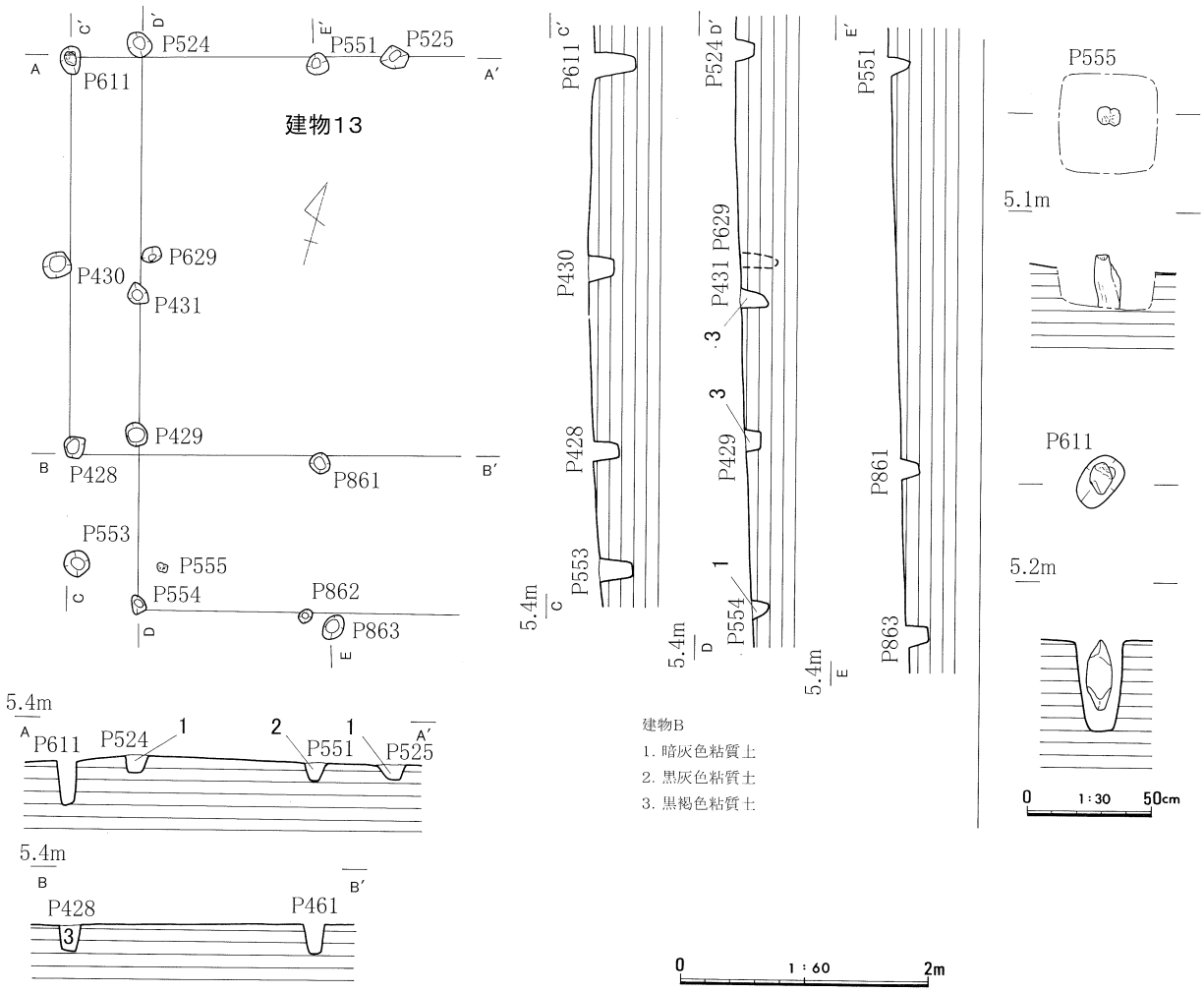
ＩＣ区東のＦ17グリッドで検出した１間×３間以上の掘立柱建物で、東側は建物14を検出する前に河道３を先に掘削したので、切り合いの前後関係を確認できなかった。建物14の詳しい時期は不明だが、河道に先行する建物であれば平安時代前半頃に遡る可能性がある。

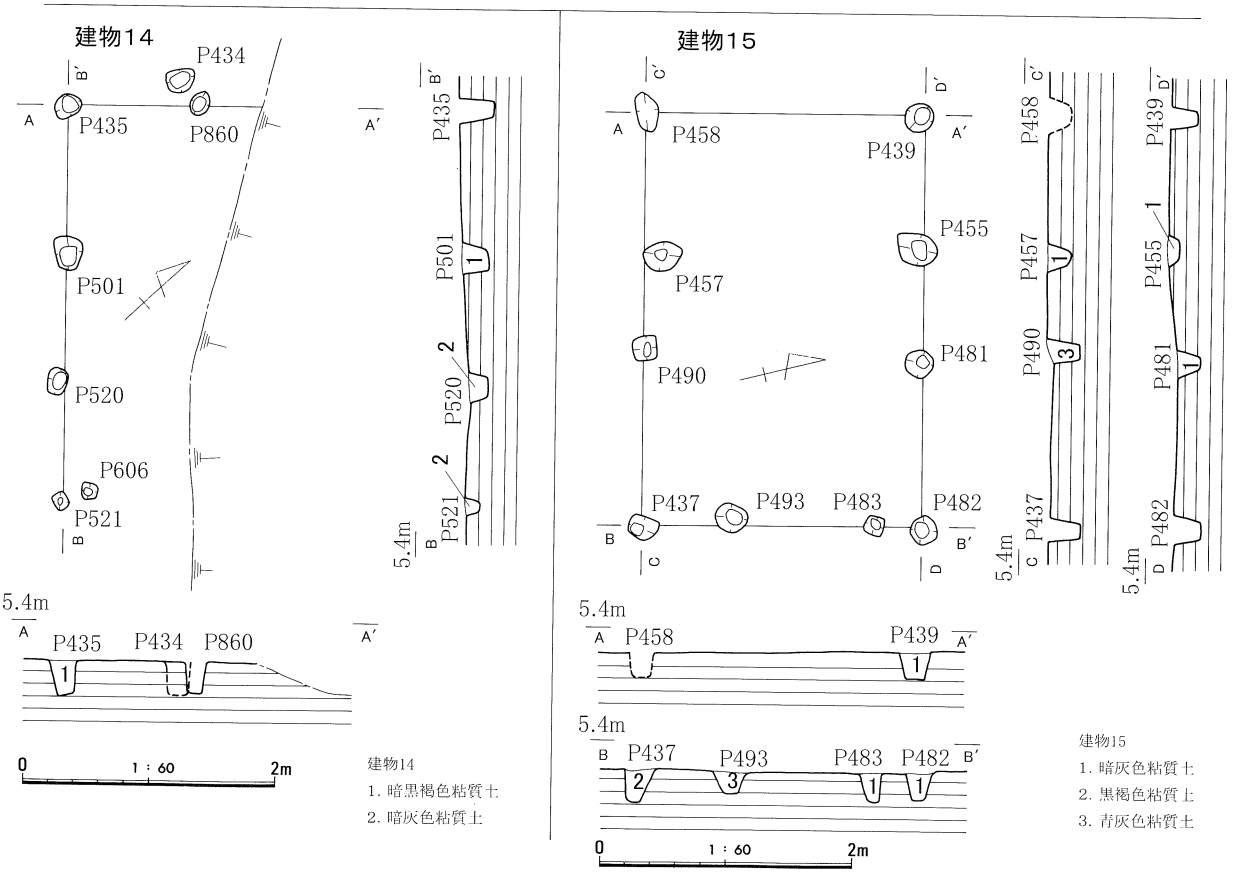
第72表　青木遺跡　建物14　計測表

規模			梁行き			桁行き	
			1　間			3　間	
主軸			N－47°－W				
穴	番号		P860	P435	P501	P520	P521
	平面規模(cm)			20×20	30×28	23×22	15×15
	標高(m)	上面		5.09	5.05	5.00	5.02
		下面		4.80	4.83	4.83	4.89
柱間距離(cm)			P860－P435	P435－P501	P501－P520	P520－P521	
			100	122	100	95	

建物15（第80図）

ＩＣ区東のＦ17グリッドで検出した１間×３間以上の掘立柱建物である。桁行きの真ん中の柱間が狭く、東側はＰ483・493も建物15の柱になる可能性が考えられる。規模は建物14に近く、主軸の方向は建物11・12に近い。





第80図　Ⅰ区　建物13～15（S＝1/60）

第73表　青木遺跡　建物15　計測表

規模			梁行き					桁行き				
			1　間					3　間				
主軸			N－76°－W									
穴	番号		P439	P455	P481	P482	P483	P493	P437	P490	P457	P458
	平面規模(cm)		21×14	33×25	26×21	23×21	19×18	26×23	25×22	24×24	32×23	31×18
	標高(m)	上面	5.23	5.25	5.16	5.18	5.18	5.17	5.19	5.21	5.22	5.21
		下面	5.01	5.15	4.97	4.95	4.95		4.91	4.94	5.01	
柱間距離(cm)			P439－P455	P455－P481	P481－P482	P482－P483	P483－P493	P493－P437	P437－P490	P490－P457	P457－P458	P458－P439
			108	88	130	34	112	76	144	80	112	220
柱痕	P No.		493									
	規模(cm)	長	20.6									
		幅	長11.2 短10.8									

建物16（第81図）

ＩＣ区東のＦ17グリッドで検出した１間×２間以上の掘立柱建物である。建物の南側は５ｂ層が削平されていたため確認できなかった。規模や方向が建物９と似ている。

第74表　青木遺跡　建物16　計測表

規模			梁行き			桁行き	
			1　間			2　間	
主軸			N－22°－W				
穴	番号		P354	P624	P361	P374	P623
	平面規模(cm)		22×21	23×18	34×26	12×9	23×22
	標高(m)	上面					
		下面					
柱間距離(cm)			P354－P624	P624－P361	P361－P374	P374－P623	
			120	200	330	195	

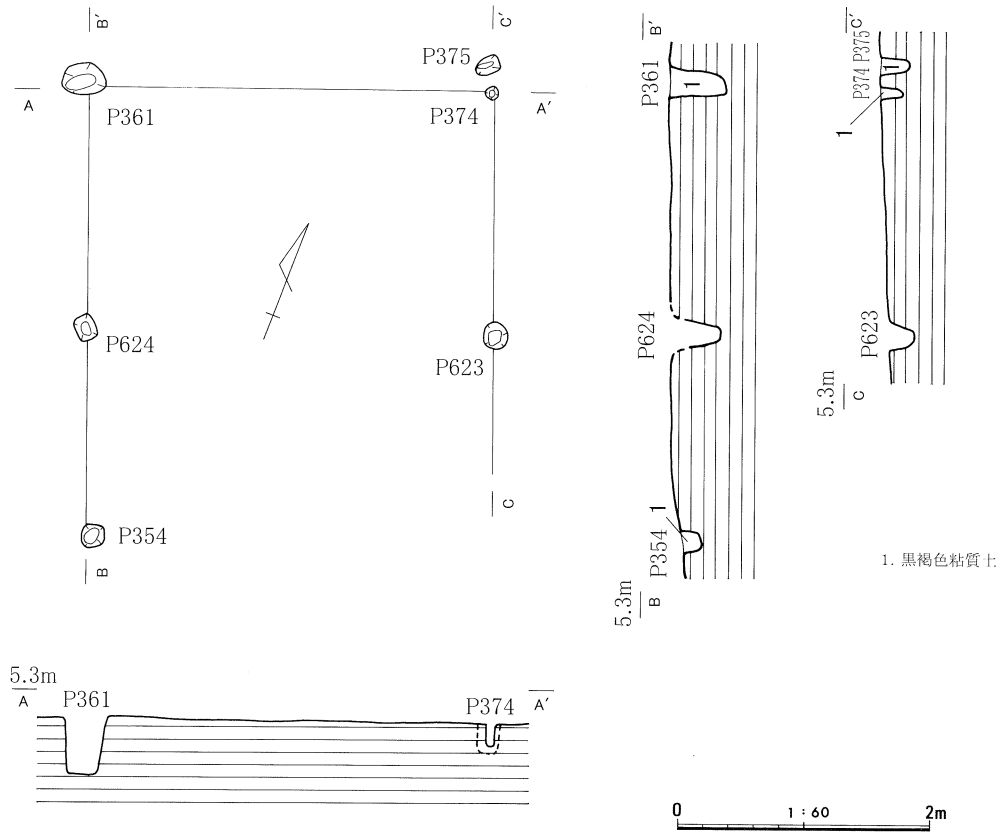
第75表　青木遺跡　柱列１　計測表

規模			2　間		
主軸			N－17°－W		
穴	番号		P68	P69	P70
	平面規模(cm)		22×22	26×21	22×21
	標高(m)	上面	5.37	5.45	5.47
		下面	5.12	5.08	5.30
柱間距離(cm)			P68－P69	P69－P70	
			180	190	

柱列１（第45・82図）

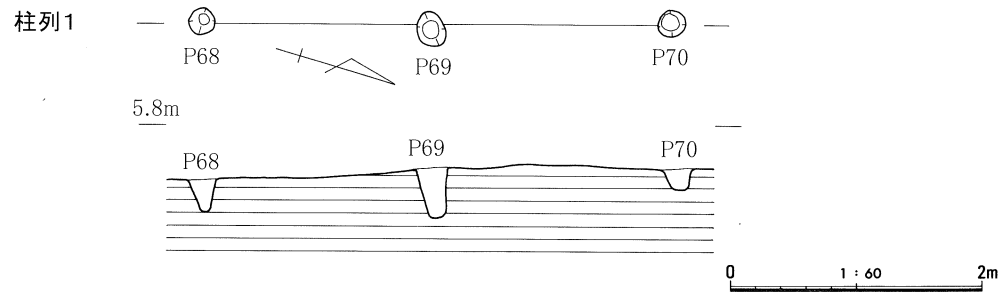
ＩＢ区のＨ10グリッドで検出した。建物20と土坑３の間に位置している。柱穴内から遺物が出土していないので詳しい時期は不明である。建物20と方向が似ているが、柱列１は５ａ層を５cm程度掘削した時点で検出しているので、建物１～３に近い時期の遺構の可能性が高い。

建物16



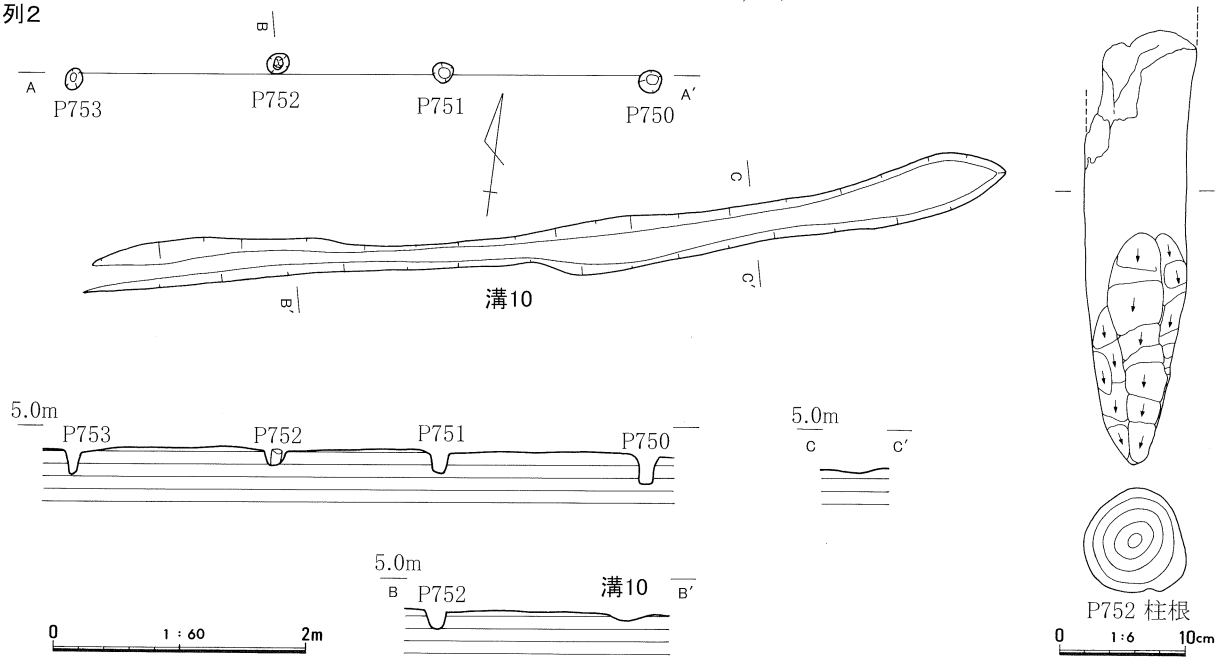
第81図　Ⅰ区　建物16（S＝1/60）

柱列1



第82図　Ⅰ区　柱列1（S＝1/60）

柱列2



第83図　Ⅰ区　柱列2、溝10（S＝1/60）

第76表　青木遺跡　柱列２　計測表

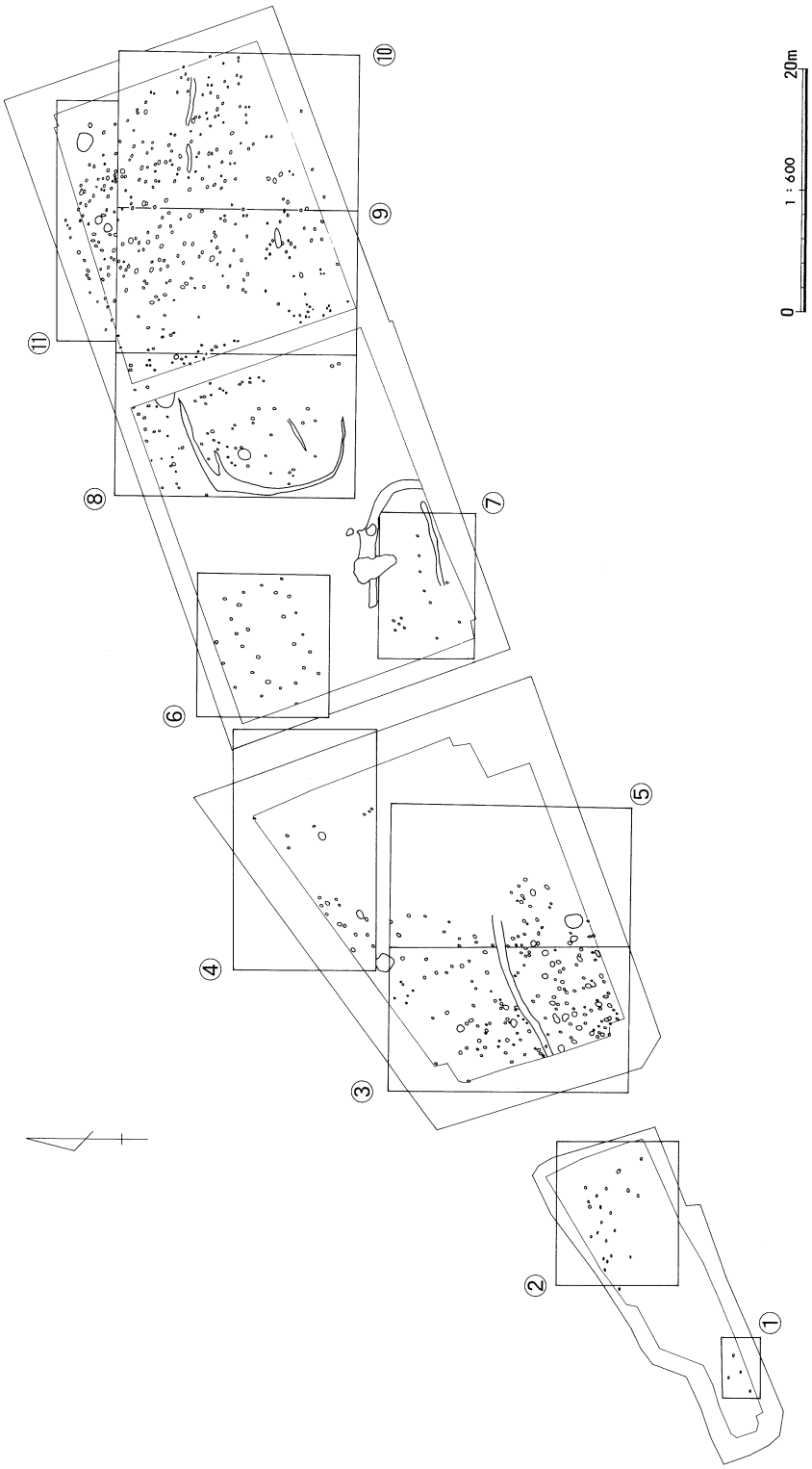
規模			3　間			
主軸			N－83°－E			
穴	番号		P753	P752	P751	P750
	平面規模（cm）		18×15	15×14	18×16	20×17
	標高（m）	上面	4.75	4.76	4.73	4.71
		下面				
柱間距離（cm）			P753－P752	P752－P751	P751－P750	
			165	130	165	
柱痕	P No.		752			
	規模（cm）	長	31			
		幅	長10　短9			

その他の柱穴（第84～96図、写真図版62・63）

ＩＡ～ＩＣ区の調査では約770のピットを検出した。分布の状況や遺物の出土状況、残っていた柱根の大きさから、これらのピットは基本的に掘立柱建物や付随する柱列の柱穴と考えられる。しかし、建物や柱列として復元できたものは僅かで、大半は不明柱穴のままである。また、柱根の残る柱穴を多数検出したが、ＩＣ区では掘り方を確認できなかったものが多い。柱根の周りで検出した粘質土のプランは柱の先端に届いておらず、柱を切り取る際に掘り返した部分と推測される。このようにＩＣ区では柱根や掘り返しを確認できなかった柱穴の検出が困難だったので、検出できなかった柱穴がさらに存在すると推測される。

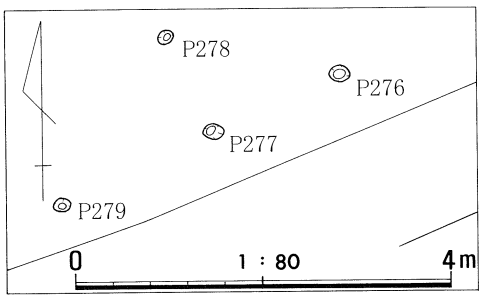
第77表　Ｉ区柱穴出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
594	96	109	中世土師器	坏	ＩＡ、P263		(9.3)	4.6	2.65		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切り	径1㎜の砂粒多量	内：鈍い橙色（5YR7/4） 外：鈍い橙色（5YR7/4）～褐灰色（10YR6/1）	
595	96	109	中世土師器	皿	P300		(9.2)	4.1	1.9		内：回転ナデ 外：回転ナデ、静止糸切り	径1～2㎜以下の砂粒多量	内：灰黄色（2.5Y7/2） 外：灰黄色（2.5Y7/2）	
596	96	109	土師器	壷	P445						内：ヨコナテ、ナテ、ヘラケズリ 外：ヨコナデ、タテハケメ後ヨコナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：浅黄橙色（10YR8/3） 外：浅黄橙色（10YR8/3）	
597	96	109	須恵器	坏	P445			(8.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、糸切り	径0.5㎜以下の砂粒少量	内：灰白色（7.5Y7/1） 外：灰白色（7.5Y7/1）	
598	96	109	中世土師器	坏	P445			(5.0)		体部は内彎する	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径0.5㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR6/3) 外：鈍い黄橙色(10YR6/3)	
599	96	109	白磁	碗	P457、E-17			(16.0)		口縁部は扁平な玉縁	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	黒色粒子多量	内：(釉)灰白色（5Y7/2） 外：(釉)灰白色（5Y7/2）	Ⅳ-c類
600	96	110	中世土師器	柱状高台付皿	F-17、P511		(8.4)	4.8	3.7	体部は直線的に大きく外傾する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ナデ、回転糸切り	径0.5～1㎜の砂粒少量	内：鈍い橙色（7.5YR7/4） 外：鈍い橙色（7.5YR7/4）～橙色（2.5YR6/6）	
601	96	109	中世土師器	皿	F-17、P621		(9.1)	(4.4)	1.9	体部は直線的に外傾する	内：回転ナデ 外：回転ナデ、糸切り後ナデ	径1～2㎜の砂粒多量	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	

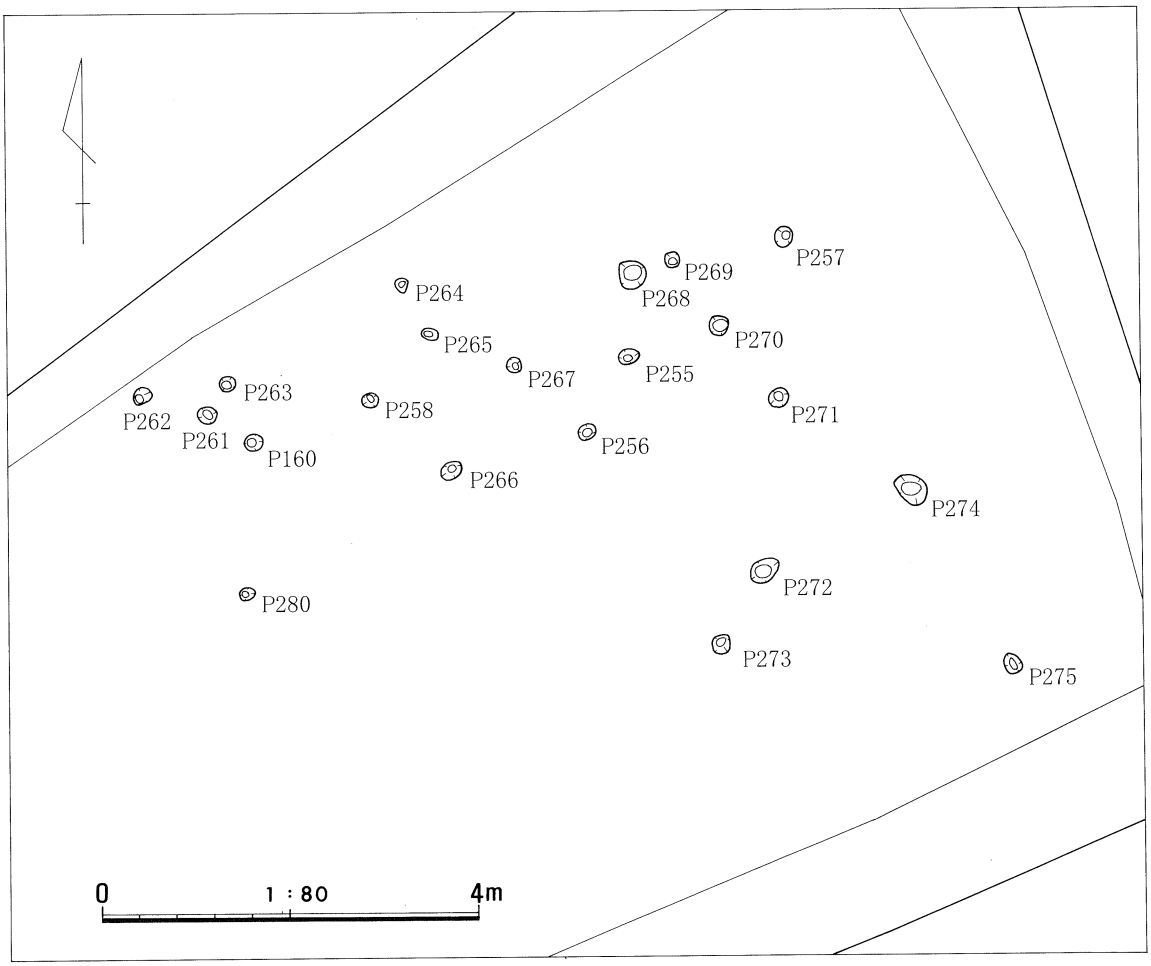


第84図　Ｉ区　柱穴配置図（Ｓ＝1/600）

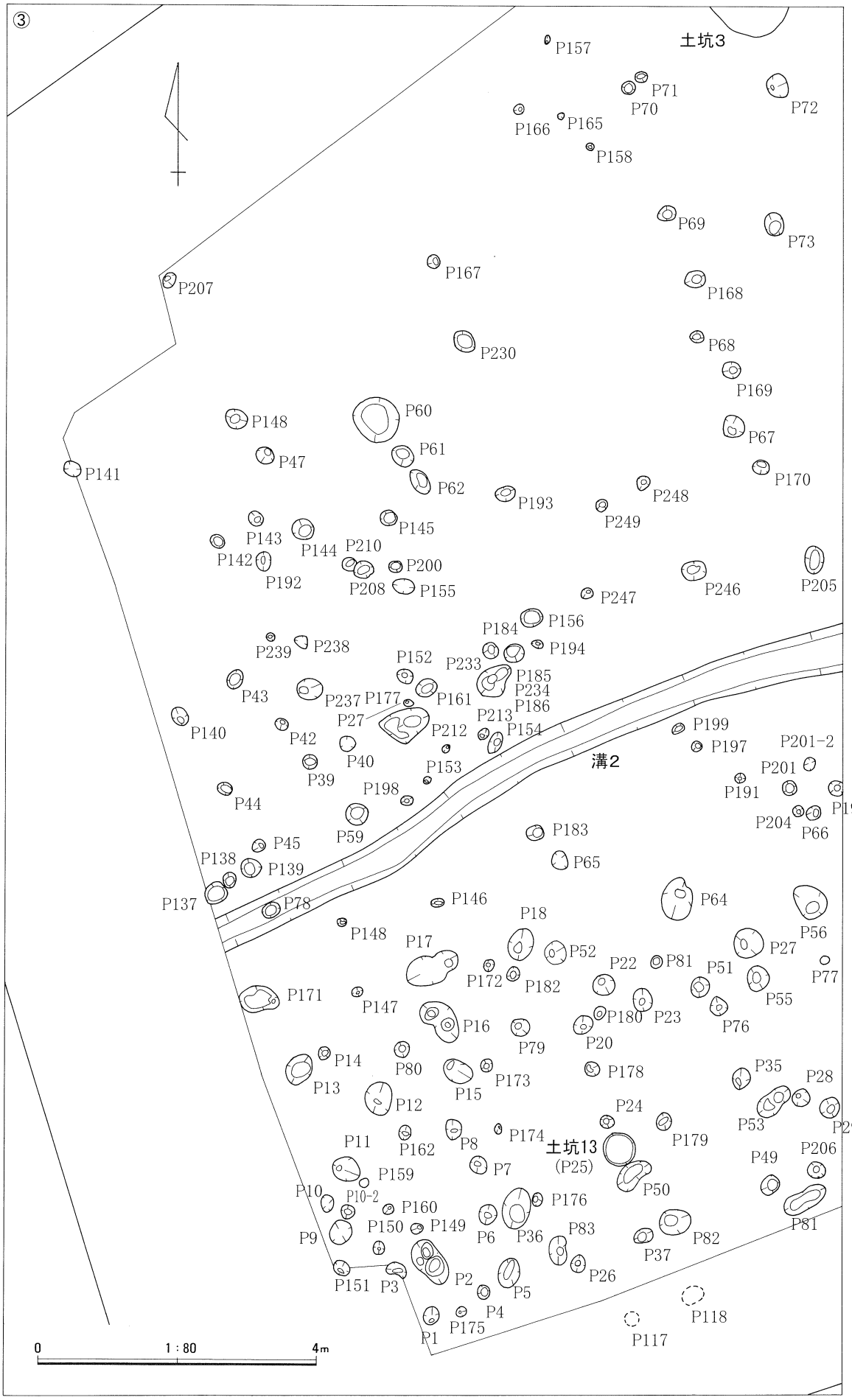
①



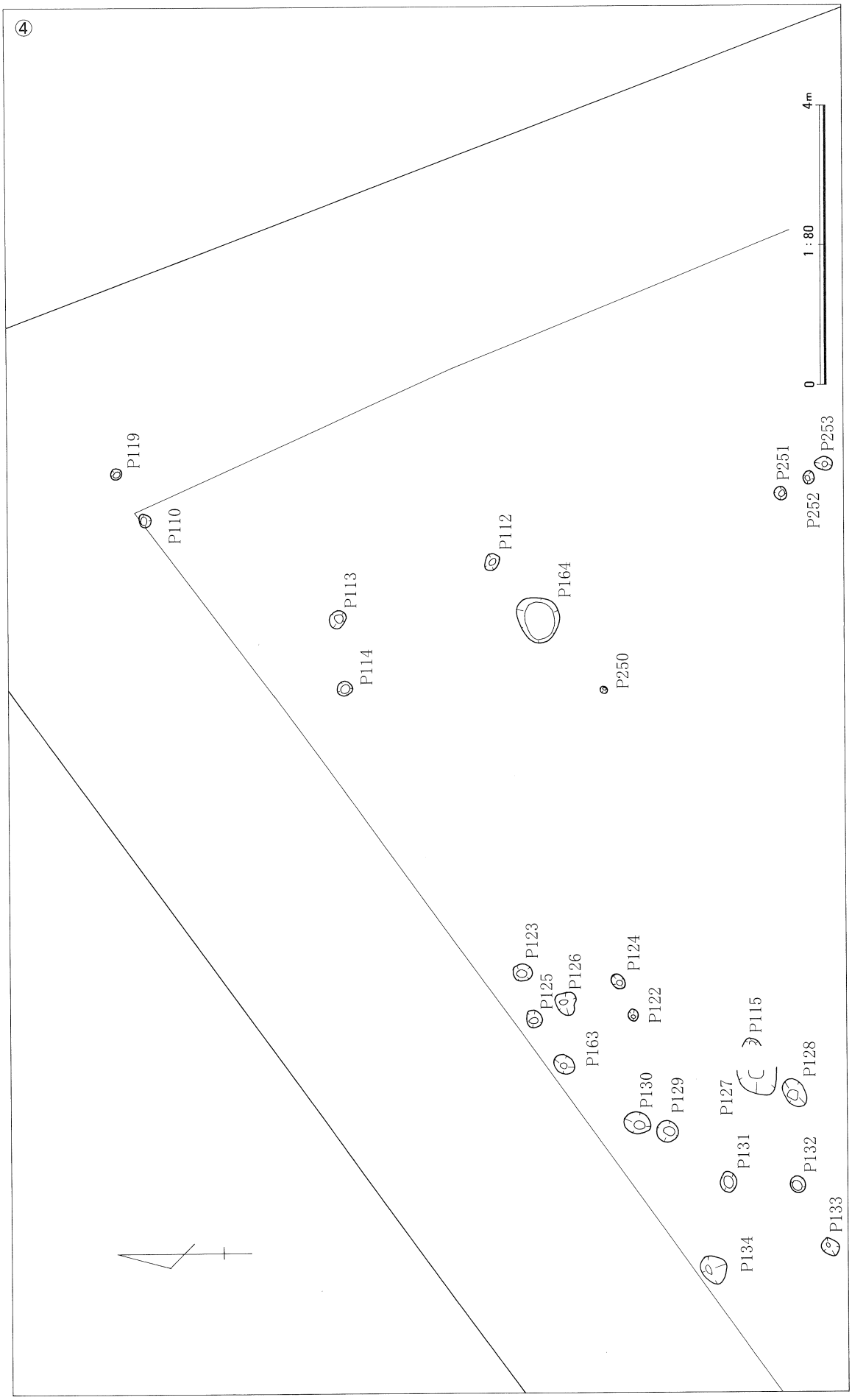
②



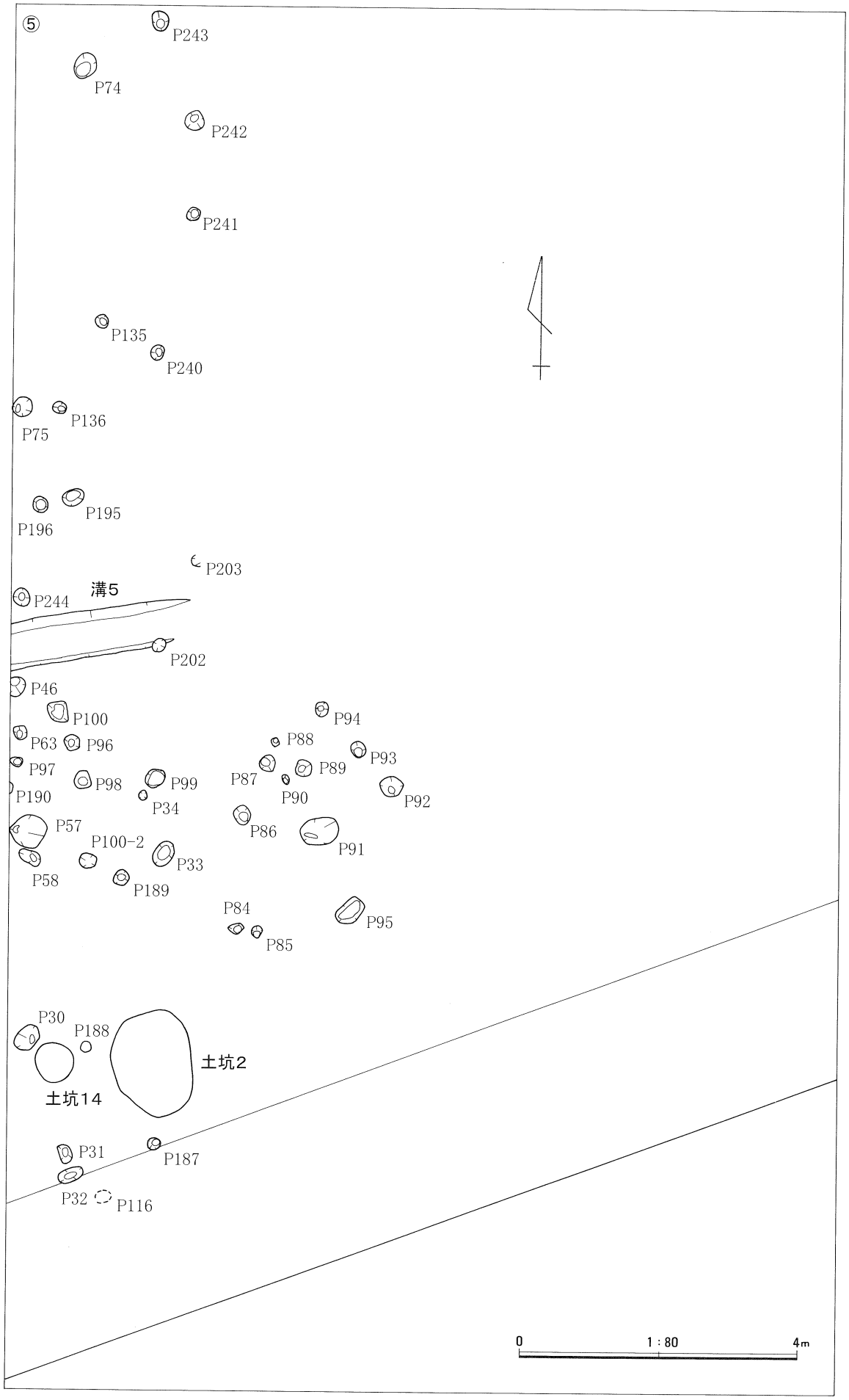
第85図　Ⅰ区　柱穴配置図①・②（S＝1/80）



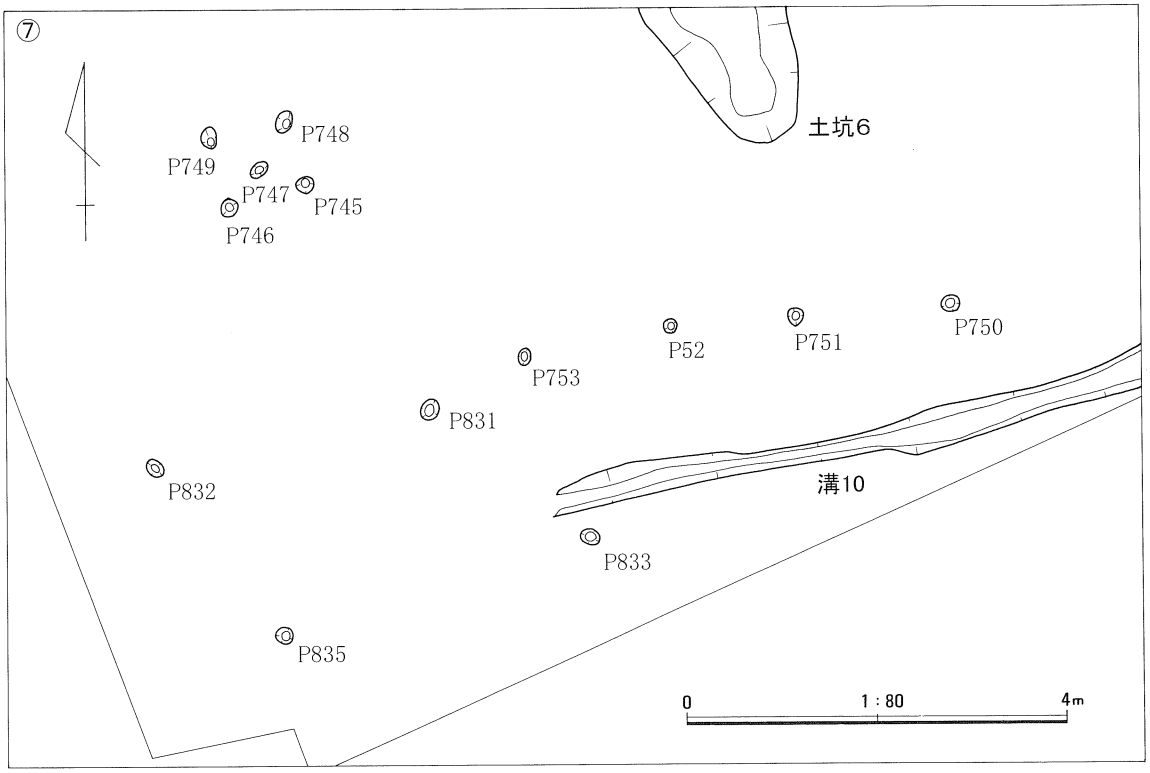
第86図　Ⅰ区　柱穴配置図③（S＝1/80）



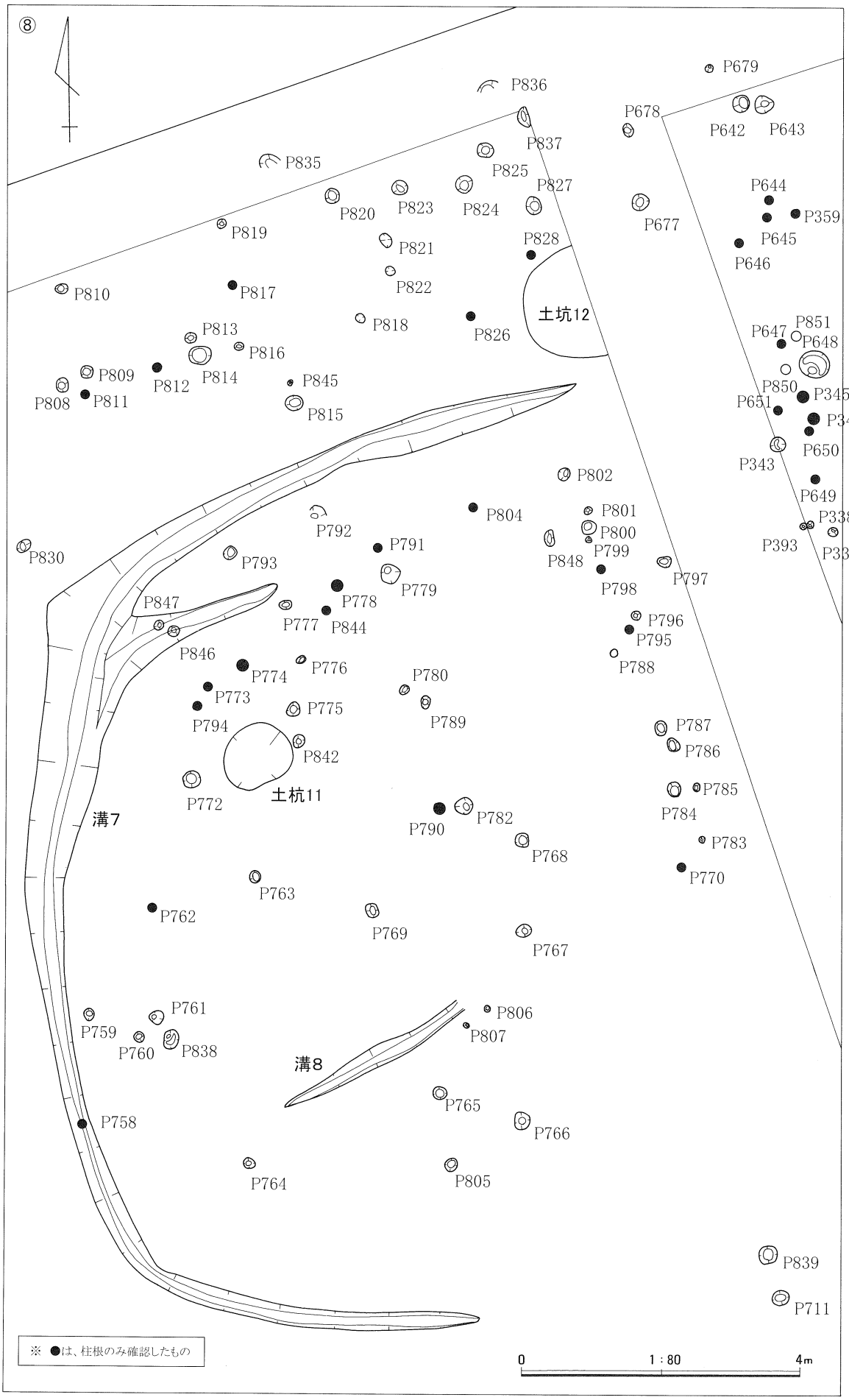
第87図　Ⅰ区　柱穴配置図④（S＝1/80）



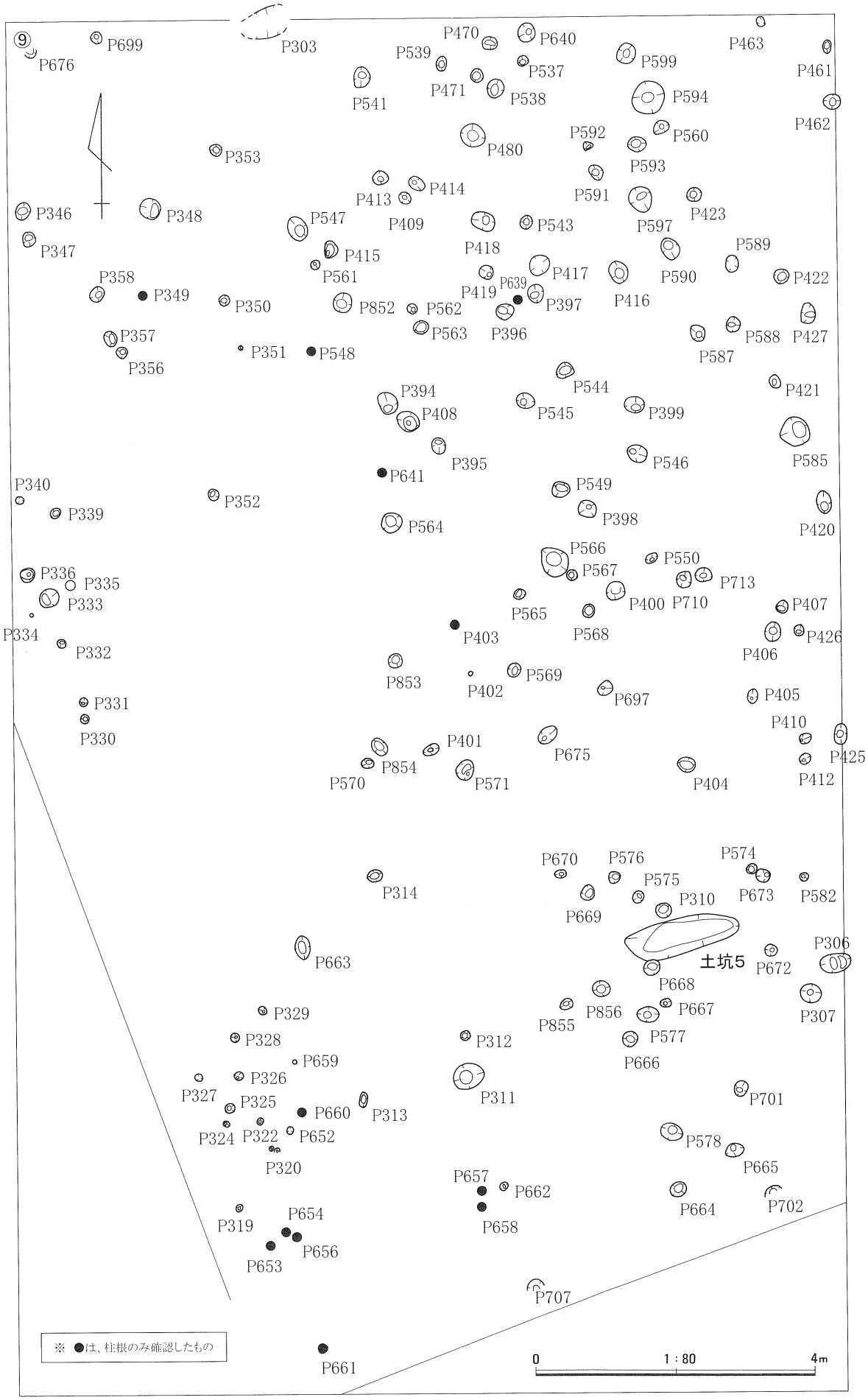
第88図　Ⅰ区　柱穴配置図⑤（S＝1/80）



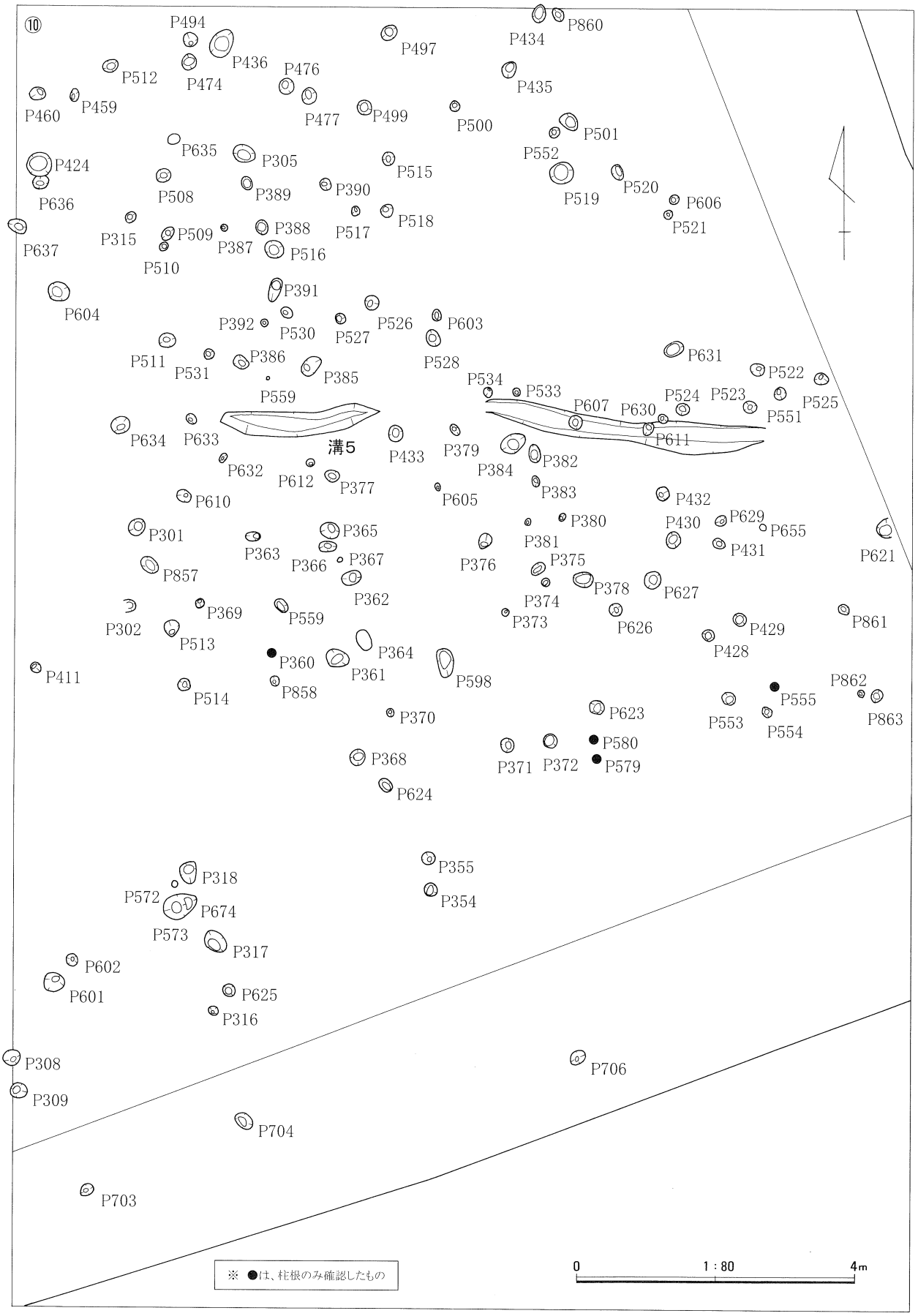
第89図　Ⅰ区　柱穴配置図⑥・⑦（S＝1/80）



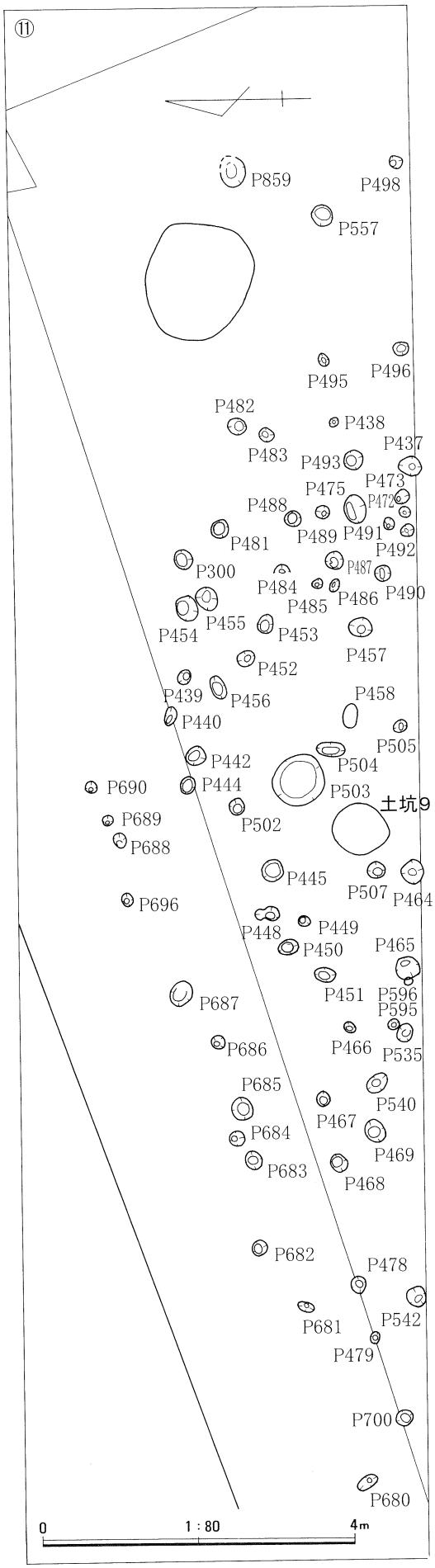
第90図　Ⅰ区　柱穴配置図⑧（S＝1/80）



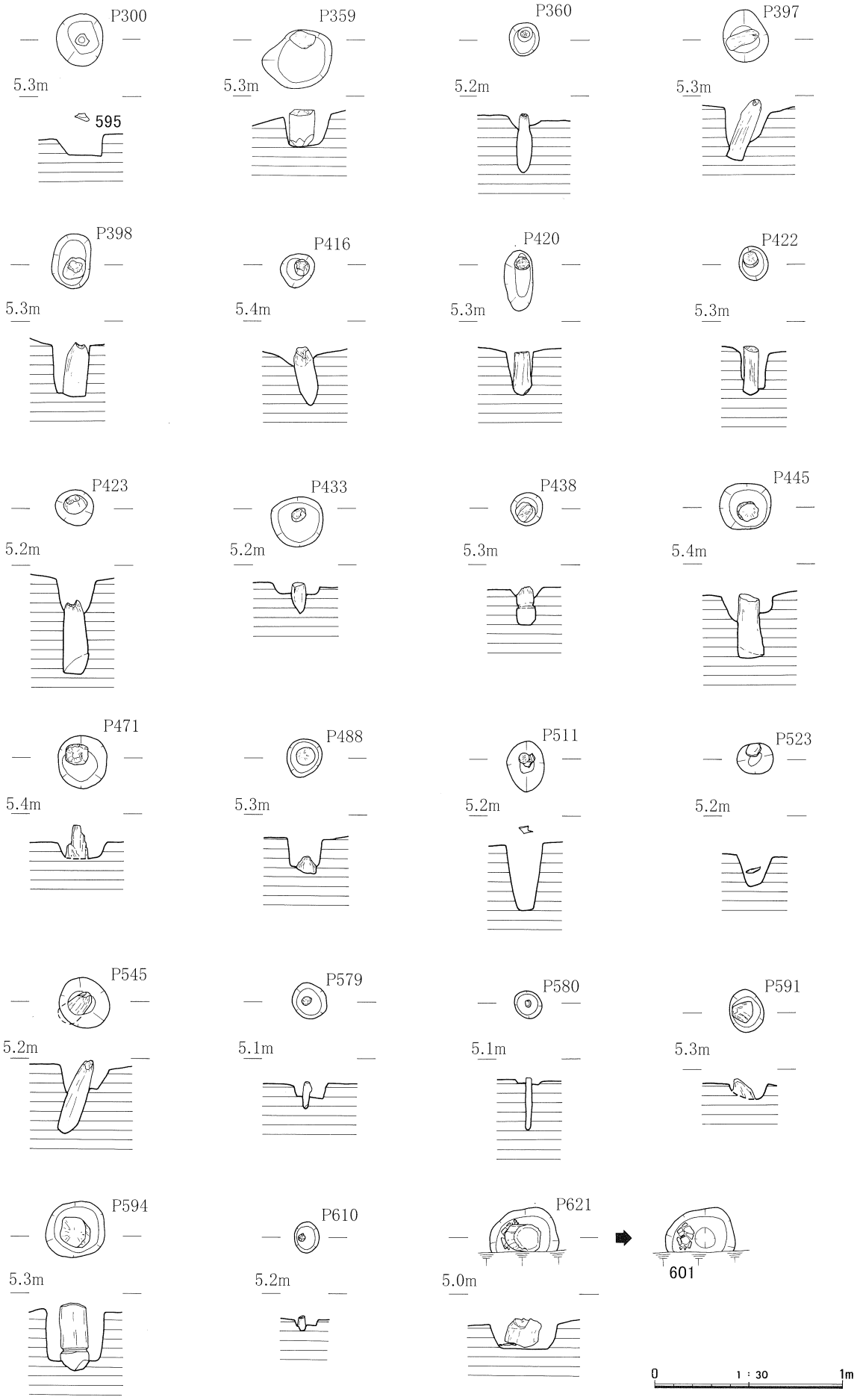
第91図　Ⅰ区　柱穴配置図⑨（S＝1/80）



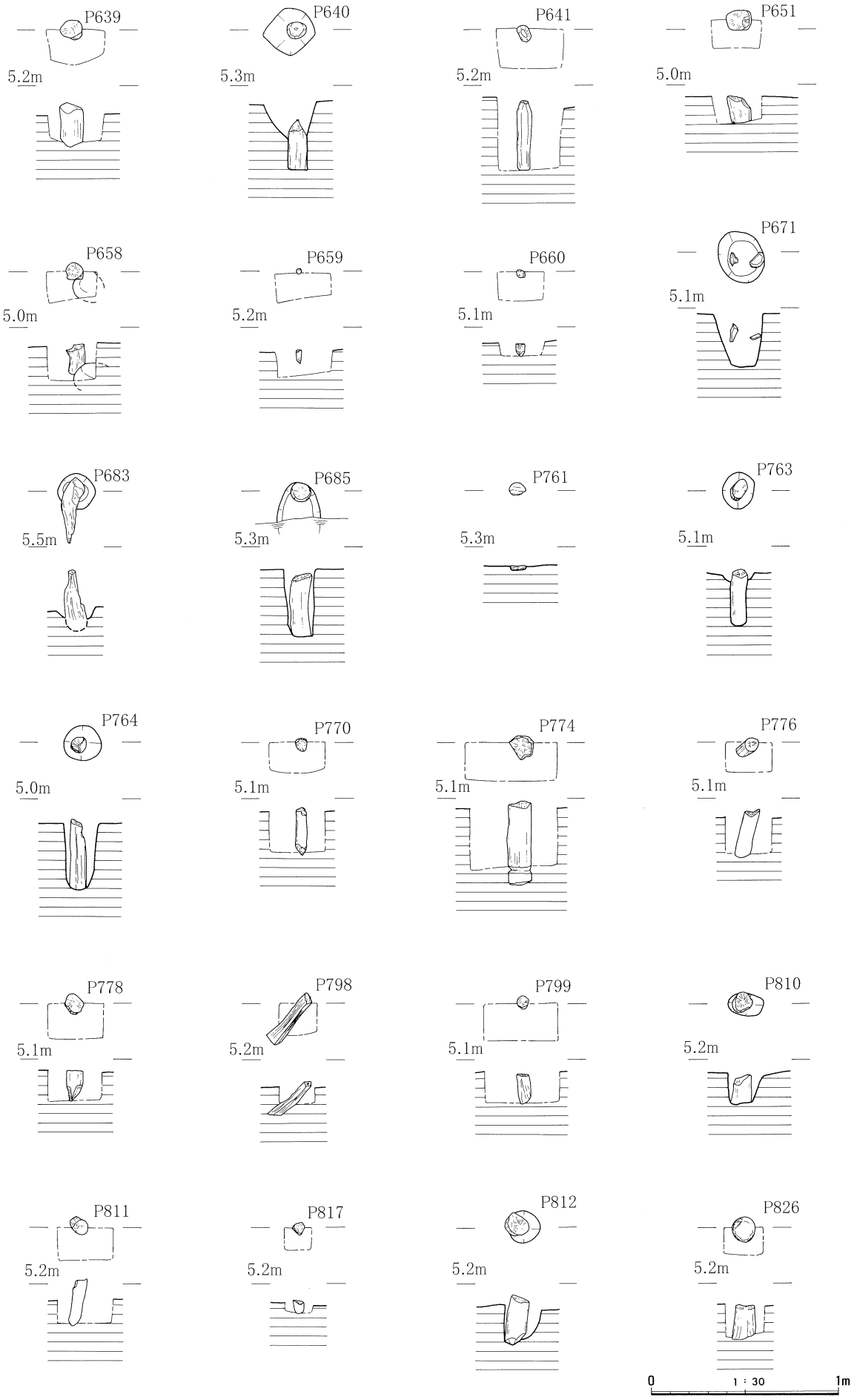
第92図　Ｉ区　柱穴配置図⑩（Ｓ＝1/80）



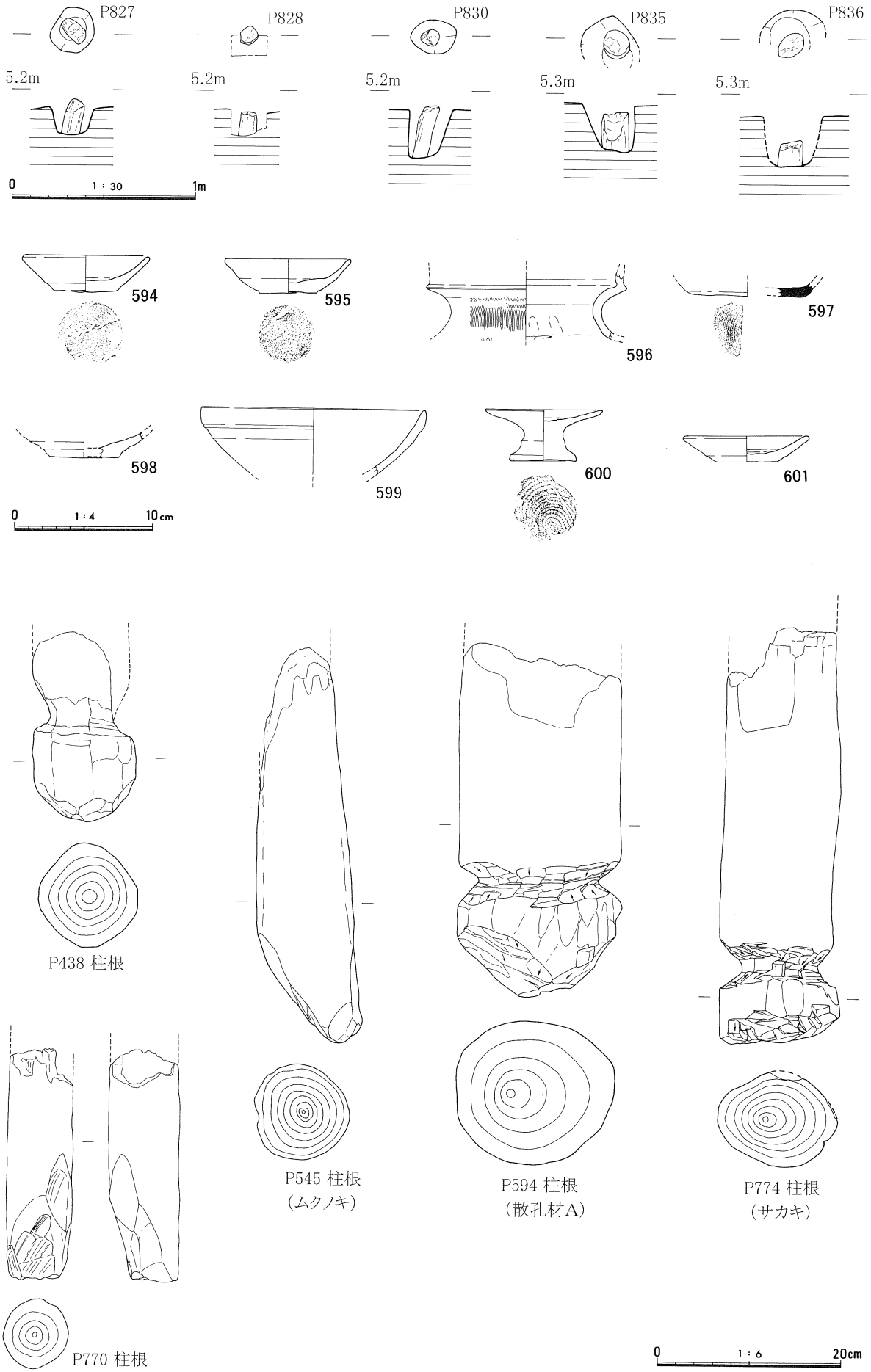
第93図　Ⅰ区　柱穴配置図⑪（Ｓ＝1/80）



第94図　Ⅰ区　その他の柱穴①（S＝1/30）



第95図　Ⅰ区　その他の柱穴②（S＝1/30）



第96図　Ⅰ区　その他の柱穴③（S＝1/30)、出土遺物（S＝1/4、柱根は1/6)

第78表　Ⅰ区ピット観察表

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P001	③	26×24	23		暗灰色粘質土			
P002	③	70×50	47	建3	暗灰色粘質土			
P003	③	32×23	36		暗灰色粘質土			
P004	③	18×20	29		暗灰色粘質土			
P005	③	43×30	38	建1	暗灰色粘質土			
P006	③	30×27	37		青灰色砂質土			
P007	③	23×23	31	建1	暗灰色粘質土			
P008	③	29×28	11	建19	灰色粘質土			
P009	③	35×30	44		灰色粘質土			
P010	③	28×21	30		暗灰色土			
P011	③	41×34	36	建2	暗灰色土			
P012	③	48×42	44		暗灰褐色土			
P013	③	47×37	42	建2	暗灰褐色土			
P014	③	18×15	20		暗灰褐色土			
P015	③	41×28	29	柱3	暗灰色粘質土			
P016	③	69×37	47	建2	暗灰色粘質土			
P017	③	77×45	29		暗灰色粘質土			
P018	③	47×34	31		灰色粘質土			
P020	③	29×28	35	柱3	暗灰色粘質土			
P022	③	33×29		柱12	暗灰色粘質土	○		
P023	③	34×27	33	建3	暗灰色粘質土			
P024	③	20×20	31	建1	暗灰色粘質土			
P026	③	24×21	14		暗灰色粘質土			円形の桶を据える
P027	③	39×35	38		暗灰色粘質土			
P028	③	28×24	30		灰色粘質土			
P029	③	32×30	32		暗灰色粘質土			
P030	⑤	45×31	170	建1	暗灰色粘質土			
P031	⑤	30×18	33	建1	暗灰色粘質土			
P032	⑤	37×20	35		黒灰色土			
P033	⑤	30×27	23		青灰色土			
P034	⑤	17×13	7					
P035	③	30×28	168	建1	暗灰色粘質土			
P036	③	63×40	43	建2	暗灰色粘質土			北半に木片
P037	③	28×22	23		暗灰色粘質土			
P039	③	22×20	34		暗灰色土			
P040	③	23×18						
P042	③	21×19	19		黒灰色土			
P043	③	×						
P044	③	22×15	27		暗灰色粘質土			
P045	③	20×19	32		暗灰色粘質土			
P046	⑤	30×27	19					
P047	③	24×21	57					
P048	③	31×30	42	建20				
P049	③	31×23	25	建1	暗灰色粘質土			
P050	③	42×30	49	建2	暗灰色粘質土	○		

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P051	③	28×27	33	柱3	暗灰色粘質土			
P052	③	33×33		建2	暗灰色粘質土	○		
P053	③	50×37	55	建2	暗灰色粘質土			
P055	③	38×32	29	建3	暗灰色粘質土	○		
P056	③	53×42	33					
P057	③⑤	36×22	26					
P058	⑤	59×48	8		暗灰色粘質土			
P059	③	×	13					
P060	③	69×65	17					
P061	③	33×31	21					
P062	③	37×23	14					
P063	⑤	23×20	7					
P064	③	52×49	35	建2	暗灰色粘質土			
P065	③	27×21						
P066	③	24×21	26					
P067	③	34×30	35	建20				
P068	③	22×22	25					
P069	③	26×21	37					
P070	③	22×21	17					
P071	③	23×10	5					
P072	③	33×32	18					
P073	③	32×28	24					
P074	⑤	35×31	26					
P075	⑤	31×30	23					
P076	③	32×28		建2		○		
P077	③	15×13						
P078	③	24×24	21					
P079	③	31×24		建3				
P080	③	24×19		建3		○		
P081	③	67×27	32	建3				
P082	③	46×35	40	建3				
P083	③	39×25		建3		○		
P084	⑤	23×16	23					
P085	⑤	20×14	14					
P086	⑤	28×26	22					
P087	⑤	25×23	16					
P088	⑤	14×12	9					
P089	⑤	28×25	22					
P090	⑤	16×12	6					
P091	⑤	60×47	29					
P092	⑤	40×32	23					
P093	⑤	26×22	14					
P094	⑤	24×20	15					
P095	⑤	46×30	14					
P096	⑤	27×25	26					

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P097	⑤	20×14	26					
P098	⑤	30×25	26					
P099	⑤	27×27						
P100	⑤	40×32	29					
P110	④	20×16	45					
P112	④	26×25	40					
P113	④	27×23	38					
P114	④	23×22	38					
P115	④	×	48					
P116	⑤	×						
P117	③	×						
P118	③	×						
P119	④	17×14	2					
P122	④	19×15	25					
P123	④	28×25	19					
P124	④	23×20	22					
P125	④	26×22	23					
P126	④	34×30	30					
P127	④	52×47						
P128	④	45×30						
P129	④	30×30	12					
P130	④	41×34	17					
P131	④	29×22	13					
P132	④	24×20	24					
P133	④	28×23	12					
P134	④	45×35	14					
P135	⑤	17×17	19					
P136	⑤	16×16	16					
P137	③	22×15	27					
P138	③	×	9					
P139	③	30×27	12					
P140	③	31×24	28					
P141	③	×	25					
P142	③	21×18	16					
P143	③	23×20	22					
P144	③	33×28	17					
P145	③	25×24	115					
P146	③	18×13	107					
P147	③	16×15	113					
P148	③	13×11	107					
P149	③	19×13	117					
P150	③	18×17	118					
P151	③	25×22	120					
P152	③	25×20	118					
P153	③	11×10	24					
P154	③	34×18						
P155	③	31×20	111					
P156	③	33×25	134	建20				

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P157	③	12×15	130					
P158	③	12×9	133					
P159	③	15×12						
P160	②③	14×12	119					
P161	③	22×20	125					
P162	④	19×16	121					
P163	④	35×28	132					
P164	④	51×69	7					
P165	③	11×11	16					
P166	③	15×15	24					
P167	③	22×20	29					
P168	③	27×25	28	柱15				
P169	③	25×28	19	柱15				
P170	③	23×18	23	柱15				
P171	③	58×32	11					
P172	③	18×16	31					
P173	③	17×15	32					
P174	③	55×13	12					
P175	③	18×16	11					
P176	③	19×19	10					
P177	③	75×46	36					
P178	③	21×20	17					
P179	③	22×21	19	柱12				
P180	③	19×19	15					
P181	③	16×15	12					
P182	③	24×19	18					
P183	③	25×21	33	柱12				
P184	③	30×25	21					
P185	③	26×20	1					
P186	③	42×34	23					
P187	⑤	19×17	21					
P188	⑤	16×16	6					
P189	⑤	25×24	15					
P190	③⑤	23×22	5					
P191	③	13×12	10					
P192	③	23×22	22	建20				
P193	③	30×22	25	建20				
P194	③	17×13	16					
P195	⑤	33×22	7					
P196	⑤	26×20	10					
P197	③	16×12	9					
P198	③	15×13	18					
P199	③	22×12	15					
P200	③	20×19	7					
P201	③	18×18	27					
P202	⑤	21×20						
P203	⑤	×						
P204	③	18×17	23					

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P205	③	38×28	17					
P206	③	27×23	12					
P207	③	21×20	9					
P208	③	30×25	17					
P210	③	20×17	12					
P211	③	15×12	13					
P212	③	11×10	24					
P213	③	17×15	28					
P230	③	33×26	23	建20				
P232	③	36×22	1					
P233	③	26×22	12					
P234	③	26×23	13					
P235	③	22×18	20					
P236	③	25×20	1					
P237	③	21×14	19	建20				
P238	③	19×17	14					
P239	③	12×10	5					
P240	⑤	23×20						
P241	⑤	22×21	22					
P242	⑤	26×28	16					
P243	⑤	30×30	26					
P244	⑤	28×20	16					
P245	⑤	30×22	19					P33と同一か
P246	③	36×33	25					
P247	③	17×17	1					
P248	③	20×18	19					
P249	③	18×17	22					
P250	④	10×8	13			○		
P251	④	22×18	23					
P252	④	20×16	26					
P253	④	25×22	31					
P255	②	21×17	27					
P256	②	21×19	15					
P257	②	25×22	19					
P258	②	16×14	31					
P261	②	20×19	27					
P262	②	22×18	43					
P263	②	20×18	20					
P264	②	16×14	8					
P265	②	18×18	16					
P266	②	25×20	16					
P267	②	20×17	23					
P268	②	32×31	14					
P269	②	19×17	24					
P270	②	25×24	13					
P271	②	23×18	2					
P272	②	35×25	13					
P273	②	24×23	9					

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P274	②	38×35	14					
P275	②	22×20	10					
P276	①	20×18	6					
P277	①	20×20	32					
P278	①	14×14	24					
P279	①	20×17	19					
P280	②	19×18	20					
P300	⑪	26×20			暗灰色粘質土			
P301	⑩	25×23	13	建5	黒褐色粘質土			
P302	⑩	21×20	18		黒褐色粘質土			
P303	⑨	×						
P304		×		建22				
P305	⑩	30×27	13	建4	黒褐色粘質土			
P306	⑨	36×33	27	建6	黒褐色粘質土			樹皮
P307	⑨	27×23	95		黒褐色粘質土			石
P308	⑩	25×20	13		黒褐色粘質土			
P309	⑩	24×21	15		黒褐色粘質土	○		
P310	⑨	21×20	24		暗灰色粘質土			
P311	⑨	40×37	38	建6	黒褐色粘質土	○		
P312	⑨	15×14	21		黒褐色粘質土			
P313	⑨	20×14	17		黒褐色粘質土			
P314	⑨	20×15	17	柱17	暗灰色粘質土			
P315	⑩	17×16	22		黒褐色粘質土			
P316	⑩	16×14	13	建6	暗灰色粘質土			
P317	⑩	39×31	26		暗灰色粘質土			
P318	⑩	36×31	28		暗灰色粘質土			
P319	⑨	10×8	16		暗茶褐色粘質土		○	
P320	⑨	9×9	15		暗茶褐色粘質土		○	
P321		2×1			暗茶褐色粘質土		○	
P322	⑨	8×8	36		暗茶褐色粘質土		○	
P324	⑨	9×8	34		暗茶褐色粘質土		○	
P325	⑨	13×12	31		暗茶褐色粘質土		○	
P326	⑨	15×13	27		暗茶褐色粘質土		○	
P327	⑨	11×10	19		暗茶褐色粘質土		○	
P328	⑨	13×11	24		暗茶褐色粘質土		○	
P329	⑨	11×10	23		暗茶褐色粘質土		○	
P330	⑨	12×11	16		暗茶褐色粘質土		○	
P331	⑨	13×12	25		暗茶褐色粘質土		○	
P332	⑨	14×13	25		暗茶褐色粘質土		○	
P333	⑨	32×31	16		暗灰色粘質土			
P334	⑨	7×5	21		暗茶褐色粘質土			
P335	⑨	6×5	25		暗茶褐色粘質土			
P336	⑨	20×19	28		暗茶褐色粘質土			木
P337	⑧	13×12	24		暗茶褐色粘質土			
P338	⑧	11×10	24		暗茶褐色粘質土			
P339	⑨	15×13	30		暗茶褐色粘質土			
P340	⑨	11×10	30		暗茶褐色粘質土			
P341		10×7			杭		○	

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P343	⑧	24×22	17		黒褐色粘質土			
P344	⑧	15×10			杭	○		
P345	⑧	16×13			杭	○		
P346	⑨	25×20	10		黒褐色粘質土			
P347	⑨	20×15	27		黒褐色粘質土			
P348	⑨	32×30	1		黒褐色粘質土			
P349	⑨	18×17	6		黒褐色粘質土	○		
P350	⑨	17×16	20	柱13	暗茶褐色粘質土	○		
P351	⑨	10×7	6		暗茶褐色粘質土		○	
P352	⑨	14×14	12		暗灰色粘質土			
P353	⑨	20×13	18		黒褐色粘質土			
P354	⑩	22×21	16	建16	黒褐色粘質土	○		
P355	⑩	20×20	29		黒褐色粘質土			
P356	⑨	18×18	12		黒褐色粘質土			
P357	⑨	24×20	12	柱13	黒褐色粘質土			
P358	⑨	23×20	18	建22	黒褐色粘質土			
P359	⑧	15×13				○		
P360	⑩	10×7	7		黒褐色粘質土	○	○	
P361	⑩	34×26	47	建16	黒褐色粘質土			
P362	⑩	30×22	41	建5	黒褐色粘質土			
P364	⑩	33×19	14	建5	黒褐色粘質土			
P365	⑩	26×25	16		黒褐色粘質土			
P366	⑩	26×16	22		黒褐色粘質土			
P367	⑩	10×10	18		黒褐色粘質土			
P368	⑩	22×20	15		黒褐色粘質土			
P369	⑩	12×8	12		黒褐色粘質土			
P370	⑩	13×10	17		黒褐色粘質土			
P371	⑩	22×20	37		黒褐色粘質土			
P372	⑩	22×18	23		黒褐色粘質土			
P373	⑩	11×10	24	建5	黒褐色粘質土			
P374	⑩	12×9	19		黒褐色粘質土			
P375	⑩	22×16	24	建12	黒褐色粘質土			
P376	⑩	22×19	52	建5	黒褐色粘質土			
P377	⑩	19×17	38	建5	黒褐色粘質土			
P378	⑩	28×26	20	建12	黒褐色粘質土			
P379	⑩	17×15	19	建5	黒褐色粘質土			
P380	⑩	9×8	23		黒褐色粘質土			
P381	⑩	8×5	22		黒褐色粘質土			
P382	⑩	21×14	27		黒褐色粘質土			
P383	⑩	17×12	22		黒褐色粘質土			
P384	⑩	39×26	24		暗灰色粘質土			
P385	⑩	32×25	21	建5	黒褐色粘質土			
P386	⑩	27×20	18		暗灰色粘質土			
P387	⑩	10×9	20		暗灰色粘質土			
P388	⑩	22×16	15	建4	黒褐色粘質土			
P389	⑩	20×17	12		黒褐色粘質土			
P390	⑩	18×15	32		黒褐色粘質土			
P391	⑩	33×20	102		黒褐色粘質土			

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P392	⑩	10×9	29		黒褐色粘質土			
P393	⑧	11×8	25		暗灰色粘質土			
P394	⑨	35×33	27	柱16	暗灰色粘質土			
P395	⑨	25×23	44	建11	暗灰色粘質土			
P396	⑨	23×20	22		暗灰色粘質土			
P397	⑨	29×20	34		暗灰色粘質土	○		
P398	⑨	6×5	53		暗灰色粘質土	○		
P399	⑨	28×25	20	柱16	暗灰色粘質土	○		
P400	⑨	28×28	32		暗灰色粘質土			
P401	⑨	21×9	18		暗灰色粘質土			
P402	⑨	7×5	8		杭		○	
P403	⑨	11×9	21	建11	杭	○		
P404	⑨	24×18	19	建11	杭			
P405	⑨	21×14	30		杭			
P406	⑨	19×16	18		杭			
P407	⑨	19×17	16		杭			
P408	⑨	27×23	25					
P409	⑨	12×8	21	建22	暗灰色粘質土			
P410	⑨	16×16	18	建11	暗灰色粘質土			
P411	⑩	16×12	25		暗灰色粘質土			
P412	⑨	16×11	19	建11	暗灰色粘質土			
P413	⑨	42×18	30		暗灰色粘質土			
P414	⑨	25×20	24		暗灰色粘質土			
P415	⑨	21×17	26		暗灰色粘質土			
P416	⑨	35×30	34		暗灰色粘質土	○		
P417	⑨	15×10	26	建4	暗灰色粘質土	○		
P418	⑨	36×30	19		暗灰色粘質土			
P419	⑨	20×18	34		暗灰色粘質土			
P420	⑨	32×16	30		暗灰色粘質土	○		
P421	⑨	18×15	24		暗灰色粘質土			
P422	⑨	20×16			暗灰色粘質土	○		
P423	⑨	20×20	49		黒褐色粘質土	○		
P424	⑩	40×38	24		黒褐色粘質土	○		
P425	⑨	21×17	31		黒褐色粘質土			
P426	⑨	17×16	21	建11	黒褐色粘質土			
P427	⑨	30×16	31		黒褐色粘質土			
P428	⑩	20×18	20		黒褐色粘質土			
P429	⑩	21×18	13	建13	黒褐色粘質土			
P430	⑩	24×22	21	建13	黒褐色粘質土			
P431	⑩	20×14	22	建13	黒褐色粘質土			
P432	⑩	22×20	15		黒褐色粘質土			
P433	⑩	19×17			杭		○	
P434	⑩	25×20	28		黒褐色粘質土			
P435	⑩	20×20	29	建14	黒褐色粘質土			
P436	⑩	43×40	35	建4	黒褐色粘質土		○	
P437	⑪	25×22	28	建15	黒褐色粘質土			
P438	⑪	11×11	20		杭		○	
P439	⑪	21×14	22	建15	暗灰色粘質土			

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P440	⑪	21×15			暗灰色粘質土			
P442	⑪	27×22	16					
P444	⑪	24×21	11					
P445	⑪	28×27	30		暗灰色粘質土	○		
P448	⑪	30×22	22		暗灰色粘質土			
P449	⑪	9×9	22		暗灰色粘質土			
P450	⑪	25×22	17		暗灰色粘質土			
P451	⑪	22×21	27		暗灰色粘質土			
P452	⑪	22×18	19		暗灰色粘質土			
P453	⑪	23×23	17		暗灰色粘質土			
P454	⑪	34×21	11		黒褐色粘質土			
P455	⑪	33×25	10		黒褐色粘質土			
P456	⑪	30×20	17		暗灰色粘質土			
P457	⑪	32×23	20	建15	暗灰色粘質土			
P458	⑪	31×18						
P459	⑩	20×14	31		暗灰色粘質土			
P460	⑩	25×20	23		暗灰色粘質土			
P461	⑨	16×13	14		黒褐色粘質土			
P462	⑨	28×26	22	建4	暗灰色粘質土	○		
P463	⑨	15×12	23		暗灰色粘質土			
P464	⑪	32×25	16		暗灰色粘質土			
P465	⑪	30×26	26		暗灰色粘質土			
P466	⑪	15×13	21		暗灰色粘質土			
P467	⑪	18×17	21		暗灰色粘質土			
P468	⑪	22×20	22		暗灰色粘質土			
P469	⑪	30×29	18		暗灰色粘質土			
P470	⑨	23×22			暗灰色粘質土			
P471	⑨	21×21			暗灰色粘質土	○		
P472	⑪	15×13	16		暗灰色粘質土			
P473	⑪	19×17	18		暗灰色粘質土			
P474	⑩	22×20	27		暗灰色粘質土			
P475	⑪	35×32	19		暗灰色粘質土			
P476	⑩	20×19	20		暗灰色粘質土			
P477	⑩	25×20	31		暗灰色粘質土			
P478	⑪	22×22	28	建22	暗灰色粘質土			
P479	⑪	15×15	15		暗灰色粘質土			
P480	⑨	21×16	41		暗灰色粘質土			
P481	⑪	26×21	19	建15	暗灰色粘質土			
P482	⑪	23×21	23	建15	暗灰色粘質土			
P483	⑪	19×18	25	建15	暗灰色粘質土			
P484	⑪	×	7		暗灰色粘質土			
P485	⑪	18×12	8		暗灰色粘質土			
P486	⑪	19×12	15		暗灰色粘質土			
P487	⑪	27×23	20		暗灰色粘質土			
P488	⑪	22×19	47		暗灰色粘質土	○		
P489	⑪	19×17	14	建15	青灰色粘質土			
P490	⑪	24×24	27		青灰色粘質土			
P491	⑪	15×14	18		青灰色粘質土			

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P492	⑪	16×14	19		青灰色粘質土			
P493	⑪	26×23	11	建15	青灰色粘質土			
P494	⑩	23×20	35		青灰色粘質土			
P495	⑪	16×10	29	建4	暗茶褐色粘質土			
P496	⑪	21×19	18	建4	青灰色粘質土			
P497	⑩	27×18	16		暗茶褐色粘質土			
P498	⑪	19×18	20		暗灰色粘質土			
P499	⑩	26×21	35	建4	暗灰色粘質土	○		
P500	⑩	17×17	15		暗灰色粘質土			
P501	⑩	30×28	23	建14	黒褐色粘質土			
P502	⑪	22×20	18		暗灰色粘質土			
P503	⑪	66×63	66		黒褐色粘質土			
P504	⑪	36×18	22		暗灰色粘質土	○		
P505	⑪	19×18	23	建4	暗茶褐色粘質土	○		
P507	⑪	23×22	7		暗灰色粘質土			
P508	⑩	22×22	24		暗灰色粘質土			
P509	⑨	22×20	15		黒褐色粘質土			
P510	⑩	14×13	17		黒灰色粘質土			
P511	⑩	24×22	36		黒褐色粘質土			
P512	⑩	24×21	14		暗灰色粘質土			
P513	⑩	35×24	30		黒褐色粘質土			木片
P514	⑩	18×18	21		暗灰色粘質土	○		
P515	⑩	21×20	14	建5	暗灰色粘質土			
P516	⑩	28×26	23	建5	暗茶褐色粘質土			
P517	⑩	15×14	18		暗灰色粘質土			
P518	⑩	19×18	21	建4	暗灰色粘質土			
P519	⑩	33×32	18		暗茶褐色粘質土			
P520	⑩	23×22	17	建14	暗灰色粘質土			
P521	⑩	15×15	14	建14	暗灰色粘質土			
P522	⑩	21×21	19		暗灰色粘質土			
P523	⑩	21×18	17		暗灰色粘質土			
P524	⑩	22×20	15	建13	暗灰色粘質土			
P525	⑩	23×18	12	建13	暗灰色粘質土			
P526	⑩	23×22	15		明灰色粘質土			
P527	⑩	16×13			暗灰色粘質土			
P528	⑩	25×23	24	建5	黒褐色粘質土			
P530	⑩	22×18	25		暗灰色粘質土			
P531	⑩	18×16	15		暗灰色粘質土			
P533	⑩	14×13	9		暗灰色粘質土			
P534	⑩	15×14	35		暗灰色粘質土			
P535	⑪	25×25	28		暗灰色粘質土			
P537	⑨	15×14	10		暗灰色粘質土			
P538	⑨	30×25	17	建4	暗灰色粘質土	○		
P539	⑨	20×18	12		黒褐色粘質土			
P540	⑪	32×22	13		暗灰色粘質土			
P541	⑨	30×25	25	建22	暗灰色粘質土			
P542	⑪	30×27	13		暗灰色粘質土			
P543	⑨	20×18	18		黒褐色粘質土			